

設置計画の概要

事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の設置
フリガナ 設置者	コクリツダイガクホウジン トウホクダイガク 国立大学法人 東北大学
フリガナ 大学の名称	トウホクダイガクダイガクイン 東北大学大学院 (Graduate School of Tohoku University)
新設学部等において養成する人材像	【文学研究科全体】 人間と社会を様々な角度から探究する人文・社会科学の教育を通じて、豊かな言語能力と柔軟な思考力を身につけ、グローバル化した時代に適応しつつ社会的課題の発見・解決に取り組むことのできる教養ある高度職業人及び高度専門職業人を養成する。博士前期2年の課程では、個別の研究課題に取り組むと同時に専攻で扱うテーマを広く学び、深い教養をもって人文・社会科学の知を社会に活用できる人材を養成する。博士後期3年の課程では、個別分野の専門的研究能力を高めつつ、グローバルな発信力や領域横断的な発想力を身につけ、アカデミズムを越えて活躍できる高度専門職業人を養成する。 【文学研究科 日本学専攻】 ①前期2年の課程では、日本の文化・言語・歴史に関する正確な知識と見識をベースとして、この分野に関心を持つ国内外の人々と相互理解をはかりつつ対話的に共生できる人材を養成する。後期3年の課程では、日本研究の広い領域を俯瞰した上で、各専門分野の研究を深化させ、その成果を社会に役立てることのできる高度専門人材を養成する。 ②前期2年の課程では、日本の文化・言語・歴史に関する高度で幅広い知識・見識を身につけさせつつ、諸文化間の共存発展に必要な共感的態度を養う。後期3年の課程では、高度な専門研究能力とともに、それに裏打ちされた問題解決能力、またそれらを広く伝達できる能力を身につけさせる。 ③前期2年の課程では、後期課程進学者のほか、国語・社会科教員、日本語教師、官公庁や一般企業において専門知識を活かした文化財関連業務や国際交流業務にあたる人材を育てるとともに、日本に深い関心を抱く留学生を有能なグローバル人材として国際社会に送り出す。後期3年の課程では、日本研究分野の大学・研究機関の研究者・教育者、アーキビスト・キュレーター、官公庁の専門職員などの高度専門職業人を養成する。また留学生は、外国人ニーズの高い日本企業のほか、母国における日本研究者、日本語の翻訳家や日本を紹介する職業、行政の国際部門担当者などとして活躍することが想定される。 【文学研究科 広域文化学専攻】 ①前期2年の課程では、アジア・ヨーロッパ各地域の文化研究を通じ、多文化共生の今日的諸課題についての深い理解と見識を備えてグローバル社会に貢献できる人材を養成する。後期3年の課程では、地域を越えた文化研究の全体を見渡しながら、個別の専門研究を展開深化させ、学界や社会で活躍できる高度専門職業人を養成する。 ②前期2年の課程では、まず当該地域の言語に習熟させ、文献や資料にそくして文化現象を探究する堅実な力を養うとともに、諸文化の特徴を学際的に比較考察できる視野の広さを身につけさせる。後期3年の課程では、留学などを通じてさらに高度な外国語力と発信力を身につけ、各地域文化のエキスパートとして活躍できる専門能力を養成する。 ③前期2年の課程では、後期課程進学者のほか、良質の外国語教育や国際教育を担える教育者、官公庁や国際機関で異文化交流を担当できる職員、さらに広く一般企業、特に海外拠点を持つグローバル企業において外国語能力や国際感覚を活かして活躍できる人材を社会に送り出す。後期3年の課程では、大学・研究機関の研究者・教育者、官公庁の専門職員、国際機関やグローバル企業の研究職員などのほか、実践宗教学分野においては臨床宗教師・スピリチュアルケア師などの養成にあたる専門家人材も養成する。 【文学研究科 総合人間学専攻】 ①前期2年の課程では、原理論と実証的アプローチを統合した学際的発想力で人間性豊かな高度技術社会を築いてゆける教養ある高度職業人を養成する。後期3年の課程では、各分野における高度な研究能力を身につけると同時に、最新の文理融合的視点・方法論によって現代社会がかかえる課題の解決策を提言できる高度専門職業人を養成する。 ②前期2年の課程では、人間と社会の本質論を踏まえた上で実証的・経験科学的な探究アプローチに習熟させ、堅実な手法で社会的課題を発見・解決してゆける力を養成する。後期3年の課程では、持続可能な社会へ向けての俯瞰的視野を保持しつつ、各分野における理論・調査・実験の最先端の動向を取り入れ、堅実で説得性のある学問的発信のできる専門能力を養成する。 ③前期2年の課程では、後期課程進学者のほか、調査・実習・実験のスキル習得をベースとして、専門社会調査士等の調査分析技術者、認定心理士、家裁調査官、一般企業の企画・開発担当者などが進路として想定されるほか、哲学・倫理学や芸術学の分野では中学高校の社会科教員、博物館学芸員などを養成する。後期3年の課程では、大学・研究機関の研究者・教育者のほか、社会科学・心理学の専門的知見をもって官公庁や国際機関で活躍できる人材、データ科学や心理学の方法を一般企業における調査業務や製品開発に活用する企業研究員などの高度専門職業人を養成する。

既 設 学 部 等 に お い て 養 成 す る 人 材 像	【文学研究科 文化科学専攻】 ①前期2年の課程では、日本及び世界の言語・思想・文学を深く学ぶことで、多文化共生時代に適応できる教養ある人材を養成する。後期3年の課程では、各分野の専門研究を深化させ、人類文化の持続的発展に貢献する専門人材を養成する。 ②前期2年の課程では、日本・アジア・ヨーロッパの思想や文学を文献に基づいて読み解く高い言語能力と思考力を養う。後期3年の課程では、より高度な外国語力と文献研究能力を身につけ、各個別文化に関する高度な学問研究ができる力を養成する。 ③前期2年の課程では、外国語能力と広い教養を身につけた中学高等の国語・社会・英語科の教員や公務員、後期3年の課程では、大学・学術機関等の研究者・教育者などを社会に送り出す。 【文学研究科 言語科学専攻】 ①前期2年の課程では、人間の知性の核である言語を深く学ぶことで、自他の文化の相互理解に貢献できる教養人材を養成する。後期3年の課程では、一般及び日本語に関する高度な知見と発想力をもって、言語研究の先端に立つことのできる専門人材を養成する。 ②前期2年の課程では、言語と言語教育に関する知識を深めつつ、実習・実験を通じて堅実な学問的スキルを身につけさせる。後期3年の課程では、実証的研究をベースとした高度な理論形成の能力を培い、各分野の研究の最前線に立てる研究能力を養成する。 ③前期2年の課程では、中学高等の国語・英語科の教員や言語教育関連の企業人、後期3年の課程では、大学・学術機関等の研究者・教育者や海外で活躍する日本語教師などを社会に送り出す。 【文学研究科 歴史科学専攻】 ①前期2年の課程では、歴史を実証的に考察する作業を通じて人間社会のあり方について深い見識を持った人材を養成する。後期3年の課程では、堅実な実証的手法に基づいて各地域の歴史研究の発展に寄与する専門人材を養成する。 ②前期2年の課程では、文献・史料を正確に読解・分析できる能力を養いつつ、文化や社会を歴史的に考察する方法を身につけさせる。後期3年の課程では、綿密な史料研究に基づいて個別のテーマを掘り下げる専門的研究能力を養成する。 ③前期2年の課程では、中学高校の社会科の教員や文化史・地域史に関わる公務員・出版人、後期3年の課程では、大学・学術機関等の研究者・教育者や博物館・美術館のアーキビスト・キュレーターなどを社会に送り出す。 【文学研究科 人間科学専攻】 ①前期2年の課程では、人間と社会を実証科学的手法で分析・考察することで現実の諸問題の解決に取り組むことのできる人材を養成する。後期3年の課程では、社会行動や文化現象に関して調査や実験に基づく客観的な理論を形成ができ、各分野の学問的発展に寄与する専門人材を養成する。 ②前期2年の課程では、社会・心理・宗教等についての一般理論を学ぶと同時に、調査・実験に基づく合理的分析のスキルを身につけさせる。後期3年の課程では、客観的立証を伴う理論形成の方法論に熟達し個別テーマに沿った研究成果を発信できる能力を養成する。 ③前期2年の課程では、中学高校の社会科・宗教科の教員や専門社会調査士・家裁調査官などの専門職人材、後期3年の課程では、大学・学術機関等の研究者・教育者や民間企業の研究員などを社会に送り出す。
新 設 学 部 等 に お い て 取 得 可 能 な 資 格	【日本文学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（国語、社会） ・高等学校教諭専修免許状（国語、地理歴史） ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職に関する科目の履修が必要 【広域文化学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（国語、社会、英語、フランス語、宗教） ・高等学校教諭専修免許状（国語、地理歴史、公民、英語、フランス語、宗教） ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職に関する科目の履修が必要 【総合人間学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（社会、宗教） ・高等学校教諭専修免許状（地理歴史、公民、宗教） ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職に関する科目の履修が必要
既 設 学 部 等 に お い て 取 得 可 能 な 資 格	【文化科学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（国語、社会、英語、ドイツ語、フランス語、宗教） ・高等学校教諭専修免許状（国語、公民、英語、ドイツ語、フランス語、宗教） ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職に関する科目の履修が必要 【言語科学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（国語） ・高等学校教諭専修免許状（国語） ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職に関する科目の履修が必要 【歴史科学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（社会） ・高等学校教諭専修免許状（地理歴史） ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職に関する科目の履修が必要 【人間科学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（社会、宗教） ・高等学校教諭専修免許状（公民、宗教） ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職に関する科目の履修が必要

	新設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	授与する学位等		開設時期	専 任 教 員		
							学位又は 称号	学位又は 学科の分野		異動元	助教 以上	うち 教授
新 設 学 部 等 の 概 要	文学研究科 [Graduate School of Arts and Letters]	日本学専攻 博士課程前期2 年の課程 [Department of Japanese Studies]	2	29	-	58	修士(文学) 修士(学術)	文学関係	平成31年 4月	文化科学 言語科学 歴史科学	4 5 7	2 2 3
		日本学専攻 博士課程後期3 年の課程 [Department of Japanese Studies]	3	14	-	42	博士(文学) 博士(学術)	文学関係	平成31年 4月	文化科学 言語科学 歴史科学	4 5 6	2 2 2
		広域文化学専攻 博士課程前期2 年の課程 [Department of Global Cultural Studies]	2	29	-	58	修士(文学) 修士(学術)	文学関係	平成31年 4月	文化科学 歴史科学 人間科学	17 4 5	10 2 2
		広域文化学専攻 博士課程後期3 年の課程 [Department of Global Cultural Studies]	3	12	-	36	博士(文学) 博士(学術)	文学関係	平成31年 4月	文化科学 歴史科学 人間科学	17 4 5	10 2 2
		総合人間学専攻 博士課程前期2 年の課程 [Department of Integrated Human Sciences]	2	31	-	62	修士(文学) 修士(学術)	文学関係	平成31年 4月	文化科学 言語科学 歴史科学 人間科学	6 3 4 10	2 2 2 7
		総合人間学専攻 博士課程後期3 年の課程 [Department of Integrated Human Sciences]	3	12	-	36	博士(文学) 博士(学術)	文学関係	平成31年 4月	文化科学 言語科学 歴史科学 人間科学	6 2 3 10	2 1 1 7
既 設 学 部 等 の 概 要	文学研究科 [Graduate School of Arts and Letters]	文化科学専攻 博士課程前期2 年の課程 [Department of Humane Studies] (廃止)	2	32	-	64	修士(文学) 修士(学術)	文学関係	昭和28年 4月	日本学 広域文化学 総合人間学 退職	4 17 6 4	2 10 2 3
		文化科学専攻 博士課程後期3 年の課程 [Department of Humane Studies] (廃止)	3	16	-	48	博士(文学) 博士(学術)	文学関係	昭和28年 4月	日本学 広域文化学 総合人間学 退職	4 17 6 4	2 10 2 3
		言語科学専攻 博士課程前期2 年の課程 [Department of Linguistic Studies] (廃止)	2	14	-	28	修士(文学) 修士(学術)	文学関係	昭和28年 4月	日本学 総合人間学 退職	5 3 1	2 2 1
		言語科学専攻 博士課程後期3 年の課程 [Department of Linguistic Studies] (廃止)	3	7	-	21	博士(文学) 博士(学術)	文学関係	昭和28年 4月	日本学 総合人間学 退職	5 2 2	2 1 2
		歴史科学専攻 博士課程前期2 年の課程 [Department of Historical Studies] (廃止)	2	21	-	42	修士(文学) 修士(学術)	文学関係	昭和28年 4月	日本学 広域文化学 総合人間学	7 4 4	3 2 2
		歴史科学専攻 博士課程後期3 年の課程 [Department of Historical Studies] (廃止)	3	11	-	33	博士(文学) 博士(学術)	文学関係	昭和28年 4月	日本学 広域文化学 総合人間学 退職	6 4 3 2	2 2 1 2
		人間科学専攻 博士課程前期2 年の課程 [Department of Human Sciences] (廃止)	2	22	-	44	修士(文学) 修士(学術)	文学関係	昭和28年 4月	広域文化学 総合人間学 退職	5 10 1	2 7 1
		人間科学専攻 博士課程後期3 年の課程 [Department of Human Sciences] (廃止)	3	11	-	33	博士(文学) 博士(学術)	文学関係	昭和28年 4月	広域文化学 総合人間学 退職	5 10 1	2 7 1

【備考欄】

【施設・設備の状況】

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地		22, 010, 146㎡	0㎡	0㎡	22, 010, 146㎡			
	運 動 場 用 地		132, 573㎡	0㎡	0㎡	132, 573㎡			
	小 計		22, 142, 719㎡	0㎡	0㎡	22, 142, 719㎡			
	そ の 他		0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	合 計		0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
			1, 152, 992㎡ (1, 152, 992㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	1, 152, 992㎡ (1, 152, 992㎡)			
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	247 室		217 室	225 室	23 室 (補助職員 9人)	8 室 (補助職員 1人)			
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称		室 数				
			文学研究科		75 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なた め、大学全体の 数
	文学研究科		4,701,543〔2,151,596〕 (4,683,543〔2,148,596〕)	86,079〔42,600〕 (85,979〔42,500〕)	13,731〔13,716〕 (13,681〔13,666〕)	6,445 (6,445)	38,733 (38,733)	2,432,337 (2,432,337)	
	計		4,701,543〔2,151,596〕 (4,683,543〔2,148,596〕)	86,079〔42,600〕 (85,979〔42,500〕)	13,731〔13,716〕 (13,681〔13,666〕)	6,445 (6,445)	38,733 (38,733)	2,432,337 (2,432,337)	
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体
			45, 481㎡		2, 874席		4, 563, 766席		
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
			7, 024㎡		武道場				

【既設学部等の状況】

既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		国立大学法人東北大学									
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地		
	文学部		年	人	年次 人	人		倍				
	人文社会学科	4	210	—	840	学士 (文学)	1.05	平9年度 改組	宮城県仙台市青葉 区川内27番1号	大11年学部設置 法文学部から分 立(昭24年度)		
	教育学部	教育科学科	4	70	—	280	学士 (教育学)	1.05	平10年 度改組	宮城県仙台市青葉 区川内27番1号		昭24年度学部設 置
	法学部	法学科	4	160	—	640	学士 (法学)	1.07	昭24年 度	宮城県仙台市青葉 区川内27番1号		大11年学部設置 法文学部から分 立(昭24年度)
	経済学部	経済学科	4	130	3年次 10	540	} 学士 (経済学)	1.03	昭24年 度	宮城県仙台市青葉 区川内27番1号		
経営学科		4	130	3年次 10	540	昭43年 度						
	計			260	20	1,080		1.03				

既 設 大 学 等 の 状 況	理 学 部	数学科	4	45	—	180	学士 (理学)	1. 01	昭24年度	宮城県仙台市青葉 区荒巻字青葉6番3 号	大8年理科大学 から理学部とな る
		物理学科	4	78	—	312		1. 01	平6年度 改組・ 統合		
		宇宙地球物理学科	4	41	—	164			平4年度 改組		
		化学科	4	70	—	280		1. 10	平7年度 改組・ 統合		
		地圏環境科学科	4	30	—	120		0. 99	平4年度 改組		
		地球惑星物質科学科	4	20	—	80			平4年度 改組(平 20年度 改称)		
		生物学科	4	40	—	160		0. 99	昭24年度		
		計		324		1, 296			1. 02		
		医 学 部	医学科	6	135	—	810	学士 (医学)	1. 00		
	保健学科		4	144	—	576	学士 (看護学) 学士 (保健学)	1. 01	平16年度改組	平16年医療技術 短期大学部から 医学部保健学科 となる 平26年度より3 年次編入学廃止	
	計			279	0	1, 386		1. 00			
	歯 学 部	歯学科	6	53	—	318	学士 (歯学)	1. 00	昭40年度	宮城県仙台市青葉 区星陵町2番1号	
	薬 学 部	創薬科学科	4	60	—	240	学士 (創薬科学)	1. 07	平18年度改組	宮城県仙台市青葉 区荒巻字青葉6番3 号	昭47年度学部設置
		薬学科	6	20	—	120	学士 (薬学)	1. 06			
		計		80	—	360		1. 06			
	工 学 部	機械知能・航空工学科	4	234	—	936	学士 (工学)	1. 08	平16年度改組	宮城県仙台市青葉 区荒巻字青葉6番6 号	大8年学部設置
		電気情報物理工学科	4	243	—	972		1. 02	平16年度改組 (平19年度・平 27年度改称)		
		化学・バイオ工学科	4	113	—	452		1. 00	平16年度改組		
		材料科学総合学科	4	113	—	452		1. 03			
		建築・社会環境工学科	4	107	—	428		1. 03			
		計		810	—	3, 240			1. 04		
		農 学 部	生物生産科学科	4	90	—	360	学士 (農学)	1. 05		
	応用生物化学科		4	60	—	240					
	計			150	—	600		1. 05			
※ 複数の学科を有する学部の学生募集は、経済学部、薬学部及び農学部にあつては学部一括で、理学部にあつては1又は複数の学科毎にそれぞれ行い、学生の所属学科は、第1年次修了時、第2年次又は第3年次に決定する。											

既 設 大 学 等 の 状 況	文学研究科	文化科学専攻	5	32 16	— —	64 48	修士 (文学) 修士 (学術) 博士 (文学) 博士 (学術)	0.73 0.64	平11年 度改組	宮城県仙台市青葉 区川内27番1号	学生数は、上段 が前期課程で、 下段が後期課程 である。						
		言語科学専攻	5	14 7	— —	28 21		1.13 0.85									
		歴史科学専攻	5	21 11	— —	42 33		1.02 0.69				平12年 度改組					
		人間科学専攻	5	22 11	— —	44 33		1.01 0.84									
		教育学研究科	総合教育科学専攻	5	45 15	— —		81 47	修士 (教育学) 修士 (教育情報学) 博士 (教育学) 博士 (教育情報学)				0.94 0.97	平30年 度改組	宮城県仙台市青葉 区川内27番1号	平成30年度入学 定員増（9人）	
					教育設計評価専攻	5		— —	— —				— —			修士 (教育学) 修士 (学術) 博士 (教育学) 博士 (学術)	— —
			法学研究科	法政理論研究専攻	5	10 12		— —	20 52			修士 (法学) 修士 (学術) 博士 (法学) 博士 (学術)	1.10 0.55	平12年 度改組 (平18年 度改称)		宮城県仙台市青葉 区川内27番1号	平成30年度入学 定員減（△8 人）
						総合法制専攻 (法科大学院の課程)		3	50			—	150				
	公共法政策専攻 (専門職学位課程)			2	30	—	60	公共法政策 修士 (専門職)	0.83	宮城県仙台市青葉 区片平二丁目1番1 号							
	経済学研究科		経済経営学専攻	5	50 20	— —	100 60	修士 (経済学) 修士 (経営学) 修士 (学術) 博士 (経済学) 博士 (経営学) 博士 (学術)	0.74 0.50	平17年 度改組		宮城県仙台市青葉 区川内27番1号					
					会計専門職専攻 (専門職学位課程)	2	40	—	80				会計修士 (専門職)	0.67		平17年 度	
			理学研究科	数学専攻	5	38 18	— —	76 54	修士 (理学) 修士 (学術) 博士 (理学) 博士 (学術)	1.01 0.61			平7年度 改組	宮城県仙台市青葉 区荒巻字青葉6番3 号			
	物理学専攻	5				91 46	— —	182 138		0.95 0.58		平6年度 改組					
	天文学専攻	5		9 4	— —	18 12	1.22 0.83										
				地球物理学専攻	5	26 13	— —	52 39		1.13 0.56			平7年度 改組				
	化学専攻	5		66 33	— —	132 99	1.05 0.48										
				地学専攻	5	32 16	— —	64 48		1.35 0.66		平6年度 改組					

大 学 等 の 状 況	既 設	医学系研究科	医科学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士 (医科学) 修士 (学術)	0.96	平15年 度改組	宮城県仙台市青葉 区星陵町2番1号	平成30年度入学 定員減 (△8 人)			
			医科学専攻 (博士課程)	4	130	—	520	博士 (医学) 博士 (学術)	1.12	平9年度 改組		平成30年度入学 定員減 (△2 人)			
			障害科学専攻	5	20	—	48	修士 (障害科学) 修士 (学術)	0.62	平6年度 改組		博士 (障害科学) 博士 (学術)	1.10	平8年度 改組	平成30年度入学 定員増 (8人)
					9	—	31								
			保健学専攻	5	32	—	56	修士 (看護学) 修士 (保健学) 修士 (学術)	1.37	平20年 度改組		博士 (看護学) 博士 (保健学) 博士 (学術)	1.28	平22年 度改組	平成30年度入学 定員増 (2人)
					12	—	32								
	公衆衛生学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (公衆衛生学)	1.35	平27年 度							
	歯学研究科	歯科学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (口腔科学) 修士 (学術)	0.91	平16年 度	宮城県仙台市青葉 区星陵町4番1号					
		歯科学専攻 (博士課程)	4	42	—	168	博士 (歯学) 博士 (学術)	1.00	平12年 度改組						
	薬学研究科	分子薬科学専攻	5	22	—	44	修士 (薬科学) 修士 (学術) 博士 (薬科学) 博士 (学術)	1.42	平22年 度	宮城県仙台市青葉 区荒巻字青葉6番3 号					
		生命薬科学専攻	5	8	—	24		0.95							
				32	—	64		0.82							
				10	—	30		1.00							
	医療薬学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士 (薬学) 博士 (学術)	0.75	平24年 度							
	工学研究科	機械機能創成専攻	5	42	—	84		1.43	平7年度 改組(平 16年度 改称・ 平28年 度改称)						
		ファインメカニクス専 攻	5	10	—	30		1.40							
				45	—	90		1.09							
		ロボティクス専攻	5	11	—	33		0.45							
				42	—	84		0.79	平15年 度 (平 28年度 改称)						
		航空宇宙工学専攻	5	11	—	33		0.54							
				42	—	84		1.49	平7年度 改組						
		量子エネルギー工学専 攻	5	11	—	33		1.14							
				38	—	76		1.06	昭33年 度(平8 年度改 称)						
		11	—	33	0.66										

既 設 大 学 等 の 状 況	工 学 研 究 科	電気エネルギーシステム専攻	5	32 8	— —	64 24	修士 (工学) 修士 (学術) 博士 (工学) 博士 (学術)	1.03 0.54	平24年 度	宮城県仙台市青葉 区荒巻字青葉6番6 号		
		通信工学専攻	5	31 8	— —	62 24		1.44 0.70				
				電子工学専攻	5	51 15		— —			102 45	0.88 0.32
		応用物理学専攻	5			32 11		— —			64 33	1.13 0.66
				応用化学専攻	5	26 8		— —	52 24		1.24 0.95	
		化学工学専攻	5			34 7		— —	68 21		0.98 0.52	
				バイオ工学専攻	5	19 5		— —	38 15		1.23 0.53	
		金属フロンティア工学 専攻	5			26 7		— —	52 21		1.21 0.94	
				知能デバイス材料学専 攻	5	37 10		— —	74 30		1.19 1.20	
		材料システム工学専攻	5			30 8		— —	60 24		1.20 1.16	
				土木工学専攻	5	43 12		— —	86 36		1.14 1.49	
		都市・建築学専攻	5			45 8		— —	90 24		1.32 1.04	
				技術社会システム専攻	5	21 13		— —	42 39		0.99 0.40	
		農 学 研 究 科	資源生物科学専攻			5		36 13	— —		72 39	1.12 0.63
	応用生命科学専攻			5	35 13		— —	70 39	1.09 0.68			
			生物産業創成科学専攻		5	38 11	— —	76 33	1.30 0.90			
	国 際 文 化 研 究 科			国際文化研究専攻		5	35 16	— —	70 32		0.89 0.58	平27年 度改組

既 設 大 学 等 の 状 況	情報科学研究科	情報基礎科学専攻	5	38 11	— —	76 33	修士 (情報科学) 修士 (学術) 博士 (情報科学) 博士 (学術)	0.85 0.54	平5年度	宮城県仙台市青葉 区荒巻字青葉6番3 号				
		システム情報科学専攻	5	37 11	— —	74 33		1.64 0.90						
		人間社会情報科学専攻	5	30 10	— —	60 30		0.76 0.80						
		応用情報科学専攻	5	35 10	— —	70 30		1.25 1.00			平15年 度			
		生命科学研究所	脳生命統御科学専攻	5	36 10	— —		36 10	修士 (生命科学) 修士 (学術) 博士 (生命科学) 博士 (学術)			0.88 0.20	平30年 度改組	宮城県仙台市青葉 区片平二丁目1番1 号
			生態発生適応科学専攻	5	35 10	— —		35 10				0.62 0.50		
			分子化学生物学専攻	5	35 10	— —		35 10				1.11 0.60		
			分子生命科学専攻	5	— —	— —		— —			— —	平13年 度		
	生命機能科学専攻		5	— —	— —	— —	— —							
	生態システム生命科学 専攻		5	— —	— —	— —	— —							
	環境科学研究科		先進社会環境学専攻	5	40 13	— —	80 26	修士 (環境科学) 修士 (学術) 博士 (環境科学) 博士 (学術)	1.17 1.38	平27年 度改組	宮城県仙台市青葉 区荒巻字青葉468-1			
		先端環境創成学専攻	5	60 20	— —	120 40	0.93 0.36							
	医工学研究科	医工学専攻	5	39 12	— —	70 32	修士 (医工学) 修士 (学術) 博士 (医工学) 博士 (学術)	1.27 0.82	平20年 度	宮城県仙台市青葉 区星陵町2番1号 宮城県仙台市青葉 区荒巻字青葉6番6 号 宮城県仙台市青葉 区片平二丁目1番1 号	平成30年度入学 定員増（8人）			
				教育情報学専攻	5	— —		— —			— —	修士 (教育情報学) 修士 (学術) 博士 (教育情報学) 博士 (学術)	— —	平14年 度
	教育情報学教育部	教育情報学専攻	5	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	平成30年度より 学生募集停止			
	附属施設の概要		名称：東北大学病院 目的：医学及び歯学の研究及び教育のため、患者の診療を行う 所在地：宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号 設置年月：平成15年10月（医学部附属病院と歯学部附属病院の統合） 規模等：敷地面積71,751㎡、建物面積165,522㎡								※医学部、 歯学部共用			
			名称：薬学研究科附属薬用植物園 目的：園内に自生する薬用植物の植生を保護し、及び薬用植物を栽培するとともに、薬 用植物の分類、育種、観察、実験等を行い、薬学の研究及び教育に資する 所在地：宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号 設置年月：昭和49年4月 規模等：敷地面積53,219㎡、建物面積426㎡											
名称：農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター 目的：複合生態フィールドにおける自然及び人為的生物生産システムの総合的・体系的 な教育及び研究を行う 所在地：宮城県牡鹿郡女川町小乗浜字向3-1／宮城県大崎市鳴子温泉字蓬田232-3 設置年月：平成15年4月（附属海洋生物資源教育研究センター及び附属農場を改編） 規模等：敷地面積18,552,151㎡、建物面積19,424㎡														

総合演習	現代日本学総合演習Ⅰ	1前		2			○		1	2				兼1	共同
	現代日本学総合演習Ⅱ	1後		2			○		1	2				兼1	共同
	日本思想史総合演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	日本思想史総合演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	日本語学総合演習Ⅰ	1前		2			○		2	1					共同
	日本語学総合演習Ⅱ	1後		2			○		2	1					共同
	日本語学総合演習Ⅲ	1前		2			○		2	1					共同
	日本語学総合演習Ⅳ	1後		2			○		2	1					共同
	日本語教育学総合演習Ⅰ	1通		2			○			1				兼1	共同
	日本語教育学総合演習Ⅱ	2通		2			○			1				兼1	共同
	日本文学総合演習Ⅰ	1前		2			○		1	1					共同
	日本文学総合演習Ⅱ	1後		2			○		1	1					共同
	小計(12科目)	—		24			—		4	6				兼2	—
研究演習	現代日本学学芸分析研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					兼1	
	現代日本学歴史分析研究演習Ⅰ	1後		2			○			1					
	現代日本学社会分析研究演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	日本思想史研究演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	日本思想史研究演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	日本語構造論研究演習Ⅰ	1前		2			○				1				
	日本語構造論研究演習Ⅱ	1後		2			○				1				
	日本語変異論研究演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	日本語変異論研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	日本語変異論研究演習Ⅲ	1前		2			○		1						
	日本語教育方法論研究演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	日本語教育方法論研究演習Ⅱ	1前		2			○			1					
	日本語教育方法論研究演習Ⅲ	1前		2			○			1					
	日本語教育学研究演習Ⅰ	1後		2			○			1					
	日本語教育学研究演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	日本古典文学研究演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	日本古典文学研究演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	日本古典文学研究演習Ⅲ	1前		2			○		1						
	日本古典文学研究演習Ⅳ	1後		2			○		1						
	日本近代文学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	日本近代文学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	日本古代・中世史研究演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	日本古代・中世史研究演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	日本古代・中世史研究演習Ⅲ	1前		2			○		1						
	日本古代・中世史研究演習Ⅳ	1後		2			○		1						
	日本近世・近代史研究演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	日本近世・近代史研究演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	日本近世・近代史研究演習Ⅲ	1前		2			○		1						
	日本近世・近代史研究演習Ⅳ	1後		2			○		1						
	考古学研究演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						隔年
	考古学研究演習Ⅱ	1・2後		2			○			1					隔年
	考古学研究演習Ⅲ	1・2前		2			○		1						隔年
	考古学研究演習Ⅳ	1・2後		2			○			1					隔年
	文化財科学研究演習Ⅰ	1・2前		2			○							兼2	共同・隔年
	文化財科学研究演習Ⅱ	1・2後		2			○							兼2	共同・隔年
	文化財科学研究演習Ⅲ	1・2前		2			○							兼2	共同・隔年
	文化財科学研究演習Ⅳ	1・2後		2			○							兼2	共同・隔年
	小計(37科目)	—		70			—		7	9				兼3	—

研究実習	日本語教育学研究実習Ⅰ	1前		2				○		1						
	日本語教育学研究実習Ⅱ	1後		2				○		1						
	日本史研究実習Ⅰ	1前		2				○		1						
	日本史研究実習Ⅱ	1後		2				○		1						
	考古学研究実習Ⅰ	1前		2				○		1						
	考古学研究実習Ⅱ	1後		2				○	1							
	文化財科学研究実習Ⅰ	1・2前		2				○						兼2	共同・隔年	
	文化財科学研究実習Ⅱ	1・2前		2				○						兼2	共同・隔年	
	小計(8科目)	—		16			—		1	3				兼2	—	
スキル科目	研究倫理特論	1前		2		○			1					兼7	オムニバス	
	西洋古典文化特論	1後		2		○								兼1		
	人文社会科学的研究	1前		2		○								兼1		
	英語発表技能演習	1後		2			○			1						
	英語研究論文作成法	1前		2			○							兼1		
	日本語研究論文作成法	1前		2			○		1							
	人文統計基礎演習	1後		2			○							兼1		
	キャリア設計演習	1後		2			○							兼1		
	小計(8科目)	—		16			—		2	1				兼12	—	
学術実践活動	学術発表実習Ⅰ	1・2通		2				○						兼1		
	学術発表実習Ⅱ	1・2通		2				○						兼1		
	国際活動実習Ⅰ	1・2通		2				○						兼1		
	国際活動実習Ⅱ	1・2通		2				○						兼1		
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	1・2通		2				○						兼1		
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	1・2通		2				○						兼1		
	小計(6科目)	—		12			—							兼1	—	
論文研究	修士論文研究	1・2通	8				○		7	9				兼1		
	小計(1科目)	—	8				—		7	9				兼1	—	
合計(116科目)		—	12	218	4		—		7	9				兼69	—	
学位又は称号		修士(文学)、修士(学術)		学位又は学科の分野				文学関係								

【改組の全体趣旨等】

I 設置の趣旨・必要性

(1) 背景

東北大学大学院文学研究科（以下「本研究科」）は大正 11 年（1922 年）創設の長い歴史を持ち、人文・社会科学の分野ではわが国有数の研究教育拠点である。学問分野としては、他の大学の文学研究科と同様、思想、歴史、文化等を扱う人文諸学と社会学、心理学等の実証科学分野からなり、それぞれが優れた研究実績を有している。この歴史的 성격に加え、各分野の独立性が高いことから、これまで本研究科における教育は、各専門分野の伝統を継承する次世代研究者を養成するという点に主眼を置き、平成 12 年度の大学院重点化の際に設置された現在の 4 専攻（文化科学・歴史科学・言語科学・人間科学）も学問分野（ディシプリン）の棲み分けを軸に構成されていた。平成 29 年、東北大学は第三期中期計画において指定を受けた指定国立大学法人の構想において、世界トップレベルの研究教育拠点の形成を掲げている。本研究科は東北大学における人文・社会科学分野の中核であり、その意味で世界に通用する高度な研究を継承・発展させるための人材養成は、今後も本研究科の主要課題であり続ける。

とはいえ、21 世紀に入った後、本研究科あるいは広く人文・社会科学を取り巻く状況は大きく変化した。第一に全国の大学組織の改編が進み、研究者需要が減少したことがある。本研究科の博士後期課程学生はほとんどがアカデミズムへの就職を志向してきたことから、出口管理の面での難しさが増したのである。第二に社会の急速な変化の中で、実学的性格の弱い人文・社会科学の必要性に対する疑問が突きつけられている。平成 27 年 6 月の文部科学省通知において、国立大学に対して、人文社会系及び教員養成系の学部・大学院の組織廃止や社会的要請の高い分野への転換が求められたのは、その典型的な例である。しかし他方、第三にグローバル化の影響で海外から日本の人文社会系大学院に進学してくる留学生は増加傾向にある。さらに第四として、社会が複雑化し、また、大規模災害を経験するなどの中で、イノベーションや社会的問題の解決に人文・社会科学が貢献できる機会が増えてきたこと、それゆえ課題解決型能力を持った学生の養成がより強く求められるようになってきたという現状もある。

こうした変化を踏まえ、本研究科においても人材養成の考え方を転換してゆく必要が自覚されるようになった。課題は、研究者養成と非研究者人材養成の二つの方向から検討しなくてはならない。職業的な研究者を養成するという第一の課題に関して言えば、研究重点大学としての性格上、この教育目標自体は堅持し続けるべきものであるが、アカデミズムの中で狭い専門分野に自足する従来のイメージはもはや通用しない。学位取得者が、広い視野を持った「高度専門職業人」として積極的に社会の様々な分野で活躍できるように、キャリア・パスの拡大を視野に入れつつ、教育の学際性・国際性を高めてゆくことが求められる。第二の非研究者人材養成に関しては、特に前期課程を修了して社会に出てゆく学生に対して、複雑化した時代に対応できる高度な知性・教養を身につけさせることが課題となってくる。もともと人文・社会科学の教育は、高い外国語能力、繊細な言語解釈能力、芸術的感受性、倫理的判断力、他者への寛容精神、公正な社会的見識など、「賢明な」社会人たるに必要な資質を伸ばすことを目的としている。これらは個々の分野における深掘りの研究活動に主体的にコミットしてゆく過程で自然と身につくものであり、本研究科はそうした機会を提供する教育的ポテンシャルを有している。これを最大限活用しつつ、さらにより具体的・実践的な課題解決能力を教育目標とすることで、「教養ある高度職業人」を養成してゆかなくてはならない。これが、持続可能で人間性豊かな社会を作り出してゆくために、今後本研究科が貢献できる最も重要なポイントである。

(2) 本学に設置する必要性

東北大学は、21 世紀に入って以降、様々な教育改革プログラムを展開してきたが、本研究科は、人文・社会科学の中核的部局として、その重要な一翼を担ってきた。具体的には、「21 世紀 COE・社会階層と不平等研究教育拠点の形成」（平成 15～19 年度）、「言語研究者・言語教育者養成プログラム：非日本語母語話者を主たる対象とした取組み（「魅力ある大学院教育」イニシアティブ）」（平成 17～18 年）、「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画（組織的な大学院教育改革推進プログラム：大学院 GP）」（平成 20～22 年度）、「グローバル COE・社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」（平成 20～24 年度）や、研究科も参画して設置された文理融合型の「リーディング大学院・グローバル安全学トップリーダー養成プログラム」（平成 25 年～）などがある。その後、平成 24 年以降、東北大学が「里見ビジョン」のもとで「ワールドクラスへの飛躍」と「復興・新生の先導」を目標として研究教育のさらなる展開を進める中でも、教育のグローバル化や後述する臨床宗教師養成などで大きな貢献を果たしてきた。さらに、平成 29 年の指定国立大学法人構想の中では、教育面での中核的事業である国際共同大学院プログラムにおいて、唯一人文・社会系からのプログラムとして修士・博士一貫の「日本学国際共同大学院」が位置づけられ、平成 31 年度からの開講に向け、本研究科が主導してその準備を進めている。東北大学がワールドクラスの総合大学として飛躍する中で、人文・社会科学分野の研究・教育を中心的に担う部局として、本研究科は重要な役割を果たしており、その機能をさらに高めてゆくために、新たな研究科組織の設置が求められている。

日本学国際共同大学院プログラムにおける「日本学」は、従来にない規模の国際連携のもとで、経済学や法学も含めた真に分野横断的な新領域の創出を目指すものであるが、もちろんそうした新たな日本研究の展開において、国語学、国文学、日本史、日本思想史など伝統的な関連諸学における学問的蓄積が基礎となることは言うまでもない。今回の研究科改組における「日本学専攻」の設置は、長い伝統を持つ諸研究分野をグローバルな日本研究に接続させ、相互影響の好循環を生み出すことを視野に入れつつ構想されている。指定国立大学としての大学院教育の枠組にリンクさせるという点は、本研究科の新組織が東北大学に設置されるべき理由のひとつである。

今回の改組における目的のひとつは課題解決型の教育の強化である。人文・社会科学は、直接的に社会に「役立つ」知恵を提供するものではないという先入観がある。しかし、社会への貢献にも様々な形がある。東日本大震災直後、文学研究科は、数多くの歴史資料の救済・復元に携わり、その活動は現在、「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（東北大学・神戸大学・国立歴史民族博物館の間で平成 29 年 6 月 7 日に連携・協力協定を締結）へと発展している。また、震災直後のグリーフケア実践を出発点として平成 24 年に設置した文学研究科実践宗教学寄附講座では、死や悲嘆に直面する人々

への精神的ケアの新たな実践形態として「臨床宗教師」を提唱し、学術的基盤を伴う日本型チャプレンの養成教育をわが国で初めて実施した。この提唱を受けて、その後全国幾つかの大学で臨床宗教師養成の課程が生まれている。臨床宗教師に対する社会的認知も進み、医療機関での導入、熊本地震後のケア実践など、様々な成果が上がっている。こうした社会貢献の可能性をさらに伸ばしてゆくことは、大学にとって重要な課題である。

加えて、東北大学は理系分野で世界トップクラスの成果を上げているが、情報通信、データ解析、防災科学などの分野には人文・社会科学系の学問も深く関与し、共同研究の範囲が広がりつつある。言語学・哲学と脳科学、心理学を応用した製品開発など、多様な部門で文理融合型の学問が展開している。東北大学が世界トップレベルの研究教育拠点として成長するための一翼として、こうした動きを更に促進させる方向で本研究科の改組を進めることが必要である。

（３）研究科改組の概要

高度な人文・社会科学教育の水準を維持しながら、同時に、グローバル化と社会的課題解決の要請に応えることのできる教養ある高度職業人及び高度専門職業人を養成するという理念に沿って、研究科を改組してゆく。その具体像を検討するにあたっては、近年、研究科が経験している幾つかの特徴的な現象を考慮に入れた。それは、およそ以下の三点である。

第一は、グローバル化に伴う情報流通の活性化によって、日本の社会や文化がかつてなく広く詳細に知られるようになり、国際的に日本への関心が高まっていることがある。（１）で触れた留学希望者の増加もその現れであるが、研究科としても、海外からの要請に応える形で研究教育の連携を積極的に進めている。平成 27 年以来、学術交流協定を結ぶヨーロッパの多くの大学（平成 29 年 12 月現在 18 校）と「日本学」研究推進のための連携組織「支倉リーグ」を形成し、シンポジウムやワークショップを精力的に展開してきた。また、中国、台湾、タイ、インドネシアなどアジアの有力大学との学術連携にも力を入れ、博士後期課程でのダブル・ディグリー導入の準備を進め、平成 30 年度中には最初の学生を受け入れる予定である。これらは大学院教育におけるグローバル化推進に大きく寄与している。

第二は、（２）でも触れた実践宗教学寄附講座（平成 24 年度開講）における臨床宗教師の養成が社会的に高い評価を得ていることに示される社会貢献への注目である。災害経験や超高齢化によって「死」を身近に感じるようになった現代人が、質の高い「心」のケアを求めようとするとき、宗教学の手助けを求めることは自然である。これは、人文・社会科学の学術的探究が、様々な形で社会貢献のポテンシャルを持つことの一例である。これに限らず、歴史・考古学資源の保存・利活用や社会科学分野からの専門的な政策提言など、様々な方面での実績があり、これらの経験・成果は教育内容にも反映している。

第三は、文理融合領域での研究の急速な進展がある。イノベーションが知識の融合を必要とすることは自明であり、近年は自然科学側からの提案による共同研究も増えてきている。応用倫理、防災科学、環境社会学、脳科学的言語研究及び心理学を援用した製品開発、あるいは人文学の諸分野にも浸透してきた大規模データ解析など様々な方向への展開が今後も続くと思われる。この分野への学生の関心も高く、受験者の実学志向がひとつの傾向としてうかがえる。

これらは、時代が本研究科に何を求めているかを示す証拠であり、それゆえにまた、社会に対して研究科の価値をアピールできる「強み」でもある。今回の改組において、グローバル化対応と課題解決能力の養成は、すべての研究領域を貫く人材養成の理念であるが、これに基づく新たな教育組織を構想してゆくに当たって、上記の三つの特色を専攻編成の参照軸とした。つまり、国際化と分野連携を強化した日本関連諸学の研究、社会貢献を視野に入れたアジア・ヨーロッパ文化研究、原理論と実証を結びつけ文理の総合を目指す先端的人間研究を各専攻の包括的テーマとすることとした。

このいずれにおいても、高い言語能力、文化・社会を深く理解する力、合理的で柔軟な知性が求められるため、各テーマに則して、こうした能力を養成するカリキュラムを設計する。前期課程では、各専攻独自の「総合科目」を必修として置き、俯瞰的・総合的な視野からの教育を行うが、単に浅く広い知識を身につけさせることが本研究科の教育目標ではない。文化研究においては、個別テーマを深く掘り下げる中で初めて言語能力や判断力が向上し、関連領域全体に対する理解も可能になるという一般則があることから、専門科目やスキル科目の履修、さらに徹底した論文指導によって、各テーマに則した密度の濃い研究を課す。真の教養形成にとって、こうした深掘りの訓練は欠かせないというのが、本研究科の基本思想である。後期課程においては、研究者養成も射程に入れたより徹底した専門的指導が行われるが、ここでは逆に、「人文社会科学特別科目」によって従来不足していた俯瞰的な教育を取り入れ、さらに留学の促進、国際共同大学院プログラムへの誘導によって、グローバルな研究能力の養成に力を入れてゆく。

（４）各専攻の特徴

【日本学専攻】

日本研究への関心の高まりを背景として、これまで文化・言語・歴史という研究領域別の専攻に分かれて存在していた日本思想、日本文学、日本語及び日本史の各分野をひとつの専攻にまとめ、相互の連携を図りつつ広い視野から日本に関する研究・教育を総合的に行う体制を整える。また、新たに「現代日本学」分野を設け、現代日本社会の専門家と外国人研究者を配置することで、社会科学的方法論の導入とグローバルな視野の拡大を図る。

本研究科には、日本仏教研究、日本文芸学、方言学、東北を中心とした歴史・考古学研究など様々な分野で卓越した学問伝統があり、また、「大学院 GP・歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」におけるアーキビスト・キュレーター養成体制の整備や、特に東日本大震災以後に展開してきた歴史資料や方言の保存に関する研究と実践の経験がある。こうした優れた蓄積を背景に、海外での日本語教育者、中学高校の優秀な「国語」教員、国・地方機関の歴史担当者、博物館学芸員など、専門性の高い職業に人材を供給してきている。とはいえ、急速な社会の変化の中で、今日これらの分野でもイノベーション的発想が強く求められるようになった。関連分野を同一専攻に集約して相互の連携を図り、かつ海外の動向へのアクセスを強化することによって、そうした要請に応えられる教育を実現してゆく。

上記（３）で述べた通り、インターネットを通じて日本の文化や社会の具体的な姿が広く世界に知られるようになり、世界各国の大学で日本研究を専攻する学生が増加している。こうした学生たちは、まず学部で日本語を学び、その上でそれぞれの研究テーマを絞り込んでゆくのが普通である。大学院進学はちょうど専門研究を開始して間もない段階に位置するため、本専攻のように多彩な日本研究の諸分野を網羅することは、進学の動機付けとして有効である。また、研究科が主宰する上述の「支倉リーグ」では、現在イタリア、ドイツ、フランス、イギリス、オランダ、ベルギー、オーストリア、スペイン及び

ポーランドの大学と学術交流協定を結び活発な交流を進めており、ワークショップ等を通じて学生の交流も盛んである。こうした活動を背景として、従来から数の多い中国からの留学生に加え、ヨーロッパ各国からの留学生獲得を推進する。これは学内で国際感覚を養成する環境を作り出す効果があり、日本人学生の教育にも優れた効果を及ぼすであろう。

【広域文化学専攻】

本専攻には、宗教学・文化人類学とアジア・ヨーロッパ研究の各分野を集約するが、その目的は、個別地域の文化や社会を研究する枠組に「域際」的な文化論の観点を導入することで、より深い見識を持ったグローバル人材を養成することにある。

ネット環境によって不正確な情報が拡散・増殖する状況の中で、他者としてのアジア・ヨーロッパに関する正確な理解はますます重要になっている。本専攻に集まるアジア・ヨーロッパ主要地域の研究部門は、文献・史料に基づく堅実な基礎研究を得意とするところであり、その知見や方法論の継承・発展は、わが国が正確な国際理解力を持つための大前提となる。もちろん更にその前提として高い外国語能力が求められるのであり、本専攻では、豊富な諸言語教育カリキュラムと海外留学の促進によって、その必要を満たす人材養成を行う。アジア・ヨーロッパに関する確実な知識と見識を持った教養ある高度職業人を送り出すことは、グローバル化した社会に対する本研究科の貢献の重要な柱のひとつである。

本専攻の宗教学・文化人類学も中国・インドネシアなどアジアを主な研究対象としているが、同時にこれらの分野は、信仰・習俗といった日常文化の普遍的側面を探究する超地域的な性格を持ち、個別の地域研究を理論的に補強する役割を負う。同時にまた、上で述べたように、臨床宗教師の養成を通じて、直接的に日本社会のかかえる問題の解決に貢献してきた経験がある。これは震災後の東北地方におけるグリーフケアの実践が出発点になっているもので、東北大学ならではの新しい研究・実践活動として注目を集めており、その後日本各地の大学で同様の取り組みがなされるようになった。今回の改組では、この成果をさらに強化・発展させるため、本専攻内に「死生学・実践宗教学」分野を新設する。国内外で培われてきた心のケアの専門家養成プログラムとその背後にある文化的諸問題を研究し、質の高い臨床宗教師養成の体制を整備することで超高齢多死社会に向き合える専門人材を社会に送り出す。

【総合人間学専攻】

本専攻では、哲学系と社会科学系という一見すると異質な部門が合流している。これは、上述した研究科の第三の「強み」である文理融合的な課題解決能力を、人文・社会的な特性を活かしつつ強化する目的からである。

本専攻の哲学・倫理学は伝統的に科学に対する親和性が大きく、科学論・医療・環境・防災などの分野で成果をあげ、それは専門教育にも活かされている。同じことは、社会学・心理学・言語学など実証科学的な分野についても言え、本専攻に属する多くの教員が学内の様々な文理融合プロジェクトや教育プログラムに参加するとともに、政策提言や市民教育を通じた社会貢献に努めてきた。本専攻では、こうした実績を教育に取り込み、イノベーションや社会的諸課題の解決に貢献できる教養ある高度職業人及び高度専門職業人の養成を目指す。また、近年のビッグデータ科学が言語・認知研究や文献管理など人文・社会科学分野にも波及していることから、新たに「計算人文社会学」分野を設置し、専攻内外の他分野とも連携して新領域の研究・教育を推進する。

もちろん、こうした技術知の探究においても、人間にとってのよりよい状態すなわち幸福 (Well-being) や生活の質 (QOL) とは何かを問い続け、それを通じて持続可能な社会の形成に寄与する賢明な知性を育成することが、人文・社会科学分野としての本専攻の目標である。従ってここで養成しようとするのは、急速な現実社会の変化を的確に見据えながら教育や文化的活動において信頼度の高い仕事のできる専門職業人や、公正・安全・環境保全など社会の健全性に関わる課題に常に配慮しつつイノベーションに貢献できる賢明な実務家である。

(5) 特色ある専攻横断的な外部プログラム

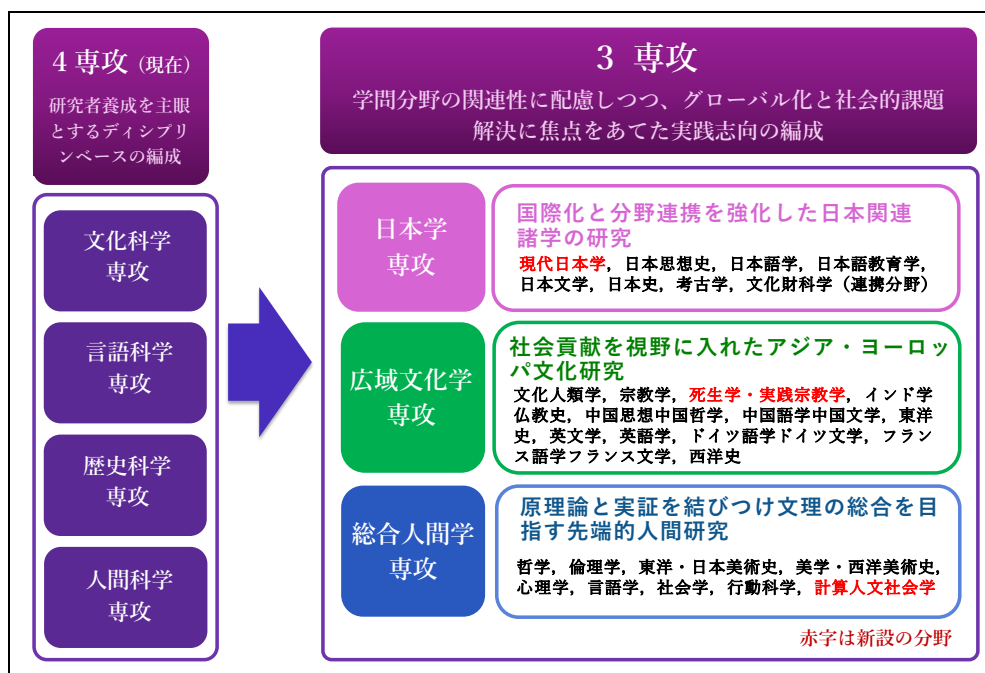
文学研究科の組織再編と並行して進めている事業として、前期・後期一貫制の「国際共同大学院」学位プログラムがある。東北大学の指定国立大学構想において教育の中核的プロジェクトとして9つのプログラムが設計されている。このうち平成31年度に開始される予定の「日本学国際共同大学院」は唯一の文系プログラムであり、本研究科が中核的な役割を担っている。ここで言う「日本学」は、経済学や法学をも含む包括的な革新的新領域を意味しており、本研究科が設置する日本学専攻だけでなく、広域文化学・総合人間学の各分野のテーマとも密接に繋がっている。本研究科からプログラムに参加する学生は、本来の修学と並行してさらに領域横断的な研究へと導かれ、加えて必修である海外留学を通じてグローバルな発想力を養うことになる。本研究科では、この学位プログラムを積極的に活用することで、後期課程を修了した学生がアカデミズム以外でも活躍できる能力を身につけるよう教育指導を行ってゆく。

II 教育課程編成の考え方・特色

(1) 教育課程の構成

大学院博士課程前期2年の課程と同後期3年の課程を設置し、それぞれに「日本学」「広域文化学」「総合人間学」の3専攻を置く。国際化と分野連携を強化した日本関連諸学の研究、社会貢献を視野に入れたアジア・ヨーロッパ文化研究、原理論と実証を結びつけ文理の総合を目指す先端的人間研究が、各専攻のテーマであり、修士及び博士の学位取得段階において、人文・社会科学的教養を身につけた高度職業人及び各分野に精通した高度専門職業人を社会に輩出することを目標とする。

本研究科の改組前と改組後の専攻・教員組織の変更状況は下図のとおりである。改組後は講座をこれまでの19から11に集約して研究分野間の連携を進め、専攻の人材養成目標に沿った教育をより効率的に行ってゆく体制を整備する。



(2) 博士前期2年の課程

●授業科目群の構成と特色

各分野の研究課題に取り組むことで深い専門的見識と研究能力を身につけ、同時にグローバル化社会の中で活躍できる発想力と広い視野を持った人材を養成することが前期課程の主たる目標である。I－(3)でも触れたように、それは全体として、高い言語能力、文化・社会を深く理解する力及び合理的で柔軟な知性を身につけさせるということであるが、各専攻の特性に応じて、実際の教育内容や教育方法は規定されてくる。これを具体化するための科目群の枠組として、以下を設ける。

- 総合科目：専攻を構成する諸分野を俯瞰的に見通し、領域全体に関して総合的な理解と問題意識を持たせるための科目。所属専攻のI・IIと、他専攻のI（それぞれ2単位）を必修として履修させる。いずれも分野を横断する複数の教員で授業を編成し、Iは包括的内容の講義、IIは専攻を特徴づける研究手法・方法論等を学ぶ実践型の授業となる。
- 専門科目：「特論」「総合演習」「研究演習」「研究実習」というカテゴリーからなり、座学と実践のバランスをとりつつ、基礎から高度な専門的実習までを段階的に組み合わせる。計16単位を課すが、うち6単位までを、以下の「スキル科目」、「学術実践活動」又は他専攻の専門科目で充当してよいものとし、学生の修学目的に応じた修学の多様性を担保する。
- スキル科目：専攻を越えた共通教養として必要となる実践力を養成する科目。グローバルな発信のために必要な高度な外国語力を養成するための演習、研究の社会的役割やその規律を学ぶ研究倫理講義、基礎的なデータ処理技能の演習などがここに置かれる。
- 学術実践活動：条件を満たした学会発表や海外留学に対して一定の範囲で単位を付与するもので、アクティブな修学・研究活動のモチベーションを高める。
- 修士論文研究：個別の論文指導を受け、修士論文作成に向けて求められるレベルの成果を上げた場合に単位認定する。

なお、中学・高校教諭専修免許状（国語・英語・地歴・公民・フランス語・宗教）の課程認定を行うことに加え、日本語教員資格・専門社会調査士資格の取得のためのカリキュラムを整備し、またスピリチュアルケア師・認定臨床宗教師の資格認定に必要な科目を開設する。

●履修指導体制

I－(1)で述べたように、本研究科には、専門研究者の養成と非研究者人材養成という二つの課題があり、両者に課すべき教育課題は自ずから異なるものになる。しかし、高度な専門研究それ自体にも分野横断的な発想によるイノベーション力が求められていることから、今回のカリキュラムでは、すべての学生に広い視野を育成するべく、「総合科目」6単位を全員必修とした。

その上で、後期課程進学を志向する学生と前期課程修了後社会に出てゆく学生の履修構成の多様性を担保するために、上記のように各分野の(b)専門科目の必修16単位のうち6単位までを(c)「スキル科目」、(d)「学術実践活動」又は他専攻の専門科目で充当できるように設計した。これにより例えば前期課程のうちに英語による研究発表技能を高め、学会発表等を通じてアカデミック・スキルを磨こうとする学生は、「スキル科目」の英語研究論文作成法や「学術実践活動」を活用することができる。もちろん16単位をすべて専門科目で充当し、後期課程進学に向けた研究能力の向上に集中することもできる。逆に、前期課程修了後の就職に備えて幅広い教養を身につけようとする学生は、「スキル科目」で統計処理の基礎を学んだり、キャリア設計演習を受講することができる。また、他専攻の「特論」を履修して視野拡大を図るという選択肢もある。

各分野の専門教育は、「特論」「総合演習」「研究演習」「研究実習」を通じて行われる。「特論」は当該分野を概観したり特定の研究テーマを詳論したりする講義、「研究演習」は各分野の視点・方法論に則して実際の研究活動を指導するゼミナール、

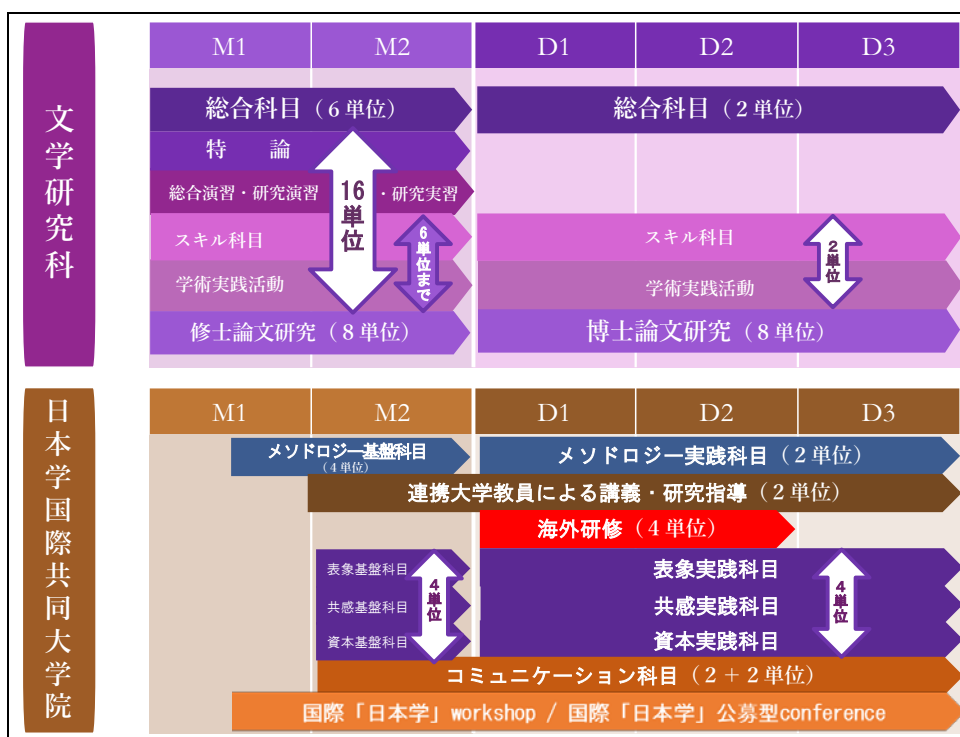
「研究実習」は歴史学・社会科学等の分野における調査、フィールドワーク、実験等の実践的授業である。「総合演習」は、分野の教員全員と学生とが発表と討議を通じて個別研究の向上をはかるアクティヴ・ラーニング型の演習である。これらの中にも専門性の度合いの違いがあることから、研究志向の強い学生は、早くから演習・実習中心の授業に参加してアカデミック・スキルを磨き、むしろ専門的教養の拡大に力点を置く学生は、特論を中心とした履修構成によって視野を広げてゆくことができる。

このように、学生は進路目的に応じて履修内容を構成することができるが、その選択は学生が恣意的に行うのではなく、オフィス・アワー等を通じて教員が学生の考えを聴き、十分に協議しながら個別に指導してゆくことになる。本研究科では各専門分野が研究室を構成し、所属する教員を中心に分野毎の一体性の強い教育指導体制を築いてきた。この伝統を基盤とすることで、個々の学生の特性と目的にあわせて、実際の履修方法をきめ細かく指導してゆくことができる。これによって、学生の多様性を踏まえつつ、今回の改組における「教養ある高度職業人」及び「高度専門職業人」の養成という目的を実現してゆく。

●授与する学位

- ・修士（文学）：Master of Arts
- ・修士（学術）：Master of Interdisciplinary Studies

文学研究科と国際共同大学院のカリキュラムの全体図



（３）後期３年の課程

●授業科目群の構成と特色

各分野における専門的探究を自立して遂行できる水準まで研究能力を高めるとともに、グローバル化した社会への適応力を身につけることで、人文・社会科学の知を新たな価値の創出に結び付けてゆくことのできる「高度専門職業人」を養成することが、本課程の目的である。後期課程は、基本的には前期課程での修学を終え、さらに密度の濃い研究経験を積むことで専門研究者としてひとり立ちしようとする学生を教育するものである。

ここでの教育課程の中心は、各人の高度な研究活動の指導と集中的な論文指導であり、「博士論文研究」がこれに当たる。加えて、人文・社会科学全体に対する広い視野と問題意識を保持・発展させるために「人文社会科学特別科目」を設け、分野を横断する複数の教員で授業を編成する。「スキル科目」は、専攻を越えた共通教養として必要な実践力養成科目を、後期課程でも履修できるようにする。グローバルな発信のために必要な高度な外国語力を養成するための演習、研究の社会的役割やその規律を学ぶ研究倫理講義などがここに置かれる。「学術実践活動」は、条件を満たした学会発表や海外留学に対して一定の範囲で単位を付与するもので、特に後期課程においては学会発表を必須とし、専門研究者としての自立を促す。

●履修指導体制

後期課程においては、「博士論文研究」の指導が教育の中心となるので、課程共通の博士論文作成スケジュールに沿って（以下の表を参照）学年毎の成果を確認しつつ、ステップ・バイ・ステップで進捗を支援する。所定の課題（１年次の「博士論文計画書Ⅰ」と「研究現状報告」、２年次の「博士論文計画書Ⅱ」と「中間論文」）を提出させ、研究の進行状況に基づいて「博士論文研究」の単位認定を行う。３年次では、予備審査によって論文提出の準備が整っているかどうかを確認した上で、論文の完成に向けた最終指導を行う。

日常的な論文指導は、主たる指導教員を中心として分野研究室及び講座の協力を得て進めるが、専攻内の関連分野教員も

必要に応じて指導を支援する。最終審査では分野外教員を審査委員に加え、口述試験は原則公開とする。

Iー(5)に示した特色ある外部プログラムとして「日本学国際共同大学院」がある。プログラムの試験を通った学生は、前期課程の2年次から後期課程を通じて、同プログラムのカリキュラムを並行して履修し、修了時には、文学研究科からの学位に加えて、プログラム学位の認定を受ける。学生は同プログラムの指定に沿って授業を履修してゆくことになる。その概要は上の「文学研究科と国際共同大学院のカリキュラムの全体図」に示したとおりである。特に後期課程の途中で、海外学術協定校への半年以上の研修(留学)が必須となる。国際共同大学院の教育指導においては、提携大学の外国人数員による指導を受け、学位審査も共同で行われる。

博士論文作成の標準スケジュール

日程		執筆者	指導教員
一年次	4月中旬	論文の主たる指導教員を決め、指導教員と相談の上、研究題目届を教務係に提出	研究題目届の確認。
	7月末	論文作成計画書Iを指導教員に提出(「博士論文研究」科目のレポート、所定様式)。その中に学会発表・学術誌投稿・留学等の見込みを記載。	論文作成計画書Iを講座教員で共有。
	1月末	論文作成計画書に照らした研究現状報告を指導教員に提出(「博士論文研究」のレポート、所定様式)	研究現状報告の確認と指導。
二年次	7月末	論文作成計画書IIを指導教員に提出(「博士論文研究」のレポート、所定様式)。	論文作成計画書IIを講座教員で共有
	1月末	中間論文を指導教員に提出(「博士論文研究」のレポート、執筆計画に沿った小論文あるいは詳細な研究計画書、「概要」も添付)。「審査付き論文等の実績又は予定」「学会発表等の実績又は予定」も沿える。	中間論文を専攻分野(又は講座)教員で審査し指導。概要は、講座教員で共有。
三年次	4月～11月	予備審査。予備審査論文を提出。業績資料(刊行済みの論文等)、発表用資料を添付。	予備審査会の招集・実施。必要に応じて専攻分野外の審査委員を加えることができる。
	12月	博士論文提出(教務係)。概要・要旨添付。	分野外審査委員の委嘱。
	1月	論文口述試験。履歴書(業績表を含む)、必要なら発表用資料を準備。	研究科委員会で論文審査委員会を設置。論文の審査及び口述試験の実施。原則として公開で実施する。
	2月		研究科委員会で審査報告
	3月		研究科委員会で票決

●授与する学位

博士(文学): Doctor of Philosophy(Letters)

博士(学術): Doctor of Philosophy

(4) 学位授与・カリキュラム・入学試験に関する基本方針(ポリシー)

●ディプロマ・ポリシー

○前期2年の課程

東北大学大学院文学研究科博士前期2年の課程では、本課程の修学において次に掲げる目標を達成した者に対して、修士の学位を授与する。

日本学専攻においては、自らが対象とする日本の言語・文学・歴史・社会の研究において優れた成果を挙げると同時に、国際的な視野のもとで、日本に関心を抱く人々に向けた発信と文化的相互理解の促進ができる知識と活動能力を身につけた人、あるいは研究を継続するために必要な知識と技能を修得し、その専門的能力を日本研究の深化に役立てることができる人。

広域文化学専攻においては、自らが対象とする宗教学・文化人類学あるいはアジア・ヨーロッパ地域の研究において優れた成果を挙げると同時に、高い語学力と他者への共感能力を身につけ、グローバルな視野をもって多文化が共存する社会の発展に貢献できる人、あるいは研究を継続するために必要な知識と技能を修得し、その専門的能力を地域文化研究の深化に役立てることができる人。

総合人間学専攻においては、自らが対象とする哲学・芸術学・社会学・心理学・言語科学の研究において優れた成果を挙げると同時に、学際的な視野の広さと高い研究技能を身につけ、批判的視野をもって人類の福祉と持続可能な社会の形成・発展に貢献できる人、あるいは研究を継続するために必要な知識と技能を修得し、その専門的能力を高度な人間研究の深化に役立てることができる人。

○後期3年の課程

東北大学大学院文学研究科博士後期3年の課程では、本課程の修学において次に掲げる目標を達成した者に対して、博士の学位を授与する。

日本学専攻においては、自らが対象とする日本の言語・文学・歴史・社会の研究において独創的な研究を自立して遂行で

きる十分な知識と技能を身につけ、現に卓越した研究成果を挙げると同時に、人文・社会科学全体についての広い見識と国際的に知的発信のできる積極性を持ち、研究者として、あるいは高度な専門的職業人として、社会における文化的相互理解の深化に貢献できる人。

広域文化学専攻においては、自らが対象とする宗教学・文化人類学あるいはアジア・ヨーロッパ地域の研究において独創的な研究を自立して遂行できる十分な知識と技能を身につけ、現に卓越した研究成果を挙げると同時に、国境を越えて知的活動を展開できる高度な外国語能力を持ち、研究者として、あるいは高度な専門的職業人として多文化が共存する社会の発展に貢献できる人。

総合人間学専攻においては、自らが対象とする哲学・芸術学・社会学・心理学・言語科学の研究において独創的な研究を自立して遂行できる十分な知識と技能を身につけ、現に卓越した研究成果を挙げると同時に、理論と実践を総合できる学際的な視野の広さと発想力を持ち、研究者として、あるいは高度な専門的職業人として知識基盤社会の発展に貢献できる人。

●カリキュラム・ポリシー

○前期 2 年の課程

東北大学大学院文学研究科博士前期 2 年の課程では、本課程のディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

日本学専攻においては、国際化と分野連携を強化した日本関連諸学の研究遂行を修学目標として、学生ひとりひとりが専門に関する知識と技能を着実に修得し、自らの研究課題を深く掘り下げて修士論文・修士研究に結実させることができるよう、複数教員による指導体制のもとできめ細かい指導を行う。このために必要な講義・演習・実習を、セメスター制を基本として開設する。同時に、日本学全体を俯瞰する総合的授業やグローバル化時代にふさわしいスキルと発想力を身につけさせる共通科目を用意し、学生が教養ある高度職業人あるいは高度専門職業人として社会に出てゆけるよう指導する。

広域文化学専攻においては、社会貢献を視野に入れた文化理論研究及び個別のアジア・ヨーロッパ地域文化研究の遂行を修学目標として、学生ひとりひとりが専門に関する知識と技能を着実に修得し、自らの研究課題を深く掘り下げて修士論文・修士研究に結実させることができるよう、複数教員による指導体制のもとできめ細かい指導を行う。このために必要な講義・演習・実習を、セメスター制を基本として開設する。同時に、広域文化学全体を俯瞰する総合的授業やグローバル化時代にふさわしいスキルと発想力を身につけさせる共通科目を用意し、学生が教養ある高度職業人あるいは高度専門職業人として社会に出てゆけるよう指導する。

総合人間学専攻においては、原理論と実証を結びつけ学際的かつ批判的な視野を持つ先端的人間研究の遂行を修学目標として、学生ひとりひとりが専門に関する知識と技能を着実に修得し、自らの研究課題を深く掘り下げて修士論文・修士研究に結実させることができるよう、複数教員による指導体制のもとできめ細かい指導を行う。このために必要な講義・演習・実習を、セメスター制を基本として開設する。同時に、総合人間学全体を俯瞰する総合的授業やグローバル化時代にふさわしいスキルと発想力を身につけさせる共通科目を用意し、学生が教養ある高度職業人あるいは高度専門職業人として社会に出てゆけるよう指導する。

○後期 3 年の課程

東北大学大学院文学研究科博士後期 3 年の課程では、本課程のディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

日本学専攻においては、国際化と分野連携を強化した日本関連諸学研究の深化を修学目標として、学生が独創的な研究を自立して遂行できる知識と技能を身につけ、国際的水準の成果を上げることができるよう、個々の研究に即した専門的指導を行うと同時に、海外での研鑽や積極的な研究発信を促す。同時に、社会の諸課題を認識し学問研究全体を見渡す視野のもとで自らの研究の意義や責務を自覚できるよう、高度専門職業人にふさわしい見識を身につけさせる。

広域文化学専攻においては、社会貢献を視野に入れた文化理論研究及び個別のアジア・ヨーロッパ地域文化研究の深化を修学目標として、学生が独創的な研究を自立して遂行できる知識と技能を身につけ、国際的水準の成果を上げることができるよう、個々の研究に即した専門的指導を行うと同時に、海外での研鑽や積極的な研究発信を促す。同時に、社会の諸課題を認識し学問研究全体を見渡す視野のもとで自らの研究の意義や責務を自覚できるよう、高度専門職業人にふさわしい見識を身につけさせる。

総合人間学専攻においては、原理論と実証を結びつけ学際的かつ批判的視野を持つ先端的人間研究の深化を修学目標として、学生が独創的な研究を自立して遂行できる知識と技能を身につけ、国際的水準の成果を上げることができるよう、個々の研究に即した専門的指導を行うと同時に、海外での研鑽や積極的な研究発信を促す。同時に、社会の諸課題を認識し学問研究全体を見渡す視野のもとで自らの研究の意義や責務を自覚できるよう、高度専門職業人にふさわしい見識を身につけさせる。

●アドミッション・ポリシー

○前期 2 年の課程

東北大学大学院文学研究科博士前期 2 年の課程では、人文・社会科学諸分野の先端的研究を通じて、各分野の学問的成果を継承発展させうる人材や、専門知識とグローバルな視野をたずさえて社会的諸課題の解決に貢献できる教養ある高度職業人を養成する。このため以下のような方針で学生を受け入れる。

日本学専攻においては、日本の言語・文化・歴史・社会に関連するテーマに強い関心と探究意欲を持ち、専門的教育を受けるのに必要な基礎的知識及び学力を有すると同時に、問題発見能力と論理的思考力に秀でた人を求める。このため本課程の入学試験においては、それまでの研究成果（論文等）を審査すると同時に、専門に関する知識と研究技能、外国語能力、研究に取り組む積極性や発信能力等を筆記試験及び面接試験によって評価する。

広域文化学専攻においては、文化の基礎理論あるいはアジア・ヨーロッパ地域の個別文化に強い関心と探究心を持ち、専門的教育を受けるのに必要な基礎的知識及び学力を有すると同時に、問題発見能力と論理的思考力に秀でた人を求める。このため本課程の入学試験においては、それまでの研究成果（論文等）を審査すると同時に、専門に関する知識と研究技能、外

国語能力、研究に取り組む積極性や発信能力等を筆記試験及び面接試験によって評価する。

総合人間学専攻においては、人間と社会について原理的かつ実証的に探究しようとする強い意欲を持ち、専門的教育を受けるのに必要な基礎的知識及び学力を有すると同時に、問題発見能力と論理的思考力に秀でた人を求める。このため本課程の入学試験においては、それまでの研究成果（論文等）を審査すると同時に、専門に関する知識と研究技能、外国語能力、研究に取り組む積極性や発信能力等を筆記試験及び面接試験によって評価する。

○後期3年の課程

東北大学大学院文学研究科博士後期3年の課程では、人文・社会科学諸分野において高度で独創的な研究成果を生み出し、広い学際的視野と発信能力をもって社会の発展に寄与できる高度専門職業人を育成する。このため以下のような方針で学生を受け入れる。

日本学専攻においては、広く人間と社会・文化について俯瞰できる教養を身につけると同時に、日本の言語・文化・歴史・社会に関連する各分野の専門的研究を自立して遂行するのに必要な知識と技能を有し、本研究科の提供する専門教育と博士論文執筆を通じて高度専門職業人としての能力を向上させようとする人を求める。このため本課程の入学試験においては、それまでの研究成果（論文等）を審査すると同時に、専門に関する知識と研究技能、研究に取り組む積極性や発信能力等を筆記試験及び面接試験によって評価する。

広域文化学専攻においては、広く人間と社会・文化について俯瞰できる教養を身につけると同時に、文化の基礎理論あるいはアジア・ヨーロッパ地域の個別文化の専門的研究を自立して遂行するのに必要な知識と技能を有し、本研究科の提供する専門教育と博士論文執筆を通じて高度専門職業人としての能力を向上させようとする人を求める。このため本課程の入学試験においては、それまでの研究成果（論文等）を審査すると同時に、専門に関する知識と研究技能、研究に取り組む積極性や発信能力等を筆記試験及び面接試験によって評価する。

総合人間学専攻においては、広く人間と社会・文化について俯瞰できる教養を身につけると同時に、哲学・芸術学・社会科学等の専門的研究を自立して遂行するのに必要な知識と技能を有し、本研究科の提供する専門教育と博士論文執筆を通じて高度専門職業人としての能力を向上させようとする人を求める。このため本課程の入学試験においては、それまでの研究成果（論文等）を審査すると同時に、専門に関する知識と研究技能、研究に取り組む積極性や発信能力等を筆記試験及び面接試験によって評価する。

【各専攻の設置趣旨等】

I 日本学専攻（博士前期2年の課程）の概要

日本の文化・言語・歴史に関する高度で幅広い知識・見識と、それをベースにして各領域での探究を継続発展させることのできるスキルを身につけることで、日本学への世界的な関心の高まりに答え、日本学の知見を必要としている人々と相互理解をはかりつつ対話的に共生できる人材を養成する。

また、日本文化・日本語と他の文化・言語との相違を踏まえながら、日本文化・日本語内部の多様性にも注目することで、広い視野のもとで総合的な判断を下すことができ、職業活動の現場で文化が関与する複雑な諸問題の解決に取り組める人材に加えて、日本文化を伝える有形無形の遺産・資源の価値を正しく理解し、それらを保存・活用することによって日本文化の継承・新展開に貢献できる人材を養成する。

日本学専攻の設置によって、以下のような教育課題に応える。(1) 日本に関する様々な研究テーマを持つ国内外の学生に対して、俯瞰的な視野のもとで個別研究を遂行できる学際的環境を提供する、(2) 社会科学的調査手法を取り入れた現代社会研究や海外における日本学研究的動向を取り込み、既存のドメスティックな日本研究の視野を拡大する、(3) 進展の著しい言語研究の成果を他専攻と連携しつつ集約し、日本語研究・日本語教育学の質を向上させ、優れた日本語・国語教育者を養成する、(4) 文学という世界普遍の芸術様式への理解を深め、日本の文学、文化の本質を根底から捉える人文知を備えた高度な職業人及び教養人を養成する。(5) 日本史・考古学・文化財科学の協力関係を深め、歴史資料の保存・活用に対する社会的ニーズに応える人材養成を行う。

こうした取り組みによって、深い教養を持った中学高校教員・日本語教師・ジャーナリスト・マスコミ関係者や、より専門性の高い学芸員、アーキビスト、キュレーター、行政機関の専門職員などの高度専門職業人、さらに後期課程へ進学して専門研究者を目指す人材を養成する。また、広い視野と専門的知見を持って国・地方の行政に貢献できる公務員や一般企業（特に海外拠点を持つグローバル企業等）において日本に関する知識を活かしながら活躍できる人材を養成する。留学生は、こうした企業のほか、日本語の翻訳家や日本を紹介する職業、行政の国際部門担当者などでも活躍することが想定される。

II 日本学専攻（博士前期2年の課程）に置く各教育プログラム

(1) 日本学専攻（博士前期2年の課程）教育プログラムの概要

日本語・日本文化についての高度な知見は、それぞれの専門分野に関する特論や演習・実習を通じて身につけさせる。また、日本学全体にわたる幅広い教養は、近接領域についてはその特論の履修で、より広範な展望は日本学総合科目Ⅰ・Ⅱの履修によって修得させる。なお、日本以外の言語・文化と日本のその相違や関連をグローバルな視点から学ぶために、西洋文化・東洋文化に関する講義を専攻の専門科目として設定し、また広域文化学専攻で開講する世界諸地域の文化に関する授業を選択必修の枠内で受講可能とする。

日本学の方法、それを発信していく能力・総合的な判断力・問題解決力は、各分野の総合演習・修士論文研究・日本学総合科目Ⅱにおいて、プレゼンテーション・討論等を重ねてゆく中で養成する。また、専攻内の教育で得る知見の位置づけをさらに広い視座から客観的に評価できるよう、他専攻の総合科目Ⅰの履修を必修として課す。研究をグローバルに発信するための能力等はスキル科目によって、また、日本学の高度な研究能力は学術実践活動によっても身につけることになる。

(2) 日本学専攻（博士前期2年の課程）のカリキュラムの構成・特徴

・日本学総合科目Ⅰ

日本語・日本文化・日本史に関する総合的な講義を通じて、日本研究全体を俯瞰的できる見識を養い、自らの研究領域の位置づけを正確に認識できるようにする。加えて、広域文化学専攻又は総合人間学専攻の総合科目Ⅰを必修とし、人文・社会科学研究全体に対するさらに広い視野を身につけさせる。

・日本学総合科目Ⅱ

日本学総合科目Ⅰの履修を前提として、さらに各分野の研究の観点や方法論を実践的に学び、総合的知見の深化を図る。

・専門科目（特論・総合演習・研究演習・研究実習）

以上の専攻共通科目を履修した上で、現代日本学、日本思想史、日本語学、日本語教育学、日本文学、日本史、考古学及び文化財科学の各専門分野個々の研究テーマについて、座学と実践のバランスをとりつつ、基礎から高度な専門的実習までを段階的に組み合わせた専門教育を行う。特論、研究演習及び研究実習では個別のテーマに即した講義、演習及び調査・実験を、総合演習では研究成果の洗練と発表技能向上のための指導を行う。これらにより本研究科の大学院生にふさわしい専門能力を身につけさせる。なお、専門科目16単位のうち、6単位までは、以下の「スキル科目」「学術実践活動」または他専攻の専門科目で充当してよいものとし、学生に応じた多様な修学の可能性を担保する。

・スキル科目

グローバルな発信のために必要な高度な外国語力を養成するための演習、研究の社会的役割やその規律を学ばせる研究倫理講義、キャリア設計のための演習などを開設し、共通教養として必要な実践力を養成する。

・学術実践活動

条件を満たした学会発表や海外留学に対して一定の範囲で単位を付与する。これによってアクティブな修学・研究活動のモチベーションを高める。

・修士論文研究

徹底した個別の論文指導を行い、修士論文作成に向けて当該年度に求められるレベルの成果を上げた場合に単位認定する。

(3) 履修モデル（例：現代日本学）

・前期2年の課程修了後、社会に出るケース

〈1年次〉

総合科目：日本学総合科目Ⅰ・Ⅱ、総合人間学総合科目Ⅰ

専門科目等：現代日本学社会分析特論Ⅰ、現代日本学研究特論Ⅰ・Ⅱ＋社会行動科学特論Ⅰ（他専攻科目）

修士論文研究

〈2年次〉

専門科目等：現代日本学研究演習Ⅰ・Ⅱ、現代日本学社会分析研究演習Ⅰ＋人文統計基礎演習（スキル科目）

修士論文研究

〈履修方針と進路〉

日本社会について広い視野から学ぶため、自専攻の科目に加えて総合人間学専攻・社会学分野の特論や統計基礎（スキル科目）を履修する。修士論文を作成して最終試験に合格し、修士の学位を取得。現代日本社会について知識と分析力を合わせ持つ人材として行政機関や企業に就職し、特に外国人との協働が求められる現場で活躍する。

・後期3年の課程へ進学するケース

〈1年次〉

総合科目：日本学総合科目Ⅰ・Ⅱ、総合人間学専攻

専門科目等：現代日本学社会分析特論Ⅰ、現代日本学研究演習Ⅰ・Ⅱ

修士論文研究

〈2年次〉

専門科目等：現代日本学総合演習Ⅰ・Ⅱ、現代日本学社会分析研究演習Ⅰ＋英語発表技能演習（スキル科目）

＋学術発表実習Ⅰ（学術実践活動）

修士論文研究

〈履修方針と進路〉

日本学研究の基本を身につけつつ、特に日本社会についての研究能力を高め、修士論文を提出して修士の学位を取得した後、後期課程に進学し研究を継続する。する。なお、並行して日本学国際共同大学院への所属を希望する場合は、前期課程1年次後期に「メソドロジー基盤科目」を受講し、プログラム学生となるための試験を受ける。2年次では「メソドロジー基盤科目」と国際共同大学院が指定する基盤科目等を履修し、Qualifying Examinationを受ける。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了要件30単位を、総合科目6単位、専門科目等16単位、修士論文研究8単位から構成する。総合科目は、日本学専攻で開設するⅠ・Ⅱ（4単位）及び他専攻で開設するⅠ（2単位）を必修とする。専門科目等は、専攻で開設する専門科目（特論・総合演習・研究演習・総合演習）から16単位を選択必修とするが、このうち6単位までは、スキル科目、学術実践活動又は他専攻の専門科目で充当することができる。修士論文研究は学期毎に2単位、修了までに計8単位を履修しなければならない。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科広域文化学専攻 博士課程前期2年の課程)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合科目	日本学総合科目Ⅰ	1前		2		○								兼12 オムニバス
	日本学総合科目Ⅱ	1後			2		○							兼17
	広域文化学総合科目Ⅰ	1前	2			○			10	3				オムニバス
	広域文化学総合科目Ⅱ	1後	2				○		2	1				オムニバス
	総合人間学総合科目Ⅰ	1前		2		○								兼7 オムニバス
	総合人間学総合科目Ⅱ	1後			2		○							兼4 共同
	小計(6科目)	—	4	4	2	—			10	4				兼26 —
特論	文化人類学特論Ⅰ	1・2前		2		○								兼1 隔年
	文化人類学特論Ⅱ	1・2後		2		○								兼1 隔年
	文化人類学特論Ⅲ	1・2前		2		○								兼1 隔年
	文化人類学特論Ⅳ	1・2後		2		○				1				隔年
	宗教学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	宗教学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	宗教学特論Ⅲ	1後		2		○								兼1
	死生学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	死生学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	死生学特論Ⅲ	1前		2		○				1				
	実践宗教学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	実践宗教学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	インド学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	インド学特論Ⅱ	1後		2		○								兼1 隔年
	インド仏教史特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	インド仏教史特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	インド学仏教史特論Ⅰ	1前		2		○			1					隔年
	東洋文化学特論Ⅰ	1前		2		○			2	4				オムニバス・共同(一部)
	東洋文化学特論Ⅱ	1後		2		○			2	4				オムニバス・共同(一部)
	中国語学中国文学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	中国語学中国文学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	中国語学中国文学特論Ⅲ	1前		2		○								兼1
	中国思想特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	中国思想特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	中国思想特論Ⅲ	1前		2		○								兼1
	東洋古代中世史特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	東洋古代中世史特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	東洋古代中世史特論Ⅲ	1前		2		○			1					
	東洋近世史特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	東洋近世史特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	東洋近世史特論Ⅲ	1前		2		○								兼1
	西洋文化学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	西洋文化学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	英文学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1					隔年
	英文学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1					隔年
	英文学特論Ⅲ	1・2前		2		○			1					隔年
	英文学特論Ⅳ	1・2後		2		○			1					隔年
	英語文化論特論Ⅰ	1・2前		2		○								兼1 隔年
	英語文化論特論Ⅱ	1・2前		2		○								兼1 隔年
	英文学・英語学論文作成法特論Ⅰ	1・2前		2		○				1				隔年
	英文学・英語学論文作成法特論Ⅱ	1・2後		2		○				1				隔年
	英文学・英語学論文作成法特論Ⅲ	1・2前		2		○				1				隔年
	英文学・英語学論文作成法特論Ⅳ	1・2後		2		○				1				隔年

	英語学基礎特論Ⅰ	1・2前	2	○		1					隔年
	英語学基礎特論Ⅱ	1・2前	2	○		1					隔年
	英語学特論Ⅰ	1・2前	2	○						兼1	隔年
	英語学特論Ⅱ	1・2後	2	○		1					隔年
	英語学特論Ⅲ	1・2前	2	○						兼1	隔年
	英語学特論Ⅳ	1・2後	2	○		1					隔年
	ドイツ文学特論Ⅰ	1前	2	○		1					
	ドイツ文学特論Ⅱ	1後	2	○						兼1	
	ドイツ文化学特論Ⅰ	1前	2	○		1					
	ドイツ文化学特論Ⅱ	1後	2	○		1					
	フランス文学特論Ⅰ	1前	2	○		1					
	フランス文学特論Ⅱ	1後	2	○		1					
	フランス文学特論Ⅲ	1前	2	○		1					
	フランス文学特論Ⅳ	1後	2	○		1					
	フランス文化学特論Ⅰ	1前	2	○			1				
	フランス文化学特論Ⅱ	1後	2	○						兼1	
	西洋史特論Ⅰ	1前	2	○		1					
	西洋史特論Ⅱ	1後	2	○		1					
	西洋史特論Ⅲ	1後	2	○						兼1	
	西洋史特論Ⅳ	1後	2	○			1				
	比較文化史学特論Ⅰ	1前	2	○						兼1	
	小計(64科目)	—	128	—		11	10			兼14	—
総合演習	宗教学死生学総合演習Ⅰ	1前	2	○		1	2				共同
	宗教学死生学総合演習Ⅱ	1後	2	○		1	2				共同
	中国語学中国文学史総合演習Ⅰ	1前	2	○			2				共同
	中国語学中国文学史総合演習Ⅱ	1後	2	○			2				共同
	中国思想史総合演習Ⅰ	1前	2	○		1	1				共同
	中国思想史総合演習Ⅱ	1後	2	○		1	1				共同
	英語学総合演習Ⅰ	1・2前	2	○		2					共同・隔年
	英語学総合演習Ⅱ	1・2後	2	○		2					共同・隔年
	英語学総合演習Ⅲ	1・2前	2	○		2					共同・隔年
	英語学総合演習Ⅳ	1・2後	2	○		2					共同・隔年
	小計(10科目)	—	20	—		4	5				—
研究演	文化人類学研究演習Ⅰ	1前	2	○			1				
	文化人類学研究演習Ⅱ	1後	2	○			1				
	文化人類学研究演習Ⅲ	1前	2	○		1					
	宗教学死生学研究演習Ⅰ	1前	2	○			1				
	宗教学死生学研究演習Ⅱ	1後	2	○		1					
	インド学研究演習Ⅰ	1前	2	○						兼1	
	インド学研究演習Ⅱ	1後	2	○						兼1	
	インド仏教史研究演習Ⅰ	1前	2	○		1					
	インド仏教史研究演習Ⅱ	1後	2	○		1					
	中国語学中国文学研究演習Ⅰ	1前	2	○			1				
	中国語学中国文学研究演習Ⅱ	1後	2	○			1				
	中国語学中国文学研究演習Ⅲ	1前	2	○			1				
	中国語学中国文学研究演習Ⅳ	1後	2	○			1				
	中国思想文献研究演習Ⅰ	1前	2	○			1				
	中国思想文献研究演習Ⅱ	1後	2	○		1					
	東洋史学研究演習Ⅰ	1前	2	○		1					
	東洋史学研究演習Ⅱ	1後	2	○		1					
	東洋史学研究演習Ⅲ	1前	2	○			1				
	東洋史学研究演習Ⅳ	1後	2	○			1				
	英文学研究演習Ⅰ	1・2前	2	○			1				隔年
	英文学研究演習Ⅱ	1・2後	2	○			1				隔年
	英文学研究演習Ⅲ	1・2前	2	○			1				隔年
	英文学研究演習Ⅳ	1・2後	2	○			1				隔年
	英語文化論研究演習Ⅰ	1・2前	2	○			1				隔年
	英語文化論研究演習Ⅱ	1・2後	2	○			1				隔年
	英語文化論研究演習Ⅲ	1・2前	2	○			1				隔年
	英語文化論研究演習Ⅳ	1・2後	2	○			1				隔年

習	英語学研究演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						隔年
	英語学研究演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						隔年
	英語学研究演習Ⅲ	1・2前		2			○		1						隔年
	英語学研究演習Ⅳ	1・2後		2			○		1						隔年
	ドイツ文学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	ドイツ文学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	ドイツ語学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	ドイツ語学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	フランス語学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	フランス語学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	フランス語学研究演習Ⅲ	1前		2			○			1					
	フランス語学研究演習Ⅳ	1後		2			○			1					
	フランス文学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	フランス文学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	フランス文学研究演習Ⅲ	1前		2			○			1					
	フランス文学研究演習Ⅳ	1後		2			○			1					
	西洋古代・中世史研究演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	西洋古代・中世史研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	西洋古代・中世史研究演習Ⅲ	1前		2			○		1						
	西洋古代・中世史研究演習Ⅳ	1後		2			○		1						
西洋近現代史研究演習Ⅰ	1前		2			○			1						
西洋近現代史研究演習Ⅱ	1後		2			○			1						
比較文化史学研究演習Ⅰ	1前		2			○							兼1		
比較文化史学研究演習Ⅱ	1後		2			○							兼1		
小計(51科目)		—		102			—		12	11				兼3	—
研究実習	文化人類学研究実習Ⅰ	1前		2			○		1					共同 共同	
	文化人類学研究実習Ⅱ	1後		2			○		1						
	宗教学研究実習Ⅰ	1前		2			○		1	1					
	宗教学研究実習Ⅱ	1後		2			○		1	1					
	応用死生学研究実習Ⅰ	1前		2			○			1					
	応用死生学研究実習Ⅱ	1後		2			○			1					
	応用死生学研究実習Ⅲ	1前		2			○			1					
	応用死生学研究実習Ⅳ	1後		2			○			1					
小計(8科目)		—		16			—		2	2				—	
スキル科目	研究倫理特論	1前		2		○								兼8	オムニバス
	西洋古典文化特論	1後		2		○								兼1	
	人文社会科学的研究	1前		2		○				1					
	英語発表技能演習	1後		2			○							兼1	
	英語研究論文作成法	1前		2			○							兼1	
	日本語研究論文作成法	1前		2			○							兼1	
	人文統計基礎演習	1後		2			○							兼1	
	キャリア設計演習	1後		2			○		1						
小計(8科目)		—		16			—		1	1				兼13	—
学術実践活動	学術発表実習Ⅰ	1・2通		2				○						兼1	
	学術発表実習Ⅱ	1・2通		2				○						兼1	
	国際活動実習Ⅰ	1・2通		2				○						兼1	
	国際活動実習Ⅱ	1・2通		2				○						兼1	
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	1・2通		2				○						兼1	
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	1・2通		2				○						兼1	
	小計(6科目)	—		12			—							兼1	
論文研究	修士論文研究	1・2通	8				○		14	12				兼1	
	小計(1科目)	—	8				—		14	12				兼1	—
合計(154科目)		—	12	298	2		—		14	12				兼59	—
学位又は称号		修士(文学)、修士(学術)			学位又は学科の分野			文学関係							

【各専攻の設置趣旨等】

I 広域文化学専攻（博士前期2年の課程）の概要

現代社会では、グローバル化の進展の中で、多様な文化のあり方や関係について広範かつ正確な知識と冷静な批判的思考力をもって問題解決を図ることができる高度教養人材が必要とされている。広域文化学専攻の前期課程ではアジア・ヨーロッパを中心とした個別の文化・歴史・言語・宗教についての専門的研究をベースとしつつ、(1) 学際的に文化を比較研究する視点・方法を身につけ、(2) 多文化共生の今日的な課題について主体的に考える機会を持つことで、確かな見識を有する文化の専門家としてグローバル社会に貢献する人材を養成する。

また、海外留学やフィールドワーク、医療やケアの現場での研鑽などを学生に推奨することで、本格的な外国語運用能力と他者や異文化への共感力や適応力を涵養し、現場に根ざした骨太な思考力で社会に貢献できる人材を養成する。

こうした教育を通じて、中学高校で「社会」「英語」「宗教」の教科教育や良質の国際教育のできる教育者、ジャーナリスト・マスコミ関係者、官公庁や国際機関で異文化交流を担当できる職員、広く一般企業（特に海外拠点を持つグローバル企業等）において高度な外国語能力や国際感覚を活かして活躍できる人材を社会に送り出す。さらに後期課程へ進学し高度な専門研究を目指す人材を養成する。また、本専攻への留学生は、日本で多文化共生を学んだ経験をベースに、日本や自国の企業等で様々な交流的業務のニーズに応えることになる。

新設の死生学・実践宗教学は、人類が培ってきた死生観や宗教文化に関する広域的な文化学研究の蓄積を基盤としながら、現代社会の死をめぐる諸問題について実践的な研究・教育を行うものである。同分野は本研究科における臨床宗教師養成（実践宗教学寄附講座）の経験をベースとし、質の高い臨床宗教師養成体制の整備をひとつの目的とするものであるが、そのためにはチャプレン、ビハラー僧、スピリチュアルケア師などこれまで主に海外で培われてきた心のケアの専門家養成プログラムとその背後にある文化の批判的検討が欠かせず、広域文化学専攻の他分野と学習・研究資源を共有することで独創的な新分野開拓を進めてゆく。履修者は、倫理学や心理学など他専攻の関連諸学もあわせて学ぶことで深い学識・教養を身につけた後、認定臨床宗教師やスピリチュアルケア師の資格を取得して病院や地域において専門的ケアを担い、あるいはケア人材を養成する業務に携わることが期待される。

II 広域文化学専攻（博士前期2年の課程）に置く各教育プログラム

(1) 広域文化学専攻（博士前期2年の課程）教育プログラムの概要

専攻は大きく域際文化学・東洋文化学・西洋文化学の3領域から構成される。それぞれの分野の研究テーマや研究方法は、分野毎に開設する特論や演習・実習を通じて身につけさせる。また、広域文化学全体にわたる幅広い教養を近接領域についてはその特論の履修で、より広範な展望は広域文化学総合科目Ⅰ・Ⅱの履修によって修得させるとともに、専攻内の教育で得る知見の位置づけをさらに広い視座から客観的に評価できるよう、他専攻の総合科目Ⅰの履修を必修として課す。研究をグローバルに発信するための能力等はスキル科目によって、また、専門的な研究能力は学術実践活動を通じて身につけることになる。

(2) 広域文化学専攻（博士前期2年の課程）のカリキュラムの構成・特徴

- ・広域文化学総合科目Ⅰ
広域文化学研究のために不可欠な基礎的知識と調査・研究の技法を分野横断的に学ぶとともに、それらを通して他者・異文化への共感力と適応力を涵養する。加えて、日本学専攻又は総合人間学専攻の総合科目Ⅰを必修とし、人文・社会科学研究全体に対するさらに広い視野を身につけさせる。
- ・広域文化学総合科目Ⅱ
広域文化学総合科目Ⅰの履修を前提として、さらに各分野の研究の観点や方法論を実践的に学び、総合的知見の深化を図る。
- ・専門科目（特論・総合演習・研究演習・研究実習）
以上の専攻共通科目を履修した上で、文化人類学、宗教学、死生学・実践宗教学、インド学仏教史、中国思想中国哲学、中国語学中国文学、東洋史、英文学、英語学、ドイツ語学ドイツ文学、フランス語学フランス文学及び西洋史の各専門分野個々の研究テーマについて、座学と実践のバランスをとりつつ、基礎から高度な専門的実習までを段階的に組み合わせた専門教育を行う。特論、研究演習、研究実習では個別のテーマに即した講義、演習及び調査・実験を、総合演習では研究成果の洗練と発表技能向上のための指導を行う。これらにより本研究科の大学院生にふさわしい専門能力を身につけさせる。なお、専門科目16単位のうち、6単位までは以下の「スキル科目」「学術実践活動」または他専攻の専門科目で充当してよいものとし、学生に応じた多様な修学の可能性を担保する。
- ・スキル科目
グローバルな発信のために必要な高度な外国語力を養成するための演習、研究の社会的役割やその規律を学ばせる研究倫理講義、キャリア設計のための演習などを開設し、共通教養として必要な実践力を養成する。
- ・学術実践活動
条件を満たした学会発表や海外留学に対して一定の範囲で単位を付与する。これによってアクティブな修学・研究活動のモチベーションを高める。
- ・修士論文研究
徹底した個別の論文指導を行い、修士論文作成に向けて当該年度に求められるレベルの成果を上げた場合に単位認定する。

(3) 履修モデル（例：死生学・実践宗教学）

- ・前期2年の課程修了後、社会に出るケース

〈1年次〉

総合科目：広域文化学総合科目Ⅰ・Ⅱ、総合人間学総合科目Ⅰ

専門科目等：死生学特論Ⅰ・Ⅱ、実践宗教学特論Ⅰ・Ⅱ　＋倫理学特論Ⅰ（総合人間学専攻） 修士論文研究 〈2年次〉 専門科目等：宗教学死生学研究演習Ⅰ・Ⅱ　＋人文社会科学研究（スキル科目）　＋社会心理学特論Ⅰ（総合人間学専攻） 修士論文研究 〈履修方針と進路〉 現代社会における信仰と死生観について宗教学や倫理学・心理学などの観点から広く学ぶため、自専攻の科目に加えて総合人間学専攻の特論を履修する。修士論文を作成して最終試験に合格し、修士の学位を取得。宗教・思想をベースにしたケアの知識を身につけて行政機関や企業に就職し、特に医療・介護部門で活躍する。 ・後期3年の課程へ進学するケース 〈1年次〉 総合科目：広域文化学総合科目Ⅰ・Ⅱ、総合人間学総合科目Ⅰ 専門科目等：死生学特論Ⅰ・Ⅱ、実践宗教学特論Ⅰ・Ⅱ、宗教学死生学研究演習Ⅰ・Ⅱ 修士論文研究 〈2年次〉 専門科目等：宗教学死生学総合演習Ⅰ・Ⅱ、応用死生学研究実習Ⅰ・Ⅱ　＋学術発表実習Ⅰ（学術実践活動） 修士論文研究 〈履修方針と進路〉 現代社会における信仰と死生観について宗教学的見地から深く掘り下げ、演習・実習を通じてその研究手法に親しむ。前期課程2年次で学会発表を行い、修士論文の最終試験に合格して修士の学位を取得した後、後期課程に進学し研究を継続する。なお、並行して日本学国際共同大学院への所属を希望する場合は、前期課程1年次後期に「メソドロロジー基盤科目」を受講し、プログラム学生となるための試験を受ける。2年次では「メソドロロジー基盤科目」と国際共同大学院が指定する基盤科目等を履修し、Qualifying Examinationを受ける。		
卒業要件及び履修方法		授業期間等
修了要件 30 単位を、総合科目 6 単位、専門科目等 16 単位、修士論文研究 8 単位から構成する。総合科目は、広域文化学専攻で開設するⅠ・Ⅱ（4 単位）及び他専攻で開設するⅠ（2 単位）を必修とする。専門科目等は、専攻で開設する専門科目（特論・総合演習・研究演習・研究実習）から 16 単位を選択必修とするが、このうち 6 単位までを、スキル科目、学術実践活動又は他専攻の専門科目で充当することができる。修士論文研究は学期毎に 2 単位、修了までに計 8 単位を履修しなければならない。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科総合人間学専攻 博士課程前期2年の課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合科目	日本学総合科目Ⅰ	1前		2		○								兼12 オムニバス
	日本学総合科目Ⅱ	1後			2		○							兼17 オムニバス
	広域文化学総合科目Ⅰ	1前		2		○								兼13 オムニバス
	広域文化学総合科目Ⅱ	1後			2		○							兼3 オムニバス
	総合人間学総合科目Ⅰ	1前	2			○			5	2				オムニバス
	総合人間学総合科目Ⅱ	1後	2				○		3	1				オムニバス
	小計(6科目)	—	4	4	4	—			6	3				兼34 共同
特論	哲学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	哲学特論Ⅱ	1後		2		○								兼1
	哲学特論Ⅲ	1前		2		○				1				
	哲学特論Ⅳ	1後		2		○								兼1
	生命環境倫理学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	倫理学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	倫理学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	倫理学特論Ⅲ	1前		2		○								兼1
	東洋・日本美術史特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	東洋・日本美術史特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	東洋・日本美術史特論Ⅲ	1後		2		○								兼1
	美学特論Ⅰ	1後		2		○				1				
	美学・西洋美術史特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	美学・西洋美術史特論Ⅱ	1後		2		○								兼1
	芸術学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	実験心理学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	実験心理学特論Ⅱ	1前		2		○			1					
	実験心理学特論Ⅲ	1後		2		○			1					
	実験心理学特論Ⅳ	1前		2		○								兼1
	社会心理学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	社会心理学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	心理学特論Ⅰ	1後		2		○			1					
	言語学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	言語学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	言語学特論Ⅲ	1前		2		○			1					
	言語学特論Ⅳ	1後		2		○				1				
	学習・言語心理学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	理論社会学特論Ⅰ	1後		2		○			1					
	理論社会学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	社会変動学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	社会変動学特論Ⅱ	1前		2		○			1					
	社会学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	社会学特論Ⅱ	1前		2		○								兼1
	社会学特論Ⅲ	1後		2		○								兼1
	社会行動科学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	社会行動科学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	計算人文社会学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	小計(37科目)	—		74		—			11	8				兼11 共同
総合演習	哲学総合演習Ⅰ	1前		2			○		1	3				共同
	哲学総合演習Ⅱ	1後		2			○		1	3				共同
	倫理学総合演習Ⅰ	1前		2			○		1	1				共同
	倫理学総合演習Ⅱ	1後		2			○		1	1				共同
	心理学総合演習Ⅰ	1前		2			○		2	2				共同
	心理学総合演習Ⅱ	1後		2			○		2	2				共同

Ⅱ	言語学総合演習Ⅰ	1前	2	○	2	1				共同
	言語学総合演習Ⅱ	1後	2	○	2	1				共同
	小計(8科目)	—	16	—	6	7				—
研究演習	哲学研究演習Ⅰ	1前	2	○						兼1
	哲学研究演習Ⅱ	1後	2	○		1				
	古代中世哲学研究演習Ⅰ	1前	2	○		1				
	古代中世哲学研究演習Ⅱ	1後	2	○		1				
	近代哲学研究演習Ⅰ	1前	2	○		1				
	近代哲学研究演習Ⅱ	1後	2	○		1				
	現代哲学研究演習Ⅰ	1前	2	○	1					
	現代哲学研究演習Ⅱ	1後	2	○	1					
	科学哲学研究演習Ⅰ	1前	2	○		1				
	科学哲学研究演習Ⅱ	1後	2	○		1				
	生命環境倫理学研究演習Ⅰ	1後	2	○	1					
	倫理学研究演習Ⅰ	1前	2	○	1					
	倫理学研究演習Ⅱ	1後	2	○	1					
	倫理学研究演習Ⅲ	1前	2	○		1				
	倫理学研究演習Ⅳ	1後	2	○		1				
	東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	1前	2	○	1					
	東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	1後	2	○		1				
	美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	1前	2	○	1					
	美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	1後	2	○	1					
	美学研究演習Ⅰ	1前	2	○		1				
	実験心理学研究演習Ⅰ	1後	2	○						兼1
	実験心理学研究演習Ⅱ	1後	2	○	1					
	実験心理学研究演習Ⅲ	1前	2	○	1					
	実験心理学研究演習Ⅳ	1後	2	○						兼1
	社会心理学研究演習Ⅰ	1後	2	○		1				
	社会心理学研究演習Ⅱ	1前	2	○		1				
	言語学研究演習Ⅰ	1後	2	○	1					
	言語学研究演習Ⅱ	1前	2	○	1					
	言語学研究演習Ⅲ	1後	2	○		1				
	社会学研究演習Ⅰ	1前	2	○	1					
	社会変動学研究演習Ⅰ	1前	2	○						兼1
	社会変動学研究演習Ⅱ	1後	2	○	1					
	理論社会科学研究演習Ⅰ	1・2前	2	○	1					隔年
	理論社会科学研究演習Ⅱ	1・2後	2	○	1					隔年
	理論社会科学研究演習Ⅲ	1・2前	2	○	1					隔年
	理論社会科学研究演習Ⅳ	1・2後	2	○	1					隔年
	数理行動科学研究演習Ⅰ	1前	2	○	1					
	数理行動科学研究演習Ⅱ	1後	2	○	1					
	数理行動科学研究演習Ⅲ	1前	2	○	1					
	数理行動科学研究演習Ⅳ	1後	2	○	1					
	計量行動科学研究演習Ⅰ	1前	2	○	1					
	計量行動科学研究演習Ⅱ	1後	2	○	1					
	計量行動科学研究演習Ⅲ	1前	2	○		1				
	計量行動科学研究演習Ⅳ	1後	2	○		1				
	計算人文社会科学研究演習Ⅰ	1前	2	○	1					
	計算人文社会科学研究演習Ⅱ	1後	2	○	1					
	小計(46科目)	—	92	—	13	10				兼3
研究実習	心理学研究実習Ⅰ	1前	2		○	2	2			オムニバス
	心理学研究実習Ⅱ	1後	2		○	2	2			オムニバス
	社会学研究実習Ⅰ	1前	2		○	2				共同
	社会学研究実習Ⅱ	1後	2		○	2				共同
	小計(4科目)	—	8	—	4	2				—
スキル	研究倫理特論	1前	2	○		5	2			兼1
	西洋古典文化特論	1後	2	○			1			
	人文社会科学研究	1前	2	○						兼1
	英語発表技能演習	1後	2	○						兼1
	英語研究論文作成法	1前	2	○						兼1

科目	日本語研究論文作成法	1前		2			○							兼1	
	人文統計基礎演習	1後		2			○		1						
	キャリア設計演習	1後		2			○							兼1	
	小計(8科目)	—		16			—		6	3				兼6	—
学術実践活動	学術発表実習Ⅰ	1・2通		2				○	1						
	学術発表実習Ⅱ	1・2通		2				○	1						
	国際活動実習Ⅰ	1・2通		2				○	1						
	国際活動実習Ⅱ	1・2通		2				○	1						
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	1・2通		2				○	1						
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	1・2通		2				○	1						
	小計(6科目)	—		12			—		1						—
論文研究	修士論文研究	1・2通	8				○		13	10				兼1	
	小計(1科目)	—	8				—		13	10				兼1	—
合計(116科目)		—	12	222	4		—		13	10				兼57	—
学位又は称号		修士(文学)、修士(学術)		学位又は学科の分野				文学関係							

【各専攻の設置趣旨等】

I 総合人間学専攻（博士前期2年の課程）の概要

近年、人文・社会科学の知識や発想を活かした課題解決への社会的ニーズが高まっており、特に文理融合的な発想に基づくイノベーションに期待が寄せられている。人文社会科学の教育の本来の使命は、技術的な知を探究する中にあるとしても、人間と社会にとってのよりよい状態すなわち幸福（Well-being）や生活の質（QOL）とは何かを問い続け、それを通じて持続可能な社会の形成に寄与する賢明な知性を育成することである。このため本専攻では、文学研究科の中でもより実学的な社会科学・自然科学的な分野と、哲学や美学といった原理論的な分野を有機的に結びつけることで、合理的で柔軟な思考力をもって現実に対処しうる人材の育成を図る。すなわち、急速に変化する社会の現実を見据えながら信頼度の高い教育や文化的活動に従事できる専門職業人や、社会的公正や環境問題に配慮しつつイノベーションに貢献できる実務家を養成することを目指す。

本専攻の設置によって、以下のような教育課題に応える。(1) 哲学・倫理学・芸術学などの基礎研究分野においては、科学的認識や道徳的価値、美的な感受性などの問題を、広い視野から社会的・歴史的現実の文脈と関連づけて理解し、社会の基礎的な枠組み構想する力を養う。(2) 社会学・心理学・言語学などの実証科学分野では、社会規範、認知、言語能力などに関する実証的研究を基礎として、人間の活動の総体として成立する社会をより豊かなものにするためのアイデアを具体的に提案できる力を育成する。(3) 新たに設置する計算人文社会学分野では、ビッグデータ解析や統計モデリングを含む様々なデータサイエンスの研究手法に習熟しつつ、テクノロジー社会の将来あるべき姿を見据えた社会的課題解決に貢献できる人材を養成する。

こうした取り組みによって、深い教養と思索力を身につけた中学高校教員・ジャーナリスト・マスコミ関係者や、専門的知見を持って国・地方の行政や一般企業で活躍できる人材を養成する。より応用的専門性の高い分野としては、博物館等の学芸員、専門社会調査士などの調査分析技術者、認定心理士、家裁調査官、マーケティングや製品開発に携わる企業研究員などの進路があり、また後期課程へ進学して専門研究者を目指す道も考えられる。

II 総合人間学専攻（博士前期2年の課程）に置く各教育プログラム

(1) 総合人間学専攻（博士前期2年の課程）教育プログラムの概要

専攻は大きく哲学倫理学・芸術人間学・心理言語人間学・社会人間学の4領域から構成される。前二者の基礎的な領域と、後二者の実学的領域の接続によって、深みのある応用力を涵養することを目指す。それぞれの分野の研究テーマや研究方法は、分野毎に開設する特論や演習を通じて身につけさせるが、哲学倫理学以外の領域においては、特に実習を通じた調査・実験のスキル・アップにも重点を置く。また、総合人間学全体にわたる幅広い教養と思考力は、近接領域についてはその特論の履修で、より広範な展望は総合人間学総合科目Ⅰ・Ⅱの履修によって修得させる。また、専攻内の教育で得る知見の位置づけをさらに広い視座から客観的に評価できるよう、他専攻の総合科目Ⅰの履修を必修として課す。研究をグローバルに発信するための能力等はスキル科目によって、また、専門的な研究能力は学術実践活動を通じて身につけることになる。

(2) 総合人間学専攻（博士前期2年の課程）のカリキュラムの構成・特徴

・総合人間学総合科目Ⅰ

「感情」「表象」などの基礎カテゴリーについて各分野の視点・方法論のもとで検討することで、人間と社会を探究するための幅広い素養を身につけさせ、同時に人文・社会科学全体の中での各分野の位置づけを正確に理解させる。加えて、日本学専攻又は広域文化学専攻の総合科目Ⅰを必修とし、人文・社会科学全体に対するさらに広い視野を身につけさせる。

・総合人間学総合科目Ⅱ

総合人間学総合科目Ⅰの履修を前提として、さらに各分野の研究の観点や方法論を実践的に学び、総合的知見の深化を図る。

・専門科目（特論・総合演習・研究演習・研究実習）

以上の専攻共通科目を履修した上で、哲学、倫理学、東洋・日本美術史、美学・西洋美術史、心理学、言語学、社会学、行動科学、計算人文社会学の各専門分野個々の研究テーマについて、座学と実践のバランスをとりつつ、基礎から高度な専門的実習までを段階的に組み合わせた専門教育を行う。特論、研究演習、研究実習では個別のテーマに即した講義、演習、調査・実験を、総合演習では研究成果の洗練と発表技能向上のための指導を行う。これらにより本研究科の大学院生にふさわしい専門能力を身につけさせる。なお、専門科目16単位のうち、6単位までは、以下の「スキル科目」「学術実践活動」または他専攻の専門科目（特論・総合演習・研究演習・研究実習）で充当してよいものとし、学生に応じた多様な修学の可能性を担保する。

・スキル科目

グローバルな発信のために必要な高度な外国語力を養成するための演習、研究の社会的役割やその規律を学ばせる研究倫理講義、キャリア設計のための演習などを開設し、共通教養として必要な実践力を養成する。

・学術実践活動

条件を満たした学会発表や海外留学に対して一定の範囲で単位を付与する。これによってアクティブな修学・研究活動のモチベーションを高める。

・修士論文研究

徹底した個別の論文指導を行い、修士論文作成に向けて当該年度に求められるレベルの成果を上げた場合に単位認定する。

(3) 履修モデル（例：計算人文社会学）

・前期2年の課程修了後、社会に出るケース

〈1 年次〉

総合科目：総合人間学総合科目Ⅰ・Ⅱ、広域文化学総合科目Ⅰ

専門科目等：計算人文社会学特論Ⅰ、社会行動科学研究演習Ⅰ・Ⅱ

修士論文研究

〈2 年次〉

専門科目等：計算人文社会学研究演習Ⅰ・Ⅱ　＋英語発表技能演習（スキル科目）

修士論文研究

〈履修方針と進路〉

人文学的なデータ科学のテーマと研究技法を学びつつ、広く計量的観点から社会を合理的に分析する方法論を身につける。また、キャリアで活かせるよう、実践的な英語力を向上させる。学部での授業履修と合わせて専門社会調査士の資格を取得し、社会調査に関する修士論文を作成する。修士の学位を取得後、データ解析の知識を活かせる行政機関や企業に就職し、特にマーケティング・社会調査等の部門で活躍する。

・後期3年の課程へ進学するケース

〈1 年次〉

総合科目：総合人間学総合科目Ⅰ・Ⅱ、広域文化学総合科目Ⅰ

専門科目等：計算人文社会学特論Ⅰ、社会変動学特論Ⅰ・Ⅱ、計量行動科学研究演習Ⅰ・Ⅱ

修士論文研究

〈2 年次〉

専門科目等：計算人文社会学研究演習Ⅰ・Ⅱ、計量行動科学研究演習Ⅰ・Ⅱ

＋研究倫理特論、英語研究論文作成法（スキル科目）

修士論文研究

〈履修方針と進路〉

経済発展・情報化・人口構成など社会変動に関するテーマを広く学びつつ、データ解析に基づく実証的な調査・分析の手法に親しむ。またスキル科目を通じて英語論文作成技能を向上させるとともに、研究倫理や個人情報扱いについて学ぶ。社会変動を主題とした修士論文を提出し、修士の学位を取得後、博士後期課程に進学し研究を継続する。なお、並行して日本学国際共同大学院への所属を希望する場合は、前期課程1年次後期に「メソドロロジー基盤科目」を受講し、プログラム学生となるための試験を受ける。2年次では「メソドロロジー基盤科目」と国際共同大学院が指定する基盤科目等を履修し、Qualifying Examinationを受ける。

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件 30 単位を、総合科目 6 単位、専門科目等 16 単位、修士論文研究 8 単位から構成する。総合科目は、総合人間学専攻で開設するⅠ・Ⅱ（4 単位）及び他専攻で開設するⅠ（2 単位）を必修とする。専門科目等は、専攻で開設する専門科目（特論・総合演習・研究演習・研究実習）から 16 単位を選択必修とするが、このうち 6 単位までを、スキル科目、学術実践活動又は他専攻の専門科目で充当することができる。修士論文研究は学期毎に 2 単位、修了までに計 8 単位を履修しなければならない。		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 5 週
		1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科日文学専攻 博士課程後期3年の課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合科目	人文社会科学特別科目	1前	2			○			1					兼2 オムニバス
	小計(1科目)	—	2			—			1					兼2 —
スキル科目	研究倫理特論	1前		2		○			1					兼7 オムニバス
	西洋古典文化特論	1後		2		○								兼1
	人文社会科学研究	1前		2		○								兼1
	英語発表技能演習	1後		2			○		1					
	英語研究論文作成法	1前		2			○							兼1
	日本語研究論文作成法	1前		2			○		1					
	人文統計基礎演習	1後		2			○							兼1
	キャリア設計演習	1後		2			○							兼1
	小計(8科目)	—		16		—			2	1				兼12 —
学術実践活動	学術発表実習Ⅰ	1・2・3通		2				○						兼1
	学術発表実習Ⅱ	1・2・3通		2				○						兼1
	国際活動実習Ⅰ	1・2・3通		2				○						兼1
	国際活動実習Ⅱ	1・2・3通		2				○						兼1
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	1・2・3通		2				○						兼1
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	1・2・3通		2				○						兼1
	小計(6科目)	—		12		—								兼1 —
論文研究	博士論文研究	1・2・3通	8				○		6	9				兼2
	小計(1科目)	—	8			—			6	9				兼2 —
合計(16科目)		—	10	28		—			6	9				兼16 —
学位又は称号		博士(文学)、博士(学術)		学位又は学科の分野			文学関係							

【各専攻の設置趣旨等】

I 日本学専攻（博士後期3年の課程）の概要

日本研究の広い領域を俯瞰した上で、言語・文化・歴史の各専門分野において深い知見と研究能力、問題解決能力、また、それらを広く伝達できる能力を身につけた高度専門人材を養成する。日本文化を伝える有形無形の遺産・資源の価値を正しく理解し、それらを保存・活用することによって日本文化の継承・新展開に貢献できる人材を養成する。

日本学専攻の設置によって、以下のような教育課題に答える。(1) 日本語・日本文化・日本社会の様々なテーマに関心を抱く国内外の学生に対して、俯瞰的な視野のもとで個別研究を遂行できる学際的環境を提供する、(2) 社会科学的調査手法を取り入れた現代社会研究や海外における日本学研究的動向を取り込み、既存のドメスティックな日本研究の視野を拡大する、(3) 進展の著しい言語研究の成果を他専攻と連携しつつ集約し、日本語研究・日本語教育学の質を向上させ、優れた日本語・国語教育者を養成する、(4) 文学という世界普遍の芸術様式への理解を深め、日本の文学、文化の本質を根底から捉える人文知を備えた高度な職業人及び教養人を養成する。(5) 日本史・考古学・文化財科学の協力関係を深め、歴史資料の保存・活用に対する社会的ニーズに応える人材養成を行う。

こうした取り組みによって、日本研究のそれぞれの分野における高い専門性と教養を身につけた研究者、高度専門職業人を養成する。大学・研究機関の研究者・教育者に限らず、学芸員、アーキビスト、キュレーター、行政機関の専門職員などの高度専門職業人、あるいは状況分析や意思決定において専門的知見を活かすことのできる国際公務員、国際非政府組織や一般企業（特に海外拠点を持つグローバル企業）等の職員を養成する。留学生は、外国人ニーズの高い日本企業のほか、母国における日本研究者、日本語の翻訳家や日本を紹介する職業、行政の国際部門担当者などとして活躍することが想定される。

II 日本学専攻（博士後期3年の課程）に置く各教育プログラム

(1) 日本学専攻（博士後期3年の課程）教育プログラムの概要

日本語・日本文化に関する高度な知見と研究能力は、それぞれの専門分野での徹底した論文指導を通じて修得させる。同時に人文社会科学特別科目を通じて人文・社会科学の学問的多様性を認識させ、自らの専門研究の位置づけを客観的に評価できるよう指導する。公正な研究者としての見識や、研究をグローバルに発信するための能力等はスキル科目によって補充し、また、特に本課程においては、学術実践活動の単位化によって、自己の研究の積極的発信や海外での研鑽を奨励する。

(2) 日本学専攻（博士後期3年の課程）のカリキュラムの構成・特徴

・総合科目（人文社会科学特別科目）

専攻横断的な講義及び実践的内容の授業を通じて、人文・社会科学全体を俯瞰できる見識を養い、自らの研究領域の位置づけを正確に認識できるようにする。

・スキル科目

グローバルな発信のために必要な高度な外国語力を養成するための演習、研究の社会的役割やその規律を学ばせる研究倫理講義、キャリア設計のための演習などを開設し、共通教養として必要な実践力を養成する。

・学術実践活動

条件を満たした学会発表や海外留学に対して一定の範囲で単位を付与する。これによってアクティブな修学・研究活動のモチベーションを高める。

・博士論文研究

博士論文の作成スケジュールの規定に基づき、所定の課題（1年次の「博士論文計画書Ⅰ」と「研究現状報告」、2年次の「博士論文計画書Ⅱ」と「中間論文」）を提出させ、進捗状況に基づいて評価を行い、3年次における予備審査・本審査へと接続する。

(3) 国際共同大学院プログラム

前期課程2年次から日本学国際共同大学院プログラムに参加する学生は、本専攻の履修と並行して同プログラムが提供する学際的な科目を履修し、修了時におけるプログラム学位の取得を目指す。この中で、後期課程2年次までには海外協定大学に留学し、外国語能力をさらに高めるとともにグローバル・スタンダードの専門研究能力を磨くことで、高度専門職業人として国際社会で活躍できる力を身につける。

(4) 履修モデル（例：現代日本学）

・通常の後期3年の課程を修了するケース

〈1年次〉

総合科目：人文社会科学特別科目

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、「論文作成計画書Ⅰ」「研究現状報告」を提出し、評価を受ける。

〈2年次〉

スキル科目：研究倫理特論

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、「論文作成計画書Ⅱ」「中間論文」を提出し、評価を受ける。

〈3年次・進路〉

論文審査等：課程博士論文予備審査を受け、指導に沿って博士論文を完成し提出。最終審査を受け、博士の学位を取得した後、大学・研究機関等で研究者となる、あるいは、日本社会・文化に精通した専門家として、行政機関・企業の特に関係交流部門で活躍する。

・国際共同大学院のプログラム学位を並行して取得するケース

〈1年次〉

総合科目：人文社会科学特別科目

学術実践活動：学術発表実習Ⅰ

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、「論文作成計画書Ⅰ」「研究現状報告」を提出し、評価を受ける。

国際共同大学院：メソドロジー実践科目、専門科目、コミュニケーション科目を履修し、連携大学教員による講義・研究指導を受ける。

〈2年次〉

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、7月に「論文作成計画書Ⅱ」を提出。留学期間中はメール等で指導を受け、1月に「中間論文」を提出する。

国際共同大学院：後期から1年、海外連携大学へ留学。

〈3年次・進路〉

論文審査等：留学から帰国後、文学研究科の課程博士論文予備審査を受け、指導に沿って博士論文を完成し提出。最終審査を受け、博士の学位を取得する。

国際共同大学院：研究科における審査とは別個に、上記の学位論文について連携大学との共同審査が行われた後、学位プログラム推進機構からプログラム学位の認定を受ける。

学位取得後は、大学・研究機関で研究を継続する、あるいは日本社会・文化に対する高度な専門的知識と海外での研究で身につけた見識・外国語能力を活かし、グローバル企業・国際機関等で日本の専門家として活躍する。

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件 12 単位を、総合科目 2 単位、スキル科目又は学術実践活動（選択必修）2 単位、博士論文研究 8 単位から構成する。博士論文研究は学期毎に 2 単位、修了までに計 8 単位を履修しなければならない。		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 5 週
		1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科広域文化学専攻 博士課程後期3年の課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合科目	人文社会科学特別科目	1前	2			○			1					兼2 オムニバス
	小計(1科目)	—	2			—			1					兼2 —
スキル科目	研究倫理特論	1前		2		○								兼8 オムニバス
	西洋古典文化特論	1後		2		○								兼1
	人文社会科学研究	1前		2		○				1				
	英語発表技能演習	1後		2			○							兼1
	英語研究論文作成法	1前		2			○							兼1
	日本語研究論文作成法	1前		2			○							兼1
	人文統計基礎演習	1後		2			○							兼1
	キャリア設計演習	1後		2			○		1					
	小計(8科目)	—		16		—			1	1				兼13 —
学術実践活動	学術発表実習Ⅰ	1・2・3通		2				○						兼1
	学術発表実習Ⅱ	1・2・3通		2				○						兼1
	国際活動実習Ⅰ	1・2・3通		2				○						兼1
	国際活動実習Ⅱ	1・2・3通		2				○						兼1
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	1・2・3通		2				○						兼1
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	1・2・3通		2				○						兼1
	小計(6科目)	—		12		—								兼1 —
論文研究	博士論文研究	1・2・3通	8				○		14	12				兼1
	小計(1科目)	—	8			—			14	12				兼1 —
合計(16科目)		—	10	28		—			14	12				兼16 —
学位又は称号		博士(文学)、博士(学術)		学位又は学科の分野			文学関係							

【各専攻の設置趣旨等】

I 広域文化学専攻（博士後期3年の課程）の概要

現代社会では、グローバル化の進展の中で、多様な文化のあり方や関係について高度に専門的な知識と深い批判的思考力で問題解決を図る高度専門人材が必要とされている。広域文化学専攻後期課程ではアジア・ヨーロッパを中心とした個別の文化・歴史・言語・宗教についての専門的研究を高度に展開深化させ、各分野で世界をリードするトップ・ランナーとして学会や社会で活躍できる人材を養成する。また、海外留学や国際学会出席、フィールドワーク、臨床現場での研鑽を学生に推奨することで、国内外の研究者や専門職業人とのグローバルな課題解決に向けた協働の経験を積ませ、国際的・学際的な視点から自らの研究の社会的意義を追求し生かすことができる能力を育てる。

こうした取り組みによって、域際領域及び個別地域文化学の各分野において専門研究能力と高度な教養を身につけた研究者・高度専門職業人を社会に送り出す。大学・研究機関の研究者・教育者、官公庁の専門職員、アーキビスト、キュレーターなど歴史分野での高度専門職業人、あるいは状況分析や意思決定において専門的知見を活かすことのできる国際公務員、国際非政府組織や一般企業（特に海外拠点を持つグローバル企業）の研究職員などがこれにあたる。宗教学及び死生学・実践宗教学分野では、臨床宗教師、スピリチュアルケア師などの教育に当たる専門家人材も養成する。

II 広域文化学専攻（博士後期3年の課程）に置く各教育プログラム

（1）広域文化学専攻（博士後期3年の課程）教育プログラムの概要

域際領域及び個別地域文化に関する高度な知見と研究能力は、それぞれの分野での徹底した論文指導を通じて修得させる。同時に人文社会科学特別科目を通じて人文・社会科学全体の学問的多様性を認識させ、自らの専門研究の位置づけを客観的に評価できるよう指導する。公正な研究者としての見識や、研究をグローバルに発信するための能力等はスキル科目によって補完し、また、特に本課程においては、海外留学を含む学術実践活動の単位化によって、自己の研究の積極的発信や海外での研鑽を奨励する。

（2）広域文化学専攻（博士後期3年の課程）のカリキュラムの特徴

・総合科目（人文社会科学特別科目）

専攻横断的な講義及び実践的内容の授業を通じて、人文・社会科学全体を俯瞰できる見識を養い、自らの研究領域の位置づけを正確に認識できるようにする。

・スキル科目

グローバルな発信のために必要な高度な外国語力を養成するための演習、研究の社会的役割やその規律を学ばせる研究倫理講義、キャリア設計のための演習などを開設し、共通教養として必要な実践力を養成する。

・学術実践活動

条件を満たした学会発表や海外留学に対して一定の範囲で単位を付与する。これによってアクティブな修学・研究活動のモチベーションを高める。

・博士論文研究

博士論文の作成スケジュールの規定に基づき、所定の課題（1年次の「博士論文計画書Ⅰ」と「研究現状報告」、2年次の「博士論文計画書Ⅱ」と「中間論文」）を提出させ、進捗状況に基づいて評価を行い、3年次における予備審査・本審査へと接続する。

（3）国際共同大学院プログラム

前期課程2年次から日本学国際共同大学院プログラムに参加する学生は、本専攻の履修と並行して同プログラムが提供する学際的な科目を履修し、修了時におけるプログラム学位の取得を目指す。特に宗教学分野における日本型チャプレン養成モデルのさらなる精緻化やアジア・ヨーロッパ文化と日本文化の比較研究などをテーマとする学生にとって、新たな Japanese Studies を副専攻的に学ぶことは、研究の深化と視野拡張に役立つものである。また、必修である海外協定大学への留学によって、外国語能力をさらに高めるとともにグローバル・スタンダードの専門研究能力を磨くことで、高度専門職業人として国際社会で活躍できる力を身につけることができる。

（4）履修モデル（例：死生学・実践宗教学）

・通常の後期3年の課程を修了するケース

〈1年次〉

総合科目：人文社会科学特別科目

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、「論文作成計画書Ⅰ」「研究現状報告」を提出し、評価を受ける。

〈2年次〉

スキル科目：研究倫理特論

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、「論文作成計画書Ⅱ」「中間論文」を提出し、評価を受ける。

〈3年次・進路〉

論文審査等：課程博士論文予備審査を受け、指導に沿って博士論文を完成し提出。最終審査を受け、博士の学位を取得した後、大学・研究機関等で研究者となる。臨床宗教師を育成する教育に携わることも選択肢となる。あるいは、宗教・文化・臨床的ケアに関する高度専門家として行政機関や企業に就職し、特に文化財管理、医療・介護等の部門で活躍する。

・国際共同大学院のプログラム学位を並行して取得するケース

〈1年次〉

総合科目：人文社会科学特別科目

学術実践活動：学術発表実習Ⅰ 博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、「論文作成計画書Ⅰ」「研究現状報告」を提出し、評価を受ける。 国際共同大学院：メソドロジー実践科目、専門科目、コミュニケーション科目を履修し、連携大学教員による講義・研究指導を受ける。 〈2年次〉 博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、7月に「論文作成計画書Ⅱ」を提出。留学期間中はメール等で指導を受け、1月に「中間論文」を提出する。 国際共同大学院：後期から1年、海外連携大学へ留学。 〈3年次・進路〉 論文審査等：留学から帰国後、文学研究科の課程博士論文予備審査を受け、指導に沿って博士論文を完成し提出。最終審査を受け、博士の学位を取得する。 国際共同大学院：研究科における審査とは別個に、上記の学位論文について連携大学との共同審査が行われた後、学位プログラム推進機構からプログラム学位の認定を受ける。 学位取得後は、大学・研究機関で研究を継続する、あるいは宗教・文化に対する高度な専門的知識と海外での研究で身につけた見識・外国語能力を活かし、宗教・文化・臨床的ケアに関する高度専門家として行政機関や企業に就職し、特に文化財事業や医療・介護等の部門で活躍する。		
卒業要件及び履修方法		授業期間等
修了要件12単位を、総合科目2単位、スキル科目又は学術実践活動（選択必修）2単位、博士論文研究8単位から構成する。博士論文研究は每学期2単位、修了までに計8単位を履修しなければならない。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科総合人間学専攻 博士課程後期3年の課程)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合 科目	人文社会科学特別科目	1前	2			○			1					兼2 オムニバス
	小計(1科目)	—	2				—		1					兼2 —
ス キ ル 科 目	研究倫理特論	1前		2		○			5	2				兼1 オムニバス
	西洋古典文化特論	1後		2		○				1				
	人文社会科学研究	1前		2		○								兼1
	英語発表技能演習	1後		2			○							兼1
	英語研究論文作成法	1前		2			○							兼1
	日本語研究論文作成法	1前		2			○							兼1
	人文統計基礎演習	1後		2			○		1					
	キャリア設計演習	1後		2			○							兼1
	小計(8科目)	—		16			—		6	3				兼6 —
学 術 実 践 活 動	学術発表実習Ⅰ	1・2・3通		2				○	1					
	学術発表実習Ⅱ	1・2・3通		2				○	1					
	国際活動実習Ⅰ	1・2・3通		2				○	1					
	国際活動実習Ⅱ	1・2・3通		2				○	1					
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	1・2・3通		2				○	1					
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	1・2・3通		2				○	1					
	小計(6科目)	—		12			—		1					—
論文研究	博士論文研究	1・2・3通	8				○		11	10				兼3
	小計(1科目)	—	8				—		11	10				兼3 —
合計(16科目)		—	10	28			—		11	10				兼11 —
学位又は称号		博士(文学)、博士(学術)		学位又は学科の分野		文学関係								

【各専攻の設置趣旨等】

I 総合人間学専攻（博士後期3年の課程）の概要

人文科学の知識や発想を活かした課題解決への社会的ニーズの高まりを踏まえ、人間と社会の本質を原理的に問う分野と、実証的・経験科学的な探究アプローチとを有機的に結合することで、各分野における高度な研究能力を身につけると同時に、広い視野と柔軟な思考力をもって社会的諸課題の解明・解決に取り組むことのできる高度専門人材を養成する。新設の計算人文社会学専攻分野をはじめ、この専攻特有の文理融合的な研究を積極的に開拓・推奨し、プログラム学位との接続も図りながら、創造性のある実証的研究を展開できる教育体制を整備する。

本専攻の設置によって、以下のような教育課題に答える。(1) 哲学・倫理学・芸術学などの基礎研究分野においては、科学的認識や道徳的価値、美的な感受性などの問題を、広い視野から社会的・歴史的現実の文脈と関連づけて理解し、社会の基礎的な枠組み構想する力を養う。(2) 社会学・心理学・言語学などの実証科学分野では、社会規範、認知、言語能力などに関する実証的研究を基礎として、人間の活動の総体として成立する社会をより豊かなものにするためのアイデアを具体的に提案できる力を育成する。(3) 新たに設置する計算人文社会学分野では、ビッグデータ解析や統計モデリングを含む様々なデータサイエンスの研究手法に習熟しつつ、テクノロジー社会の将来あるべき姿を見据えた社会的課題解決に貢献できる人材を養成する。

こうした取り組みによって、各分野での専門研究能力と深い教養を身につけ、人類の福祉と持続可能な社会の形成・発展に寄与できる研究者及び高度専門職業人を養成する。大学・研究機関の研究者・教育者や博物館等のアーキビスト、キュレーターのほか、社会科学・心理学の専門的知見を持って国・地方の行政や国際機関等で活躍できる人材、データ科学や心理学の方法を一般企業におけるマーケティングや製品開発に活用する企業研究員、専門的な調査分析技術者などの高度専門職業人を社会に送り出す。

II 総合人間学専攻（博士後期3年の課程）に置く各教育プログラム

(1) 総合人間学専攻（博士後期3年の課程）教育プログラムの概要

それぞれの専門分野の研究テーマや研究方法に関する高度な知見と研究能力は、徹底した論文指導を通じて修得させる。同時に人文社会科学特別科目を通じて人文・社会科学全体の学問的多様性を認識させ、自らの専門研究の位置づけを客観的に評価できるよう指導する。公正な研究者としての見識や、研究をグローバルに発信するための能力等はスキル科目によって補完する。

(2) 総合人間学専攻（博士後期3年の課程）のカリキュラムの特徴

・総合科目（人文社会科学特別科目）

専攻横断的な講義及び実践的内容の授業を通じて、人文・社会科学全体を俯瞰できる見識を養い、自らの研究領域の位置づけを正確に認識できるようにする。

・スキル科目

グローバルな発信のために必要な高度な外国語力を養成するための演習、研究の社会的役割やその規律を学ばせる研究倫理講義、キャリア設計のための演習などを開設し、共通教養として必要な実践力を養成する。

・学術実践活動

条件を満たした学会発表や海外留学に対して一定の範囲で単位を付与する。これによってアクティブな修学・研究活動のモチベーションを高める。

・博士論文研究

博士論文の作成スケジュールの規定に基づき、所定の課題（1年次の「博士論文計画書Ⅰ」と「研究現状報告」、2年次の「博士論文計画書Ⅱ」と「中間論文」）を提出させ、進捗状況に基づいて評価を行い、3年次における予備審査・本審査へと接続する。

(3) 国際共同大学院プログラム

前期課程2年次から日本学国際共同大学院プログラムに参加する学生は、本専攻の履修と並行して同プログラムが提供する学際的な科目を履修し、修了時におけるプログラム学位の取得を目指す。特に日本の思想・芸術や社会・心性等を主題的に、あるいは他地域との比較において研究しようとする学生にとって、新たな Japanese Studies を副専攻的に学ぶことは、研究の深化と視野拡張に役立つものである。また、必修である海外協定大学への留学によって、外国語能力をさらに高めるとともにグローバル・スタンダードの専門研究能力を磨くことで、高度専門職業人として国際社会で活躍できる力を身につけることができる。

(4) 履修モデル（例：計算人文社会学）

・通常の後期3年の課程を修了するケース

〈1年次〉

総合科目：人文社会科学特別科目

学術実践活動：学術発表実習Ⅰ

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、「論文作成計画書Ⅰ」「研究現状報告」を提出し、評価を受ける。

〈2年次〉

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、7月に「論文作成計画書Ⅱ」を提出。留学期間中はメール等で指導を受け、1月に「中間論文」を提出する。

〈3年次・進路〉

論文審査等：課程博士論文予備審査を受け、指導に沿って博士論文を完成し提出。最終審査を受け、博士の学位を取得し

た後、大学・研究機関等で研究者となる。あるいはデータ科学に基づく社会・文化分析の高度専門家として行政機関や企業に就職し、特にビッグデータ解析・市場調査などの部門で活躍する。

- ・国際共同大学院のプログラム学位を並行して取得するケース

〈1年次〉

総合科目：人文社会科学特別科目

スキル科目：英語研究論文作成法

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、「論文作成計画書 I」「研究現状報告」を提出し、評価を受ける。

国際共同大学院：メソドロジー実践科目、専門科目、コミュニケーション科目を履修し、連携大学教員による講義・研究指導を受ける。

〈2年次〉

博士論文研究：日常的指導を受けると同時に、7月に「論文作成計画書 II」を提出。留学期間中はメール等で指導を受け、1月に「中間論文」を提出する。

国際共同大学院：後期から1年、海外連携大学へ留学。

〈3年次・進路〉

論文審査等：留学から帰国後、文学研究科の課程博士論文予備審査を受け、指導に沿って博士論文を完成し提出。最終審査を受け、博士の学位を取得する。

国際共同大学院：研究科における審査とは別個に、上記の学位論文について連携大学との共同審査が行われた後、学位プログラム推進機構からプログラム学位の認定を受ける。

学位取得後は、大学・研究機関で研究を継続する、あるいはデータ科学に基づく実証研究の経験と海外留学で身につけた見識・外国語能力を活かし、官民のビッグデータ解析・市場調査などの部門で活躍する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了要件 12 単位を、総合科目 2 単位、スキル科目又は学術実践活動（選択必修）2 単位、博士論文研究 8 単位から構成する。博士論文研究は学期毎に 2 単位、修了までに計 8 単位を履修しなければならない。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科文化科学専攻 博士課程前期2年の課程)【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	国文学特論Ⅰ	1前		2		○				1				兼1
	国文学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	国文学特論Ⅲ	1前		2		○								
	国文学研究演習Ⅰ	1前		2			○		2	1				
	国文学研究演習Ⅱ	1後		2			○		2	1				
	日本文芸形成論研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	日本文芸形成論研究演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	日本文芸形成論研究演習Ⅲ	1前		2			○		1					
	日本文芸形成論研究演習Ⅳ	1後		2			○		1					
	日本文芸形成論研究演習Ⅴ	1前		2			○		1					
	日本文芸形成論研究演習Ⅵ	1後		2			○		1					兼1 兼1 兼4 兼4 兼4 兼4
	日本語変異論特論Ⅰ	1後		2		○								
	日本語変異論特論Ⅱ	1前		2		○								
	日本語変異論研究演習Ⅰ	1前		2			○							
	日本語変異論研究演習Ⅱ	1後		2			○							
	日本語変異論研究演習Ⅲ	1前		2			○							
	日本語変異論研究演習Ⅳ	1後		2			○							
	日本語変異論研究演習Ⅴ	1前		2			○		1					
	日本思想史特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	日本思想史特論Ⅱ	1後		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 隔年開講
	日本思想史特論Ⅲ	1後		2		○								
	日本思想史特論Ⅳ	1後		2		○								
	日本思想史研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	日本思想史研究演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	中国語学中国文学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	中国語学中国文学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	中国語学中国文学特論Ⅲ	1前		2		○								
	中国語学中国文学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1	2				
	中国語学中国文学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1	2				
	中国思想中国哲学特論Ⅰ	1前		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 隔年開講
	中国思想中国哲学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	中国思想中国哲学特論Ⅲ	1前		2		○								
	中国思想中国哲学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1	1				
	中国思想中国哲学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	中国思想中国哲学研究演習Ⅲ	1前		2			○		1					
	中国思想中国哲学研究演習Ⅳ	1後		2			○		1					
	インド学特論Ⅰ	1前		2		○								
	インド学特論Ⅱ	1後		2		○								
	インド学特論Ⅲ	1後		2		○								
	インド学研究演習Ⅰ	1前		2			○							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 隔年開講
	インド学研究演習Ⅱ	1後		2			○							
	インド仏教史特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	インド仏教史特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	インド仏教史特論Ⅲ	1後		2		○								
	インド仏教史研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	インド仏教史研究演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	英文学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	英文学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	英文学特論Ⅲ	1前		2		○								兼1
	英文学研究演習Ⅰ	1前		2			○			1				

専門科目	英文学研究演習Ⅱ	1後	2		○		1					
	英文学研究演習Ⅲ	1前	2		○		1					
	英文学研究演習Ⅳ	1後	2		○		1					
	英語文化論特論Ⅰ	1前	2	○			1					
	英語文化論特論Ⅱ	1後	2	○			1					
	英語学特論Ⅰ	1前	2	○			1					
	英語学特論Ⅱ	1後	2	○			1					
	英語学特論Ⅲ	1前	2	○							兼1	
	英語学研究演習Ⅰ	1前	2		○		2					
	英語学研究演習Ⅱ	1後	2		○		2					
	英語解析学特論Ⅰ	1前	2	○			1					
	英語解析学特論Ⅱ	1後	2	○			1					
	ドイツ文学特論Ⅰ	1前	2	○							兼1	
	ドイツ文学特論Ⅱ	1後	2	○							兼1	
	ドイツ文学特論Ⅲ	1後	2	○							兼1	
	ドイツ文学研究演習Ⅰ	1前	2		○		1					
	ドイツ文学研究演習Ⅱ	1後	2		○		1					
	ドイツ文学研究演習Ⅲ	1前	2		○						兼1	
	ドイツ文学研究演習Ⅳ	1後	2		○						兼1	
	ドイツ文化学特論Ⅰ	1前	2	○			1					
	ドイツ文化学特論Ⅱ	1後	2	○			1					
	ドイツ文化学研究演習Ⅰ	1前	2		○		1					
	ドイツ文化学研究演習Ⅱ	1後	2		○		1					
	ドイツ文化学研究演習Ⅲ	1前	2		○		1					
	ドイツ文化学研究演習Ⅳ	1後	2		○		1					
	フランス文学特論Ⅰ	1前	2	○			1					
	フランス文学特論Ⅱ	1後	2	○			1					
	フランス文学特論Ⅲ	1前	2	○							兼1	
	フランス文学研究演習Ⅰ	1前	2		○		1					
	フランス文学研究演習Ⅱ	1後	2		○		1					
	フランス文学研究演習Ⅲ	1前	2		○					1		
	フランス文学研究演習Ⅳ	1後	2		○					1		
	フランス文学研究演習Ⅴ	1前	2		○					1		
	フランス文学研究演習Ⅵ	1後	2		○					1		
	フランス語学研究演習Ⅰ	1前	2		○		1					
	フランス語学研究演習Ⅱ	1後	2		○		1					
	フランス語学研究演習Ⅲ	1前	2		○					1		
	フランス語学研究演習Ⅳ	1後	2		○					1		
	哲学特論Ⅰ	1前・後	2	○							兼3	
	哲学特論Ⅱ	1後	2	○						1		
	哲学特論Ⅲ	1前	2	○						1		
	哲学研究演習Ⅰ	1前	2		○					2		兼1
	哲学研究演習Ⅱ	1後	2		○		1			2		
	古代中世哲学研究演習Ⅰ	1前	2		○					1		
	古代中世哲学研究演習Ⅱ	1後	2		○							
	近現代哲学研究演習Ⅰ	1前	2		○					1		
	近現代哲学研究演習Ⅱ	1後	2		○					1		
	近現代哲学研究演習Ⅲ	1前	2		○		1					
	近現代哲学研究演習Ⅳ	1後	2		○		1					
	科学哲学研究演習Ⅰ	1前	2		○					1		
	科学哲学研究演習Ⅱ	1後	2		○					1		
	生命環境倫理学研究演習	1後	2		○		1					
	倫理学特論Ⅰ	1前	2	○						1		
	倫理学特論Ⅱ	1後	2	○			1					
	倫理学特論Ⅲ	1前	2	○							兼1	
	倫理学研究演習Ⅰ	1前	2		○		1					
	倫理学研究演習Ⅱ	1後	2		○		1					
	倫理学研究演習Ⅲ	1前	2		○		1					
	倫理学研究演習Ⅳ	1後	2		○		1					

倫理学研究演習Ⅴ	1前		2			○						兼1
倫理学研究演習Ⅵ	1後		2			○			1			
人文社会科学研究	1前・後		2		○			1	1			兼13
英語研究論文作成法	1前		2		○							兼1
日本語研究論文作成法	1前・後		2		○							兼1
日本文化研究演習	1前・後		2			○						兼2
大学院研究・教育実践活動演習	1前・後			1		○		17	13			
課題研究	1・2通	4				○		17	13			※実験・実習
合計（117科目）		—	4	230	1	—		17	13		1	兼39
学位又は称号	修士（文学）、修士（学術）	学位又は学科の分野		文学関係								

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科言語科学専攻 博士課程前期2年の課程)【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	言語学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	言語学特論Ⅱ	1前		2		○								兼1
	言語学特論Ⅲ	1後		2		○			1					
	言語学特論Ⅳ	1前		2		○				1				
	言語学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1	1				
	言語学研究演習Ⅱ	1後		2			○		2	1				
	言語解析学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	言語解析学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	言語解析学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	言語解析学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	言語解析学研究演習Ⅲ	1後		2			○		1					
	言語解析学研究演習Ⅳ	1前		2			○			1				
	言語解析学研究演習Ⅴ	1後		2			○			1				
	日本語構造論特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	日本語構造論特論Ⅱ	1前		2		○				1				
	日本語構造論講読	1後		2			○		1					
	日本語構造論研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	日本語構造論研究演習Ⅱ	1後		2			○			1				
	日本語変異論特論Ⅰ	1後		2		○			1					
	日本語変異論特論Ⅱ	1前		2		○			1					
	日本語変異論特論Ⅲ	1前		2		○								兼1
	日本語変異論講読	1後		2			○		1					
	日本語変異論研究演習Ⅰ	1前		2			○		3	1				
	日本語変異論研究演習Ⅱ	1後		2			○		3	1				
	日本語変異論研究演習Ⅲ	1前		2			○		3	1				
	日本語変異論研究演習Ⅳ	1後		2			○		3	1				
	日本語変異論研究演習Ⅴ	1前		2			○		1					
	日本語教育論特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	日本語教育論特論Ⅱ	1後		2		○								兼1
	日本語教育論特論Ⅲ	1前		2		○								兼1
	日本語教育論講読	1前		2			○			1				
	日本語教育論研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	日本語教育論研究演習Ⅱ	1後		2			○			1				
	日本語教育論実習Ⅰ	1前		2				○	1	1				
	日本語教育論実習Ⅱ	1後		2				○	1	1				
	比較現代日本論講読Ⅰ	1前		2			○			1				
	比較現代日本論研究演習Ⅰ	1前		2			○			1				
	比較現代日本論研究演習Ⅱ	1前・後		2			○			1				
	比較現代日本論研究演習Ⅲ	1後		2			○			1				
	人文社会科学研究	1前・後		2		○			2					兼13
	英語研究論文作成法	1前		2		○								兼1
	日本語研究論文作成法	1前・後		2		○								兼1
	日本文化研究演習	1前・後		2			○							兼2
	大学院研究・教育実践活動演習	1前・後			1		○		6	4				
	課題研究	1・2通	4				○		6	4				※実験・実習
合計(45科目)		—	4	86	1	—			6	4				兼22
学位又は称号		修士(文学)、修士(学術)		学位又は学科の分野				文学関係						

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科歴史科学専攻 博士課程前期2年の課程)【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 科目	日本古代・中世史特論Ⅰ	1前		2		○				1				兼3
	日本古代・中世史特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	日本古代・中世史特論Ⅲ	1前		2		○			1					
	日本古代・中世史特論Ⅳ	1後		2		○			1					
	日本古代・中世史研究演習Ⅰ	1前		2			○			1				
	日本古代・中世史研究演習Ⅱ	1後		2			○			1				
	日本古代・中世史研究演習Ⅲ	1前		2			○			1				
	日本古代・中世史研究演習Ⅳ	1後		2			○			1				
	日本古代・中世史研究演習Ⅴ	1前		2			○		1					
	日本古代・中世史研究演習Ⅵ	1後		2			○		1					
	日本古代・中世史研究演習Ⅶ	1前		2			○		1					
	日本古代・中世史研究演習Ⅷ	1後		2			○		1					
	日本近世・近代史特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	日本近世・近代史特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	日本近世・近代史特論Ⅲ	1前・後		2		○								
	日本近世・近代史研究演習Ⅰ	1前		2			○			1				
	日本近世・近代史研究演習Ⅱ	1後		2			○			1				
	日本近世・近代史研究演習Ⅲ	1前		2			○			1				
	日本近世・近代史研究演習Ⅳ	1後		2			○			1				
	日本近世・近代史研究演習Ⅴ	1前		2			○		1					
	日本近世・近代史研究演習Ⅵ	1後		2			○		1					
	日本近世・近代史研究演習Ⅶ	1前		2			○		1					
	日本近世・近代史研究演習Ⅷ	1後		2			○		1					
	史料学Ⅰ	1前		2		○			1					
	史料学Ⅱ	1後		2		○				1				
	史料管理学Ⅰ	1前		2				○		1				
	史料管理学Ⅱ	1後		2				○		1				
	考古学特論Ⅰ	1前		2		○				1				兼1 兼1
	考古学特論Ⅱ	1前		2		○								
	考古学特論Ⅲ	1後		2		○								
	考古学特論Ⅳ	1後		2		○			1					
	考古学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1	1				兼1 兼1 兼2 兼2
	考古学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	考古学研究実習Ⅰ	1前		2				○	1	1				
	考古学研究実習Ⅱ	1後		2				○	1	1				
	資料基礎論特論	1後		2		○			1					兼1 兼1 兼2 兼2
	博物館資料論特論	1前		2		○								
	文化財科学特論	1後		2		○								
	文化財科学研究演習Ⅰ	1前		2			○							
	文化財科学研究演習Ⅱ	1後		2			○							兼2 兼2 兼2 兼2
	文化財科学研究実習Ⅰ	1前		2				○						
	東洋古代中世史特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	東洋古代中世史特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	東洋古代中世史研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					兼2 兼1 兼2 兼1
	東洋古代中世史研究演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	東洋近世史特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	東洋近世史特論Ⅱ	1後		2		○								
	東洋近世史特論Ⅲ	1前		2		○								隔年開講 隔年開講
	東洋近世史特論Ⅳ	1後		2		○								
	東洋近世史研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					

東洋近世史研究演習Ⅱ	1後	2		○	1				兼1
古代地中海世界史特論	1前	2							
西洋中近世史特論	1前	2	○		1				
西洋中近世史研究演習Ⅰ	1前	2		○	1				
西洋中近世史研究演習Ⅱ	1後	2		○	1				
西洋中近世史研究演習Ⅲ	1前	2		○	1				
西洋中近世史研究演習Ⅳ	1後	2		○	1				
西洋中近世史研究演習Ⅴ	1前	2		○	1				
西洋中近世史研究演習Ⅵ	1後	2		○	1				
西洋中近世史研究演習Ⅶ	1前	2		○	1				
西洋中近世史研究演習Ⅷ	1後	2		○	1				
欧米近現代史特論Ⅰ	1前	2	○			1			
欧米近現代史特論Ⅱ	1後	2	○					兼1	
欧米近現代史研究演習Ⅰ	1前	2		○		1			
欧米近現代史研究演習Ⅱ	1後	2		○		1			
欧米近現代史研究演習Ⅲ	1前	2		○		1			
欧米近現代史研究演習Ⅳ	1後	2		○		1			
東洋・日本美術史特論Ⅰ	1前	2	○		1				
東洋・日本美術史特論Ⅱ	1後	2	○		1				
東洋・日本美術史特論Ⅲ	1前	2	○			1			
東洋・日本美術史特論Ⅳ	1後	2	○			1			
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	1前	2		○	1				
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	1後	2		○		1			
美学・西洋美術史特論Ⅰ	1前・後	2	○		2				兼1
美学・西洋美術史特論Ⅱ	1後	2	○			1			
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	1前	2		○	2	1			
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	1後	2		○	2	1			
美学・西洋美術史研究実習Ⅰ	1前	2			○	2			
美学・西洋美術史研究実習Ⅱ	1後	2			○	2			
西洋美術史特論Ⅰ	1前	2	○		1				
西洋美術史特論Ⅱ	1後	2	○		1				
西洋美術史研究演習Ⅰ	1前	2		○	1				
西洋美術史研究演習Ⅱ	1後	2		○	1				
芸術学特論	1前	2	○					兼1 兼1 兼1 兼1 兼15 兼1 兼1 兼2	
ユーラシア文化史特論Ⅰ	1前	2	○						
ユーラシア文化史特論Ⅱ	1後	2	○						
ユーラシア文化史研究演習Ⅰ	1前	2		○					
ユーラシア文化史研究演習Ⅱ	1後	2		○					
人文社会科学研究	1前・後	2	○						
英語研究論文作成法	1前	2	○						
日本語研究論文作成法	1前・後	2	○						
日本文化研究演習	1前・後	2		○					
大学院研究・教育実践活動演習	1前・後		1			9	8		
課題研究	1・2通	4				9	8		
合計（94科目）		－	4	184	1	－	9		8
学位又は称号	修士（文学）、修士（学術）	学位又は学科の分野		文学関係					

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科人間科学専攻 博士課程前期2年の課程)【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	理論社会学特論	1後		2		○			1					
	理論社会学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	理論社会学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	理論社会学研究演習Ⅲ	1後		2			○		1					
	社会変動学特論	1前		2		○			1					
	社会変動学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	社会変動学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	社会変動学研究演習Ⅲ	1前		2			○		1					
	地域社会学特論	1後		2		○				1				
	地域社会学研究演習Ⅰ	1前		2			○			1				
	地域社会学研究演習Ⅱ	1後		2			○			1				
	社会学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	社会学特論Ⅱ	1前		2		○								兼1
	社会学特論Ⅲ	1後		2		○								兼1
	社会学調査実習Ⅰ	1前		2				○		1				
	社会学調査実習Ⅱ	1後		2				○		1				
	数理行動科学特論Ⅰ	1後		2		○								兼1
	数理行動科学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	数理行動科学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	数理行動科学研究演習Ⅲ	1前		2			○		1					
	数理行動科学研究演習Ⅳ	1後		2			○		1					
	計量行動科学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	計量行動科学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	計量行動科学研究演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	計量行動科学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	計量行動科学研究演習Ⅲ	1前		2			○			1				
	計量行動科学研究演習Ⅳ	1前・後		2			○			1				
	計量行動科学研究演習Ⅴ	1前		2			○		1					兼1
	社会行動科学特論Ⅰ	1前		2		○			1					兼1
	社会行動科学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	心理学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	心理学特論Ⅱ	1後		2		○								兼1
	心理学研究演習Ⅰ	1前		2			○							兼1
	心理学研究演習Ⅱ	1前		2			○		1					
	心理学研究演習Ⅲ	1後		2			○		1					
	心理学研究演習Ⅳ	1後		2			○		1					
	心理学研究演習Ⅴ	1前		2			○			1				
	心理学研究演習Ⅵ	1後		2			○							兼1
	心理学総合演習Ⅰ	1前		2			○		3	1				
	心理学総合演習Ⅱ	1後		2			○		3	1				
	心理学研究実習Ⅰ	1前		2				○	3	1				
	心理学研究実習Ⅱ	1後		2				○	3	1				
	実験心理学特論	1前		2		○			1					
	社会心理学特論	1後		2		○								兼1
	応用心理学特論	1前		2		○			1					
	文化人類学特論Ⅰ	1前		2		○				1				兼1
	文化人類学特論Ⅱ	1前・後		2		○								兼2
	文化人類学特論Ⅲ	1後		2		○								兼1
	文化人類学研究演習Ⅰ	1前		2			○			1				
	文化人類学研究演習Ⅱ	1後		2			○			1				

文化人類学研究演習Ⅲ	1後	2		○	1							
文化人類学調査実習Ⅰ	1前	2		○	1							
文化人類学調査実習Ⅱ	1後	2		○	1							
宗教人類学特論	1後	2	○			1						
宗教学特論Ⅰ	1前	2	○								兼1	
宗教学特論Ⅱ	1前	2	○		1							
宗教学特論Ⅲ	1前・後	2	○								兼1	
宗教学研究演習Ⅰ	1前	2		○		1						
宗教学研究演習Ⅱ	1後	2		○		1						
宗教学研究演習Ⅲ	1前	2		○							兼1	
宗教学研究演習Ⅳ	1後	2		○							兼1	
宗教学実習Ⅰ	1前	2			○	1	1				兼1	
宗教学実習Ⅱ	1後	2			○	1	1				兼1	
人文社会科学研究	1前・後	2	○		5	2					兼8	
英語研究論文作成法	1前	2	○								兼1	
日本語研究論文作成法	1前・後	2	○								兼1	
日本文化研究演習	1前・後	2		○							兼2	
大学院研究・教育実践活動演習	1前・後	1		○	10	6						
課題研究	1・2通	4		○	10	6						※実験・実習
合計（69科目）		—	4	134	1	—	10	6				兼26
学位又は称号	修士（文学）、修士（学術）		学位又は学科の分野				文学関係					

(別添2-2)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科文化科学専攻 博士課程後期3年の課程)【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	博士論文特別研修	1通年	4				○		17	13				※実験・実習
合計(1科目)		—	4			—			17	13				
学位又は称号		博士(文学)、博士(学術)	学位又は学科の分野					文学関係						

教育課程等の概要（事前伺い）

(文学研究科言語科学専攻 博士課程後期3年の課程) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	博士論文特別研修	1通年	4				○		6	4				※実験・実習
合計（1科目）		—	4			—			6	4				
学位又は称号		博士（文学）、博士（学術）	学位又は学科の分野					文学関係						

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科歴史科学専攻 博士課程後期3年の課程)【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	博士論文特別研修	1通年	4				○		9	8				※実験・実習
合計(1科目)		—	4			—			9	8				
学位又は称号		博士(文学)、博士(学術)	学位又は学科の分野					文学関係						

教育課程等の概要(事前伺い)

(文学研究科人間科学専攻 博士課程後期3年の課程)【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	博士論文特別研修	1通年	4				○		10	6				※実験・実習
合計(1科目)		—	4			—			10	6				
学位又は称号		博士(文学)、博士(学術)	学位又は学科の分野					文学関係						

(用紙 日本工業規格A4縦型)

授 業 科 目 の 概 要			
(文学研究科日本学専攻 博士課程前期 2 年の課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	日本学総合科目Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本学の方法と資料 (1) 日本学研究の視座を多面的・総合的に説明できる。 (2) 日本学研究の資料・原典についての概略を説明できる。 【授業の概要】 日本学の方法を多面的・総合的にとらえ、日本学研究の視座をもつ。まず、日本学諸分野からの方法の提示がおこなわれる。そして、それをもとにして、日本学の研究資料を総覧する。日本学諸分野からの多面的・総合的な提示によって、日本学研究の対象・資料の概要をつかむ。研究資料についての提示にあたっては、附属図書館等に所蔵される原典もとりあげる。 (オムニバス方式／全15回) (1 高橋章則／2回) 日本学の過去・現在・未来 (10 クレイグ クリストファー ロビン ジェイミー／1回) 海外の日本学事情 (11 片岡龍／2回) 日本思想史学の方法、日本思想史学の原典 (12 甲田直美／1回) 日本語学の方法、他言語との対照 (4 大木一夫／1回) 日本語学の原典 (13 小河原義朗／2回) 日本語教育学の方法、日本語教育学の資料 (5 佐倉由泰／1回) 日本文学の方法 (14 横溝博／1回) 日本文学の原典 (7 安達宏昭／1回) 日本史学の方法 (16 籠橋俊光／1回) 日本史学の原典 (8 阿子島香／1回) 考古学の方法 (17 鹿又喜隆／1回) 考古学の資料	オムニバス方式
	日本学総合科目Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本学の古典／原典を読む。 (1) 日本学研究の古典／原典の性格を説明できる。 (2) 日本学研究の古典／原典を精確に読み、その内容について議論できる。 【授業の概要】 日本学に関する古典的な文献（著作・論文）・日本学の研究資料となる原典を丁寧に読む。日本学の古典の理解、原典の多面的な読解を通じて、日本学研究のテキストから多様な観点を引き出し、日本学研究の基盤とすると同時に、日本学の考え方・方法を身につける。	
	広域文化学総合科目Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 広域文化学の基礎的な知識と視点を身につけ、学際的視点から文化をめぐる諸問題を考えることが出来る。 【授業の概要】 広域文化学では、自他の文化、歴史、言語、宗教のいかなる側面に注目し、それをいかなる視点から分析考察していくのか。本授業では広域文化学研究のために不可欠な基礎的知識と技法を分野横断的に学ぶとともに、それらを通して他者・異文化への共感力と適応力を涵養することを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (19 木村敏明／3回) 広域文化研究法の基礎 (18 沼崎一郎／1回) フィールドワーク研究法 (37 山田仁史／1回) 宗教民俗調査研究法 (38 谷山洋三／1回) アクションリサーチ研究法 (20 桜井宗信／1回) 文献学研究法 (21 三浦秀一／1回) アジア思想研究法 (40 土屋育子／1回) アジア文学研究法 (22 川合安 一／1回) アジア史研究法 (23 大河内昌／1回) 現代文学研究法 (24 島越郎／1回) 文法学研究法 (25 森本浩一／1回) メディア論研究法 (26 今井勉／1回) 現代詩研究法 (27 有光秀行／1回) 歴史史料研究法	オムニバス方式

	広域文化学総合科目Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 多文化共生をめぐる諸問題について広域文化学的視点から答えることができる。 【授業の概要】 本講義では共生文化を扱ったテキストを数冊とりあげ、その読解、発表、討論を通し広域的な多文化共生をめぐる諸問題について考える。グローバル化の進展する現代社会の各所で多文化共生は大きな課題となっている。広域文化学の研究はこのような課題にいかに応えることができるのか、本講義を通して考察していく。 (オムニバス方式／全15回) (19 木村敏明／5回) 域際文化学分野の視点から共生社会を扱った関連文献の読解と討論を通して現代社会における共生社会の問題について理解を深める。 (39 齋藤智寛／5回) 東洋文化学分野の視点から共生社会を扱った関連文献の読解と討論を通して現代社会における共生社会の問題について理解を深める。 (26 今井勉／5回) 西洋文化学分野の視点から共生社会を扱った関連文献の読解と討論を通して現代社会における共生社会の問題について理解を深める。	オムニバス方式
	総合人間学総合科目Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 人間の感情をめぐる総合人間学専攻の多様な学問的アプローチを学び、人間の感情について多角的に考察できるようになる。 【授業の概要】 総合人間学専攻では、人間と社会に関する抽象的・原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合することで、合理的で柔軟な思考力によって現実社会の課題を理解・解決することができる人材を育成することを目標としている。この科目は、この目標に向けて、人間の「感情」という共通テーマについて、総合人間学専攻の哲学倫理学講座、芸術人間学講座、社会人間学講座、心理言語人間学講座のさまざまな学問的観点から、学際的かつ総合的に考察するオムニバス講義である。 (オムニバス方式／全15回) (4344 荻原理／5回) (哲学倫理学) イントロ・感情の哲学倫理学的考察 (29 長岡龍作／3回) (芸術人間学) 美術と感情 (35 木村邦博／2回) (社会人間学) 集団間関係と感情の計量行動科学／社会イメージと感情の計量行動科学 (34 小松丈晃／2回) (社会人間学) 感情の社会学 (30 阿部恒之／1回) (心理言語人間学) 感情研究史 (4644 木山幸子／1回) (心理言語人間学) 言語が伝える感情 (31 坂井信之／1回) (心理言語人間学) 感情の脳科学	オムニバス方式
	総合人間学総合科目Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 研究発表と討議。総合人間学専攻のさまざまな学問分野に触れ、さまざまな観点からの質疑応答・討議を通じて、学際的な研究姿勢を養う。 【授業の概要】 総合人間学専攻では、社会と人間に関する抽象的かつ原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合して学ぶことが求められる。この演習科目では、総合人間学専攻の履修者が、各自の修士課程（前期課程）における研究課題などを他の講座（専攻分野）の教員・学生の前で発表し、さまざまな学問的観点からの質疑応答・討論をすることを通じて、社会と人間についての学際的かつ総合的な研究姿勢を培うことを目指す。 (4442 原 朔) おもに哲学倫理学分野の指導を担当する。 (29 長岡龍作) おもに芸術人間学分野の指導を担当する。 (33 永井彰) おもに社会人間学分野の指導を担当する。 (30 阿部恒之) おもに心理言語人間学分野の指導を担当する。	共同
特論	現代日本学芸分析特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本文化研究の方法としての「文芸社会史」研究の意義とその方法についての理解を深めることを目標とし、江戸時代の「狂歌」を例に、地域社会の文化基盤の中で日本文化を論ずる方法を論じる。 【授業の概要】 ロジェ・シャルチェ『書物の秩序』（文化科学高等研究院）に端を発するフランスのいわゆる「読書の社会史」研究は、2000年代に入り日本文化を研究する方法として定着し、さまざまな「書物」の製造・流通・享受の局面を解明するなかで日本の文化基盤を明らかにするに至った。そうした日本の「読書の社会史」研究の一翼を担う「文芸社会史」研究の課題を明らかにすべく、「狂歌」関連文献の諸相を実物に即して多面的に検証する。	

現代日本学学芸分析特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 戦後日本のマンガを学術的に分析する。 （１）戦後日本のマンガに対する諸思潮・主題を理解し、自身の言葉で再構築できる。 （２）マンガに関する学術的研究方法、特に文献学的・表現論的方法を理解し使用できる。 【授業の概要】 戦後日本のマンガを学術的に研究すべく、マンガ独自の表現方法に即して作品を論究する方法（マンガ表現論）、および文献学を基礎として作家・作品を総合的に論究する方法（文献学的アプローチ）を学びます。加えて、代表的なマンガ作品の分析を通じて、現代日本のサブカル的思潮・主題の一端にも触れる。特に、少年マンガ、少女マンガ、青年マンガに顕著な諸主題、世界認識などに関して学び、受講生自らの自己理解・世界理解を振り返りながら、これを分析する。	
現代日本学歴史分析特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマは近代日本における災害史－近代日本の災害史を学び、グローバルな視点から社会的分析に取り組み、より世界史の日本史のかかわりを理解する。 【授業の概要】 19世紀から現在の災害を紹介し、歴史学及び社会学的に分析する。地震、飢饉、津波のような自然災害の外に、空爆や炉心溶融のような人工的な災害も含む。近代日本の代表的な災害を世界の災害の事例と比較し、グローバルヒストリーの文脈に分析する。	
現代日本学社会分析特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 現代日本社会の分析のために必要な知識と方法を知る。 【授業の概要】 特に家族制度と人口現象に注目して、近代以降の日本社会について講義する。社会学を中心に、法学・経済学・人口学などにおける家族研究の成果を概観したうえで、現代日本社会における家族問題をとりあげる。具体的なトピックは、家族の形態と法制度、結婚と離婚、近代化に伴う人口統計の整備と人口変動、ライフコースからみた家族変動など。	
現代日本学日本哲学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 インターカルチャー的視点から日本哲学について、京都学派を中心として概観し、理解を深める。 【授業の概要】 「日本哲学」というものは何かを考え、いつから始まったのか、そして「哲学」と日本文化とのつながりはどこにありえるのかといったテーマについて先ず導入し、それと同時に哲学と翻訳の本質的な結びつきに関して論じる。その後日本哲学の変遷について京都学派を中心として、重要な概念に沿って解説を行なう。授業の中心になるのは、日本哲学の始祖とされる西田幾多郎であるが、その他、西田に続く世代の哲学者についても取り上げる。日本哲学の特徴を概観する上で、日本哲学と仏教思想、東洋思想とのつながりを見ていく。さらに、インターカルチャー的視点から、日本哲学の現代哲学の中での意味を探る。	
現代日本学研究特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本文化研究の方法としての「文芸社会史」研究の意義とその方法についての理解を深める。 【授業の概要】 人文科学・文化史学・歴史学・社会史に関する基礎文献を取り上げ、日本学の基盤を考察する。第一に取り上げるのは、ロジェ・シャルチュ『書物の秩序』（文化科学高等研究院）であり、本書に端を発するいわゆる「読書の社会史」研究の広がりの中で、日本学の方法論を考える。高橋著『江戸の転勤族一代官所手代の世界一』（平凡社）で論じた「文芸資料」の「歴史資料」化を中心に日本学の方法論の課題についても論じる。	
日本思想史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 思想史における「経験」の意義の理解を共有し、共時的・地域学観点からの日本思想史の技法を検討する。 【授業の概要】 説話・オーラルヒストリー・探検という観点から、「人類」・「歴史」・「文明」概念の再構築を試みた研究（A 杉山和也『南方熊楠と説話学』、B 保莉実『ラディカル・オーラルヒストリー』、C 梅棹忠夫『日本探検』）を参考にした発表をもとに、討論を通して日本思想史の方法論的自覚を促す。	
日本思想史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本思想史における「近代性」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。 【授業の概要】 日本の思想を「近代性」の問題から新たに捉え直そうとする挑戦的研究（A テッサ・モーリス＝スズキ『日本を再発明する：時間、空間、ネーション』、B 酒井直樹『死産される日本語・日本人：「日本」の歴史-地政的配置』）を精読した発表をもとに、討論を通して思想史の方法論的自覚を高める。	
日本比較思想史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 「東アジア」の概念と歴史に関する基礎知識を習得し、また16－19世紀の東アジア思想を「実学」（学問の生活化）という観点から捉えて、日本と近隣諸国の思想史対話の道を開拓する。 【授業の概要】 「東アジア」の歴史と「実学」思想家を解説したテキストを中心に、各国の事典や研究論文等を参照した発表と討論によって日本・中国・韓国の歴史と思想を比較し、また新たな「実学」概念の構築をめざす。	

日本文化思想史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 時代・分野などの枠組みを越えて通底する日本思想の構造を、テキストの精確な読解を通して解明する。 【授業の概要】 『徒然草』の古注釈である松永貞徳『なぐさみ草』の「大意」部分を、同時代の先行する注釈（秦宗巴『つれづれ草寿明院抄』、林羅山『埜槌』など）と比較しつつ、思想史的関心にもとづき精読しながら、中近世移行期の仏教・儒教・文芸・医学などの思想的交渉の実態を講究する。	
日本語構造論特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 文章・談話の単位を検討することで、文法論と談話論の接点を探る。資料をもとに、これまでの研究を踏まえながら、 (1) データ分析の技術を身につける。 (2) これまでの研究動向を把握し、そのうえで、各自のテーマを位置づけて説明することができる。 【授業の概要】 会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。語や節、文、段落という単位が、書き言葉と話し言葉でどのように、言語形式によって実現されているかを実証的に把握する。これまでの研究動向をもとに、言語の単位がどのように扱われてきたか先行研究を整理・検討する。音声言語コミュニケーションのための分析単位であるイントネーションユニットや節単位の実際をデータと対照する。分析に際しては、英語との対照を行う。	
日本語構造論特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 単語と文とを結ぶ単位の一つである「連語」の設定と文法論の構成との関係を理解する。 【授業の概要】 教科研文法が「語」「文」の中間単位として設定する「連語」には、単位として設定することの根拠等を含め、その位置付けに関して様々な問題点が存在する。そこで、「連語」を単位として認め「連語論」を設定することが、教科研文法に文法論としてどのような性格を与えているのかを、同じく「連語」と同様の単位を設定する三つの文法論、教科研文法・山田文法・松下文法を取り上げ、単位設定と文法論との構成という観点から比較対照する。	
日本語変異論特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本語文法研究：日本語の文法現象をとりあげ、それについて文法的な分析を試みる。到達目標は次のとおり。 (1) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。 (2) 文法論的に考え、その成果について論理的・明示的に説明できるようになる。 (3) 文法論的に考え、その結果について議論ができるようになる。 【授業の概要】 日本語の文法現象をとりあげ、それについて、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、文法的な分析を試みる。それにあたっては、英語・中国語などとの対照も行う。H47日本語の文法分析の前提となるこれまでの研究成果についても検討を加え、その問題点を考えていく。とりあげる対象は、現代日本語のテンス・アスペクトにかかわる現象とする。	
日本語変異論特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 方言を視野に入れた日本語史研究の方法と課題を理解し、自ら研究を行えるようにする。 【授業の概要】 この授業では、方言研究がこれまで十分取り組んでこなかった言語分野を開拓してみようと思う。先行研究や私の調査を紹介しながら、新たな研究分野に観察される地域差の実態と、それをもたらす要因などについて、広い視野から考えていきたい。 方言研究が新たに開拓すべきは、表現法や言語行動、談話、そして、オノマトペや感動詞といった、言葉の運用面で機能する分野の地域差である。それらについて、具体的な事例を取り上げ、検討を行っていく。また、言語運用の背後には、それを操作する話し手の発想法が隠れていると思われるが、その地域的な違いもあぶり出してみたい。さらに、この授業の関心は、そうした地域差を生み出す社会的な要因にも及ぶ。社会環境のあり方の違いが人々の言葉に対する発想法を左右し、それがさらに言語運用の地域差となって現れてくる、そうした影響の連鎖に迫ってみたい。それらの関係がどう展開し、現在の地域差を作り上げてきたのか、歴史的な側面にも注目してみようと考えてる。	

日本語学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 レジスターは、あるテキストが示す言語的特徴を生み出す諸条件の集まりである。諸条件とは、例えば伝達様式(話し言葉か、書き言葉か)、参加者の関係、話題、場面、目的等を指し、これらの違いによって言語的特徴が生み出される。さまざまな条件下で言語がどのように具現化されているか、広く資料を分析し、言語的特徴を探る。到達目標として、 (1)ある特定の資料の性格を、レジスター、ジャンル、スタイルといった様々な観点から位置づけ、比較することが出来る。 (2)資料における言語特徴を資料の性格とともに分析することが出来る。 (3)これまでの文章・談話論の研究から言語指標を整理し、言語使用域との関わりから分析し、研究レポートとしてまとめる。 【授業の概要】 言語の持つ、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、研究の実例と分析方法について講義する。抽象的所有物ではなく、実際の場面で使用された、具体的使用文脈における言語を扱う。テキストの分析においては、言語構造上の特徴がテキストとして具現化することが問題であり、具現化の条件として、言語使用域(レジスター：register)を考えることができる。媒体や、さまざまなジャンルにおける言語をもとに表現、文法性とスタイル論の交差を探る。	
日本語教育学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ・言語の理解・学習過程についての理論的な背景を理解し、説明できる。 ・理論的な背景を踏まえて、教材を分析・作成し、実践に結び付けることができる。 【授業の概要】 人がことばを理解し学習するとはどういうことなのか、その様々な考え方や理論について理解を深める。その上で、聴解または読解の教材を分析し、教材案を作成し、模擬授業を実施して授業分析をすることによって、教育方法や学習方法の改善につなげる。	
日本語教育学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1)社会文化能力、社会言語学、言語接触、言語政策など言語と社会に関する基礎的な知識を得る。 (2)現代社会での言語を取り巻く環境を理解することができる。 (3)現代社会において日本語教育が果たすべき役割について考えることができる。 【授業の概要】 この授業では、社会文化能力、社会言語学、言語接触、言語政策など言語と社会に関する基礎的な知識を獲得するとともに、現代社会での言語を取り巻く環境やそこで起こっている問題などについて知る。その上で、日本語教育がどんな役割を果たすべきか、どのような貢献ができるのかについてディスカッションをし、考えを深める。	
日本語教育学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 ・自分の研究テーマ・課題を設定することができる。 ・自分の研究テーマ・課題に関連する先行研究を収集、整理し、適切なデータ収集・分析方法をデザインすることができる。 ・先行研究を論理的・批判的に読み解くことができる。 ・論理的に自身の研究テーマ・課題を計画し、文章化することができる。 【授業の概要】 日本語教育学で行われている最新の研究と方法論を概観する。各自が設定した研究テーマに基づいて、先行研究の収集と整理、データ収集・分析方法をデザインし、研究論文作成に必要なプロセスを体験し身につける。	
日本文芸形成論特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、洞察力を身につけることを目標として、「日本文化史における歴史文芸」と題して授業を行う。 【授業の概要】 歴史を制約的な創造基盤として成立した日本の歴史文芸について、個々の作品の特質と表現史上、文化史上の意味を考究する。講義形式の授業であるが、受講生による調査、考察の機会を多く設けるようにして、対話的に考察を進めて行く。	
日本文芸形成論特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、洞察力を身につけることを目標として、「日本文化史における歴史文芸」と題して授業を行う。 【授業の概要】 歴史を制約的な創造基盤として成立した日本の歴史文芸について、個々の作品の特質と表現史上、文化史上の意味を考究する。講義形式の授業であるが、受講生による調査、考察の機会を多く設けるようにして、対話的に考察を進めて行く。	
日本文芸形成論特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 和歌をテーマに資料の読解力と論述の説得力を高めるためのスキルを身につけ、高度な教養を蓄える。また質疑応答に際してのディベートの力を養うことを目標とする。 【授業の概要】 「和歌」について、発表者は自分の研究分野と問題関心に従ってテーマを立て、参考文献及び論文形式の資料を事前に配布する。質疑応答を通じて、「和歌」の内容、様式、社会における受容、担い手、等々について様々な角度から考究し、日本における「和歌」文化への理解を深める。	

日本文学形成論特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 和歌をテーマに資料の読解力と論述の説得力を高めるためのスキルを身につけ、高度な教養を蓄える。また質疑応答に際してのディベートの力を養うことを目標とする。 【授業の概要】 「和歌」について、発表者は自分の研究分野と問題関心に従ってテーマを立て、参考文献及び論文形式の資料を事前に配布する。質疑応答を通じて、「和歌」の内容、様式、社会における受容、担い手、等々について様々な角度から考究し、日本における「和歌」文化への理解を深める。	
日本古代・中世史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本古代史に関する論文輪読を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。 【授業の概要】 日本古代史に関する論文を輪読する。とりあげる論文は、日本古代史に関わる代表的な研究と最新の研究のなかから選ぶこととする。おもに受講生が、論文の内容、その研究成果と課題、研究の背景について報告を行い、それをもとに参加者が討論を行う。これにより、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、論文から何を読み取り、何を考えるべきかを検討する。	
日本古代・中世史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 日本中世史に関する史料から論点を引き出せるようになる。 (2) 研究史を批判的に検討し、課題を引き出せるようになる。 (3) 日本中世史の分野で研究論文を作成できるようになる。 【授業の概要】 授業の前半では、受講者各自が自らの研究に最も関わりの深い史料あるいは研究論文を提示し、解釈、研究史、論点等を示し、全体で討論する。後半では、受講者それぞれが日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。	
日本近世・近代史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。 (2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。 【授業の概要】 日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。	
日本近世・近代史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 日本近現代史に関する最近の通史を読解し、内容を理解できるようになる。 (2) 通史の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。 (3) 最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。 【授業の概要】 日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、近年に刊行された『日本近代の歴史』シリーズ全6巻のうち4巻～6巻を読んでいく。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する箇所の要旨や内容の特徴を最近の研究状況と照らし合わせて報告し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。	
日本史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を認識できるようにする。 (2) 講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考えることができるようにする。 【授業の概要】 いま、人文社会科学研究への「社会的要請」とは何か、ということが議論されている。日本史を学ぶ者にとっては、「先祖や地元の歴史を知りたい・伝えたい」という思いに応えることが、その一つといえるかもしれない。この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学ぶ。	
日本史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 大学アーカイブズを活用した史学史の研究方法を身につける。 (2) 中世史を中心とした東北地方における歴史学の展開を理解する。 【授業の概要】 東北地方を対象とする中世史研究（以下、東北中世史研究）は、戦前以来の長い伝統を持っている。本講義では、東北帝国大学法文学部国史研究室の活動を基軸としながら、戦前期の東北中世史研究について考察する。その際、中心となるのは同研究室の副手であった大島正隆である。この人物については、東北大学史料館に関連史料が収蔵されており、それらを活用する。したがって、本講義は大学アーカイブを活用した史学史研究の一例ということにもなる。	

史科学Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 中世文書が読みこなせるようになる。 (2) 中世文書の展開を歴史的背景とともに把握できるようになる。 【授業の概要】 歴史資料（史料）には、文献史料、考古資料、絵画資料、景観、地名、儀礼、伝承等々、多様なものがある。歴史研究での活かし方、扱い方もそれぞれ異なっている。その中で、古文書とは、差出人と受取人などが明示されている文献史料をいう（日記や編纂物、文学作品は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、鎌倉幕府、室町幕府、戦国大名が発給した古文書の原文（写真）を読むことで、中世の古文書の読解力、語彙力を身につける。また、様式の展開についてはその歴史的背景について理解を深める。	
史科学Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 近世古文書に関する基礎的知識を持つ。 (2) 近世古文書の読解能力を養う。 【授業の概要】 古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。	
考古学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「日本考古学の諸問題」 到達目標 (1) 考古学研究の歴史を理解する。 (2) 現在の考古学研究の方法を理解する。 (3) 考古学関連分野の理解を深め、考古学研究の方法を前進させる方法を学ぶ。 (4) 人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきて、それが現代社会に繋がっていることを理解する。 【授業の概要】 まず、日本考古学の特質を研究史を通して学ぶ。次に、現代考古学の課題や問題点と、その解決方法を具体的な事例を通して理解する。先史時代を主な対象として、自然・社会環境と人類行動の関係について理解を深める。また、発掘による重要な発見や、研究対象に応じた調査・分析方法の事例を通じて解説する。さらに、最新の関連諸分野の方法を導入した、新たな考古学的方法を理解することで、科学的な考古学を理解する。	
考古学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 先史考古学資料論。先史時代の遺跡・遺構・遺物の特質を、資料にそくして理解できるようになる。 【授業の概要】 先史時代の考古学資料研究の現状と課題について、発掘調査資料の基礎的な特質に応じた実証的な研究方法の理解を深める。西ヨーロッパ、北米、東アジアなど、世界各地の遺跡を比較文化的視点で考察する。旧石器時代を中心とする事例研究の中から、問題点を選択して詳説する。年代論、機能論、分布論のもつ意義を考察する。また理論的には、アメリカの「プロセス考古学」学派による研究史、遺跡・遺物の分析法を学ぶ。タイポロジー（型式学）、遺物の使用痕分析、遺物の空間分布、石器製作技術、統計的方法などから取り上げ、具体的な分析方法を解説する。	
考古学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「縄文時代の環境文化史研究」 到達目標 (1) 考古学と自然科学との学際的研究の意義を理解する。 (2) 縄文時代の研究において近年飛躍的に研究が進んだ植物利用について、その研究法と成果を理解する。 (3) 研究の基礎となった方法論について実践的に学び、理解する。 【授業の概要】 近年の先史考古学では、自然科学分析などを取り入れた学際研究の重要性が増している。縄文時代の研究においては、様々な自然科学的分析が行われ、気候や植生といった周辺環境を復元するだけでなく、集落を維持することによって形成された人為生態系の規模やその内容が解明されている。本講義では、考古学の研究者と自然科学の研究者の連携のみならず、自然科学の分析手法を考古学者が自ら実践する意義と、考古学の側が求める分析の成果の蓄積について解説する。	
考古学特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：縄文文化の多様な研究史と、縄文文化の理解 到達目標： (1) 縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。 (2) 縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。 (3) 縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。 【授業の概要】 縄文文化の研究は、土器や石器等の遺物が主要な対象として進められてきた。さらに、多種多様な側面から研究する必要がある。例えば、動植物遺存体による食生活や環境の理解、竪穴住居跡や墓などの諸施設の研究による居住形態や社会構造の理解などである。これらの研究について具体的に紹介する。また、縄文文化は環太平洋の枠組みのもと、北米大陸北西海岸部における先史時代狩猟採集民文化との比較研究がなされており、本授業でもそれらの研究を解説し、比較文化的視点から縄文文化の相対的な位置を理解する。	

	文化財科学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 考古学などの文化財を対象とする学問分野が、具体的な資料に基づいて成立していることを理解することを到達目標とする。 テーマ：東北大学収蔵の考古学資料と研究 【授業の概要】 東北大学には研究の基礎や成果となった、膨大な資料標本や研究機器がある。その中には、考古学資料が約20万件あり、これらはおよそ90年間以上にわたる調査と研究によって収集されてきたものである。考古学などの文化財を取り扱う学問分野は、資料の存在が研究と不可分であり、資料に立脚して研究が成立する。東北大学収蔵の考古資料を取り上げ、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。その中でも、東北大学における考古学研究の基礎を創った伊東信雄を中心とする、弥生文化および古墳文化研究の特質について検討する。	
	文化財科学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 埋蔵文化財保護をはじめとする、日本の文化財保護行政の枠組みと実務について理解し、考古学研究との関係について理解することを到達目標とする。 テーマ：日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 【授業の概要】 日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実践について解説する。あわせて、文化財保護行政の今後の展望についても検討し、その中での考古学研究のあり方について考察する。	
	東洋文化学特論Ⅱ	【授業の概要】 東洋文化の広がりを知る上で必須の近代中国および日本に関する語学文学、思想、歴史に関する専門教員による講義、および各種原典史料等の読解を中心とした実習によって、東洋文化の特質を総合的かつ実践的に学習する。 (オムニバス方式／全15回) (21 三浦秀一/4回) 中国近代思想史および江戸漢学関連文献の読解と討論 (22 川合安/2回) 東アジア史関連文献の読解と討論 (40 土屋育子/2回) 中国近代文学史関連文献の読解と討論 (42 大野晃嗣/2回) 中国近代史関連文献の読解と討論 (21 三浦秀一・40 土屋育子・42 大野晃嗣/1回) 中国近代の諸問題に関する討論 (41 矢田尚子・39 齋藤智寛/2回) 東アジア文化交流史の諸問題に関する討論 (41 矢田尚子・22 川合安・39 齋藤智寛・21 三浦秀一/1回) 東アジアの諸問題に関する討論 (41 矢田尚子・22 川合安・39 齋藤智寛・21 三浦秀一・40 土屋育子・42 大野晃嗣/1回) 東洋文化の特質に関する討論	オムニバス方式・共同（一部）
	西洋文化学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語について研究する上での基礎的な知識・観点を広く学び、自らの専門研究の対象を、より広い視野のもとで捉え、その文化的意味を適切に評価できる教養を身につける。 【授業の概要】 「悲劇」「レトリック」「宗教改革」「構造言語学」など各分野の中核的な事象・概念のうち、自らの専門「以外」のテーマを選んで簡単な報告を行い、当該分野を専門とする学生を含む他の参加者との討議を通じて、異なる分野の視点や方法論に親しむ。教員はアクティヴな議論を誘導するとともに、俯瞰的視点からの講義を行い、「ヨーロッパ的なもの」の様々な側面に学生が関心を向けるよう指導する。	
総合演習	現代日本学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 文芸社会史学・社会学・歴史学・現代哲学をはじめとした日本研究の多様な方法論を実践的に習得し、研究報告を行う中で課題を発見する。 【授業の概要】 日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告を行う演習。修士論文を作成することを前提に、受講生は日本文化・日本社会に関わるテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究の達成点・問題点を明らかにし、新たな課題を設定する。その上で、日本文化・日本社会を独自に調査・分析し、その成果を発表する。その発表を受け、演習参加者は討論を行う。 上記の内容を4名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	現代日本学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 文芸社会史学・社会学・歴史学・現代哲学をはじめとした日本研究の多様な方法論を実践的に習得し、研究報告を行う中で課題を発見する。 【授業の概要】 日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告を行う演習。修士論文を作成することを前提に、受講生は日本文化・日本社会に関わるテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究の達成点・問題点を明らかにし、新たな課題を設定する。その上で、日本文化・日本社会を独自に調査・分析し、その成果を発表する。その発表を受け、演習参加者は討論を行う。マスターコースの学生は修士論文の中間報告を行ってもよい。 上記の内容を4名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同

日本思想史総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 修士論文の研究テーマの深化と拡大 【授業の概要】 修士論文作成の前段階として、受講生が日本思想史の基礎テキスト群(『日本思想大系』全67巻)の中から、それぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究の達成点の把握と新たな課題の発見の上に、史料の調査・整理・分析を中心に発表する。M2は中間報告のプレ発表をもって代えてもよい。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントターを付ける。	
日本思想史総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 修士論文の研究テーマの深化と拡大 【授業の概要】 修士論文作成の前段階として、受講生が日本思想史の基礎テキスト群(A『近代日本思想大系』全36巻、『日本近代思想大系』全24巻)の中から、それぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究の達成点の把握と新たな課題の発見の上に、史料の調査・整理・分析を中心に発表する。M2は修士論文の本論に関する発表をもって代えてもよい。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントターを付ける。	
日本語学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本語史・方言研究の諸問題(1) 参加者各自のテーマについて、現在の学界の研究動向をふまえながら、研究発表および討論を行い、研究の方向性を定め、また、研究内容を深める。到達目標は次のとおり。 (1)これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。 (2)各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。 (3)口頭発表の内容に即した討論ができる。 【授業の概要】 日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判を行い、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査を行い、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論を行う。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。 上記の内容を3名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
日本語学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 現代日本語研究の諸問題(1) 参加者各自のテーマについて、現在の学界の研究動向をふまえながら、研究発表および討論を行い、研究の方向性を定め、また、研究内容を深める。到達目標は次のとおり。 (1)これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。 (2)各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。 (3)口頭発表の内容に即した討論ができる。 【授業の概要】 現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判を行い、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査を行い、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論を行う。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。 上記の内容を3名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
日本語学総合演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本語史・方言研究の諸問題(2) 参加者各自のテーマについて、現在の学界の研究動向をふまえながら、研究発表および討論を行い、研究の方向性を定め、また、研究内容を深める。到達目標は次のとおり。 (1)これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。 (2)各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。 (3)口頭発表の内容に即した討論ができる。 【授業の概要】 日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判を行い、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査を行い、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論を行う。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。 上記の内容を3名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同

日本語学総合演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 現代日本語研究の諸問題(2) 参加者各自のテーマについて、現在の学界の研究動向をふまえながら、研究発表および討論を行い、研究の方向性を定め、また、研究内容を深める。到達目標は次のとおり。 (1)これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。 (2)各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。 (3)口頭発表の内容に即した討論ができる。 【授業の概要】 現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判を行い、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査を行い、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論を行う。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。 上記の内容を3名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
日本語教育学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 参加者相互の研究発表を通じて、 ・様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。 ・聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。 ・各自の研究を着実に進めることができる。 【授業の概要】 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
日本語教育学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 参加者相互の研究発表を通じて、 ・様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。 ・聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。 ・各自の研究を着実に進めることができる。 【授業の概要】 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
日本文学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 論文作成の実践を通して、文学を思考し論ずる上での高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を習得することを目標として、「日本文芸の考究とその論述の方法」と題して授業を行う。 【授業の概要】 日本文芸の作品、表現についての論文形式の考察発表と、その考察の目的設定、検討方法、論述内容の妥当性を問う意見交換を通して、より有意義な考究と論述のあり方を探求する。その探求においては、日本文学に関連する幅広い分野の知見、成果も積極的に参照する。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
日本文学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 論文作成の実践を通して、文学を思考し論ずる上での高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を習得することを目標として、「日本文芸の考究とその論述の方法」と題して授業を行う。 【授業の概要】 日本文芸の作品、表現についての論文形式の考察発表と、その考察の目的設定、検討方法、論述内容の妥当性を問う意見交換を通して、より有意義な考究と論述のあり方を探求する。その探求においては、日本文学に関連する幅広い分野の知見、成果も積極的に参照する。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同

研究演習	現代日本学学芸分析研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本文化研究の方法としての「文芸社会史」研究の方法・技術を習得することを目標とする。本演習では江戸時代の「狂歌」を例に、地域社会の文化リーダーを析出する方法の習熟を目指す。 【授業の概要】 ロジェ・シャルチェに端を発するフランスのいわゆる「読書の社会史」研究は、近年、日本文化研究の方法として定着し、諸種「書物」の製造・流通・享受の局面を解明するなかで日本の文化基盤を明らかにしている。「文芸社会史」研究にあつては、文芸資料を使った地域の文化構造の解明を課題とするが、本演習では「狂歌」関連資料を多角的に考察し、その課題に解答を与える。演習報告者は「狂歌」関連資料を活用し地域社会の文化構造についての報告を行い、のちの討論に備える。	
	現代日本学歴史分析研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。受講者は母国語により学問用語の日本語または英語の理解を深める。 【授業の概要】 日本語の講読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。受講者は選択の日本語の歴史学の文献の一部分を英訳して、授業でそれぞれの発表を団体で行う。問題点を挙げて相談して、英訳の方法や意義について学ぶ。	
	現代日本学社会分析研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 現代日本社会の分析のために必要な知識と方法を修得する。 【授業の概要】 受講者各自の関心にしたがって文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながらレポートを作成する。具体的には、文献や統計資料の探索の方法、資料の読解、アイデアの創出と共有、建設的議論、研究プロジェクトの立案と遂行などを扱う。受講者各自の研究の企画とその実行のために、適宜教員との個別面談による指導を行う。	
	日本思想史研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本思想史の基礎知識を習得しながら、日本の文化・思想の歴史を再構想して発信する力を養成する。 【授業の概要】 日本文化の歴史を豊富な図説によって解説したテキスト(14C後半～20C前半の部分)をもとに思想史研究の現在の到達点を確認し、また情報化時代にふさわしい日本思想史の構想と表現技法を考える。授業は発表をもとに行う。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。	
	日本思想史研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本思想史を世界史の構想の中に位置づけ、「近代世界」と日本の思想・文化の共時的関係にたいする基礎知識を共有する。 【授業の概要】 16～19世紀の日本を西洋文化との関係から論じた古典的研究(G. B. サンソム『西欧世界と日本』)を精読した発表をもとに、日本思想史をグローバルに捉える姿勢を養成する。授業は発表をもとに行う。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。	
	日本語構造論研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 近世言語論を読む。「八衢派」の流れを汲む言語論（用言論）を理解する。 【授業の概要】 明治以降の日本の近代的文法論は、近世における国学の伝統的な言語研究の流れと、幕末における洋学の西洋流の言語研究の流れとを受け継いでいる。本講義では、前者を代表する本居宣長・春庭、鈴木朧の系統（「八衢派」）に属する東条義門『山口栞』を読み、特に春庭の『詞の八衢』における活用研究面での継承・発展と、形容詞研究に見られる義門の独自性とを読み取る。	
	日本語構造論研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 ことばの意味と運用に関する研究として、意味論、語用論研究の動向について、これまでの研究を整理・検討する。語用論や臨時的解釈の問題を言語使用者の特性に基づき、言語データをもとに分析する。到達目標として、 (1)意味論、語用論研究の動向について論文を収集・整理する。 (2)各自の観点、批判的検討を加えながら先行研究を発表する。 (3)会話データを収集し、言語使用の問題について発表する。 言語学における意味、解釈、言語使用における諸問題を多角的に扱う。 【授業の概要】 意味論、語用論研究の動向について、これまでの研究を整理・検討し発表する。その上で、会話データを収集し、使用状況、文脈環境、談話標識等、実際の運用場面で観察される事象について研究発表を行う。また、その内容について参加者全員による討論を行う。自分自身の問題意識によって、文献を整理し、伝えること、その上で、自分の研究を位置づけ、実際の例を観察・分析する手法を身につける。	

日本語変異論研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 古代日本語研究(1) 古代日本語を反映する文献（「今昔物語集」）読みながら、それにもとづきながら、日本語の歴史について考察を行う。 到達目標は次のとおり。 (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。 (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。 (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査を行い、それにもとづき明瞭に報告し、また、議論を行うことができるようになる。 【授業の概要】 平安時代末期成立の説話集「今昔物語集」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「今昔物語集」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、「今昔物語集」を資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。	
日本語変異論研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 古代日本語研究(2) 古代日本語を反映する文献（「今昔物語集」）読みながら、それにもとづきながら、日本語の歴史について考察を行う。 到達目標は次のとおり。 (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。 (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。 (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査を行い、それにもとづき明瞭に報告し、また、議論を行うことができるようになる。 【授業の概要】 平安時代末期成立の説話集「今昔物語集」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「今昔物語集」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、「今昔物語集」を資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。	
日本語変異論研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 高度な方言調査の方法を習得し、修士論文等で自ら調査を企画・実施できるようにする。 【授業の概要】 ①方言調査の方法論・調査技術について学び、それを実際の方言調査の中に生かしていく。方言研究の全体像を把握し、方言に関する基礎的知識を習得することも目指す。フィールドは、宮城県気仙沼市などを予定している。 ②調査の企画は、方言学を専攻する大学院生が中心になって展開させる。研究室のOBが参加することもありうる。 ③特に、今年度は、昨年度まで収集してきた方言会話データ（『生活を伝える被災地方言会話集－宮城県気仙沼市・名取市における100場面会話－』1～4）を分析し、その結果を補完・発展させるための臨地面接調査を実施する。	
日本語教育方法論研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ・自分と異なる世界の見方や考え方に会うことから生じる問題について、それを避けるのではなく、積極的に関わる姿勢・態度を身に付ける。 ・その関わりを通してそこにある違いや問題の所在を的確に分析し判断することができる。 ・その問題を解決するために、説得力のある主張をもって発信することができる。 【授業の概要】 多言語多文化社会や異文化コミュニケーションに纏わる様々な社会の問題や現状について理解を深めると同時に、課題を見極め、解決方法を検討する活動を通して、自らの主張を発表し、レポートとしてまとめる。	
日本語教育方法論研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。 (2) 目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。 【授業の概要】 学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。	
日本語教育方法論研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本語教育におけるICT機器やメディアの活用などを網羅的に学んだ上で、学習者の学びのメカニズムにそった教材開発、または授業の学習環境をデザインすることができる。 【授業の概要】 言語の教育において学習者は何を使ってどのように学んでいるのか、そのメカニズムを理解した上で、実際に日本語教育で使われているICT機器やメディア教材と、それらを活用した授業方法について分析する。そして、具体的な教材の開発、または授業の学習環境をデザインを試みる。	

日本語教育学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ・地域日本語教育について理解し、説明できる。 ・地域日本語教育の課題を設定し、チームで協働して問題解決活動に取り組むことができる。 ・設定した課題について解決案を提示することができる。 【授業の概要】 地域日本語教育についての現状を理解し、各チームで設定した課題についてPBL（Problem/Project Based Learning）を通じて取り組み、相互に成果を発表することによって、問題解決を試み、問題解決案を提案する。	
日本語教育学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1)第二言語習得の基本的な考え方を理解し、説明できる。 (2)第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。 (3)第二言語習得研究の方法論を自らの研究に活用することができる。 【授業の概要】 日本語を教えるための理論的アプローチの一つとして第二言語習得研究を取り上げる。第二言語習得の基本的な考え方を理解し、具体的な教材や教室活動と結び付けて捉えることによって、第二言語習得理論を踏まえた授業実践について考える。	
日本古典文学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 『源氏物語』の精読をテーマに、物語の虚構の方法や人物造型、表現の様式、物語の構造等を考察することで読解力を高め、課題に研究的に取り組むための能力を養うことを目標とする。 【授業の概要】 輪読形式により、発表者は自分の担当範囲について、問題関心に従ってテーマを立て、参考文献及び論文形式の資料を事前に配布する。参加者は事前に資料を精読した上、授業に臨み、発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、考察をブラッシュアップしていくことで、『源氏物語』への理解を深め、王朝物語の読解力を高めていく。 本授業では主に『源氏物語』の輪読を行う。	
日本古典文学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 『源氏物語』の精読をテーマに、物語の虚構の方法や人物造型、表現の様式、物語の構造等を考察することで読解力を高め、課題に研究的に取り組むための能力を養うことを目標とする。 【授業の概要】 輪読形式により、発表者は自分の担当範囲について、問題関心に従ってテーマを立て、参考文献及び論文形式の資料を事前に配布する。参加者は事前に資料を精読した上、授業に臨み、発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、考察をブラッシュアップしていくことで、『源氏物語』への理解を深め、王朝物語の読解力を高めていく。 本授業では主に『源氏物語』に関わる自由発表、共同討議を行う。	
日本古典文学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につけることを目標として、「『太平記』の表現形成」と題して授業を行う。 【授業の概要】 演習形式の授業を通して、14世紀の長期にわたる動乱を多様な形質の表現によって描き出した『太平記』の表現形成の問題を、広く文学史、文化史の問題とかわらせて考察する。その考察は、『太平記』を日本の文化史、表現史の中に位置づけるとともに、日本の文化史、表現史を大きく捉え直すことに結びつく。 本授業では主に『太平記』巻第1～11を扱う。	
日本古典文学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につけることを目標として、「『太平記』の表現形成」と題して授業を行う。 【授業の概要】 演習形式の授業を通して、14世紀の長期にわたる動乱を多様な形質の表現によって描き出した『太平記』の表現形成の問題を、広く文学史、文化史の問題とかわらせて考察する。その考察は、『太平記』を日本の文化史、表現史の中に位置づけるとともに、日本の文化史、表現史を大きく捉え直すことに結びつく。 本授業では主に『太平記』巻第12～40を扱う。	
日本近代文学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につけることを目標として、「歴史小説の研究」と題して授業を行う。 【授業の概要】 演習形式の授業を通して、日本の近現代の歴史小説の表現を、広く文学史、文化史の問題とかわらせて考察する。その考察は、文学と歴史との関係を問い直すことにも、日本の近代文学を古典文学とのかかわりの中で捉え直すことにも深く結びつく。	

日本近代文学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につけることを目標として、「歴史小説の研究」と題して授業を行う。 【授業の概要】 演習形式の授業を通して、日本の近現代の歴史小説の表現を、広く文学史、文化史の問題とかかわらせて考察する。その考察は、文学と歴史との関係を問い直すことにも、日本の近代文学を古典文学とのかかわりの中で捉え直すことにも深く結びつく。	
日本古代・中世史研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本古代の法典である律令に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。 【授業の概要】 日本古代史を学ぶための基本史料である『令集解』をテキストとしてとりあげる。『令集解』は、九世紀に編纂された養老令の私撰注釈書である。記載された令本文と古代の法律家の注釈を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。これにより、史料の特質を明らかにし、あわせて日本古代の社会や国家の特色を析出する。なお、授業では各回担当者が報告する。	
日本古代・中世史研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。 【授業の概要】 平安時代を学ぶための基本史料である『小右記』をテキストとしてとりあげる。『小右記』は、平安時代中期の男性貴族の日記である。記載された内容を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。このことにより、史料としての扱い方に習熟するとともに、あわせて古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では各回担当者が報告する。	
日本古代・中世史研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 高度な日本中世史料を読みこなせるようになる。 (2) 高度に学問的な報告と質疑討論を行えるようになる。 【授業の概要】 中世前期とは、おおむね平安時代後半から鎌倉時代を指す。また、後期は南北朝時代から戦国時代を指す。前期と後期とでは、社会の構造が大きく異なっていると言われている。この授業では、中世後期の日記史料の精読を通じて、史料の読解力を錬磨するとともに、中世後期＝室町時代の政治や社会について検討を加える。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。	
日本古代・中世史研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 高度な日本中世史料を読みこなせるようになる。 (2) 高度に学問的な報告と質疑討論を行えるようになる。 (3) 史料から問題点を発見し、研究報告を行えるようになる。 【授業の概要】 日本古代・中世史研究演習Ⅲの続講。この授業でも、中世後期の日記史料の精読を通じて、史料の読解力を錬磨するとともに、中世後期＝室町時代の政治や社会について検討を加える。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。さらに学生が史料から問題点を発見し、それについて調査し、報告する時間も設ける。	
日本近世・近代史研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2) レジュメの作成方法や討論の仕方など、研究報告の基礎を習得する。 【授業の概要】 受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。	
日本近世・近代史研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。 【授業の概要】 受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。受講者は、研究報告を繰り返すことを通じて、自らの報告内容に対する認識を深め、講義中での議論を踏まえることで、内容の充実を図る。最終的には高度な学術論文の執筆を目指していく。	
日本近世・近代史研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。 (2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。 (3) 上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。 【授業の概要】 近現代史における基礎的な研究テーマについて受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。	

日本近世・近代史研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。 (2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。 (3) 上記の２つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。 【授業の概要】 日本近世・近代史研究演習Ⅲの研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。	
考古学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「日本考古学研究史」 到達目標 (1) 日本考古学の研究史と、学史上の画期を理解し、各自の研究テーマを位置づける。 (2) 各時代、各地域の考古学における研究の広がりを把握し、各自の研究テーマの現状と課題を理解できる。 【授業の概要】 明治時代以来の日本考古学研究の流れを整理し、今後の各自の研究方向を探る。例えば、旧石器の編年と製作技術、縄文集落と社会、弥生文化と農耕社会、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給など、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作成、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。	隔年
考古学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「考古学研究史」 到達目標 (1) 考古学研究は、世界各地で独自の研究史があるため、それを把握し、学史的な画期を整理することで、各自の研究テーマを評価できるようになる。 (2) 各国・地域、各時代の考古学における研究状況を把握し、各自の研究テーマと課題を理解できるようになる。 【授業の概要】 世界の考古学は、各国独自の研究史をもつため、その流れを整理し、その中で各自の研究方向性を探る。例えば、新石器時代における縄文時代の位置づけ、農耕社会の中の弥生文化の評価、国家の成立と古墳社会など、受講者各自が具体的な課題を選択し、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作成、主要文献の解題、基本資料の理解、調査報告書の検討、そして相互の討論を通して、研究現状の認識を深める。	隔年
考古学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「日本考古学の方法と理論」 到達目標 (1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。 (2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。 【授業の概要】 日本考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。	隔年
考古学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「考古学の方法と理論」 到達目標 (1) 現代の考古学ではグローバルな視点が求められるため、受講者各自は、各国・各地域の研究現状と学史を踏まえて課題を整理し、研究テーマを具体的に追求する。 (2) 科学的、分野横断的な考古学研究方法の理解と、グローバルな視座での多岐にわたる問題設定によって、各自の研究方法を広く、深く評価できるようになる。 【授業の概要】 考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。日本とフランスの型式学研究の比較、狩猟採集社会としての縄文文化、大陸からの稲作の受容の実態など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。	隔年
文化財科学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「日本の文化財科学研究史」 到達目標 (1) 日本の文化財保護と活用の研究史を把握する。 (2) 日本の科学的手法を取り入れた文化財の保護と活用について理解し、各自の研究テーマの課題を理解できるようになる。 【授業の概要】 日本では、明治時代以来の考古学の発展に伴って文化財保護の基礎が培われるが、文化財保護法の施行によって転機を迎える。その後、高度経済成長に伴う大規模開発によって埋蔵文化財行政が成熟し、文化財保護と活用の各分野が発展する。本講義では、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作成、研究史の画期となった主要業績の解題、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年

	文化財科学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「日本の文化財科学の方法と理論」 到達目標 (1)文化財保護と方法と理論を把握する。 (2)科学的手法を取り入れた文化財保護と活用方法と歴史を理解し、各自の研究テーマの課題を理解できる。 【授業の概要】 日本の文化財保護は、高度経済成長や、文化財行政の成熟の影響のもとに発展を遂げ、現在に至っている。そのため、文化財の保護を巡る問題と解決法は、その時代背景を考慮せずには理解できない。本講義では、文化財保護の方法と理論について、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な文化財の理解、調査・整備報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究現状の認識を深める。なお、文化財科学研究演習Ⅲ・Ⅳを履修した者は、発表テーマを変更すること。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年
	文化財科学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「文化財科学研究史」 到達目標 (1)文化財保護と活用の研究を、地域的視座からグローバルな視点までを取り入れて把握する。 (2)世界の文化財の保護と活用の具体例を学び、各自の研究テーマや課題を把握する。 【授業の概要】 世界遺産に代表されるように、文化財は地球上の文化遺産の一つとして評価される。一方で、文化財を取り巻く現状は、各国・各地域の現実的問題とは切り離せない。本講義では、受講者が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。研究史の画期となった主要文献の解題、基本的な文化財資料の理解、調査・整備報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。なお、文化財科学研究演習Ⅰ・Ⅱを履修した者は、発表テーマを変更すること。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年
	文化財科学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「文化財科学の方法と理論」 到達目標 (1)文化財科学と方法と理論をグローバルな視座を踏まえて把握する。 (2)国際機関や、国、地方自治体によって保護される文化遺産を取り巻く現状を理解し、実際の手法や活用方法を理解し、各自の研究テーマの課題を整理する。 【授業の概要】 国際機関や国、地方自治体が相互の関係の下に文化遺産を保護しているが、その実践法は地域色が強い。一方で、グローバルな評価から保護される傾向も近年強くなっている。受講者は、文化財科学の方法と理論について、具体的なテーマを選択し、発表を行う。主要業績の解題、文化財資料の理解、調査・整備報告書の検討、そして相互の討論を通して、研究現状の理解を深める。なお、文化財科学研究演習Ⅰ・Ⅱを履修した者は、発表テーマを変更すること。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年
	日本語教育学研究実習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本語コース運営の基礎 ・レディネス、ニーズ、目標設定、シラバス、カリキュラム、実践、評価等、日本語コースのコースデザインの基礎を学ぶ。 ・日本語コースの実施運営に必要な事項を検討し、情報収集、企画を行う。 【授業の概要】 ・コースデザインや授業デザイン、教師教育関連の文献を読みながら、夏期休暇中に実施予定の日本語コースに対するレディネスを高める。 ・夏期日本語コースのためのコースデザインを行う。 ・コース運営に必要な種々の準備作業を行う。	
研究 実習	日本語教育学研究実習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本語コースの評価と改善 ・授業の記述・分析と評価ができる。 ・コース、授業の改善について有効なアイディアを出すことができる。 ・日本語コースのデザインや運営についての気づきとより広い知識を得る。 【授業の概要】 夏期休暇中に運営した日本語コースを材料に、授業活動や授業・コース運営について分析と評価を行う。 ・授業データを利用して、種々の分析法を学びながら、授業を記述・分析することの意義について検討する。 ・授業ビデオを詳細に検討することによって、授業およびコースデザインの評価を行い、改善案を考える。 ・コース全体を振り返り、その問題点を検討し、改善案を考える。	

日本史研究実習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。 【授業の概要】 この講義では、歴史資料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。実物の史料に触れ、その取り扱いの基礎を習得する実践的な内容である。	
日本史研究実習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。 【授業の概要】 実際に史料整理を行う。いくつかの大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。	
考古学研究実習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「考古学の調査と資料分析(1)」 到達目標 発掘の方法と出土資料の整理・分析法を修得し、発掘調査報告書の作成に至るまでの一連のプロセスを学ぶ。また、実際の発掘調査実習を通して、その計画と実践を学習する。 【授業の概要】 出土遺物の整理、資料化と分析、図面・レイアウト製作、写真撮影、そして調査研究報告書の作成に至る一連の作業を通して、考古学の専門的な研究方法を修得する。発掘調査では、測量機器の使用法や図面の作成法を学ぶ。	
考古学研究実習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ「考古学の調査と資料分析(2)」 到達目標 考古学資料の実証的研究法を修得し、研究報告書の作成方法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。 【授業の概要】 発掘調査から、出土遺物の処理、資料整理と分析、図面製作、写真撮影、遺物の資料化、そして調査研究報告書の作成に至る、一連の作業を通して、考古学の高度な研究方法の実践を修得する。	
文化財科学研究実習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：古代遺跡調査の方法と実践 到達目標： (1) 史跡多賀城跡と関連遺跡の基礎的知識を身につける。 (2) 発掘調査の方法を学び、実践する。 (3) 出土遺物の整理法を身につける。 (4) 出土遺物の保存処理や化学分析を実践するための基礎的な知識と技術を身につける。 【授業の概要】 史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査に参加し、実際の発掘調査をおこなうための基礎的知識と、調査方法を学ぶ。また、遺跡から出土した遺物の整理や保存処理、科学的分析法を学び、文化財科学の方法と実践の基礎を学ぶ。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年
文化財科学研究実習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：古代遺跡調査の理論と実践 到達目標： (1) 史跡多賀城跡と関連遺跡の研究における実践的知識と理論を身につける。 (2) 文化財科学の高度な調査と研究をおこなうための基礎知識と方法論を身につける。 【授業の概要】 史跡多賀城跡と関連遺跡の発掘調査に参加しながら、実践的知識と理論について解説し、学生自らが実践する。また、文化財科学の高度な調査と具体的研究について解説し、基礎知識と方法論を学ぶ。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年

スキル科目	研究倫理特論	【授業の到達目標及びテーマ】 研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通り。 1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。 2. 実験・調査参加者や、その他の関与者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。 3. 責任ある仕方で研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。 【授業の概要】 科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献しているが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方で導いたりすることもある。そのため、研究に従事する人々（大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で研究や研究発表を行なう責任を負っている。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければならない。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説する。 (オムニバス方式／全15回) (4442 原塑／4回) イントロダクション、引用の倫理、ピア・レビューと研究の質保証、研究の再現性 (28 戸島貴代志／2回) 人間と技術、科学と倫理 (31 坂井信之／2回) 人を対象とした医学系研究における倫理、心理学実験における倫理 (35 木村邦博／2回) 質問紙調査研究の実践と倫理、研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向 (43 辻本昌弘／2回) フィールドワークにおける倫理の基本原則、フィールドワークにおける倫理の実践的問題 (3 小林隆／1回) 聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 (30 阿部恒之／1回) 著作権・商標・特許等の問題について (32 小泉政利／1回) 研究不正の防止と対応	オムニバス方式
	西洋古典文化特論	【授業の到達目標及びテーマ】 ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古代の世界に馴染む（その知識は、実に様々な場面で役に立つはずである）。言語文化が中心で、思想、諸芸術、歴史の最重要事項を学ぶ。また、ギリシャ・ローマの文化が後代に与えた影響や、日本における西洋古典文化の受容にも若干触れる。 【授業の概要】 ギリシャ語・ラテン語の初歩の初歩、ギリシャ・ローマの（言語）文化（哲学・思想、文学・演劇等諸芸術、歴史）にまつわる基本的事項を学ぶ。受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特にない。講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行なわない参加者には学期末レポートを提出してもらう。参加者の関心を尊重するよう工夫したい。	
	人文社会科学研究	【授業の到達目標及びテーマ】 悲嘆とその対応の一つとしてのグリーフケアについて基礎知識を得る。 【授業の概要】 誰にでも起こりうる普遍的な経験である喪失体験から、なぜ悲嘆が生じ、ケアが必要なのか、どのような苦悩があり、いつまで続き、どのようなケアが適切なのか、グリーフケアに関わる社会的課題と、ケアの実際を考察する。また、ビデオ教材により理解を深める。	
	英語発表技能演習	【授業の到達目標及びテーマ】 英語での学問的な報告・発表の方法について基礎知識を得る。実習で英語での学問的な発表を体験し、英検の学会やシンポジウムで報告できるように育成する。 【授業の概要】 受講者は自分の研究について英語で発表を行う。聞いた先生やほかの受講者から質問や意見をうけ、英語の質疑応答を練習する。ネイティブスピーカーから批判やアドバイスを受け、学問的な英語や英検で発表の仕方のより理解を深める。	
	英語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 大学院レベルの研究論文を英語で書くために必要な実践的作成法を身につける。 【授業の概要】 受講者には自分の興味のあるトピックについての英文エッセイを実際に作成してもらう。作成されたエッセイを使って、単語の選択、文と文との繋がり、段落構成などの論文を書く際に特に注意する点を具体的に教える。また、論文を書き始める前の準備段階と書き終えた後の見直し作業の際に考慮すべき点についても講義する。	
	日本語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高める。 【授業の概要】 専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。 レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。	

	人文統計基礎演習	【授業の到達目標及びテーマ】 人間および社会に対する理解を深め研究・社会貢献を行うための統計学的素養を身につける。 【授業の概要】 学術論文やメディア報道などの事例を検討し、データ収集法・統計分析手法の考え方を学ぶ。特に研究における問いと仮説の立て方、測定の妥当性と信頼性、各種統計量の意味、因果推論、無作為抽出と無作為配分などをめぐる誤解を正すとともに、ビッグデータやベイズ統計など新しい時代の統計学の基礎を身につけることで、「統計でウソをつかない」態度を涵養する。	
	キャリア設計演習	【授業の到達目標及びテーマ】 現代の経済と職業生活に関する基礎的事項を講義と演習を通じて学び、修了後のキャリアを主体的かつ具体的に設計できる実践力を養う。 【授業の概要】 前半では、日本経済および世界経済の仕組みと現状、企業ビジネス全般、公務員職、労働法といったテーマで基礎的な知識を身につける。後半は、各分野のゲストを招いたセミナー形式の授業で個別の業種・職種についての理解を深めつつ、自己分析を経て実際に自らのキャリア構想を描くところまで進む。授業は東北大学キャリア支援センターとの連携のもとで実施する。	
学 術 実 践 活 動	学術発表実習Ⅰ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。	
	学術発表実習Ⅱ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。 なお、学術発表実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
	国際活動実習Ⅰ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したレポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。	
	国際活動実習Ⅱ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したレポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。 なお、国際活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2単位付与する。	
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2単位付与する。 なお、研究・教育実践活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	

論文研究	修士論文研究	【授業の概要】 本授業は、受講生の修士論文研究の進捗を確認し、内容を改善することを目的とする。受講生は教員の指導のもとに、自らの修士論文研究を進行させながら、各教員に対して進捗状況を発表・報告する。各教員はそれぞれの研究テーマおよび専門的知識をもとにしたアドバイスを与えるとともに、受講生と精密な討論を行い、研究の問題点、改善すべき点、新たに追加すべき実験・調査などを洗い出す。それをもとに受講生はみずからの修士論文研究をさらに進捗させる。 各教員の研究テーマは以下のとおり。 (1 高橋 章則) 文芸社会史。日本近世思想史。文化交流史。 (9 田中 重人) 社会調査法。現代日本人のライフコースの計量的研究。 (10 クレイグ クリストファー) 日本近代史。宮城県史。農業・農村史。 (11 片岡 龍) 近世儒学思想。朝鮮儒学と日本。東アジアの実学。 (2 齋藤 倫明) 現代語の語彙論（特に現代語の語構成論）。 (3 小林 隆) 日本語方言学。文献・方言総合的方法による日本語史。 (4 大木 一夫) 日本語文法史・日本語文法論。 (12 甲田 直美) 現代語の文法論。特に談話・テキスト論。 (13 小河原 義朗) 日本語教育方法論、音声言語コミュニケーション、言語習得、教師教育。 (5 佐倉 由泰) 中世文学。軍記物語。中世文化を支えた表現と知の系脈。 (14 横溝 博) 平安文学。物語と日記。古注釈の展開。 (6 柳原 敏昭) 日本中世史。国家周縁部の比較研究。史学史。 (7 安達 宏昭) 日本近現代史。日本・アジア関係史。昭和政治経済史。 (15 堀 裕) 日本古代史。国家・天皇・宗教の研究。 (16 籠橋 俊光) 日本近世史。藩領における地域社会史研究。 (8 阿子島 香) 比較文化的な先史考古学。 (17 鹿又 喜隆) 日本考古学。	
------	--------	---	--

(用紙 日本工業規格A4縦型)

授 業 科 目 の 概 要			
(文学研究科広域文化学専攻 博士課程前期 2 年の課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	日本学総合科目Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本学の方法と資料 (1) 日本学研究の視座を多面的・総合的に説明できる。 (2) 日本学研究の資料・原典についての概略を説明できる。 【授業の概要】 日本学の方法を多面的・総合的にとらえ、日本学研究の視座をもつ。まず、日本学諸分野からの方法の提示がおこなわれる。そして、それをもとにして、日本学の研究資料を総覧する。日本学諸分野からの多面的・総合的な提示によって、日本学研究の対象・資料の概要をつかむ。研究資料についての提示にあたっては、附属図書館等に所蔵される原典もとりあげる。 (オムニバス方式／全15回) (28 高橋章則／2回) 日本学の過去・現在・未来 (47 クレイグ クリストファー ロビン ジェイミー／1回) 海外の日本学事情 (48 片岡龍／2回) 日本思想史学の方法、日本思想史学の原典 (49 甲田直美／1回) 日本語学の方法、日本思想史学の原典 (31 大木一夫／1回) 日本語学の原典 (50 小河原義朗／2回) 日本語教育学の方法、日本語教育学の資料 (32 佐倉由泰／1回) 日本文学の方法 (51 横溝博／1回) 日本文学の原典 (34 安達宏昭／1回) 日本史学の方法 (53 籠橋俊光／1回) 日本史学の原典 (35 阿子島香／1回) 考古学の方法 (54 鹿又喜隆／1回) 考古学の資料	オムニバス方式
	日本学総合科目Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本学の古典／原典を読む。 (1) 日本学研究の古典／原典の性格を説明できる。 (2) 日本学研究の古典／原典を精確に読み、その内容について議論できる。 【授業の概要】 日本学に関する古典的な文献（著作・論文）・日本学の研究資料となる原典を丁寧に読む。日本学の古典の理解、原典の多面的な読解を通じて、日本学研究のテキストから多様な観点を引き出し、日本学研究の基盤とすると同時に、日本学の考え方・方法を身につける。	
	広域文化学総合科目Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 広域文化学の基礎的な知識と視点を身につけ、学際的視点から文化をめぐる諸問題を考えることが出来る。 【授業の概要】 広域文化学では、自他の文化、歴史、言語、宗教のいかなる側面に注目し、それをいかなる視点から分析考察していくのか。本授業では広域文化学研究のために不可欠な基礎的知識と技法を分野横断的に学ぶとともに、それらを通して他者・異文化への共感力と適応力を涵養することを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (2 木村敏明／3回) 広域文化研究法の基礎 (1 沼崎一郎／1回) フィールドワーク研究法 (16 山田仁史／1回) 宗教民俗調査研究法 (17 谷山洋三／1回) アクションリサーチ研究法 (3 桜井宗信／1回) 文献学研究法 (4 三浦秀一／1回) アジア思想研究法 (19 土屋育子／1回) アジア文学研究法 (5 川合安 一／1回) アジア史研究法 (6 大河内昌／1回) 現代文学研究法 (8 島越郎／1回) 文法学研究法 (9 森本浩一／1回) メディア論研究法 (13 今井勉／1回) 現代詩研究法 (14 有光秀行／1回) 歴史史料研究法	オムニバス方式

	広域文化学総合科目Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 多文化共生をめぐる諸問題について広域文化学的視点から答えることができる。 【授業の概要】 本講義では共生文化を扱ったテキストを数冊とりあげ、その読解、発表、討論を通し広域的な多文化共生をめぐる諸問題について考える。グローバル化の進展する現代社会の各所で多文化共生は大きな課題となっている。広域文化学の研究はこのような課題にいかにかえることができるのか、本講義を通して考察していく。 (オムニバス方式／全15回) (2 木村敏明／5回) 域際文化学分野の視点から共生社会を扱った関連文献の読解と討論を通して現代社会における共生社会の問題について理解を深める。 (18 齋藤智寛／5回) 東洋文化学分野の視点から共生社会を扱った関連文献の読解と討論を通して現代社会における共生社会の問題について理解を深める。 (13 今井勉／5回) 西洋文化学分野の視点から共生社会を扱った関連文献の読解と討論を通して現代社会における共生社会の問題について理解を深める。	オムニバス方式
	総合人間学総合科目Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 人間の感情をめぐる総合人間学専攻の多様な学問的アプローチを学び、人間の感情について多角的に考察できるようになる。 【授業の概要】 総合人間学専攻では、人間と社会に関する抽象的・原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合することで、合理的で柔軟な思考力によって現実社会の課題を理解・解決することができる人材を育成することを目標としている。この科目は、この目標に向けて、人間の「感情」という共通テーマについて、総合人間学専攻の哲学倫理学講座、芸術人間学講座、社会人間学講座、心理言語人間学講座のさまざまな学問的観点から、学際的かつ総合的に考察するオムニバス講義である。 (オムニバス方式／全15回) (55 荻原理／5回) (哲学倫理学) イントロ・感情の哲学倫理学的考察 (37 長岡龍作／3回) (芸術人間学) 美術と感情 (43 木村邦博／2回) (社会人間学) 集団間関係と感情の計量行動科学／社会イメージと感情の計量行動科学 (42 小松丈晃／2回) (社会人間学) 感情の社会学 (38 阿部恒之／1回) (心理言語人間学) 感情研究史 (58 木山幸子／1回) (心理言語人間学) 言語が伝える感情 (39 坂井信之／1回) (心理言語人間学) 感情の脳科学	オムニバス方式
	総合人間学総合科目Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 研究発表と討議。総合人間学専攻のさまざまな学問分野に触れ、さまざまな観点からの質疑応答・討議を通じて、学際的な研究姿勢を養う。 【授業の概要】 総合人間学専攻では、社会と人間に関する抽象的かつ原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合して学ぶことが求められる。この演習科目では、総合人間学専攻の履修者が、各自の修士課程（前期課程）における研究課題などを他の講座（専攻分野）の教員・学生の前で発表し、さまざまな学問的観点からの質疑応答・討論をすることを通じて、社会と人間についての学際的かつ総合的な研究姿勢を培うことを目指す。 (56 原塑) おもに哲学倫理学分野の指導を担当する。 (37 長岡龍作) おもに芸術人間学分野の指導を担当する。 (41 永井彰) おもに社会人間学分野の指導を担当する。 (38 阿部恒之) おもに心理言語人間学分野の指導を担当する。	共同
特論	文化人類学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 台湾社会の民族誌的研究について、特に政治、経済、エスニシティと社会階層の主題から理解を深める。台湾社会の多様性と歴史的変化の複雑さを理解し、その背景となった東アジアと世界の歴史状況・政治状況を把握する。 【授業の概要】 台湾社会を対象とした文化人類学的研究の成果と今後の展望について、国家と社会の関係に焦点を合わせ、17世紀のオランダ植民地時代から21世紀までの政治経済構造と社会構造の変化を扱う。	隔年
	文化人類学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 中国社会の民族誌的研究について、特に親族・宗教・移動の主題から理解を深める。広大な中国の様々な地方差、マジョリティである漢族とマイノリティである少数民族との交渉と衝突、近年の急速な経済発展とグローバル化が中国社会に与える影響についても理解を深める。 【授業の概要】 中国社会を対象とした文化人類学的研究の成果と今後の展望について、親族組織の活動、「宗教」と信仰の復興、国内外への/からの移動/帰郷と「故郷」の創出を中心に扱う。	隔年

文化人類学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 香港社会の民族誌的研究について、特に政治、経済、親族と社会階層の主題から理解を深める。イギリス植民統治時代から返還後の特別行政区時代にかけて香港社会がどのように変容しているか、また様々な移民や難民の流入による香港社会の多民族化と多文化化の様相についても理解を深める。 【授業の概要】 香港社会を対象とした文化人類学的研究の成果と今後の展望について、国家と社会の關係に焦点を合わせ、アヘン戦争後のイギリス統治時代から21世紀までの政治経済構造と社会構造の変化を扱う。	隔年
文化人類学特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本社会の民族誌的研究について、特に移動・地域・食という主題から理解を深める。同質性が高い単一民族社会と思われがちな日本社会に見られる様々な地域差や階層差、定住外国人の増加に伴う日本社会の多文化化についても理解を深める。 【授業の概要】 日本社会を対象とした文化人類学的研究の成果と今後の展望について、地域とエスニシティ、移動と多文化社会、日本/外国料理の創出と変容を中心に扱う。	隔年
宗教学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 目標：宗教学的なものの見方を応用して問題の考察ができる。現代社会における宗教の意義や課題について高度な宗教学的知見をもとに議論することができる。 テーマ：自然災害と宗教 【授業の概要】 突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、儀礼的实践を概観しつつ、現代社会における宗教の意義や課題について論じるとともに、高度な宗教学的知見をもとに議論を行う。	
宗教学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 世界には地理的にも時代的にも、現代日本とは異なる文化が多く存在する。自らと馴染みのない習俗を知り、それらを拒絶することなく、意義について客観的に考える態度を養う。 【授業の概要】 宗教においてはしばしば、食と性にかんするタブーが課される。肉食妻帯を禁じた日本仏教はその一例である。性と食はなぜ（どこまで）パラレルなのか。この問題に取り組むため、本講義では主として性にかかわる習俗をとりあげ、語ってゆく。	
宗教学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 目標：現代社会における宗教の諸問題について、宗教学的視点から専門的な議論を行うことができる。 テーマ：現代社会における宗教 【授業の概要】 現代社会の直面する様々な課題と宗教とはどのように関わっているのか。本講義では現代社会における宗教の諸相をとりあげながら、宗教学、宗教社会学、宗教民俗学、宗教人類学などの視点から宗教が人間社会にとってもつ意義について考察をおこなう。	
死生学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、宗教が人間心理に及ぼす影響を理解する。 【授業の概要】 W・ジェイムズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な心理学者たちの議論を踏まえて、トランスパーソナル心理学などへの展開も視野に収める。また、キリスト教世界における回心体験やエクソシズム、吉本内観など日本の宗教的心理療法の事例をとりあげながら、宗教の持つ意味を人間心理の側面から考える。	
死生学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 スピリチュアリティと宗教という視点から、人間の生と死について理解を深める。 【授業の概要】 世界保健機関における健康定義の議論や、鈴木大拙、C・G・ユング、キューブラ＝ロスなどを参考に、医学や心理学の領域で蓄積されてきた死生観とスピリチュアリティについての多様な見解を紹介しながら考察する。具体的な事象への応用としては、お迎え現象、臨死体験、修行の心理などの他、遠藤周作やル＝グウィンなどの文学作品を取り上げて検討する。	
死生学特論Ⅲ	死生学特論Ⅲ 【授業の到達目標及びテーマ】 死生学の基本概念を学び、現代生活における生と死の問題について理解を深める。 【授業の概要】 なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援活動、自死遺族のケア、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。	

実践宗教学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法を理解する。 【授業の概要】 窪寺俊之、村田久行、山崎章郎、伊藤高章などの理論に触れつつ、国内でのスピリチュアルケア理解とその多様性とその課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。	
実践宗教学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 臨床宗教師が提供する宗教的ケアについて、その理念と方法を理解する。 【授業の概要】 臨床宗教師のモデルである欧米のチャプレン制度とその源泉となる思想を概観し、軍隊、刑務所、学校、病院などでの実践とその意義を考察する。国内での臨床宗教師の活動、寺社教会での宗教的資源を活用したケアの可能性も検討する。また、体験的ワークによりケア実態の理解を深める。	
インド学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。ヴェーダ祭式の基本的伝承スタイルに触れ、ヴェーダの宗教及び祭式文献に関する知識を得るとともに、サンスクリット語の文法・語彙についても更なる理解の深化を目指す。 【授業の概要】 ヴェーダのシュラウタ祭式の中、「イシュティ（穀物祭）」と呼ばれるカテゴリーの基本形である新月満月祭を取り上げる。準備日の晩に行われる搾乳と酸乳（dadhi）製造のマントラとブラーフマナを中心に、読解演習を行う。ヤジュルヴェーダ諸学派のサンヒター及びブラーフマナを用いる。	
インド学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 インド最古の文献『リグヴェーダ』の原典を文法的、語源的に一語一語分析する訓練を通じて、古インドアーリヤ語（サンスクリット）歴史文法の基礎を身につける。また基本図書、関連図書の使い方を身につける。 【授業の概要】 『リグヴェーダ』を中心とするヴェーダ文献を講読し、文献学的訓練を行う。今学期はヴァルナ讃歌を講読する。音韻、形態、シンタックス、意味、語源などの点から語形を分析し、原典の読解に取り組む。	隔年
インド仏教史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 チベット仏教界を代表する宗派の1つサキヤ派の第三代貫首を務めたGrags pa rgyal mtshanが著した『タントラ現観（rGyud kyi mñon par rtogs pa）』の原典講読を行い、顕密両面を扱ったチベット蔵外文献に実際に触れる機会を通じて、インド・チベット仏教思想の基本構造及びチベット密教教理の重要点に関する理解を深めると共に、併せてチベット語仏教文献の読解能力を深めること。 本授業ではGrags pa rgyal mtshan著『タントラ現観（rGyud kyi mñon par rtogs pa）』の第1～70偈の講読を行う。	
インド仏教史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 チベット仏教界を代表する宗派の1つサキヤ派の第三代貫首を務めたGrags pa rgyal mtshanが著した『タントラ現観（rGyud kyi mñon par rtogs pa）』の原典講読を行い、顕密両面を扱ったチベット蔵外文献に実際に触れる機会を通じて、インド・チベット仏教思想の基本構造及びチベット密教教理の重要点に関する理解を深めると共に、併せてチベット語仏教文献の読解能力を深めること。 本授業ではGrags pa rgyal mtshan著『タントラ現観（rGyud kyi mñon par rtogs pa）』の第71～138偈の講読を行う。	
インド学仏教史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ジュニャーナバーダ流曼荼羅儀軌の中心典籍として著名であり、インド・チベット密教儀礼研究において重要な位置を占めている『四百五十頌』を取り上げ、その梵蔵テキストを対照しながら読み進めることによって、インド密教儀礼文献の文献学的操作、考察に関する基礎的なスキルと知識とを深化させること。 【授業の概要】 Dipamkarabhadra著『四百五十頌』を梵蔵対照により講読する。	隔年
東洋文化学特論Ⅰ	【授業の概要】 東洋文化の中核をなす伝統中国の語学文学、思想、歴史に関する専門教員による講義、および各種原典史料等の読解を中心とした実習によって、東洋文化の特質を総合的かつ実践的に学習する。 （オムニバス方式／全15回） （4 三浦秀一/3回）ガイダンスおよび中国近世思想史関連文献の読解と討論 （5 川合安/2回）中国古代中世史関連文献の読解と討論 （18 齋藤智寛/2回）中国古代中世思想史関連文献の読解と討論 （19 土屋育子/3回）中国（近世）目録学史および中国近世文学史関連文献の読解と討論 （22 大野晃嗣/2回）中国近世史関連文献の読解と討論 （20 矢田尚子・5 川合安/1回）中国（古代中世）目録学史 （20 矢田尚子・5 川合安・18 齋藤智寛/1回）中国古代中世の諸問題に関する討論 （4 三浦秀一・19 土屋育子・22 大野晃嗣/1回）中国近世の諸問題に関する討論	オムニバス方式・共同（一部）

東洋文化学特論Ⅱ	【授業の概要】 東洋文化の拡がりを知る上で必須の近代中国および日本に関する語学文学、思想、歴史に関する専門教員による講義、および各種原典史料等の読解を中心とした実習によって、東洋文化の特質を総合的かつ実践的に学習する。 (オムニバス方式／全15回) (4 三浦秀一/4回) 中国近代思想史および江戸漢学関連文献の読解と討論 (5 川合安/2回) 東アジア史関連文献の読解と討論 (19 土屋育子/2回) 中国近代文学史関連文献の読解と討論 (22 大野晃嗣/2回) 中国近代史関連文献の読解と討論 (4 三浦秀一・19 土屋育子・22 大野晃嗣/1回) 中国近代の諸問題に関する討論 (20 矢田尚子・18 齋藤智寛/2回) 東アジア文化交流史の諸問題に関する討論 (20 矢田尚子・ 5 川合安・18 齋藤智寛・ 4 三浦秀一/1回) 東アジアの諸問題に関する討論 (20 矢田尚子・ 5 川合安・18 齋藤智寛・ 4 三浦秀一・19 土屋育子・22 大野晃嗣/1回) 東洋文化の特質に関する討論	オムニバス方式・共同 (一部)
中国語学中国文学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 論文執筆のための学習方法、モデル論文の読み方、問題設定、論文の構成の立て方、論証の方法などについて理解する。本授業を通して、自身の論文執筆に役立てるようにする。 【授業の概要】 最初の3回は講義を行い、論文執筆までの準備や論文執筆の方法などを講じる。その後は、受講生が自身の研究に関連するモデル論文を読み、内容をまとめた資料をもとに発表し、出席者とともに質疑応答を行う。	
中国語学中国文学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 中国の伝統演劇に関して、主要な作品、作者、作品の構造、特徴などについて、知識を広げる。 特に、雑劇の名作を読み解きながら、中国における伝統演劇についての理解を深める。 【授業の概要】 中国の伝統演劇で、中国の現存最古の脚本が残る雑劇を取り上げる。原本の複写資料を使い、実際に作品を読み解きながら、中国の伝統演劇がいかに発展してきたかについて、歴史的社会的背景を考慮しつつ学ぶ。	
中国語学中国文学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 授業を通して、受講者が中国の小説と戯曲の関係について深く理解する。また、出版史という観点から、歴史的、社会的な要因を含めた小説・戯曲史について考察し、自分の言葉でまとめられるようにする。 【授業の概要】 中国における小説と戯曲の関係を、作品に即して理解する。特に近世以降の中国における小説・戯曲の特徴について、時代による変化・相違点を指摘しつつ、原典資料を読解しながら学ぶ。	
中国思想特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 中国中世仏教思想について、「在家」仏教に着目して考察する。士大夫階層のみならず、私度僧や、道教徒とも仏教徒ともつかない半僧半俗の宗教者など、中国仏教独自の実践者たちと、その思想や菩薩戒思想や禅思想など中国仏教を特徴づける思想や実践の形成に果たした役割を解説する。国語科において漢文学を指導するにあたり、その背景として中国思想についての専門的で高度な理解を得るのが到達目標である。 【授業の概要】 毎回のトピックについて、論拠となる原文をまとめたプリントを配布し、担当教員がそれを丁寧に読みながら思想内容、思想史的問題、現在の研究状況について解説する。	
中国思想特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：明代老荘学史。道家思想は、儒家思想や仏教思想とともに中国人の精神の中核を占めるものであり、本授業は、道家思想の本流である老荘学の明代的展開を原資料にもとづきながら解き明かし、あわせてそうした史的展開と当時の学術、思想、出版文化との関連性に推察を加える。学生が、明代老荘学の歴史に通暁し、その概略を体系的に説明できるようになることを到達目標として設定する。 【授業の概要】 『老子道德経』や『莊子南華真経』に対する注釈の歴史は魏晉以前に溯るのだが、唐代や宋代においても時代思潮を反映した注釈書が編纂された。明代の老荘学は、前代の注釈を踏襲しつつも、それを乗り越えて新たな解釈を提示した点に特徴があり、そうした現象が生起した事由としては、明代後半における陽明学の流行や出版文化の成熟が考えられる。本講義は、かかる思想史的ないし文化史的背景を有する明代老荘学について、個別の注釈書に対する分析と、注釈相互の比較検討とをおこなうことにより、明代思想史の一角を占める老荘学の位置づけを考えてゆく。	

中国思想特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：明代科挙関連思想文献研究。中国の科挙制度が、たんに官吏登用制度としてのみならず、士大夫社会の動向に多大な影響を及ぼした政治的システムとして機能したことは言うまでもない。この授業は、学生が、明代の科挙制度と思想的展開との密接な関連性について理解するとともに、近世中国の散文を読解するうえで当該の知識を活用できるようになることを到達目標として設定する。 【授業の概要】 明王朝の科挙制度は、基本的に前の王朝であるモンゴル朝のそれを受け継ぐものであり、試験の標準となるテキストも同様、朱子学の経書に依拠した。この精神を体现するのが永楽帝勅撰の四書大全、五経それぞれの大全、および性理大全書のいわゆる三大全であり、明朝の受験生はこれらの書物を学習する過程において、地方官学の学生となり、また科挙の地方試験および中央での試験を受験した。本講義では、三大全に依拠した試験の模範答案や試験を実施する体制、双方の史的変遷を追跡し、その変化のなかに思想史的な意味を見出してゆく。	
東洋古代中世史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 中国の六朝時代（魏晋南北朝時代、220～589）の政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。 【授業の概要】 秦漢古代帝国崩壊後、政治的にも社会的にも混乱の渦中にあった六朝時代における秩序再建のための模索、その模索の産物である「貴族制」と呼ばれる政治・社会体制の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせる。	
東洋古代中世史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 中国の隋唐時代（589～907）の政治史の諸問題について、その概略を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。 【授業の概要】 隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史を、隋から唐末まで通史的に概観しながら、隋代、唐の太宗の貞観時代などそれぞれの時期において特に重要な問題について考察し、理解を深める。	
東洋古代中世史特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 パミール高原以東の東部ユーラシアにおける中国北朝時代（439～581）の墓誌の形式や記載内容の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。 【授業の概要】 中国北朝時代の墓誌と、中国南朝、さらには同時期の日本、朝鮮、トゥルファンなど東部ユーラシア各地の墓誌の形式や記載内容とを比較検討し、北朝時代の墓誌の形式や記載内容の特質について考察する。	
東洋近世史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 現在の東アジアにおける国際関係を教える上で、近世中国の政治・社会体制の理念と特質を理解することは必要不可欠である。本講義はそれを企図すると同時に、更に興味を持った論点について、自分で調査し論じることができる能力を養うことを狙う。 【授業の概要】 近世中国王朝の一つである明朝（1368～1644）の歴史及びその官僚制度・人事制度・科挙制度について、原典史料や英語による研究書なども読みつつ、講義を行う。	
東洋近世史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 現在の東アジアにおける国際関係を教える上で、近世中国の政治・社会体制の理念と特質を理解することは必要不可欠である。本講義はそれを企図すると同時に、更に興味を持った論点について、自分で調査し論じることができる能力を養うことを狙う。 【授業の概要】 近世中国王朝の一つである清朝（1616～1912）の歴史及びその官僚制度・人事制度・科挙制度について、原典史料や英語による研究書なども読みつつ、講義を行う。	
東洋近世史特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 現在の東アジアにおける国際関係を教える上で、近世中国の政治・社会体制の理念と特質を理解することは必要不可欠である。本講義はそれを企図すると同時に、更に興味を持った論点について、自分で調査し論じることができる能力を養うことを狙う。 【授業の概要】 近世中国王朝を特徴付ける科挙制度について、その世界史上の意義、制度の詳細、文学に現れた科挙といった諸点から、更には現代の教育システムが抱える問題などにも触れつつ講義を行う。	

西洋文化学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語について研究する上での基礎的な知識・観点を広く学び、自らの専門研究の対象を、より広い視野のもとで捉え、その文化的意味を適切に評価できる教養を身につける。 【授業の概要】 「悲劇」「レトリック」「宗教改革」「構造言語学」など各分野の中核的な事象・概念のうち、自らの専門「以外」のテーマを選んで簡単な報告を行い、当該分野を専門とする学生を含む他の参加者との討議を通じて、異なる分野の視点や方法論に親しむ。教員はアクティヴな議論を誘導するとともに、俯瞰的視点からの講義を行い、「ヨーロッパ的なもの」の様々な側面に学生が関心を向けるよう指導する。	
西洋文化学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語について研究する上での多様な知識・観点到に接し、自らの専門研究の対象を、より広い視野のもとで捉え、その文化的意味を適切に評価できる教養を身につける。 【授業の概要】 授業の目標はⅠと同様であるが、Ⅱにおいて学生は、自らが関心を抱く専門的テーマについて報告する。その際、専門外の学生も十分理解できるよう、基礎的事項や問題の文脈を踏まえた丁寧な説明を心がけることで、自らの研究内容について効果的に「語る」訓練も行う。教師は補助的な解説によって発表と討議をサポートするとともに、概説的講義を通じて当該テーマ周辺の諸問題を学生が幅広く理解できるよう指導する。	
英文学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 英語で書かれた批評理論のテキスト読解を通して (1) 批評理論に関する知識を身につける。 (2) 論理的な思考力を身につける。 (3) 批評的な英語の読解能力を身につける。 【授業の概要】 精神分析の基本概念を理解することを目標とする。フロイトやラカンの精神分析の理論や用語は、ポスト構造主義やマルクス主義批評の中でも援用されており、精神分析理論の基本的な理論や用語を理解することは、さまざまな文学理論を理解するうえで必須となる。この授業では、フロイトとラカンの理論を説明した学生向けの入門書を読解してゆく。 授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションを行う。	隔年
英文学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 アレクサンダー・ポープ (Alexander Pope) の作品読解を通して (1) 18世紀イギリス詩を読解する英語力を養う。 (2) 文学史とジャンルの知識を身につける。 (3) 詩を分析する批評的視点を身につける。 【授業の概要】 18世紀のイギリスでは、ギリシャ・ラテン文学に範を仰いだ「新古典主義文学」が流行した。この授業ではイギリスの新古典主義を代表する詩人ポープの代表作 The Rape of the Lock と An Essay on Man を読解してゆく。前者は些細なテーマに叙事詩の約束事を当てはめた滑稽な疑似英雄詩であり、後者は人間に関する警句を散りばめた韻文によるエッセイである。これらの詩の読解を通して、古典主義文学の特徴を理解する。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションを行う。	隔年
英文学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 批評理論のテキストの読解を通して、 (1) 批評理論に関する知識を身につける。 (2) 論理的な思考力を身につける。 (3) 批評的な英語の読解能力を身につける。 【授業の概要】 ポスト構造主義とそれ以降の批評理論の展開においてフランスの思想家ミシェル・フーコーは大きな影響力を持っていた。この授業ではフーコーの「言説」と「権力」の理論を中心に彼の思想の展開を追う。また、フーコーの理論を植民地支配と帝国主義の問題に援用したエドワード・サイードの批評的な業績について学ぶ。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションを行う。	隔年
英文学特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 ダニエル・デフォー (Daniel Defoe) の『ロビンソン・クルーソー』 (Robinson Crusoe) の読解を通して (1) イギリス小説を読解する英語力を養う。 (2) 文学史とジャンルの知識を身につける。 (3) 小説を分析する批評的視点を身につける。 【授業の概要】 18世紀イギリスの小説家デフォーの代表的な小説『ロビンソン・クルーソー』を英語で読解してゆく。近代小説の元祖とされるこの作品には、小説の特徴としてのリアリズムの問題や、階級社会の問題、植民地支配の問題など、西洋近代の問題がすではっきりと見ることができる。読解作業を通して、近代小説のテーマ、構造、語りの問題を議論してゆく。同時に、現代批評における小説の分析方法についても学ぶ。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションを行う。	隔年

英語文化論特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ジェーン・オースティン(Jane Austen)の小説の読解を通して、 (1)小説の英語を読解する力を身につける。 (2)小説を分析する思考法を身につける。 (3)文化史・文学史の知識を身につける。 【授業の概要】 オースティンの小説には18世紀末～19世紀初頭のイギリスの社会や家庭が生々しく描かれている。本講義ではオースティンの『高慢と偏見』(Pride and Prejudice)を題材に、彼女の小説に何が描かれているかを、歴史的・社会的な視点も含めて学生とディスカッションしながら分析してゆく。	隔年
英語文化論特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 イギリスロマン主義の詩人ウィリアム・ワーズワス(William Wordsworth)の作品読解を通して (1)イギリス詩を読解する英語力を養う。 (2)文学史とジャンルの知識を身につける。 (3)詩を分析する方法論を身につけることを目標とする。 【授業の概要】 ワーズワスの代表的な詩を精読する作業を行う。読解作業をとおして、ロマン主義特有のテーマ、シンボリズム、イメージなどを学ぶ。同時に、現代批評におけるロマン主義のとらえ方についても学ぶ。授業では学生に詩の解釈を発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションを行う。	隔年
英文学・英語学論文作成法特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 学術英語の作文訓練を行う。 (1)基本的な英作文能力を養う。 (2)学術英語独特の表現を学ぶ。 (3)資料の調査・収集法を身につける。 【授業の概要】 この授業は学術的な英語作文能力を身につけることを目標とする。学生はあらかじめ与えられた課題について英作文をする。授業では、それについて学生と討論を行いながら、学術英語独特の表現を学ぶ。また、論理的な英語を構築するためのコツについて、毎回説明してゆく。	隔年
英文学・英語学論文作成法特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 学術英語の作文訓練を行う。 (1)応用的な英作文能力を養う。 (2)学術英語独特の表現を学ぶ。 (3)資料の調査・収集法を身につける。 【授業の概要】 この授業は高度な学術的な英語作文能力を身につけることを目標とする。論理的・文法的に正確なだけでなく、説得力のあるレトリックについても学ぶ。学生はあらかじめ与えられた課題について英作文をする。授業では、それについて学生と討論を行いながら、学術英語独特の表現を学ぶ。また、論理的な英語を構築するためのコツについて、毎回説明してゆく。	隔年
英文学・英語学論文作成法特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 学術英語の作文訓練を行う。 (1)高度な英作文能力を養う。 (2)学術英語独特の表現を学ぶ。 (3)比較的長い英語論文を組み立てる技術を学ぶ。 【授業の概要】 この授業は比較的長い学術的論文を作成する能力を身につけることを目標とする。主題の選び方から、議論の展開の仕方、効果的な提示法を学び、レトリック表現を応用的に用いる仕方についても学ぶ。学生はあらかじめ与えられた課題について英作文をする。授業では、それについて学生と討論を行いながら、学術英語独特の表現を身につける。また、論理的な英語を構築するためのコツについて、毎回説明してゆく。	隔年
英文学・英語学論文作成法特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 学術英語の作文訓練を行う。 (1)本格的な英語論文の作成力を養う。 (2)資料の調査・収集法を身につける。 (3)学術論文の書式に慣れる。 【授業の概要】 この授業は比較的長い英語学術論文を作成する能力を身につけることを目標とする。学術論文では決まった書式を守ることが重要である。この授業では作文演習をすると同時に、英語論文の代表的な書式であるMLAとChicago Manualの書式について学ぶ。学生はあらかじめ与えられた課題について英作文をする。授業では、それについて学生と討論を行いながら、学術英語独特の表現を学ぶ。また、論理的な英語を構築するためのコツについて、毎回説明してゆく。	隔年
英語学基礎特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と意味論における基礎的思考法を身につけることを目標とする。 【授業の概要】 生成文法における統語論と意味論のインターフェースに関する重要な研究書を批判的に検討し、言語理論の基礎的概念を学ぶ。自動詞と他動詞の用法に見られる外項の具現化を論じた Alexiadou, Anagnostopoulou, and Schafer (2015) <i>External Arguments in Transitivity Alternations</i> (Oxford University Press) を精読し、意味役割を担う項の統語構造への具現化に関する問題を考察する。	隔年

英語学基礎特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と意味論における基礎的思考法を身につけることを目標とする。 【授業の概要】 生成文法における統語論と意味論のインターフェースに関する重要な研究書を批判的に検討し、言語理論の基礎的概念を学ぶ。ある概念がどのような語彙項目として統語構造のどの位置に具現化するのか論じた Tanya Reinhart (2016) Concepts, Syntax, and Their Interface (The MIT Press)を精読し、非対格、意味役割、削除に関する問題を考察する。	隔年
英語学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と意味論のインターフェース、または、統語論と音韻論のインターフェースに関する主要な理論的・記述的問題を考察し、解決案を探ることを目指す。 【授業の概要】 生成文法における統語論、意味論、音韻論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。一般量化詞(Generalized Quantifiers)に関するこれまでの基本的な考え方とその問題点を解説した Anna Szabolcsi による Quantification (Cambridge University Press)を精読した上で、解決案を議論する。	隔年
英語学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と音韻論のインターフェースに関わる具体的研究を取り上げ、実証的側面及び理論的側面から批判的に検討し、その成果を今後の研究に生かすことを目標とする。 【授業の概要】 この授業では、統語論と音韻論のインターフェースの問題を扱った研究書である Norvin Richards (2016) Contiguity Theory (MIT Press)の後半部分の批判的検討を通して、狭義の言語計算(統語論)と外在化(externalization)(音韻論)が、具体的言語現象にそれぞれどのような帰結をもたらすのかを考察する。授業はテキストに基づく導入的講義と、それに対する学生の発表、および参加者全員によるディスカッションにより構成される。	隔年
英語学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と意味論のインターフェース、または、統語論と音韻論のインターフェースに関する主要な理論的・記述的問題を考察し、解決案を探ることを目指す。 【授業の概要】 生成文法における統語論、意味論、音韻論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。一般量化詞(Generalized Quantifiers)に関するこれまでの基本的な考え方とその問題点を解説した Anna Szabolcsi による Quantification (Cambridge University Press)を精読した上で、解決案を議論する。	隔年
英語学特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と音韻論および形態論のインターフェースに関わる具体的研究を取り上げて、批判的考察を通して、今後の研究に生かすことを目標とする。 【授業の概要】 この授業では、Michelle Sheehan et al. The Final-Over-Final Condition (MIT Press)の後半部分に基づいて、統語論と音韻論、およびそれらの接触領域となる形態論のインターフェースの問題に焦点をあて、これらの部門における言語操作に見られる共通点と相違点を考察し、いわゆる第三要因(third factor)の反映としての言語特性の問題を考察する。授業はテキストに基づく導入的講義と、それに対する学生の発表、および参加者全員によるディスカッションにより構成される。	隔年
ドイツ文学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。 【授業の概要】 現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは12世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかにゲルマン的英雄伝説と年代記の合流による英雄叙事詩の誕生も加えて、中世ドイツ文学の流れを社会の変動も踏まえながら考察したい。	

ドイツ文学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング（1729-81）の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。それと同時に、この転形期の作品から、いかに「今、ここ」の我々自身を読み取ればよいのか考える。 【授業の概要】 「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえて、十八世紀ドイツを代表するレッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』（1767）を前年度にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか見極める。 十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』（1772）を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』（1773）、J. M. R. レンツの喜劇『家庭教師』（1774）や喜劇『軍人たち』（1776）等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置きながら、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞一言一句を味わい、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。	
ドイツ文化学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 中世ドイツ文学の講読を通して中高ドイツ語の読解力を高め、中世ヨーロッパ文化の知識を深める。 【授業の概要】 中世ドイツの叙事詩『ニーベルンゲンの歌』は1200年頃に成立した。当時の言語は中期高地ドイツ語（Mittelhochdeutsch）であり、現代ドイツ語とは様々な点で異なる。しかし、音韻変化の法則を用いれば、多くの語は現代ドイツ語と対応関係を持つ。原文の講読においてはまず、そのような現代ドイツ語との対等関係を明らかにする。語順などにおいては、現代語と一致する場合としない場合があるので、その細かな類似と差異にも言及する。内容理解においては、当時の社会情勢や宮廷騎士文化の知識が必須であり、また、北欧神話の『エッダ』に現れる類似の挿話との関係もあわせて考察したい。	
ドイツ文化学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 学生は、発表・討論・講義が組み合わされたアクティブな授業を通じて、文化的対象、特にこの場合は文学や映画などの「作品」を研究しそれについて論述するために必要な知識と技能を身につける。 【授業の概要】 まず講義を通じて、文化的「作品」をそのジャンルとメディアの観点から分析し解釈するための基本的な方法論を学習した後、学生は、個々に関心を抱く「作品」（例えばドイツ語圏の小説）を取り上げて自ら論述を試み、他の参加者との討議を通じて、分析・解釈のスキル・アップをはかる。教師は、観点や分析方法の適切性についてコメントし、学生の個性を活かす形でその論述能力が向上するよう指導する。	
フランス文学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 フランス文学批評史を把握する。具体的には第三共和政期の文学批評の変遷を把握する。 【授業の概要】 アントワヌ・コンパニオン著『文学の第三共和政』および『ブリュヌチエール論』を読む。具体的には、ギュスターヴ・ランソン論として、文学と歴史、講壇文学史、ドレフェス事件、修辞学、ベギーとアクション・フランセーズ、ランソン主義、テーヌの知的独裁といったテーマ群を検討し、フェルディナン・ブリュヌチエール論として、文人批評、サロン批評、アメリカの印象、論争、フランス祖国同盟、カトリック、反ユダヤ主義といったテーマ群を検討する。	
フランス文学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 フランス文学批評史を把握する。具体的には第三共和政期の文学批評の変遷を把握する。 【授業の概要】 アントワヌ・コンパニオン著『文学の第三共和政』および『ブリュヌチエール論』を読む。具体的には、授業の前半において『文学の第三共和政』第1部第1節～第30節のまとめと補足を行ったのち、『文学の第三共和政』第2部ブルースト論および第2部フローベール論のまとめと補足を行う。授業の後半においては、『ブリュヌチエール論』第1章から第5章までを読み、それぞれのまとめと補足を行う。	
フランス文学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 フランス文学理論の歴史を把握する。具体的には20世紀後半の多様な文学理論の特徴を概観すると共に、さまざまな論争の争点を明らかにしながら、文学テキスト研究方法の見通しを得る。 【授業の概要】 アントワヌ・コンパニオン著『文学をめぐる理論と常識』を読む。具体的には、授業の前半において、文学、作者、世界、読者についての多様な概念と主な論争を検討する。授業の後半においては、文体、歴史、価値についての概念と主な論争を検討する。	

フランス文学特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 フランス文学における反近代の精神史を把握する。具体的には19世紀から20世紀後半までの反近代主義思想家の系譜をたどり、それぞれの時代と思潮における論点の変遷を理解する。 【授業の概要】 アントワヌ・コンパニョン著『アンチモダン—反近代の精神史』第二部人物篇を読む。具体的にはシャトーブリアン、ジョゼフ・ド・メーストル、エルネスト・ルナン、シャルル・ペギー、アルベール・チボーデ、ジュリアン・パンダ、ジュリアン・グラック、そしてロラン・バルトの反近代批評の言説を検討する。	
フランス文化学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 フランス現代文学を共時的・通時的観点から概観する。 【授業の概要】 ドミニック・ヴィアール著『現代フランス文学選集。1980年以降の小説と物語』（2013年）を読みながら、文学と社会・歴史の関係について考えると共に、テクスト説明の技法を学ぶ。具体的には、ロラン・バルト『ロラン・バルト自身によるロラン・バルト』、マルグリット・デュラス『愛人』、ミラン・クンデラ『無知』、ル・クレジオ『砂漠』、パトリック・モディアノ『ドラ・ブリュデー』、ナタリー・サロート『幼年時代』、クロード・シモン『アカシア』、ジャン・エシュノーズ『稲妻』、アニー・エルノー『ある女』といった作品を検討したのち、実習を行う。	
フランス文化学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 フランス文化の中心都市パリが文学作品でどのように表象されているかを把握する。 【授業の概要】 近現代フランス文学におけるパリの表象を文化史的に概観する。具体的には、バルザックの金融小説、ユゴーのバリ伝説小説、ボードレール『パリの憂鬱』、フローベール『感情教育』、ゾラ『居酒屋』、ユイスマンスのレストラン小説、プルースト『失われた時を求めて』、ブルトン『ナジャ』、セリヌ『夜の果てへの旅』、モディアノ『1941年。パリの尋ね人』といったパリ関連の文学テクストを検討する。	
西洋史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 古代・中世の「帝国」について理解する。ウィリアム1世と「帝国」。 【授業の概要】 イングランド王ウィリアム1世の「帝国」を具体例として、古代と中世の継続性を考察する。まずデイヴィッド・ベイツによる「帝国」論の主要な論点を確認し、ついでウィリアム1世の生涯を、成人まで・ノルマン・コンクエストまで・ノルマン・コンクエストから1070年代まで・晩年・まとめと、5回に分けてたどる。そしてウィリアム1世と「帝国」について、歴史叙述の見地から（ブリテン諸島）（大陸）・儀礼の見地から・中心と周縁の見地から・所領調査の見地から・建築の見地から、それぞれ考察した後、全体の総括を行う。	
西洋史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 西洋中世の史料の類型とその特徴について理解する。西洋中世史料論。 【授業の概要】 西洋中世史料の類型とその特徴を講義する。具体的には、厳密な意味での叙述史料（1）キリスト教起源のもの、厳密な意味での叙述史料（2）古代歴史叙述起源のもの、厳密な意味での叙述史料（3）中世起源のもの、厳密な意味での叙述史料（4）聖人伝、書簡、論文、証書（1）証書一般、証書（2）特殊な証書、証書から派生する史料、所領に関する史料、財政史料、人のリスト、そのほかの史料である。最後に授業の総括を行う。	
西洋史特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 伝記と歴史学。伝記と歴史学の関係について、具体例を通じて理解する。 【授業の概要】 近年学問的に注目をあつめる、伝記と人文学との関係について、まずハンス・レンダース、ビンヌ・デ・ハーン、ジョン・ハルムスマの論点を紹介しながら、着眼すべき点を確認する。ついで、12・13世紀のブリテン諸島の政界で重きをなすにいたったウィリアム・マーシャルの、13世紀に作成された伝記と、最新の歴史学の知見をふまえた伝記的研究とを俎上にのせて、上述の関係を具体的に考察する。	
西洋史特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. スターリニズムとナチズムという20世紀を代表する2つの独裁体制の形成・展開・終焉の過程についての比較史的検討から、西洋近現代史に対する理解を深める。 2. 「比較史」という研究手法の立ち入った検討とその成果の批判的摂取。 【授業の概要】 近年著しく進展しているスターリニズムとナチズムの比較研究の成果に立脚して、両体制の展開と相互関係を中心に20世紀前半の西洋近現代史を再検討する。	
比較文化史学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. ロシア極東地域の形成過程を理解する。 2. ロシア革命後、1920年代から第二次世界大戦終結までのスターリン時代のロシア極東地域の発展過程を理解する。 【授業の概要】 プーチン大統領によって導入された大統領全権代表制度は、ロシア帝国時代の総督府制度を想起させた。その中でも極東管区はプリアムール総督府が起源である。本講義では、ロシア帝国時代からスターリン時代を通じたこの極東地方の歴史を概観する。	

総合演習	宗教学死生学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 目標：宗教学の高度な研究を遂行できる。 テーマ：宗教学研究法 【授業の概要】 宗教学死生学分野における研究・発表・討論の技術を演習形式で学ぶ。この授業では毎回の授業で受講者が各自の研究に関わる発表を行い、自らの研究に対するフィードバックや発表の技術を向上させる。またそれ以外の学生は討論に参加することを通し、発表を正確に聞き取り的確な質問や議論をするスキルを身に着ける。 上記の内容を3名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	宗教学死生学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 目標：宗教学の高度な研究を遂行できる。 テーマ：宗教学研究法 【授業の概要】 宗教学死生学分野における研究・発表・討論の技術を演習形式で学ぶ。この授業では毎回の授業で受講者が各自の研究をもとに論文作成の構想を発表し、論文作成へと向け必要な技法を学ぶ。またそれ以外の学生は自らの学術的知識をもとに討論に参加し、高度な応用的議論をするスキルを身に着ける。 上記の内容を3名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	中国語学中国文学史総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. 中国語学・中国文学の各分野について、基礎的な理解を深める。 2. 研究発表の方法と論文作成の方法を学ぶ。 3. 教員からの指摘を的確に理解し、解決方法を探索する。 4. 受講生の研究発表を的確に理解した上で、自らの考えを適切に言語化する方法を学ぶ。 【授業の概要】 受講生は輪番で、自らのもっとも関心のある課題について、その先行研究の整理・問題点の析出・解決のための調査（文献の読解と分析を含む）の過程を、中間報告の形で、文章化して発表する。なお、発表資料は事前に提出する。発表資料を受け取った受講生は、内容を吟味・検討し、授業中に質疑を行う。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	中国語学中国文学史総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. 中国語学・中国文学の各分野について、発展的な理解を深める。 2. 研究発表の方法と論文作成の方法を学ぶ。 3. 教員からの指摘を的確に理解し、解決方法を探索する。 4. 受講生の研究発表を的確に理解した上で、自らの考えを言語化し、論文としてまとめる方法を学ぶ。 【授業の概要】 受講生は輪番で、自らのもっとも関心のある課題について、その先行研究の整理・問題点の析出・解決のための調査（文献の読解と分析を含む）の過程と考察結果を文章化して発表、論文としてまとめることにつなげる。なお、発表資料は事前に提出する。発表資料を受け取った受講生は、内容を吟味・検討し、授業中に質疑を行う。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	中国思想史総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：儒学思想研究上の諸問題。儒学思想が中国のみならず日本を含む東アジア全体に及ぼした影響は多大であり、本授業は、そうした儒学思想の中国における歴史的展開を主題とした近年の研究を批判的に検討するなか、学生が、当該思想の歴史的諸相に通暁しつつその概略を体系的に説明するとともに、とくにその一斑に関しては最新の専門的知見を所有できるようになることを到達目標として設定する。 【授業の概要】 孔子の創設にかかる思想としての儒学は、中国の長い歴史のなかで周辺の諸思想と交渉を重ね、とりわけ漢代以降は時の王朝によるイデオロギーに寄り添いながら、その様相を更新することによって命脈を保ってきた。かかる中国儒学思想の歴史的展開に関する研究は、そうした儒学思想の実態を、研究者それぞれの関心や価値観にしたがって追究するものであり、この授業では、儒学思想全体を構成する個別の書物や思想家をひとつの単位として、それぞれを主題とした近年の研究動向を解明する。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同

中国思想史総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：道家道教思想研究上の諸問題。道家道教思想は、儒家思想や仏教思想とともに中国人の精神の中核を占めるものであり、本授業は、道家道教思想の歴史的展開に関する近年の研究を批判的に検討するなか、学生が、当該思想の歴史的諸相に通暁しつつその概略を体系的に説明するとともに、とくにその一斑に関しては最新の専門的知見を所有できるようになることを到達目標として設定する。 【授業の概要】 中国の思想史は一方において儒学を正統思想に位置づけつつも、他方、道家思想をも重要な柱として展開するものであり、とくに魏晉以降の当該思想は、仏教との対立葛藤や当時形成途上にあった道教との融合などを繰り返しながら、新たな局面を切り拓いてきた。道家道教思想史の研究は、そうした思想の歴史的実態を、研究者それぞれの関心や価値観にしたがって追究するものであり、この授業では、道家道教思想全体を構成する個別の書物や思想家をひとつの単位として、それぞれを主題とした近年の研究動向を解明する。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
英語学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 1) 英語学研究の最新動向を把握する。 2) 研究論文の実践的作成法を身につける。 3) 効果的プレゼンテーション力を身につける。 【授業の概要】 英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。 2) 討論者がコメントを加える。 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。 授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。 本授業では省略現象や、極性表現などに関する英語学研究論文のオーラル・レポートを行う。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年
英語学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 1) 英語学研究の最新動向を把握する。 2) 研究論文の実践的作成法を身につける。 3) 効果的プレゼンテーション力を身につける。 【授業の概要】 英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。 2) 討論者がコメントを加える。 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。 授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。 本授業ではアスペクトや、移動と束縛などに関する英語学研究論文のオーラル・レポートを行う。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年
英語学総合演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 1) 英語学研究の最新動向を把握する。 2) 研究論文の実践的作成法を身につける。 3) 効果的プレゼンテーション力を身につける。 【授業の概要】 英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。 2) 討論者がコメントを加える。 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。 授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。 本授業では束縛条件と適用レベルや、再構築現象などに関する英語学研究論文のオーラル・レポートを行う。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年

	英語学総合演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 1) 英語学研究の最新動向を把握する。 2) 研究論文の実践的作成法を身につける。 3) 効果的プレゼンテーション力を身につける。 【授業の概要】 英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。 2) 討論者がコメントを加える。 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。 授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。 本授業では関係詞節の時制解釈や、項構造と助動詞haveなどに関する英語学研究論文のオーラル・レポートを行う。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同 隔年
研究 演 習	文化人類学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。 修士論文研究のテーマとトピックに関連する民族誌的・理論的文献を網羅的に収集し、研究史の流れを整理する。 最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。 【授業の概要】 文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。 そのうえで、修士論文研究における理論的かつ民族誌的な研究枠組みを構築する。	
	文化人類学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。 修士論文研究のテーマとトピックに関連する民族誌的・理論的文献を網羅的に収集し、研究史の流れを整理する。 最終的には、自身の修論における先行研究のレビューを完成させる。 【授業の概要】 文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。 そのうえで、修士論文研究における理論的かつ民族誌的な研究枠組みを構築する。	
	文化人類学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 学術的な英文の正確な読解力を身に付ける。 (2) 文化人類学の古典の息吹に触れる。 【授業の概要】 文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な読解の技法を習得する。 今semesterは、第6章から第8章までを訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press版（1965）を用いる。	
	宗教学死生学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 目標：宗教学の高度な理論を身につける。文献を正確に読み、それに基づいた議論を行うことができるようになる。 テーマ：宗教学の諸理論 【授業の概要】 民間信仰、祖先祭祀、世俗化、儀礼、聖なるものなど、宗教学の研究において重要なトピックに沿っていくつかの宗教学の基本文献を取り上げ、毎回の発表者による内容の紹介と参加者全員での討論を行う。参考文献は、堀一郎『民間信仰』、柳田国男『祖先の話』、オットー『聖なるもの』、ファン・ヘネップ『通過儀礼』等。	
	宗教学死生学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 目標：宗教学の高度な理論を身につける。文献を正確に読み、それに基づいた議論を行うことができるようになる。 テーマ：宗教学の諸理論 【授業の概要】 民族学者エドワード・ウェスターマルク（1862-1939）の古典的名著『人類婚姻史』を題材に、宗教的信仰や食文化、儀礼の社会的機能などのかかわりの中で、人類の性行動や婚姻のありかたを探ってゆきます。文献読解と議論を中心に進める。	
	インド学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 家長の義務、共同体の規範、慣習を定めた、法経（ダルマースートラ）の一つ、Āpastamba Dharmasūtraの講読を通じてサンスクリット語の基本原理の理解、読解力の向上、文献学的手法の習得を目標とする。 【授業の概要】 最古の法経の一つであるĀpastamba Dharmasūtraの原典を講読する。ヴェーダ文献やハラダッタ注の記述と比較しながら読み解き、ポスト・ヴェーダ期の社会、バラモン教の世界観の理解を目指す。	

インド学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 『シャタパタ・ブラーフマナ』XI 5,1 (B.C. 650頃以降) に採録される「ブルーラヴァスとウルヴァシー」の神話を取り上げ、読解演習を行う。ブラーフマナの講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。 【授業の概要】 「ブルーラヴァスとウルヴァシー」の神話は、人間の王ブルーラヴァスがアブサラスのウルヴァシーとの結婚、別離を経て、祭式に用いる特別な火（祭火）を獲得するまでを描き、祭火の起源を語る神話となっている。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。	
インド仏教史研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 単に説一切有部教学の綱要書というに留まらず瑜伽行唯識派をはじめとする大乘仏教思想の展開にも多大な影響を与えた著名な論書『阿毘達磨俱舍論』を、梵蔵漢対照で講読することを通じて、文献学的操作の修練を行い仏典の基礎的読解力を向上させるとともに、重要な仏教用語・術語に関する正確な知識を習得すること。 【授業の概要】 世親著『阿毘達磨俱舍論』『世間品』を梵蔵漢対照により講読する。	
インド仏教史研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 単に説一切有部教学の綱要書というに留まらず瑜伽行唯識派をはじめとする大乘仏教思想の展開にも多大な影響を与えた著名な論書『阿毘達磨俱舍論』を、梵蔵漢対照で講読することを通じて、文献学的操作の修練を行い仏典の基礎的読解力を向上させるとともに、重要な仏教用語・術語に関する正確な知識を習得すること。 【授業の概要】 世親著『阿毘達磨俱舍論』『世間品』を梵蔵漢対照により講読する。	
中国語学中国文学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 作品や注釈の読解を通して、中国の文言文を読みこなす力と中国古典詩歌文学に関する知識を身につける。専門書や工具書に当たって自ら調べ、それらをわかりやすくレジュメにまとめて、口頭で発表できるようにする。また、質疑応答の際に的確な言葉で説明できるようにする。 【授業の概要】 中国詩歌文学の源流である『楚辞』の諸作品を、代表的な注釈を参照しながら読む。授業は、担当者によるレジュメ作成と口頭発表、それをもとにした質疑応答という形式で進める。 本授業では、洪興祖『楚辞補注』（四部備要本）「離騷」第1葉～第8葉a第9行を扱う。	
中国語学中国文学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 作品や注釈の読解を通して、中国の文言文を読みこなす力と中国古典詩歌文学に関する知識を身につける。専門書や工具書に当たって自ら調べ、それらをわかりやすくレジュメにまとめて、口頭で発表できるようにする。また、質疑応答の際に的確な言葉で説明できるようにする。 【授業の概要】 中国詩歌文学の源流である『楚辞』の諸作品を、代表的な注釈を参照しながら読む。授業は、担当者によるレジュメ作成と口頭発表、それをもとにした質疑応答という形式で進める。 本授業では、洪興祖『楚辞補注』（四部備要本）「離騷」第8葉a第9行～第13葉a第5行を扱う。	
中国語学中国文学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 中国の伝統的な注釈方法に基づいて、通俗文学作品を読解できるようになる。中国近世の通俗文学作品を読むことを通して、基礎的な知識を身につけ、読解力を向上させる。原典や工具書の扱い方に習熟する。 【授業の概要】 中国近世の白話文学作品の読解を通して、中国の通俗文学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力と分析し鑑賞する力の習得を目指す。授業は、発表と質疑応答によって進める。『三国志演義』第四十四回を取り上げる。	
中国語学中国文学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 中国の伝統的な注釈方法に基づいて、通俗文学作品を読解できるようになる。中国近世の通俗文学作品を読むことを通して、読解力を向上させ、分析・鑑賞力を習得する。また、作品成立の時代的・社会的背景も理解する。原典や工具書の扱い方に習熟する。 【授業の概要】 中国近世の白話文学作品の読解を通して、中国の通俗文学に関する応用的な知識を学ぶとともに、原文の読解力と分析し鑑賞する力のさらなる向上を目指す。授業は、受講者による発表と質疑応答によって進める。『水滸伝』第二十七回を取り上げる。	

中国思想文献研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 清・楊文会撰、民国・万鈞注『仏教宗派詳注』を輪読会形式で読む。仏教的題材に特有の語彙語法で記された漢文の読解能力を身につけながら、日本の言語や文学に深く影響した中国仏教各宗派の歴史と教理について十分な理解を得ること、訳注の検討においては自分の考える正しい読み方の論拠や他人の誤読の理由などを説明できるようになることが到達目標である。 【授業の概要】 本文について毎回あらかじめ担当者を決め、担当者は担当範囲について資料を博搜し精密な注釈と日本語訳を作る。他の受講生は提出された訳注について検討し、議論を通して漢文文献の高度な読解力と、解説や討論の能力を養う。	
中国思想文献研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：王門人士書簡哲学問答。明代中期の思想家である王陽明（諱守仁）による陽明学が、近世の中国社会のみならず江戸時代の日本に影響を及ぼしたことは言うまでもない。この授業では、学生が、陽明学の基本理念を原典に依拠したかたちで理解し、自らの言葉によってそれを説明できようになることを到達目標として設定する。 【授業の概要】 陽明は、湛甘泉（諱若水）との交流をとおしてみずからの思想を確立し、その後、弟子たちからの思想的質問に回答するなかでその思想を明確化させた。また陽明の高弟たちは、師陽明の教えの核心が那邊に在るのかをめぐり議論を闘わせた。如上の経緯を、当事者による往復書簡を読み解きながら、明らかにしてゆく。	
東洋史学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 中国南朝時代の同時代史料たる沈約『宋書』の礼志を読み、独特の用語を含んで難解な南朝史料の訳注を作成できるようになる。 【授業の概要】 『宋書』の礼志は、南朝の宋（420～479）に至るまでの礼制の沿革や礼制に関する議論を記述した部分で、当時の官庁間での文書の往復の状況を伝えている点で重要な史料である。受講者は『宋書』礼志を分担して読む。担当者は担当部分の訳注を作成して提出の上、その訳注について発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。	
東洋史学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 東洋史学研究演習Ⅰに続いて『宋書』の礼志を読み訳注を作成、訳注作成能力を向上させ、学術論文作成の基礎を確立する。 【授業の概要】 受講者は、『宋書』礼志を分担して読む。担当者は、担当部分の訳注を作成して提出の上、その訳注について発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。また、後半には、正確な訳注を作成するだけでなく、その訳注をふまえて、当時の政治、制度、社会の諸問題を考察することを心がけるようにし、その考察の成果をふまえた研究発表の時間を訳注の発表とは別に設ける。	
東洋史学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 漢字文化圏の歴史を教える上で、その史実がどのような漢籍に由来するか、ある程度自分で理解し、また読解できることを第一の目標にし、更にその漢籍を通して中国近世の社会体制や官僚制度について知識を深めることを狙う。 【授業の概要】 近世中国における、人事制度、法律制度、社会問題の宝庫である『皇明条法事類纂』を読む。 授業参加者は毎回予習をし、発表を行い、参加者でその妥当性について討論を行う。 本授業では、文職奮勇殺賊没於戦陣者本身褒贈行取或子男弟姪一人入監読書録用例や、蔭襲士官例などを扱う。	
東洋史学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 漢字文化圏の歴史を教える上で、その史実がどのような漢籍に由来するか、ある程度自分で理解し、また読解できることを第一の目標にし、更にその漢籍を通して中国近世の社会体制や官僚制度について知識を深めることを狙う。 【授業の概要】 近世中国における、人事制度、法律制度、社会問題の宝庫である『皇明条法事類纂』を読む。 授業参加者は毎回予習をし、発表を行い、参加者でその妥当性について討論を行う。 本授業では、優免官吏生員雑泛差役例や、各處科舉考官不許聘請六十歳以上及不由科目教官例などを扱う。	
英文学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ミルトンの主要な作品を読解することで、 (1) 英文学の原典を読解する力を養う。 (2) 17世紀英文学の政治的・文化的コンテキストを理解する。 (3) 英語で自分の意見を発表し、ディスカッションする能力を養成する。 【授業の概要】 ミルトン(John Milton)は英文学史上最も影響力があり、かつ問題をはらんだ作家である。この授業では彼の初期作品と、彼の代表作であり英文学史上最も巨大な叙事詩の傑作である『失楽園』(Paradise Lost)を読解し、ピューリタン革命期のジャンル、政治、文化の葛藤について学ぶ。毎回、担当学生の記事報告を出発点として、英語でディスカッションする。この授業はすべて英語で行われる。	隔年

英文学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 エリザベス・ボウエン(Elizabeth Bowen)の小説の読解演習を通して、 (1)現代イギリス小説を読解する力を養成する。 (2)1940年代以降の文学傾向を理解する。 (3)英語で発表したり議論したりする力を養成する。 【授業の概要】 アイルランド生まれのエリザベス・ボウエンの作品は第二次大戦後のイギリスの市民生活を描いた小説として有名である。この授業では『ハート・オブ・ザ・デイ』(The Heat of the Day)を読み進める。この小説はスパイ小説と個人のアイデンティティをめぐる小説が混淆した作品である。この授業では現代小説に対するフロイトの精神分析理論の影響に注目して作品を読解してゆく。また、ボウエンの短編小説や映画作品も扱う。毎回、担当学生の報告を出発点として、英語でディスカッションする。この授業はすべて英語で行われる。	隔年
英文学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 W・B・イエイツ(W. B. Yeats)の詩の読解を通して、 (1)英詩の読み方を学ぶ。 (2)詩をいかに批評的に語るかについて考える。 (3)イエイツという人物について学ぶ。 【授業の概要】 授業のイントロダクションでは、詩を読むときの心構えを日本語の詩など題材にして解説する。その上で、イエイツの代表的な詩作品を初期から中期、後期という順番で読んでいく。イエイツは作風の変化の大きかった人であるため、歴史的背景にも眼をやりながら、どうして詩の書き方が変わったのかなどについて考えていく。授業は教員による講義だけではなく、参加者に意見を求める場面も多々あるので、積極的な参加を期待する。	隔年
英文学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 マイケル・ドレイTONの詩を通じて、 (1)イギリス・ルネサンスの本質を把握する。 (2)英詩の韻律分析法を身につける。 (3)ジャンルの意義を（再）確認する。 【授業の概要】 《ルネサンス》とは何を意味しているのだろうか？「ギリシア・ローマ文化の再生・復活」と述べるだけでは不十分であると思われる。この時期、ヨーロッパ各地では、聖書の翻訳に端を発すると考えられるVernacular運動や植民地権益をめぐる覇権争いに参画させることになったNationalismが展開しているためである。ギリシア・ローマ文化という（時間的・空間的に遠い）〈中心〉と自文化という（近い）〈周縁〉との関係が問われていたと捉えるべきであろう。本演習では、マイケル・ドレイTON（1563?1631）のOdes（1619）の検討を通じて、「ルネサンス」と「イングランド」を接続しようと懸命な努力を行った詩人の足跡を辿る。	隔年
英語文化論研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 レイモンド・ウィリアムズ(Raymond Williams)の『田舎と都会』(The Country and City)を読みながら、初期近代から産業革命以前までのイギリス近代文学を、「田舎と都会」という問題系から理解し、あわせて、理論的な著述における英語の読解能力を養い、対象となっている作品についての理解も深める。 【授業の概要】 『田舎と都会』の前半部分を読解しながら、初期近代から産業革命以前までの英語圏作家を考察し、人間集団がある「場所」に「定住」する経験という、じつは、私たちにとってごく身近な経験に関連した諸問題について理解を深める。授業では、毎回担当者を決め、その報告をもとに議論する。また、対象となっている作品について、その読解を行う回もある。	隔年
英語文化論研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 レイモンド・ウィリアムズ(Raymond Williams)の『田舎と都会』(The Country and City)後半部分を読みながら、産業革命から20世紀までのイギリス近代文学を、「田舎と都会」という問題系から理解し、あわせて、理論的な著述における英語の読解能力を養い、対象となっている作品についての理解も深める。 【授業の概要】 『田舎と都会』の後半部分を読解しながら、産業革命以前から20世紀までの英語圏作家を考察し、人間集団がある「場所」に「定住」する経験という、実は、私たちにとってごく身近な経験に関連した諸問題について理解を深める。授業では、毎回担当者を決め、その報告をもとに議論する。	隔年
英語文化論研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 レイモンド・ウィリアムズ(Raymond Williams)の『英国の小説』(The English Novel: From Dickens to Lawrence)を読みながら、産業革命移行のイギリス近代文学を、「作家と共同体」という問題系から理解し、あわせて、理論的な著述における英語の読解能力を養い、対象となっている作品についての理解も深める。 【授業の概要】 レイモンド・ウィリアムズの『英国の小説』を読みながら、産業革命移行のイギリス近代文学作家を考察することで、共同体の（過去や未来をも含めた）「全体」を記述しようとする諸個人である作家(writer)と、共同体との関係をめぐる歴史的な諸問題について理解を深める。授業では、毎回担当者を決め、その報告をもとに議論する。また、対象となっている作品について、その読解を行う回もある。	隔年

英語文化論研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 レイモンド・ウィリアムズ (Raymond Williams) の『文化の社会学』 (The Sociogy of Culture) を読みながら、文学的文化・読み書きを中心とする文化 (Literary Culture) をめぐる諸問題の所在について理解し、あわせて、理論的な著述における英語の読解能力を養う。 【授業の概要】 レイモンド・ウィリアムズの『文化の社会学』を読みながら、産業革命移行のイギリスでキーワードとなる文化について、そして、そうした文化のなかでも、文学的文化・読み書きを中心とする文化 (literary Culture) を研究する際に必然的に生じてくる、文化研究の自己言及性について、さらには、そうした自己言及性に対処するための諸方策について理解を深める。授業では、毎回担当者を決め、その報告をもとに議論する。	隔年
英語学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と音韻論のインターフェースに関わる具体的研究を取り上げて、実証的側面及び理論的側面から批判的に検討し、その成果を今後の研究に生かすことを目標とする。 【授業の概要】 この授業では、統語論と音韻論のインターフェースの問題を扱った研究文献の批判的検討を通して、狭義の言語計算 (統語論) と外在化 (externalization) (音韻論) が、具体的言語現象にそれぞれどのような帰結をもたらすのかを考察する。授業はテキストに基づく導入的講義と、それに対する学生の発表、および参加者全員によるディスカッションにより構成される。	隔年
英語学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と意味論のインターフェイスにおける主要な問題に取り組み、解決案を提示できることを目指す。 【授業の概要】 生成文法における統語論と意味論のインターフェイスに関する重要な研究書を批判的に検討し、言語理論の今後の展開の可能性を探る。自動詞と他動詞の用法に見られる外項の具現化を論じた Alexiadou, Anagnostopoulou, and Schafer (2015) External Arguments in Transitivity Alternations (Oxford University Press) を精読し、ヴォイス、形態素、機能範疇に関する問題を考察する。	隔年
英語学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と音韻論および形態論のインターフェースに関わる具体的研究を取り上げ、批判的考察を通して、今後の研究に生かすことを目標とする。 【授業の概要】 この授業では、統語論と音韻論、およびそれらの接触領域となる形態論のインターフェースの問題に焦点をあて、これらの部門における言語操作に見られる共通点と相違点を考察し、いわゆる第三要因 (third factor) の反映としての言語特性の問題を考察する。授業はテキストに基づく導入的講義と、それに対する学生の発表、および参加者全員によるディスカッションにより構成される。	隔年
英語学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 統語論と意味論のインターフェイスにおける主要な問題に取り組み、解決案を提示できることを目指す。 【授業の概要】 生成文法における統語論と意味論のインターフェースに関する重要な研究書を批判的に検討し、言語理論の今後の展開の可能性を探る。ある概念がどのような語彙項目として統語構造のどの位置に具現化するのか論じた Tanya Reinhart (2016) Concepts, Syntax, and Their Interface (The MIT Press) を精読し、束縛、再帰形、パラメーターに関する問題を考察する。	隔年
ドイツ文学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語の短編小説を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。 【授業の概要】 近現代ドイツ短編小説を講読する。Robert MusilのDie Portugiesinを読む。Musilは世紀転換期のオーストリアで活躍した小説家・戯曲家であるが、きわめて理知的でありながら神秘主義的な側面を持つ。その文体は決して難解ではないが、文と文のつながりを理解するのは容易でない。特に接続詞dennの用い方が独特で、この理由付けの論理を理解できるかどうかMusil理解の鍵になると言っても良い。しかし、わざと分かりにくい表現をしているのではないので、丹念に文脈を追えば、必ず正しい理解に到達できるので、受講者にはあらゆる辞書を用いて、徹底的な精読をしてもらいたい。	
ドイツ文学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語の短編小説を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。 【授業の概要】 近現代ドイツ短編小説を講読する。今期はHeinrich von KleistのDie Verlobung in St. Domingoを読む。Kleistはドイツロマン主義と同時代の小説家・戯曲家であるが、ドイツロマン主義からは距離を置いて活動した。その文体は、一つの文の中に副文を何重にも詰め込む特異なものであるため非常に読みにくい。その文体から伝わる独特な熱が感じられるはずである。内容としては、多くのKleistの作品に共通する謎が問題になるが、おそらく永遠に解決できないこの謎に受講者各人が何らかの解答を出すことが求められる。そのためにも一言一句おろそかにしない徹底的な精読が必要である。	

ドイツ語学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 研究論文と研究資料の読解及び作成、そして討論、ドイツ語圏の大学で行われる言語活動を可能とするドイツ語能力を少しでも身につける。具体的に取り上げる内容は、活動の目標に合わせて選ぶ。 【授業の概要】 本授業では受講者のドイツ語能力確認を行うとともに、大学の研究資料の読解と作成を中心とした教材に沿って授業を進める。授業計画は受講者の能力やニーズに合わせる。	
ドイツ語学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 研究論文と研究資料の読解及び作成、そして討論、ドイツ語圏の大学で行われる言語活動を可能とするドイツ語能力を少しでも身につける。具体的に取り上げる内容は、活動の目標に合わせて選ぶ。 【授業の概要】 本授業では、受講者の興味に沿ったテキストの読解や、あるいは視聴覚資料について分析を行う。授業計画は受講者の能力やニーズに合わせる。	
フランス語学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ・フランス語学や一般言語学の研究史がわかる。 ・フランス語学、一般言語学、仏英日対照言語学の基礎が理解できる。 ・フランス語学や言語学の研究史が把握できる。 ・フランス語学や対照言語学の方法論が身につく。 【授業の概要】 フランス語の諸現象についてフランス語で書かれた論文を読みながら、フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介し、解説する。また、日本語、英語との対照的考察を行う。	
フランス語学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 ・フランス語学、一般言語学、仏英日対照言語学の基礎が理解できる。 ・フランス語学や言語学の研究史が把握できる。 ・フランス語学や対照言語学の方法論が身につく。 【授業の概要】 「フランス語学研究演習Ⅰ」に引き続き、フランス語の諸現象についてフランス語で書かれた論文を読みながら、フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介し、解説する。また、日本語、英語との対照的考察を行う。	
フランス語学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 言語学の知識が文学テキストの文体論的・物語論的分析に有用かつ必要であることを理解し、実践的な応用ができる技術を身につける。 【授業の概要】 物語、演劇、評論のテキスト分析に言語学の知見を応用し、主観性、諧謔、皮肉などの特徴を分析する。具体的には、物語、ディスコース、発話、様態化、明示的意味、暗示的意味、語りの時制、作者、語り手、語りの装置、外的視点、内的視点、全知的視点、対話、独語、対話性、多声性、直接話法、間接話法、自由間接話法、演劇の対話、描写文、論説文、帯域の問題、諧謔と皮肉について検討を加えたのち、実習を行う。	
フランス語学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 言語学の知識が文学テキストの文体論的・物語論的分析に有用かつ必要であることを理解し、実践的な応用ができる技術を身につける。 【授業の概要】 有名作品の文体を分析しながら18世紀以降のフランス文学史を検討する。具体的には、ヴォルテール『カンディードまたは楽観説』、ジャン＝ジャック・ルソー『告白』、オノレ・ド・バルザック『ウジェニー・グランデ』、オノレ・ド・バルザック『ゴリオ爺さん』、ヴィクトル・ユゴー『リュイ・ブラス』、スタンダール『赤と黒』『パルムの僧院』、ギュスーヴ・フローベール『ボヴァリー夫人』『感情教育』等を検討したのち、実習を行う。	
フランス文学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 文学と表象芸術の密接な関係を把握する。 【授業の概要】 ポール・ヴァレリーの芸術批評を主な題材として、19世紀と20世紀における文学と芸術（特に絵画）との関わりについて考察する。ボードレー、マラルメ、ゾラ、ユイスマンスといった作家の芸術批評も扱う。具体的には、ヴァレリーの最も有名な芸術論テキストである『ドガ ダンス デッサン』からいくつかの断章を取り上げ、ドガと踊り子、ドガとアングル、ドガにおける馬と写真、現代芸術と大芸術といったテーマについて検討する他、ヴァレリー自身に関わる「モンペリエ美術館」「コロをめぐって」「マネの勝利」などの随想も検討する。	
フランス文学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 文学と表象芸術の密接な関係を把握する。 【授業の概要】 ポール・ヴァレリーの芸術批評を主な題材として、19世紀と20世紀における文学と芸術（特に絵画）との関わりについて考察する。ヴァレリーのテキストから「オノレ・ドーミエ」「エルネスト・ルアールを偲んで」「イタリア美術展」「レオナルド・ダ・ヴィンチ論」「芸術についての考察」等のテキストを精読する他、ヴァレリーの映画論とベンヤミンの複製芸術論との比較、ボードレーの美術批評、マラルメの美術批評、ゾラの美術批評、ユイスマンスの美術批評、ブルーストの美術批評についても検討を加える。	

フランス文学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 中世・ルネサンスの伝語仏文学研究(1) 中世・ルネサンス文学の研究の基礎知識を習得する。 【授業の概要】 年度交替で古フランス語あるいは中期フランス語のテキストを学ぶ。想定されるテキストは、ジャン・カルヴァンによる『キリスト教綱要』である。テキストを講読するほか、中期フランス語の基礎、文献学の概要、書誌の作り方、写本・印刷本、ラテン語の影響などについても紹介を行う。	
フランス文学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 中世・ルネサンスの伝語仏文学研究(2) 中世・ルネサンス文学の研究の基礎知識を習得する。 【授業の概要】 年度交替で古フランス語あるいは中期フランス語のテキストを学ぶ。想定されるテキストは、ジャン・カルヴァンによる『キリスト教綱要』である。テキストを講読するほか、中世・ルネサンスにおける聖書学、神学、修辞学、『キリスト教綱要』の近現代における影響などについても紹介を行う。	
西洋古代・中世史研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ヨーロッパ中世史と現代。中世史研究と現代社会との多様な関係を理解する。 【授業の概要】 Bettina Bildhauer and Chris Jones (ed), The Middle Ages in the Modern World: Twenty-First Century Perspectives, Oxford University Press, 2017をテキストに、その各章を、報告担当者を決めて検討する。各章について、担当者がレジュメを用意してその概要を報告し、その報告内容について全員で検討する。ついで、各章の議論そのものについて、全員で検討する。原著第1部を扱う予定である。	
西洋古代・中世史研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 ヨーロッパ中世史と現代。中世史研究と現代社会との多様な関係を理解する。 【授業の概要】 Bettina Bildhauer and Chris Jones (ed), The Middle Ages in the Modern World: Twenty-First Century Perspectives, Oxford University Press, 2017をテキストに、その各章を、報告担当者を決めて検討する。各章について、担当者がレジュメを用意してその概要を報告し、その報告内容について全員で検討する。ついで、各章の議論そのものについて、全員で検討する。原著第2部を扱う予定である。	
西洋古代・中世史研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 中世ラテン語史料の読解力を涵養する。ヨーロッパ中世史料研究。 【授業の概要】 中世ラテン語史料のうち、叙述史料をとりあげ、文法・文脈両面より検討しながら叙述の流れに沿って訳読し、理解する。進度は参加者全員が理解しながら進めるように配慮する。テキストは具体的には、Henry of Huntingdon, Historia Anglorum, OMT, 1996. を使用する。まずテキストの基本的特徴を述べた後、テキスト412ページ前半の訳読と検討を行う。次に、テキスト412ページ後半の訳読と検討、これ以降も同様に、毎回テキスト半ページ分を目安に、その訳読と検討を、424ページまで行う。	
西洋古代・中世史研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 中世ラテン語史料の読解力を涵養します。ヨーロッパ中世史料研究。 【授業の概要】 中世ラテン語史料のうち、叙述史料をとりあげて、文法・文脈両面より検討しながら叙述の流れに沿って訳読し、理解する。進度は参加者全員が理解しながら進めるように配慮する。テキストは具体的には、Henry of Huntingdon, Historia Anglorum, OMT, 1996. を使用する。まずテキストの基本的特徴を述べた後、テキスト426ページ前半の訳読と検討を行う。次に、テキスト426ページ後半の訳読と検討、これ以降も同様に、毎回テキスト半ページ分を目安に、その訳読と検討を、438ページまで行う。	
西洋近現代史研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 西洋近現代史を対象とする英語文献の正確な読解、内容に関する討論を通じての理解の深化、及びそれらを基礎としたさらなる専門研究のための様々な着想の獲得。 【授業の概要】 17世紀のイギリス革命、18世紀のアメリカ独立革命・フランス革命、20世紀のロシア革命といった西洋近代の諸革命について、英語文献・英文史料に依拠して比較史的再検討を行い、20世紀世界史および西洋近現代史全体を再考する。本授業では、旧体制の比較史的考察や、革命の「蜜月」の比較史的考察などを行う。	
西洋近現代史研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 西洋近現代史を対象とする英語文献の正確な読解、内容に関する討論を通じての理解の深化、及びそれらを基礎としたさらなる専門研究のための様々な着想の獲得。 【授業の概要】 17世紀のイギリス革命、18世紀のアメリカ独立革命・フランス革命、20世紀のロシア革命といった西洋近代の諸革命について、英語文献・英文史料に依拠して比較史的再検討を行い、20世紀世界史および西洋近現代史全体を再考する。本授業では、革命の急進派・穏健派の比較史的考察や、「反革命」の比較史的考察などを行う。	

研究 実習	比較文化史学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ①研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。 ②参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。 【授業の概要】 ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことでロシア語及び英語の読解能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。ロシア語論文の読解力が不十分な場合でも、徐々に購読する量を増やしていく。	
	比較文化史学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 ①研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。 ②参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。 【授業の概要】 ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことでロシア語及び英語の読解能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。特にロシア語論文に慣れてきた受講生は、本格的な論文に挑戦する。	
	文化人類学研究実習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) フィールドワークで用いる参与観察法とインタビュー法を中心に文化人類学的な調査に不可欠な技法を習得する。 (2) 研究計画書の執筆と推敲を通して、学術的な文章の執筆力を向上させる。 【授業の概要】 文化人類学的調査に必要な基礎技術を、修士論文研究の企画・実施を通して習得する。研究計画書および修士論文草稿の執筆と添削を通して、論文執筆力の向上を図る。毎回、各自発表要旨を用意し、それに基づいて発表を行い、全員で討議するという方式を採る。	
	文化人類学研究実習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) フィールドワークで用いる参与観察法とインタビュー法を中心に文化人類学的な調査に不可欠な技法を習得する。 (2) 調査報告書の執筆と推敲を通して、学術的な文章の執筆力を向上させる。 【授業の概要】 文化人類学的調査に必要な基礎技術を、修士論文研究の企画・実施を通して習得する。調査報告書および修士論文草稿の執筆と添削を通して、論文執筆力の向上を図る。毎回、各自発表要旨を用意し、それに基づいて発表を行い、全員で討議するという方式を採る。	
	宗教学研究実習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 目標：宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。 【授業の概要】 本授業ではまず、参与観察・聞き取り調査・文献調査・映像撮影などの宗教調査のスキルや研究倫理について講義を通して学習をする。その後、夏季におこなう共同調査に向けて、先行研究や統計資料などの事前調査、調査計画の立案や質問項目表の作成、調査対象地との連絡など宗教調査のために必要な準備を一通り体験する。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	宗教学研究実習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。 【授業の概要】 本授業では夏季に行った調査をまとめる。まず、調査中に作成したフェイスシートやフィールドノートのとまとめを行う。その上で関連分野の先行研究を参照しながらこれまでの調査内容をまとめて報告会において発表を行う。内容がある程度まとまった段階においてそれらを基にして報告書を作成する。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	応用死生学研究実習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 スピリチュアルケアの現場に身を置くことで、死生学的課題にとりくむ実践力を習得する。 【授業の概要】 死生学的課題にとりくむ現場を参与観察するとともに実習を行い、実習先・ケアチームの状況理解、倫理的課題、ケア対象者のニーズと対応、ケア提供者の責任と倫理を実践的に身につける。実習報告会では、他の履修者の実習内容から、実践の多様性とフレキシビリティを学ぶ。	
	応用死生学研究実習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 死生学的課題にとりくむ現場における自らの役割を理解し、体系的に論じる力を養う。 【授業の概要】 現場での参与観察・実習に基づき、ケーススタディによるレポートを作成・発表し、職掌の理解、倫理的課題の把握と分析、多職種チームアプローチの方法と意義、ケア提供者の責任と倫理について、実践的な視点から考察する。実習報告会では、他の履修者の実習内容に基づいて、自己の実践性について相互評価を行う。	

	応用死生学研究実習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 実習での経験に基づいてスピリチュアルケア提供者としてのアイデンティティ確立を目指す。 【授業の概要】 応用死生学研究実習Ⅰの実習での経験に基づいて、グループワークを通して、傾聴の姿勢・態度、言語的・非言語的コミュニケーション能力、ケア対象者理解について自己検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、実践力を養う。	
	応用死生学研究実習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 実習での経験に基づいてスピリチュアルケア専門職としての倫理を理解し実現力を養う。 【授業の概要】 応用死生学研究実習Ⅱの実習での経験に基づいて、感情の言語化、自分史の振り返り、自己開示・内省のグループワークを通して、自己のケア能力・姿勢・態度を検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、高度な実践力を養う。	
スキル科目	研究倫理特論	【授業の到達目標及びテーマ】 研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通り。 １．よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。 ２．実験・調査参加者や、その他の関与者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。 ３．責任ある仕方で行なうために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。 【授業の概要】 科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献しているが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方で行なうこともある。そのため、研究に従事する人々（大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう責任を負っている。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければならない。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説する。 （オムニバス方式／全15回） （56 原 聖／4回）イントロダクション、引用の倫理、ピア・レビューと研究の質保証、研究の再現性 （36 戸島貴代志／2回）人間と技術、科学と倫理 （39 坂井信之／2回）人を対象とした医学系研究における倫理、心理学実験における倫理 （43 木村邦博／2回）質問紙調査研究の実践と倫理、研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向 （57 辻本昌弘／2回）フィールドワークにおける倫理の基本原則、フィールドワークにおける倫理の実践的問題 （30 小林隆／1回）聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 （38 阿部恒之／1回）著作権・商標・特許等の問題について （40 小泉政利／1回）研究不正の防止と対応	オムニバス方式
	西洋古典文化特論	【授業の到達目標及びテーマ】 ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古代の世界に馴染む（その知識は、実に様々な場面で役に立つはずである）。言語文化が中心で、思想、諸芸術、歴史の最重要事項を学ぶ。また、ギリシャ・ローマの文化が後代に与えた影響や、日本における西洋古典文化の受容にも若干触れる。 【授業の概要】 ギリシャ語・ラテン語の初歩の初歩、ギリシャ・ローマの（言語）文化（哲学・思想、文学・演劇等諸芸術、歴史）にまつわる基本的事項を学ぶ。受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特になし。講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行わない参加者には学期末レポートを提出してもらう。参加者の関心を尊重するよう工夫したい。	
	人文社会科学研究	【授業の到達目標及びテーマ】 悲嘆とその対応の一つとしてのグリーフケアについて基礎知識を得る。 【授業の概要】 誰にでも起こりうる普遍的な経験である喪失体験から、なぜ悲嘆が生じ、ケアが必要なのか、どのような苦悩があり、いつまで続き、どのようなケアが適切なのか、グリーフケアに関わる社会的課題と、ケアの実践を考察する。また、ビデオ教材により理解を深める。	
	英語発表技能演習	【授業の到達目標及びテーマ】 英語での学問的な報告・発表の方法について基礎知識を得る。実習で英語での学問的な発表を体験し、英検の学会やシンポジウムで報告できるように育成する。 【授業の概要】 受講者は自分の研究について英語で発表を行う。聞いた先生やほかの受講者から質問や意見をうけ、英語の質疑応答を練習する。ネイティブスピーカーから批判やアドバイスを受け、学問的な英語や英検で発表の仕方のより理解を深める。	

	英語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 大学院レベルの研究論文を英語で書くために必要な実践的作成法を身につける。 【授業の概要】 受講者には自分の興味のあるトピックについての英文エッセイを実際に作成してもらう。作成されたエッセイを使って、単語の選択、文と文との繋がり、段落構成などの論文を書く際に特に注意する点を具体的に教える。また、論文を書き始める前の準備段階と書き終えた後の見直し作業の際に考慮すべき点についても講義する。	
	日本語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高める。 【授業の概要】 専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。 レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。	
	人文統計基礎演習	【授業の到達目標及びテーマ】 人間および社会に対する理解を深め研究・社会貢献を行うための統計学的素養を身につける。 【授業の概要】 学術論文やメディア報道などの事例を検討し、データ収集法・統計分析手法の考え方を学ぶ。特に研究における問いと仮説の立て方、測定の妥当性と信頼性、各種統計量の意味、因果推論、無作為抽出と無作為配分などをめぐる誤解を正すとともに、ビッグデータやベイズ統計など新しい時代の統計学の基礎を身につけることで、「統計でウソをつかない」態度を涵養する。	
	キャリア設計演習	【授業の到達目標及びテーマ】 現代の経済と職業生活に関する基礎的事項を講義と演習を通じて学び、修了後のキャリアを主体的かつ具体的に設計できる実践力を養う。 【授業の概要】 前半では、日本経済および世界経済の仕組みと現状、企業ビジネス全般、公務員職、労働法といったテーマで基礎的な知識を身につける。後半は、各分野のゲストを招いたセミナー形式の授業で個別の業種・職種についての理解を深めつつ、自己分析を経て実際に自らのキャリア構想を描くところまで進む。授業は東北大学キャリア支援センターとの連携のもとで実施する。	
学 術 実 践 活 動	学術発表実習Ⅰ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。	
	学術発表実習Ⅱ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。 なお、学術発表実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
	国際活動実習Ⅰ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したレポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。	
	国際活動実習Ⅱ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したレポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。 なお、国際活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	

	研究・教育実践活動実習Ⅰ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2単位付与する。	
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2単位付与する。 なお、研究・教育実践活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
論文研究	修士論文研究	【授業の概要】 本授業は、受講生の修士論文研究の進捗を確認し、内容を改善することを目的とする。受講生は教員の指導のもとに、自らの修士論文研究を進行させながら、各教員に対して進捗状況を発表・報告する。各教員はそれぞれの研究テーマおよび専門的知識をもとにしたアドバイスを与えるとともに、受講生と精密な討論を行い、研究の問題点、改善すべき点、新たに追加すべき実験・調査などを洗い出す。それをもとに受講生はみずからの修士論文研究をさらに進捗させる。 各教員の研究テーマは以下のとおり。 (1 沼崎 一郎) 東アジアの経済と社会(台湾・香港を中心として)。現代世界の文化と人権(日本を中心として)。公共人類学(異文化共生)、災害人類学、ジェンダー(主に男性性)、初期アメリカ人類学学説史。 (15 川口 幸大) 中国を中心とした東アジアの家族・親族・社会組織と祭祀・儀礼。中国および日本の食文化。 (2 木村 敏明) 宗教人類学。災害と宗教。民間信仰(年中行事・人生儀礼・祭礼)の変化。インドネシア研究。 (16 山田 仁史) 宗教民族学。神話学。台湾を中心としたオーストロネシア研究。 (17 谷山 洋三) 臨床死生学(スピリチュアルケア、宗教的ケア、グリーフケア)、仏教福祉学。 (3 桜井 宗信) インド・チベット密教の儀礼と思想。インド・チベット仏教流伝史。 (4 三浦 秀一) 中国近世思想。朱子学と陽明学。明代の老荘思想と出版。科挙。 (18 齋藤 智寛) 中国中世の思想と宗教。禅思想史。唐代知識人の精神生活。 (19 土屋 育子) 中国文学。通俗文学研究。元明清文学研究。 (20 矢田 尚子) 中国古典文学。先秦兩漢文学研究。唐代女性服飾研究。 (21 馬 曉地) 中国文学。唐代朝謁制度と文学の関係。唐代戲謔文学。 (5 川合 安) 中国魏晉南北朝、隋唐史。 (22 大野 晃嗣) 明清官僚制度史。 (6 大河内 昌) イギリス18世紀思想史。イギリス・ロマン主義文学。 (23 大貫 隆史) 20世紀イギリス文化・文学。演劇理論。 (24 ティンク ジェイムズ) 初期近代イギリス文学。批評理論。 (7 金子 義明) 言語理論。英語統語論と意味論のインターフェイス。 (8 島 越郎) 生成文法理論に基づく英語分析。 (9 森本 浩一) ドイツ文学。文学の理論。物語論。言語哲学。 (10 嶋崎 啓) ドイツ語学。ドイツ語史。対照言語学。中世ドイツ文学。 (11 ナロック ハイコ) 言語学。言語変化。言語類型論。 (12 阿部 宏) フランス語学。仏英日対照言語学。ソシール文献学。認知意味論。言語学史。記号学。 (13 今井 勉) フランス文学。ヴァレリー研究。フランス象徴詩。生成論。クレオール文化論。 (25 黒岩 卓) 中世・ルネサンス文学・文献学・演劇。フランス語史。 (26 メヴェル ヤン) ベケット。デュラス。小説。演劇。詩学。思想史。芸術史。精神分析。フランス文学における日本の表象。 (14 有光 秀行) 西洋中世史(ブリテン諸島を中心に)。 (27 浅岡 善治) 西洋近現代史(ロシア革命史)。	

(用紙 日本工業規格A4縦型)

授 業 科 目 の 概 要			
(文学研究科総合人間学専攻 博士課程前期 2 年の課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	日本学総合科目Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本学の方法と資料 (1) 日本学研究の視座を多面的・総合的に説明できる。 (2) 日本学研究の資料・原典についての概略を説明できる。 【授業の概要】 日本学の方法を多面的・総合的にとらえ、日本学研究の視座をもつ。まず、日本学諸分野からの方法の提示がおこなわれる。そして、それをもとにして、日本学の研究資料を総覧する。日本学諸分野からの多面的・総合的な提示によって、日本学研究の対象・資料の概要をつかむ。研究資料についての提示にあたっては、附属図書館等に所蔵される原典もとりあげる。 (オムニバス方式／全15回) (38 高橋章則／2回) 日本学の過去・現在・未来 (47 クレイグ クリストファー ロビン ジェイミー／1回) 海外の日本学事情 (48 片岡龍／2回) 日本思想史学の方法、日本思想史学の原典 (49 甲田直美／1回) 日本語学の方法、日本思想史学の原典 (41 大木一夫／1回) 日本語学の原典 (50 小河原義朗／2回) 日本語教育学の方法、日本語教育学の資料 (42 佐倉由泰／1回) 日本文学の方法 (51 横溝博／1回) 日本文学の原典 (44 安達宏昭／1回) 日本史学の方法 (53 籠橋俊光／1回) 日本史学の原典 (45 阿子島香／1回) 考古学の方法 (54 鹿又喜隆／1回) 考古学の資料	オムニバス方式
	日本学総合科目Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本学の古典／原典を読む。 (1) 日本学研究の古典／原典の性格を説明できる。 (2) 日本学研究の古典／原典を精確に読み、その内容について議論できる。 【授業の概要】 日本学に関する古典的な文献（著作・論文）・日本学の研究資料となる原典を丁寧に読む。日本学の古典の理解、原典の多面的な読解を通じて、日本学研究のテキストから多様な観点を引き出し、日本学研究の基盤とすると同時に、日本学の考え方・方法を身につける。	
	広域文化学総合科目Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 広域文化学の基礎的な知識と視点を身につけ、学際的視点から文化をめぐる諸問題を考えることが出来る。 【授業の概要】 広域文化学では、自他の文化、歴史、言語、宗教のいかなる側面に注目し、それをいかなる視点から分析考察していくのか。本授業では広域文化学研究のために不可欠な基礎的知識と技法を分野横断的に学ぶとともに、それらを通して他者・異文化への共感力と適応力を涵養することを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (26 木村敏明／3回) 広域文化研究法の基礎 (25 沼崎一郎／1回) フィールドワーク研究法 (55 山田仁史／1回) 宗教民俗調査研究法 (56 谷山洋三／1回) アクションリサーチ研究法 (27 桜井宗信／1回) 文献学研究法 (28 三浦秀一／1回) アジア思想研究法 (58 土屋育子／1回) アジア文学研究法 (29 川合安／1回) アジア史研究法 (30 大河内昌／1回) 現代文学研究法 (31 島越郎／1回) 文法学研究法 (32 森本浩一／1回) メディア論研究法 (33 今井勉／1回) 現代詩研究法 (34 有光秀行／1回) 歴史史料研究法	オムニバス方式

	広域文化学総合科目Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 多文化共生をめぐる諸問題について広域文化学的視点から答えることができる。 【授業の概要】 本講義では共生文化を扱ったテキストを数冊とりあげ、その読解、発表、討論を通し広域的な多文化共生をめぐる諸問題について考える。グローバル化の進展する現代社会の各所で多文化共生は大きな課題となっている。広域文化学の研究はこのような課題にいかに対応することができるのか、本講義を通して考察していく。 (オムニバス方式／全15回) (26 木村敏明／5回) 域際文化学分野の視点から共生社会を扱った関連文献の読解と討論を通して現代社会における共生社会の問題について理解を深める。 (57 齋藤智寛／5回) 東洋文化学分野の視点から共生社会を扱った関連文献の読解と討論を通して現代社会における共生社会の問題について理解を深める。 (33 今井勉／5回) 西洋文化学分野の視点から共生社会を扱った関連文献の読解と討論を通して現代社会における共生社会の問題について理解を深める。	オムニバス方式
	総合人間学総合科目Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 人間の感情をめぐる総合人間学専攻の多様な学問的アプローチを学び、人間の感情について多角的に考察できるようになる。 【授業の概要】 総合人間学専攻では、人間と社会に関する抽象的・原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合することで、合理的で柔軟な思考力によって現実社会の課題を理解・解決することができる人材を育成することを目標としている。この科目は、この目標に向けて、人間の「感情」という共通テーマについて、総合人間学専攻の哲学倫理学講座、芸術人間学講座、社会人間学講座、心理言語人間学講座のさまざまな学問的観点から、学際的かつ総合的に考察するオムニバス講義である。 (オムニバス方式／全15回) (15 荻原理／5回) (哲学倫理学) イントロ・感情の哲学倫理学的考察 (3 長岡龍作／3回) (芸術人間学) 美術と感情 (13 木村邦博／2回) (社会人間学) 集団間関係と感情の計量行動科学／社会イメージと感情の計量行動科学 (11 小松丈晃／2回) (社会人間学) 感情の社会学 (5 阿部恒之／1回) (心理言語人間学) 感情研究史 (23 木山幸子／1回) (心理言語人間学) 言語が伝える感情 (6 坂井信之／1回) (心理言語人間学) 感情の脳科学	オムニバス方式
	総合人間学総合科目Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 研究発表と討議。総合人間学専攻のさまざまな学問分野に触れ、さまざまな観点からの質疑応答・討議を通じて、学際的な研究姿勢を養う。 【授業の概要】 総合人間学専攻では、社会と人間に関する抽象的かつ原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合して学ぶことが求められる。この演習科目では、総合人間学専攻の履修者が、各自の修士課程（前期課程）における研究課題などを他の講座（専攻分野）の教員・学生の前で発表し、さまざまな学問的観点からの質疑応答・討論をすることを通じて、社会と人間についての学際的かつ総合的な研究姿勢を培うことを目指す。 (16 原壱) おもに哲学倫理学分野の指導を担当する。 (3 長岡龍作) おもに芸術人間学分野の指導を担当する。 (10 永井彰) おもに社会人間学分野の指導を担当する。 (5 阿部恒之) おもに心理言語人間学分野の指導を担当する。	共同
特論	哲学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. 人文社会科学研究や社会制度に深い関連性をもつ認知神経科学上の研究成果を理解する。 2. そのような認知神経科学研究の成果に基づいて、人間や社会のあり方を理解する。 【授業の概要】 人文社会科学研究において人間や、人間の活動により作られる社会・文化が研究対象になる。近年、人間は実験的な手法をとる自然科学によりさかんに研究され始め、人間の活動が生物学的な理論によって説明されるようになった。このような人間の生物学的説明は、人文社会科学を刷新し、社会制度に大きな影響を及ぼす可能性がある。この講義では、人文社会科学研究や社会制度に深い関連性をもつ認知神経科学上の研究成果を紹介し、それにより人文社会科学上の知見や社会制度がどのような影響を受けるのかを議論する。	

哲学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 神経科学など先端科学が社会や人間観に与える影響を理解し、それを倫理的観点から評価できるようになること。 【授業の概要】 神経科学の発展に伴って、神経科学的知識が社会や人間観に与える影響について倫理的観点から考察し、場合により神経科学研究を規制したり、情報発信のあり方を再考したりする必要性が生じている。このような現代的課題を考察するのが神経倫理学である。この講義では、神経倫理学の代表的トピックを取り上げて、解説し、受講者と議論する。	
哲学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 カントの超越論的弁証論 カントの超越論的弁証論の基本骨格を理解するとともに、自己認識と自由の問題について、カント的な問題設定のうえで、みずから哲学的に思考できる。 【授業の概要】 カントの『純粋理性批判』における超越論的弁証論について講義する。超越論的弁証論の生成と問題構成をふまえて、超越論的弁証論で争われる個々の哲学的諸主題を検討したい。とりわけ、誤謬推理論における自己認識の問題と、第三アンチノミーで問われる人間的自由については立ち入った分析を試み、哲学的な問題考察へと踏みこむ。その他、関連する諸問題についても補論として触れる予定である。	
哲学特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. 学術的知識生産システムの概要を理解する。 2. 公正な研究のための様々な規範と、そのような規範が成立する根拠を理解する。 【授業の概要】 学術的知識生産システムの概要を展望し、その上で、公正な研究について講義する。公正な研究活動とは、妥当な手法を用いた実験や調査、分析を行い、先行文献や他の研究者の貢献を尊重しつつ、適切な仕方で文献を引用し、論文や原稿、ポスターを作成して、他の研究者や、一般の人びとが評価可能な仕方で研究発表を行なうことである。公正な研究活動において尊重されるべき規範には様々なものがあるが、この規範はいずれも、品質保証がなされた学術的知識生産システムの機能を促進したり、その機能を阻害する要因を排除したりすることに貢献する。したがって、公正な研究の理解には、学術的知識生産システムの分析が欠かせない。	
生命環境倫理学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 生命環境倫理の諸問題 生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考えることができる。 【授業の概要】 生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考える能力を養う。 科学技術の発展に伴って、生命・医療、環境など多様な領域に新たな問題がもたらされている。人類が大きな可能性を手にすることで、それまで自然に委ねられて問われなくても済んだ事柄に対し、新たに哲学的、倫理的取り組みが求められているのである。 今学期は、尊厳をテーマに、 1) 尊厳という概念 2) 尊厳概念の諸相（生命、環境、技術など） 3) 人間の尊厳と近代科学 について順に論じ、哲学的・倫理的問題の所在を明らかにする。	
倫理学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 近世哲学とライプニッツの基礎知識を学び、哲学の古典に独力で取り組む力を身につける。 【授業の概要】 ライプニッツ『形而上学序説』を、第一節から順を追って解説する。その際、ライプニッツが論敵として意識していたデカルトやスピノザ、マルブランシュたちの哲学はもとより、まさにこの著作の内容をめぐる書簡をやり取りしたアルノーとの議論についても適宜補足する。 この著作について学ぶことで、西洋近世哲学についての基礎知識を得ると同時に、神、世界、魂についての統一的説明という西洋形而上学の一つの典型を簡明な仕方で概観することができ、さらに、哲学の古典を読む際に気をつけるべきことも学ぶことができる。また、とりわけ論争的文脈にも気を配ることで、ライプニッツ（たち）の哲学的思考それ自体にもできるかぎり肉薄したいと考えている。	
倫理学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 基本的な二通りのものの見方についての理解を得る。 【授業の概要】 西田幾多郎の『善の研究』は、直接経験である「純粋経験」から出発し、一切をこの「純粋経験」の「自発自展」として説明する立場をとる。したがってこの西田の立場では、いわゆる主観と客観との対立は「主客未分の現前」へと解消し、主も客もない実在そのまま姿をある種の実践的理解のもとに記述するということが中心的な内容になる。授業では、こうした西田哲学の知見を基にして、ものの基本的な二つの見方を解説する。	

倫理学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 倫理学の基礎知識を身につけ、倫理的な問題設定や考え方、論述ができるようになる。 【授業の概要】 現代倫理学の基礎知識を学ぶ。授業計画としては、道徳的相対主義（広い相対主義と狭い相対主義）や道徳における認知主義と非認知主義、三つの規範倫理学、道徳的個別主義、神命論とその諸問題、福利論とその現代的展開、人生の意味（あわせて、倫理学における方法論としての日常言語学派と反証的均衡）などをこの順で扱う。	
東洋・日本美術史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：日本における信仰と造形、到達目標：宗教思想と美術の関係、美術に投影された世界観を理解し、美術表現を理解する方法を習得する。 【授業の概要】 不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。講義では、日本の宗教美術、特に彫刻をとりあげ、信仰との関わりから論じる。まず、その表現を観察した上で、造形をめぐる人間のありよう、時代ごとの世界観、そして造形を通じた信仰上の達成を確認する。これらの議論を通して、不可視の世界を含む宗教的世界観の中において、美術がいかなる役割を果たしているかをあきらかにする。	
東洋・日本美術史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：日本近世美術史、到達目標：美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにし、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。 【授業の概要】 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする。本講は、江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。	
東洋・日本美術史特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：東アジアの信仰と造形、到達目標：宗教思想と美術の関係、美術に投影された世界観を理解し、美術表現を理解する方法を習得する。 【授業の概要】 不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。講義では、東アジアの宗教美術、特に彫刻について論じる。まずは、表現について十分に観察した上で、美術をめぐる人間、美術を通じて獲得される宗教的達成、時代ごとの宗教的世界観、美術のある空間といった問題を振り返り、宗教において美術がいかに重要な役割を果たしているかについて考察する。	
美学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 西洋美学史の基本的な知識を得た上で、その翻訳の問題について理解する。東洋の美学との比較するための基盤をつくる。 【授業の概要】 西洋美学とは何かを考える上で、先ず西洋美学の中心となる根本的な問題、「美とは何か」、「芸術とは何か」、「作品とは何か」、「芸術家とは誰のことを指すか」などの問いに対し、時代に分けて考え、解説していく。その際に、様々な概念の翻訳の問題点に触れながら、先ず古代ギリシャ、ローマの美学、特にビタゴラス学派、プラトン、アリストテレス、プロティノスについて紹介する。その後、中世時代のキリスト教の美学を紹介し、ルネサンスの美学まで西洋の美学史の前半をまとめてから、近代およびカントを転機とした現代の美学に関する諸問題に触れる。	
美学・西洋美術史特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 美術作品の解説には、時代によってさまざまなアプローチがなされてきたが、鑑賞者の感性が作品解釈に大きなウェイトを占めること理解し、美術作品にアプローチする新たな方法論を学べる。 【授業の概要】 「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術の創造性がどのように生まれたのかを探っていききたい。その問題と並行して、感性論としての美術史としてアルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなど様々なネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていく。 1回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示す。	
美学・西洋美術史特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 美術作品の解説には、時代によってさまざまなアプローチがなされてきたが、鑑賞者の感性が作品解釈に大きなウェイトを占めること理解し、美術作品にアプローチする新たな方法論を学べる。 【授業の概要】 現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術の創造性がどのように生まれたのかを探っていききたい。その問題と並行して、感性論としての美術史としてアルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、16世紀後半にブラハで活躍したアルチンボルドを例に取りながら、アプローチしていききたい。	

芸術学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ネーデルラントにおける芸術論の成立と展開——ファン・マンデルの芸術論を中心に 【授業の概要】 ネーデルラントにおける本格的な芸術論は、カーレル・ファン・マンデルの『絵画の書』（1604年）をもって嚆矢とする。この授業では、ファン・マンデルの芸術論、とくに絵画論に焦点を絞りその成立過程をたどり、彼の絵画論からネーデルラントにおける美術蒐集家の美意識と美術市場の働きを描きだす。そして、17世紀のオランダ絵画に見られるジャンルの多様性とその受容のされ方について講じていきたい。	
実験心理学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 知覚・認知に関して深く学び、生体が外界を認識する機能的仕組みを理解する。 【授業の概要】 知覚・認知に関連した興味深い研究論文を取り上げ、その研究で解決しようとした問題、採用された方法論、結果のまとめ方、考察の妥当性などを吟味する。取り上げる研究は、個別の感覚モダリティ（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・体性感覚等）についての最新知見や、これらの感覚モダリティの相互作用、さらには顔の知覚、味わいのメカニズムなど、広範な内容から精選する。	
実験心理学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 感情研究において身体性がどう位置付けられているかを理解することを目指す。 【授業の概要】 化粧という日常行為を取り上げ、この行為を心理学的に解明する過程を詳述する。それによって、感情という心理現象の生物学的基盤を理解し、心と体の相互作用について深く論考して欲しい。また、解決すべき謎を見出し、解決可能な研究課題を立て、その研究課題を解決することで謎を明らかにするという研究の道筋を追うことで、自ら行う研究の方法論を身につけてもらいたい。	
実験心理学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 ヒトの心理機能の神経学的基盤を包括的に理解することにより、日常生活で現れる心理学的事象を支える神経基盤の問題を推定できるようになる。 【授業の概要】 この授業では、ヒトの行動や社会生活、思考などに関連するヒトの高次脳機能について、認知神経科学や行動神経科学領域の研究を中心にレビューする。授業の前半ではヒトの脳機能の理解に必要なニューロンの構造や伝達機構から経験によるシナプスの変化、脳の損傷などまで、神経科学・生物学的な側面を扱う。後半ではヒト特有の脳機能について日常生活の事例をあげながら解説する。	
実験心理学特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 データを分析するために必要な統計学の基礎理論について学ぶ。 【授業の概要】 記述統計学と推測統計学の基礎について、高校段階程度まで遡って基礎から身に着ける。この授業では前半でデータの記述手法について、クロス集計表、ヒストグラム、相関などについて学ぶ。後半では標本に基づいて母集団を推測する手法について、正規分布や平均などを中心に学ぶ。さらにこれらの知識を、調査の基礎理論や実験計画法へ適用し、修士論文研究へとつなげる。	
社会心理学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 本授業のテーマは、反社会的行為（犯罪や非行）を、社会心理学的な視点から捉えることである。また、本授業の到達目標は、 (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解すること、 (2) 犯罪や非行の原因を社会心理学の視点から理解することである。 【授業の概要】 日常で発生する反社会的行為（犯罪や非行）を、社会心理学的な視点から捉えることで、そうした反社会的行為を理解するための知識を習得することを目的とする。授業は基本的な知識を提供する講義形式に加えて、受講生同士でディスカッションを行う形式で進める。	
社会心理学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 文化と社会に関する心理学、および関連研究領域の主要な知見を理解する。 【授業の概要】 人間の行動や心理の主要な文化差、文化差が生じるメカニズム、文化が異なる人々が接触した際に生じる諸現象などに関する心理学および関連研究領域の先端的知見を解説していく。具体的には進化と学習など文化研究の基礎となる知見、行動や心理の文化差と近年の理論論争、社会生態環境への適応、文化変容とアイデンティティ、現代社会における多文化主義などをとりあげる。	
心理学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 規範・モラルに関する心理学的なアプローチを広範に学び、規範・モラルの成立に及ぼす心理学的要因を理解する。 【授業の概要】 ゴミのポイ捨てや被災時の逸脱行動等の具体事例に即して、規範・モラルの心理学を学ぶ。ゴミのポイ捨てに関わる理論としては、環境デザインによる犯罪予防（CPTED: Crime Prevention Through Environmental Design）、割れ窓理論、状況的犯罪予防・合理的選択理論、日常活動理論など、様々な理論が提案されている。被災時の逸脱行動を集合行動の観点から考えるとき、その理論は、感染理論、収斂理論、創発規範理論と発展的に展開した。これらの多様な理論を総合的に考察することで、規範・モラルへの新たな視点を獲得して欲しい。	

言語学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 種々の言語学研究法との対比におけるコーパス言語学の特徴を理解し、言語研究に役立てられるようになる。 【授業の概要】 20世紀以降の言語学の流れにおけるコーパス言語学の位置づけを確認し、コーパスの手法による言語研究の特性について理解を深める。英語および日本語を対象にしたいくつかのコーパスの内部資料を読み、その背後にある考え方（コーパスの設計、アノテーション）を理解する。代表的なコーパスからさまざまな条件で検索してみて、結果の解釈の問題について考察する。	
言語学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 言語と思考との関係について自分の言葉で説明できるようになること。 【授業の概要】 どのような語順の言語を話すか（母語に持つか）にかかわらず人間の思考で最も好まれる順序は「動作主・被動者・行為」であるとする仮説がある(e. g. Goldin-Meadow et al 2008)。この一般化がOS言語（目的語が主語よりも前にくる語順を基本語順とする言語）の話者についても当てはまるかどうかを言語認知脳科学の様々な研究事例に基づいて検証する。	
言語学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 語彙体系について、言語の他の側面との関連において、理解を深める。 【授業の概要】 単語という単位は言語において一見自明の存在であるように思えるが、実際には複雑な側面を抱えている。単語は個別に存在するのではなく、互いにさまざまな関係を結びつつ、語彙体系を構成している。この授業では、日本語・英語および他の言語を取り上げ、語彙体系を音韻や文法との関係において捉えなおし、また内部に見られるさまざまな関係性の観点から語彙体系を考察する。	
言語学特論Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 ことばは、様々な状況で、様々な話し手と聞き手の間のやりとりに用いられる。「語用論 (Pragmatics)」は、ことばの意味が状況や対人関係に応じてどのように変わるかを分析する学問である。本科目では、調査・実験による言語運用研究の関心事の要点、またそれに応じた方法論の概要を理解する。実証的な言語研究における計画を立案し、その独創性を他者に説得的に伝えられるようになる。 【授業の概要】 国際学術誌上で発表された調査・実験による言語研究論文を、受講生自身が理解してまとめ、他の受講生と共有する。主要な先行研究の関心や方法論を踏まえ、仮想研究計画書をまとめる。	
学習・言語心理学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 学習心理学および言語心理学の目指すところ、主要な理論、方法論、研究成果の要点を理解し、それを専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。 【授業の概要】 受講生たちが分担して学習心理学および言語心理学の各領域で行われている先端的研究について調査し、概要をまとめて紹介する。そこから得られている知見に基づいて全員が議論をし、それによって学習心理学および言語心理学で研究される主要なトピックの要点を把握する。	
理論社会学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 社会学にとって社会理論がいかなる意味を持つのかについて理解できるようになる。 ハーバーマスの社会理論についてその論理構造を理解できるようになる。 【授業の概要】 ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにする。コミュニケーション行為理論の論理構造を解明する。シュッツの生活世界論を手がかりにしてなされる生活世界論の再構成を検討する。生活世界とシステムの関係について論じる。ハーバーマス社会理論の現代的意義について考察する。	
理論社会学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 現代社会が直面するリスクとのつきあい方について自分なりに考察できる手がかりを得る。 【授業の概要】 現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとの「つきあい方」について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知（想定外）の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。	

社会変動学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. 世界と日本の環境社会学の特質を把握する。 2. 環境社会学を生み出す契機となった社会運動と社会運動研究について把握する。 3. パリ協定採択を契機とした、各国のエネルギー政策や気候変動政策、産業政策について理解する。 4. 日本のエネルギー政策の特質と課題点を把握する。 【授業の概要】 1. 環境社会学と社会運動論の歴史を振り返り、それぞれの研究課題を把握する。 2. 具体的な環境問題として原子力発電、気候変動問題を取りあげ、環境政策と社会運動の接点から、理論的および実践的課題について理解を深める。 3. これらをとおして、福島原発事故の当事国である日本がなぜ変わらないのか、現代日本の社会と政治の課題について考察する。	
社会変動学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 社会変動に関する社会学の代表的な学説・理論の概要を習得する。(2)それらの学説・理論を手がかりに現代社会の諸傾向について自分なりに分析する方法を習得する。 【授業の概要】 この授業では、現代社会の「グローバル化」と「リスク社会化」という二つの大きな社会変動を取り上げ、これら二つを関連づけつつ、社会学の学説や理論・方法をふまえて考察する。まず前半では、リスク社会化について、次にグローバル化について主要な論点を整理し、その後、後半において、受講者による報告・討論も行う。	
社会学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ： 質的フィールドワーク概論 到達目標： 1. 社会学における質的フィールドワークの基礎的技法について認識を深める。 2. 方法についての考え方、意義と限界、調査倫理の基本について理解できる。 3. オルタナティブな技術や態度、新しい調査倫理についても認識を深める。 【授業の概要】 資料蒐集、日誌、ノーツ、著述といった基本を実践してもらいつつ、オリジナル教材を使った講義を通じて種々の質的方法について理解を深める。質的著述とそれについて再帰的に著されたテキストを読み進め、半ば講読・演習形式を加えて考察を深める。	
社会学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 地域ケア・システムの社会学 【授業の概要】 医療や福祉をめぐる地域社会の動態を地域ケア・システムの社会学として解説する。地域ケア・システムの概念を提示し、地域ケア・システムの概念が必要とされるようになった社会的文脈について明らかにする。そのうえで、日本各地の事例に即して地域ケア・システムの形成や展開の過程について検討する。地域ケア・システムと地域自治の関連について論じる。	
社会学特論Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 社会集団論にかかわる社会学の諸概念を習得する。(2) 現代社会の人間集団や各種組織がどのような課題を抱えているのかを精確に理解する。 【授業の概要】 この授業では、現代社会の集団と組織の在り方について社会学的に考察し、集団類型論、集団の中の人間関係、組織と官僚制あるいは官僚制の逆機能、地位と役割、などの基礎的・理論的な内容を学んだ後、後半では現代社会の具体的な集団・組織の在り方や課題について分析する。	
社会行動科学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 多文化共生をテーマとして取り上げ、日本での共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。 【授業の概要】 日本における外国人住民の生活状況について、様々な社会制度との関わりを検討する。具体的には、外国人住民の就労の状況や福祉・医療に関する状況、外国人の子どもの教育の状況、地域での共生の状況について、移民制度や労働市場制度、福祉制度、医療制度、教育制度とのかかわりを考える。	
社会行動科学特論Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 政治心理学の諸理論を理解し、ポピュリズムの隆盛など近年国内外の政治的現象について説明できるようになる。 【授業の概要】 政治意識や世論の形成メカニズムに関する政治心理学の古典的研究や最新の知見を紹介する。具体的には、政治的社会化、階層と政治意識の関連、政治知識と政治的有効性感覚、政党支持、自己利益と価値観の影響、メディアの影響、選挙制度の影響、ポピュリズムなどを取り上げる。	
計算人文社会学特論Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 計算人文社会学の基本的な考え方を理解した上でテキストマイニングの諸手法と応用を学ぶ。 【授業の概要】 ビッグデータへの応用を念頭に置いてベイズ統計・機械学習・シミュレーション・自然言語処理等の基礎について概説した上で、質問紙調査への自由記述による回答、インターネット上のコミュニケーション、文献資料、政治演説、会議議事録などから得たデータを用いたテキストマイニングの研究動向を紹介する。	

総合演習	哲学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 哲学研究の作法と技法Ⅰ 口頭発表と討論を通して、哲学的判断力および表現力の基礎を身につける。 【授業の概要】 口頭発表と討論を通して、哲学的判断力および表現力を養う。参加者は自らの研究テーマについて問いを設定し、協議して決めた発表日までに、発表資料（レジュメ等）を作成する。発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、全員で自由な討論を行う（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席し、必要に応じてコメントする）。 参加者は、研究テーマの発見、発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。また、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、建設的な議論を行う力を養う。哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。 上記の内容を4名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	哲学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 哲学研究の作法と技法Ⅱ 口頭発表と討論を通して、哲学的思考力を発展させる。 【授業の概要】 口頭発表と討論を通して、哲学的思考力を発展させる。参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。 参加者は、適切な研究テーマの設定、論文作成および発表の方法、学会における討論の仕方等について、発展的なトレーニングを積む。また、特定質問者の役割を果たすことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に批判・評価し、確認や反論などしつつ建設的な議論を行う力を養う。哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。 上記の内容を4名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	倫理学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ベルクソン、マルセル、ハイデガーの哲学についての理解を得る。 【授業の概要】 現代のフランス哲学はドイツ語圏からの影響を大きく受けており、なかでもハイデガーの思想はベルクソン以降のフランス哲学に決定的な影響を与えている。授業では、まずベルクソン哲学を現代フランス哲学の源流に位置するものの一つとすることから始め、ハイデガーの思想からの影響を受けたものとして、フランス実存思想として知られるマルセルの哲学を取り上げる。進め方としては、演習形式を中心として、フランスやドイツの現代哲学の知見を基にして人間存在と倫理の関係を解説する。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	倫理学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 現代倫理学の諸問題について考えるための基礎を身につける。 【授業の概要】 現代の、とりわけ英語圏の倫理学は、論理学、インフォーマル・ロジック、言語哲学についての広範な知識を用いてなされており、そうした分野についての一定の知識がないと専門書や論文を読んで理解することはできない。この演習では、現代倫理学の論文を主要なテキストとして、上記の分野についての基礎知識、ならびにそれらが倫理学の議論に実際にはどう用いられているかということについて学ぶ。そうした知識を身に付けたうえで、自分でも議論を展開できるようになることが目標である。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	心理学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 受講生それぞれが研究の計画や成果を発表し、それをもとに討論をする。このことを通じて、実験や調査などの研究活動を進展させる。加えて、他社の発表を聞き、議論に参加することで、自らの研究領域にとらわれず、心理学の広範な領域の研究についての理解を深める。 【授業の概要】 受講生がそれぞれの研究活動についてプレゼンテーション資料を作成し、それを投影しながら発表する。レジュメも作成して全員に配布する。発表後は教員も交えて、全員で討論を行う。 上記の内容を4名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	心理学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 受講生それぞれが研究の計画や成果を発表し、それをもとに討論をする。このことを通じて、実験や調査などの研究活動を進展させる。加えて、他社の発表を聞き、議論に参加することで、自らの研究領域にとらわれず、心理学の広範な領域の研究についての理解を深める。 【授業の概要】 受講生がそれぞれの研究活動についてプレゼンテーション資料を作成し、それを投影しながら発表する。レジュメも作成して全員に配布する。発表後は教員も交えて、全員で討論を行う。 上記の内容を4名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同

	言語学総合演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 受講者それぞれが自身の研究の計画や成果を発表し、それをもとに授業参加者間で討論をすることにより、研究遂行のための能力を向上させるとともに、言語学のさまざまな研究領域や方法論について理解を深める。 【授業の概要】 この授業では、受講者が自身の研究活動について、資料を配布してプレゼンテーションを行い、その後、それに基づいて教員および出席者全員で討論を行う。討論においては、研究テーマの設定、調査や実験の方法の妥当性などの面に特に留意する。 上記の内容を3名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	言語学総合演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 受講者それぞれが自身の研究の計画や成果を発表し、それをもとに授業参加者間で討論をすることにより、研究遂行のための能力を向上させるとともに、効果的な発表の方法を実践的に向上させることを目的とする。 【授業の概要】 この授業では、受講者が自身の研究活動について、資料を配布してプレゼンテーションを行い、その後、それに基づいて教員および出席者全員で討論を行う。討論においては、分析や考察の進め方の面に特に留意するとともに、効果的なプレゼンテーションの方法にも配慮して、向上を図る。 上記の内容を3名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
	哲学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語で書かれた哲学的テキストに慣れ、速読して、内容を理解できるようになる。 【授業の概要】 Ernst Tugendhat & Ursula Wolf が執筆した Logisch-semantische Propädeutik は、初学者用の分析哲学の教科書であり、平易はドイツ語で書かれている。この演習では、毎授業一章ずつ読解して、一学期間でこの本を通読する。毎回担当者を決める。担当者は分担して、レジュメを作成し、発表する。	
	哲学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 哲学の方法論を身につけるための演習を行なう。到達目標は以下の通り。 1. 哲学論文の分析方法に習熟する。 2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。 【授業の概要】 哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読解し、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方議論を組み立てれば、独自性のある、〈哲学〉らしい研究になるのか。 この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を講義した後、サイモン・ブラックバーン著『ビッグクエスチョンズ 哲学』（山邊昭則・下野葉月 訳）を用いたワークショップ型の演習を行なう。受講者は4つのグループに分かれ、グループ別で討論を行ない、議論内容を一枚のポスターにまとめて、研究発表を行なう。発表されたポスターについて受講者全員で討論し、その上で、各人が、自分が担当したテーマについて小論文を作成する。最後に、執筆した小論文を交換して、相互にコメントをつけ、各人はもらったコメントに従って、論文内容を修正し、論文を完成させる。	
研究演習	古代中世哲学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 古代中世のテキストを語学的・内容的に正確に読解し、これをもとに哲学的な考察・議論ができるようになる。 【授業の概要】 アリストテレス『自然学』第1巻を原語、古代ギリシアで読み、これについて哲学的考察を加える。毎回、事前に担当者を決めておく。担当者はまず自分の担当箇所を音読し、訳す。他の参加者や教員が訳に関しコメントをする。次に、皆でこの箇所の内容について議論を展開する。適宜、翻訳や注釈を参照する。場合により、関連論文も取り上げる。	
	古代中世哲学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 古代中世のテキストを語学的・内容的に正確に読解し、これをもとに哲学的な考察・議論ができるようになる。 【授業の概要】 アリストテレス『自然学』第2巻を原語、古代ギリシャ語で読み、これについて哲学的考察を加える。毎回、事前に担当者を決めておく。担当者はまず自分の担当箇所を音読し、訳す。他の参加者や教員が訳に関しコメントをする。次に、皆でこの箇所の内容について議論を展開する。適宜、翻訳や注釈を参照する。場合により、関連論文も取り上げる。	

近代哲学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 カント『純粹理性批判』研究 哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。 【授業の概要】 カント『純粹理性批判』（1781/87年）の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示した超越論的演繹論を承けて、さらにカテゴリーを時間的に図式化し、それぞれをアприオリな総合判断（原則）のかたちへと定式化してゆくところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。 前期は図式論から原則論を、後期は引き続き原則論を、原文のドイツ語で読みすすめる（範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある）。また英語・ドイツ語・日本語などの各種コメンタリーや研究書・論文などを、輪番でレジュメにして報告してもらう。	
近代哲学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 カント『純粹理性批判』研究 哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。 【授業の概要】 カント『純粹理性批判』（1781/87年）の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示した超越論的演繹論を承けて、さらにカテゴリーを時間的に図式化し、それぞれをアприオリな総合判断（原則）のかたちへと定式化してゆくところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。 前期は図式論から原則論を、後期は引き続き原則論を、原文のドイツ語で読みすすめる（範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある）。また英語・ドイツ語・日本語などの各種コメンタリーや研究書・論文などを、輪番でレジュメにして報告してもらう。	
現代哲学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 フッサール「幾何学の起源」を読む。 現象学の原典を読み、その基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。 【授業の概要】 フッサールの晩年に書かれた「幾何学の起源」はいかにして理念的対象が意識に与えられてきたかを解明した本として名高い。また、後にデリダやメルロ＝ポンティが長大なコメントを付けたことでも有名である。この遺稿は、当初「志向的一歴史的問題としての」という形容詞が付けられて発表されたことから伺われるように、現象学の基礎概念である生活世界や歴史、言語などについて探求したものである。現象学的な科学哲学のみならず、歴史哲学、言語哲学などにも射程は伸びている。 この授業では現象学について最低限の紹介をしたのち、この遺稿をドイツ語の原文で読む。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進める。ドイツ語に慣れない学生は邦訳（英訳・仏訳）を参照してもよい。キー概念を元に現象学についての説明を加えるほか、不明点・問題点があればその都度議論する時間をとる。また、デリダやメルロ＝ポンティのコメントについて適当な時期に大学院生などに報告してもらう。	
現代哲学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 フッサール「幾何学の起源」を読む。 現象学の原典を読み、その基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。 【授業の概要】 フッサールの晩年に書かれた「幾何学の起源」はいかにして理念的対象が意識に与えられてきたかを解明した本として名高い。また後にデリダやメルロ＝ポンティが長大なコメントを付けたことでも有名である。この遺稿は、当初「志向的一歴史的問題としての」という形容詞が付けられて発表されたことから伺われるように、現象学の基礎概念である生活世界や歴史、言語などについて探求したものである。現象学的な科学哲学のみならず、歴史哲学、言語哲学などにも射程は伸びている。 この授業では、前期に引き続き、この遺稿をドイツ語の原文で読む。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進める。ドイツ語に慣れない学生は邦訳（英訳・仏訳）を参照してもよい。キー概念を元に現象学についての説明を加えるほか、不明点・問題点があればその都度議論する時間をとる。また、デリダやメルロ＝ポンティのコメントについて適当な時期に大学院生などに報告してもらう。	
科学哲学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 分析哲学・科学哲学の文献読解に必要な基礎概念を学ぶ。以下が授業の到達目標となる。 1. 集合論、様相などの基礎概念に習熟する。 2. 英語で書かれた哲学文献を読解することができるようになる。 【授業の概要】 分析哲学や科学哲学の文献を読解し、理解を深めるためには、論理学や確率、様相などの基礎概念への習熟が欠かせない。イギリスの科学哲学者 David Papineau の Philosophical Devices は、この必要性を満たすために、文系の学生向けに書かれた著作である。前期では、この本の前半、つまり集合論を扱った第1部と、必然性と偶然性、アприオリとアポステリオリ、分析性と総合性について解説している第2部を検討する。	

科学哲学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 分析哲学・科学哲学の文献読解に必要な基礎概念を学ぶ。以下が授業の到達目標となる。 1. 確率、論理学などの基礎概念に習熟する。 2. 英語で書かれた哲学文献を読解することができるようになる。 【授業の概要】 分析哲学や科学哲学の文献を読解し、理解を深めるためには、論理学や確率、様相などの基礎概念への習熟が欠かせない。イギリスの科学哲学者 David Papineau の Philosophical Devices は、この必要性を満たすために、文系の学生向けに書かれた著作である。後期では、この本の後半、つまり確率を扱った第3部と、論理学について解説している第4部を検討する。	
生命環境倫理学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 生誕や差別の生命倫理学 生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになる。 【授業の概要】 科学技術の発展に伴って、生命・医療、環境など多様な領域に新たな問題がもたらされている。人類が大きな可能性を手にすることで、それまで自然に委ねられて問われなくても済んだ事柄に対し、新たに哲学的、倫理的取り組みが求められているのである。生殖医療、再生医療について、生命へのいかなる介入が認められるかが問われていることはよく知られているが、これは新たな問いである。この授業では、このような新たな技術の導入とそれが人の尊厳、とりわけ差別と関わってくる問題について考えていくことにする。参加者による英語論文(Erik Parens、Adrienne Asch(ed.)、Prenatal testing and disability rights、2000;Allen Buchanan、Beyond Humanity? 2011;Simon Peter van Rysewyk、Matthijs Pontier(ed.)、Machine Medical Ethics、2015などから適宜選択する)の紹介と討論をメインとするが、適宜日本語の論文も取り上げる。	
倫理学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ハイデガーの存在論についての理解を得る。 【授業の概要】 ハイデガーの哲学は『存在と時間』にその出発点における基本的な立場を読み取ることができる。その基本的な立場の一つに「存在論的差異」があり、これに立脚することによってハイデガーは従来の形而上学とは一線を画するみずからの哲学的思索を開始する。授業では、まずこの「存在論的差異」に焦点をあて、そのほか、『存在と時間』の中心的な問題構制を取り上げ、演習形式を中心に、ドイツの現代哲学の知見を基にして人間存在の捉え方を解説する。	
倫理学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 ハイデガーの存在論についての理解を得る。 【授業の概要】 ハイデガーの哲学は『存在と時間』にその出発点における基本的な立場を読み取ることができる。その基本的な立場の一つに「存在論的差異」があり、これに立脚することによってハイデガーは従来の形而上学とは一線を画するみずからの哲学的思索を開始する。授業では、まずこの「存在論的差異」に焦点をあて、そのほか、『存在と時間』の中心的な問題構制を取り上げ、演習形式を中心に、ドイツの現代哲学の知見を基にして人間存在の捉え方を解説し、ドイツの現代哲学の知見を基にして人間存在の捉え方をわかりやすく説明する。	
倫理学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語で書かれた哲学書を正確に日本語に訳し、内容を批判的に吟味できるようになる。 【授業の概要】 デカルト（1596-1650）が自らの哲学を簡略なかたちで提示した『方法叙説』（1637）第四部をフランス語で読む。デカルト哲学が本格的に展開されているのはラテン語で書かれた『省察』（1641）のほうであり、『方法叙説』第四部は言うならその予告編でありダイジェスト版である。とはいえ、簡潔なので見通しがよく近寄りやすいだけでなく、固有の問題を含んだとても面白いテキストである。フランス語テキストを読むと同時に、アルキエによる注釈（フランス語）や関連する研究論文・哲学書（日本語）などについての報告も挟むことによって、デカルトの思索をフランス語で辿り直しつつ現代の目から再検討することを目指す。	
倫理学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 倫理学の論文を正確に読解し、自分なりの問題設定、論述、質問、議論ができるようになる。 【授業の概要】 「善悪は相対的なのか」「道徳的問題に客観的な答えはありうるのか」「競合しあうさまざまな価値観を前にして私たちはどうすべきなのか」といった問題、まとめて言えば道徳的相対主義をめぐる問題について、倫理学の入門書や論文・書籍の一部（いずれも日本語）を読みながら考える。 担当者によるテキストの報告をもとにした議論を何回か続けたのち、五月なかば頃に4,000字程度のレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していく。	

東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：美術史基礎資料読解 到達目標：基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。 【授業の概要】 美術と深く関わる基礎資料を読み込み、その内容が美術作品とどのように関わっているかを探求し、資料の創造的な読みを実践する。本年度は、造像や写経などの仏教的な作善の際に作成された「願文」をとりあげ、そこに込められた願意を読み取ることに勤める。その作業を通じて、信仰上における美術の役割を、史料に即して的確に捉えることをおこなっていく。	
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：美術資料を読む。 到達目標：本講は、対象となる作品に即して読み取るべき情報とは何かを考え、その優先順位を見極め、さらにそれを的確な言葉で表現する能力の養成を目的とする。作品から情報を読み取る「インプット」と、それを第三者に伝える「アウトプット」の両面を重視し、単に美術作品にとどまらない情報収集能力と説明能力の向上を目指す。 【授業の概要】 「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは、「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現するため、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから1作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を訓練するプログラムである。隔週ごとに方法が変わるが、いずれも学習者が発表する実践形式をとる。一方は類似する2作品のプリントを配布し、作品間に存在する相違点を観察して指摘していく。もう一方は、1作品のプリントとその解説を配布し、内容に優先順位を踏まえたうえでの必要な情報が提示されているか、具体的な論拠は示されているかなど、その問題点や矛盾点を指摘していく。	
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。批判力や作品を分析する能力が身につくと同時に、英文を精読するスキルが身につく。 【授業の概要】 西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin、Simiolus、Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。	
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 美学・西洋美術史研究演習Ⅱは、Ⅰの継続となる。取りあげる時代、地域は重なるが、Ⅰで取りあげたものよりも、さらにレベルの高い語学力、問題発見能力を養う。西洋美術史の最新研究の中から、ルネサンス以降の美術作品の研究動向、ケーススタディともいえる論文を取りあげ、修士論文や雑誌論文などを執筆する力を養う。そうした訓練を積むことで、批判力や作品を分析する能力が身につくと同時に、英文を精読するスキルが身につく。 【授業の概要】 西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、美学・西洋美術史研究演習Ⅰと同様、問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin、Simiolus、Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された汎用性の高い論文を中心に取りあげる。	
美学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を精読し、理解する。美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論をする能力を養う。 【授業の概要】 西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を比較しながら、美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論を行う。今年度は、特にニーチェを取り上げ、先ず早期のニーチェの「悲劇の誕生」を中心として、ロマン主義の美学（ショーペンハウアーなど）を紹介する。そして、ニーチェとワーグナーの関係に触れ、造形美術と音楽の美学について述べる。ニーチェの解釈の中のギリシャ文化の理解に基づいて、後期のニーチェの思想の中のニヒリズムの問題を取り上げ、ニヒリズムと現代芸術・美学の関係を見た上で、アヴァンギャルドとバタイユ、ハイデガー、ドゥルーズなどの思想に対するニーチェの美学の影響について考えていく。	
実験心理学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 知覚・認知心理学の研究論文を学び、自ら論文を書く力を身につける。 【授業の概要】 視覚・嗅覚・体性感覚に関する研究論文を講読し、個別に発表してもらう。そして、グループディスカッションを通じて、互いの意見を交換し、ご論を深める。講読する論文は、図書館の豊富なデータベースを駆使して、自ら見つけてもらう。論文の選択は学生に任せるが、ゲシュタルト心理学などの古典的な論文と、ブレイン・イメージングなどを駆使した最新の研究の双方を選んでもらうことで、知覚・認知心理学の展開を学んでほしい。	

実験心理学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 生理心理学・感情心理学の研究論文を学び、自ら論文を書く力を身に着ける。 【授業の概要】 まずは古典である、ジェームズ・ラング説とキャノン・バード説の間で交わされた論戦を読み、生理心理学・感情心理学の問題意識を養ってもらおう。そのうえで、ル・ドゥーの二経路モデルやダマシオのソマティック・マーカー仮説などの最近の論文を読み、生理心理学・感情心理学の発展を俯瞰してもらいたい。また、発表を行うだけではなく、グループディスカッションを通じて、理解を深める。	
実験心理学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 応用心理学（行動経済学・食行動・健康心理学）の文献研究 1. 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。 2. 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。 【授業の概要】 この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。	
実験心理学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 心理学的測定論に基づく手法を用いて収集デザインを自力で構想することが可能になること。 【授業の概要】 英語の教科書を交え、古典的テスト理論と項目反応理論を対比しつつ理念的な理解を深める。古典的テスト理論ではTraubのReliability for the social sciencesを底本としながら、統計結果の信頼性について議論する。項目反応理論では、Hambleton et al.のFundamentals of item response theoryを底本として、調査結果とモデルの整合性について論じる。	
社会心理学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 本授業のテーマは、社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読し、最新の研究知見を理解することと研究手法を修得することがテーマである。 本授業の到達目標は、 1. 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、反社会的行為に関する心理学理論や知見への理解を深めること。 2. 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、心理学の研究手法への理解を深め、修得すること。 【授業の概要】 本授業では、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読し、日常生活で生じる反社会的行為に関連する心理学的な知識を深めることを第一に目的とする。また他の受講生とディスカッションをしながら、心理学の研究手法の理解を深め、その方法を修得することを第二の目的とする。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけではなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。	
社会心理学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 コミュニティ・文化・社会行動などに関する社会心理学関連の論文を講読し、主要な理論と研究の方法論を学ぶ。あわせて論文や文献を調べて的確に発表する力を涵養する。 【授業の概要】 本授業では、コミュニティ、文化、社会行動、集合現象、アクション・リサーチなどに関する社会心理学関連の論文を精密に読解する。それぞれの論文でとりあげられている理論モデルを理解するとともに、実際に研究を行うための具体的な方法や技術を学習する。授業では、指定した論文を精密に読み、受講生による発表と討論を行う。	
言語学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 言語の音声面の理解を理論的かつ実践的に深める。 【授業の概要】 国際音声記号の概要に関する知識を前提としつつ、この授業では音声言語の生成と記述、分析について、一般音声学的な観点から観察と発音練習を行う。あわせて、日本語、英語その他の言語の音声サンプルも利用して、さまざまな種類の子音や母音の調音、音声連続における諸現象、プロソディーの諸相を観察し、音声言語への理解を確実なものにする。	
言語学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. 言語学（特に形態論と統語論）の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになる。 2. 言語学の基礎的な概念・原理を用いて具体的な言語現象を自分で分析できるようになる。 3. 上記1、2を日常的な言語運用力向上に意識的に役立てる姿勢・習慣を身につける。 【授業の概要】 1. 言語の分析に必要な基礎的な概念と原理（特に形態論と統語論）を学ぶ。 2. 日本語や英語が世界の諸言語のなかで言語学的にどのような位置付けなのかを考察する。	

言語学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 言語研究に必要なデータ分析の実習を行う。特に、言語運用に及ぼす多様な要因の影響を考察するための種々の多変量解析の手法を扱う。言語データの多変量解析から示される結果の興味深さを味わい、言語学の理論に立脚した考察を展開する素地を身に着ける。 【授業の概要】 定量的言語研究に必要な多変量解析手法の要点を把握する。用意された課題データについて、統計ソフトウェアを使いながら分析を体験する。	
社会学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 質的調査法について専門的に理解できるようになる。 【授業の概要】 質的調査法について学ぶとともに質的調査法に基づいた調査設計を考えてみる。フィールドワークの考え方について学びその手法について学習する。参与観察の考え方とその手法について学習する。生活史調査についてその考え方を学ぶとともに、その手法について学習する。それらの学習をふまえて、履修者みずからで調査計画を考案する。その研究計画を履修者相互で点検する。	
社会変動学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 社会運動を総合的に理解するためには、どのような視点が必要なのか。集合行動論、資源動員論、新しい社会運動論、フレーミング理論などが提起した問題を考察し、社会運動論の現代的な課題と成果を探究する。 【授業の概要】 代表的な英語論文を取りあげ、資源動員論の誕生の意義を焦点に集合行動論に始まり、新しい社会運動論および社会運動と文化研究に至る社会運動論の主要な流れや論点を理解する。 日本の社会運動への適用可能性・応用可能性を検討する。	
社会変動学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 公共圏の構造転換の社会学 公共圏の概念を理解するとともに、文芸的公共圏を基盤とした政治的公共圏の形成や、19世紀末からの公共圏の公共圏の構造転換がいかなる社会的論理に基づいて生じたかを理解する。公共圏の概念の現代的な社会論における意義について理解する。 【授業の概要】 『公共性の構造転換』の精読をつうじ、公共性の構造転換について理解を深める。公共圏と社会変動の関連について検討する。公共圏論の現代社会論的な意義について議論する。	
理論社会学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. 社会学の外国語専門文献の読解方法を習得する。 2. リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ。 【授業の概要】 この授業では、「リスク」や「不確実性」に関する社会学の定評のあるテキストであるTaylor-Gooby&Zinn, eds., Risk in Social Scienceを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに「リスク社会化」する社会を、社会的にいかに論じうるかを探してみたい。	隔年
理論社会学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造が理解できるようになる。 【授業の概要】 Faktizität und Geltungを精読し、ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造を理解する。事実性と妥当性の緊張とはいかなることかを理解する。討議原理を基礎とした権利体系の再構成について理解する。コミュニケーション権力と行政権力の関連の見地からなされる近代国家理論について理解する。	隔年
理論社会学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 1. 想定外の事象や「知らないこと」を社会的に論じていくための手がかりを得る。 2. 想定外の事象が頻発する社会の新しい統治実践を批判的に考察できるようになる。 【授業の概要】 東日本大震災後「想定外」という言葉がよく語られたように、想定外や「無知」は現代の重要な鍵概念の一つとなっている。この授業では、A. Aradauらのテキストをもとに議論を進めるが、東日本大震災の事例をも念頭に置きながら、リスク管理の枠を超え人間の知識の「限界」を浮き彫りにする「カタストロフィ」や「想定外の出来事」について、受講生とともに社会的に考察し議論する。	隔年
理論社会学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 社会科学の中の社会学 【授業の概要】 内田義彦と大塚久雄の著作を手がかりに、社会学の特徴を考える。マキャベリ、ホッブズ、ルソー、スミスらのテキストを素材として人間における社会認識の深まりとはいかなることかについて検討するとともに、それとの関連において社会的思考の特徴について議論する。ウェーバー社会学とマルクス経済学の対比を学ぶとともに、社会学的方法の特徴について議論する。	隔年

数理行動科学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 テキストを輪読して、エージェント・ベースト・モデルの考え方を理解し、自らモデルを構築するための基礎を身につける。 【授業の概要】 演習形式で、輪読と議論によって次のようにエージェント・ベースト・モデルに対する理解を深める。(1) エージェント・ベースト・モデルの基本的論理構造を理解する。(2) エージェント・ベースト・モデルのさまざまなバリエーションを理解する。(3) 具体的なエージェント・ベースト・モデルを用いた論文を精読して、それぞれのモデルの詳細な構造を理解する。(4) エージェント・ベースト・モデルが社会科学の実質的な理論の発展にいかなる貢献をするのか検討する。(5) エージェント・ベースト・モデルの問題点を理解し、その解決策を検討する。	
数理行動科学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 エージェント・ベースト・モデルの考え方を基本として、次の2つのことを修得する。 (1) プログラミング言語Python (パイソン) の修得。 (2) Pythonを用いたエージェント・ベースト・モデルの構築。 【授業の概要】 テーマ別にグループ分けして、グループごとに作業を進めて、最後に報告会を行う。具体的には次のように演習を進める。(1) 参加者の関心のある研究テーマを提示して、ブレインストーミングによって4つか5つ程度の研究テーマに絞り込む(研究テーマ数は参加者数によって決める)。(2) 絞り込んだ研究テーマにしたがってグループ分けする。(3) 各グループは毎回進捗状況を報告する。進捗状況は、基本的アイデア、疑似コード作成、実際のプログラム作成、デバッグ、シミュレーションの実行、シミュレーションの結果の統計解析、統計解析結果の実質的な解釈からなる。	
数理行動科学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 ベイズアプローチによる社会学の理論と実証について理解し、次の二つを習得する。 1) 確率的プログラミング言語StanとStanを外部から実行するプログラムとしてのRの両方について、その基本を習得する。 2) Stanをつかって表現するベイズ統計モデルを簡単な数理モデルをつかって独自に作成する・ 【授業の概要】 1) 簡単な確率変数を用いたモデルによって、応答変数の分布を生成するメカニズムを表現する研究の例を紹介して、社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。 2) 興味深い問題を定式化する方法と「問題を構成する力」の基礎を涵養する。	
数理行動科学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 コンピュータによる数値計算や数理モデルの解析をつうじて、人間行動や社会現象をモデル化する手法を習得する。 【授業の概要】 1. テキストのサンプルコードに基づきプログラムの基礎を修得する。 2. 行動科学理論を統計モデルとコードで表現する能力を習得する。従来標準的に用いられてきたGeneralized Linear Modelの数学的仮定と実際に適用する上での注意点を確認して、既存の統計モデルの当てはめから、データを生成するプロセスに注目するモデリングへのシフトを目指す。	
計量行動科学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 「家族構造と子ども」に関する計量行動科学的研究の動向を把握し、今後の展開を展望する。 【授業の概要】 「家族構造と子ども」に関する英語学術論文を読み、家族構造が子育てスタイルや子どもの学業成績・アスピレーション・心理的健康・出生行動等に与える影響を解明しようとした先行研究の内容および分析手法(ロジスティック回帰分析・ログリニアモデル・潜在クラスモデル・構造方程式モデリング・イベントヒストリー分析・マルチレベル分析など)の理解を深める。	
計量行動科学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 認知科学の知見を社会調査の企画・準備・実査・分析・報告・倫理向上に活かす。 【授業の概要】 1980年代頃から、認知科学・認知心理学の方法や成果をもとに社会調査法に反省・検討を加えようという試みが行われるようになってきた。その研究動向をレビューするとともに、そこでの知見を社会調査の現場(企画・準備・実査から分析や成果報告に至るまでのプロセス)に実践的に生かす道を探求する。あわせて、センシティブな質問などを用いる場合の倫理的問題とそれへの対処法などについても考える。	
計量行動科学研究演習Ⅲ	【授業の到達目標及びテーマ】 マイノリティに対する偏見をテーマとして取り上げ、偏見についての心理学や社会学における諸理論を理解し、説明できるようになる。 【授業の概要】 偏見の形成と維持のメカニズムのついての最新の知見を、文献講読を通じて学ぶ。具体的には、権威主義的パーソナリティ、社会的アイデンティティ、ステレオタイプの形成と維持、集団間競合、接触、メディアの影響、IAT、三者関係論などを取り上げる。	

	計量行動科学研究演習Ⅳ	【授業の到達目標及びテーマ】 日本における移民統合、とくに外国人留学生の就職／就労に関する問題をテーマとして取り上げ、その実態と影響をあたえる要因について説明できるようになる。 【授業の概要】 外国人留学生の定着率が高まらないのはなぜか。就労／就職に関わる障壁を検討する。具体的には、日本型雇用慣行における外国人労働者の位置づけや、就職活動の特殊性、外国人労働者の職業アスピレーションやキャリア簡などをとりあげ、検討する。	
	計算人文社会科学研究演習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 ビッグデータの性質を理解した上で、その収集方法や初歩的な分析方法を修得する。 【授業の概要】 実際にビッグデータを収集・分析をすることで、収集方法や分析方法を理解する。具体的には次の段階からなる。（１）ビッグデータの性質と種類を理解する。（２）ビッグデータの種類に応じたデータ収集方法を理解する。（３）ビッグデータ収集のためのプログラミングを行う。その際にはプログラミング言語の基本構造も学習する。（４）収集したビッグデータを統計的に分析する。その際には初歩的な統計分析の手法も学習する。	
	計算人文社会科学研究演習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 計算社会科学の基礎と応用を理解するための、基礎的な確率論、微積分、統計学、線形代数等の数学知識を習得する。また、社会現象を社会科学の観点からモデル化する方法を習得する。 【授業の概要】 目標の現象に合わせて解析的なモデルあるいは、確率変数を用いたトイモデルをつくり、それを統計モデルに翻訳してから、予測分布を計算するためのコードの実装までの流れを実例を通して学ぶ。モデリングを重視した、データ分析の方法を学ぶ。	
研究 実 習	心理学研究実習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、常に新たな技法が開発され、実用化されている。優れた研究を実施するためには、こういった技法の理解や習熟が必要である。大学院生を対象として、心理学実験技法を実践的に学ぶ目的で開講する。個別に必要な技法を中心に学ぶとともに、毎時間異なる基本メニューを確認する。 【授業の概要】 心理学研究法Ⅰとし、主に実験手法について学ぶ。内容には動物実験や生理実験から社会実験や実験データの統計学的処理まで幅広い心理学の実験法を網羅する。 （オムニバス方式／全15回） （５ 阿部恒之／4回）オリエンテーション・記憶検索・鏡映描写・囚人のジレンマ （６ 坂井信之／4回）動物実験1・動物実験2・ステレオタイプ・感覚の尺度化 （21 辻本昌弘／4回）社会的態度の測定・統計解析法・SPSSによるデータ解析 （22 荒井崇史／3回）心理検査1・心理検査2・質問紙法	オムニバス方式
	心理学研究実習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、学部で心理学以外の専門を修めた学生が心理学分野で修士論文研究の進め方を習得できるように設定している。心理学研究実習Ⅰでは主として実験の方法を用いたメニューを、心理学研究実習Ⅱでは、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。 【授業の概要】 心理学研究法Ⅱとし、性格・知能測定からフィールドワークやカウンセリングまで幅広い心理学の分野の研究法を紹介する。 （オムニバス方式／全15回） （５ 阿部恒之／4回）オリエンテーション・反応時間・幾何学的錯視・ポリグラフ （６ 坂井信之／4回）脳計測（脳波）・脳計測（NIRS）・瞬目・ヒューリスティック思考 （21 辻本昌弘／4回）フィールドワーク1・フィールドワーク2・質的研究の手法・ロールシャッハテスト （22 荒井崇史／3回）カウンセリングの基礎・知能検査1・知能検査2	オムニバス方式
	社会学研究実習Ⅰ	【授業の到達目標及びテーマ】 調査の設計、準備、現地調査、データ整理、調査報告書執筆、現地報告会実施といった調査にかかわる一連の作業を経験することによって、地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解する。 【授業の概要】 社会調査の全過程を体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。Ⅰでは調査準備（調査テーマの検討、調査対象地についての学習、調査項目の検討と絞り込み、予備調査の実施、調査票の作成など）について学習する。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同

	社会学研究実習Ⅱ	【授業の到達目標及びテーマ】 調査の設計、準備、現地調査、データ整理、調査報告書執筆、現地報告会実施といった調査にかかわる一連の作業を経験することによって、地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解する。 【授業の概要】 社会調査の全過程を体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。Ⅱでは、現地調査の実施から調査データの整理と分析、報告書執筆と報告会の実施といった一連の作業をおこなう。 上記の内容を2名の教員が分担をせず、共同で行う。	共同
スキル科目	研究倫理特論	【授業の到達目標及びテーマ】 研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通り。 1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。 2. 実験・調査参加者や、その他の関与者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。 3. 責任ある仕方で研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。 【授業の概要】 科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献しているが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方で行うこともある。そのため、研究に従事する人々（大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で研究や研究発表を行なう責任を負っている。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければならない。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説する。 （オムニバス方式／全15回） （16 原 聖／4回）イントロダクション、引用の倫理、ピア・レビューと研究の質保証、研究の再現性 （2 戸島貴代志／2回）人間と技術、科学と倫理 （6 坂井信之／2回）人を対象とした医学系研究における倫理、心理学実験における倫理 （13 木村邦博／2回）質問紙調査研究の実践と倫理、研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向 （21 辻本昌弘／2回）フィールドワークにおける倫理の基本原則、フィールドワークにおける倫理の実践的問題 （40 小林隆／1回）聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 （5 阿部恒之／1回）著作権・商標・特許等の問題について （8 小泉政利／1回）研究不正の防止と対応	オムニバス方式
	西洋古典文化特論	【授業の到達目標及びテーマ】 ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古代の世界に馴染む（その知識は、実に様々な場面で役に立つはずである）。言語文化が中心で、思想、諸芸術、歴史の最重要事項を学ぶ。また、ギリシャ・ローマの文化が後代に与えた影響や、日本における西洋古典文化の受容にも若干触れる。 【授業の概要】 ギリシャ語・ラテン語の初歩の初歩、ギリシャ・ローマの（言語）文化（哲学・思想、文学・演劇等諸芸術、歴史）にまつわる基本的事項を学ぶ。受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特になし。講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行わない参加者には学期末レポートを提出してもらう。参加者の関心を尊重するよう工夫したい。	
	人文社会科学研究	【授業の到達目標及びテーマ】 悲嘆とその対応の一つとしてのグリーフケアについて基礎知識を得る。 【授業の概要】 誰にでも起こりうる普遍的な経験である喪失体験から、なぜ悲嘆が生じ、ケアが必要なのか、どのような苦悩があり、いつまで続き、どのようなケアが適切なのか、グリーフケアに関わる社会的課題と、ケアの実践を考察する。また、ビデオ教材により理解を深める。	
	英語発表技能演習	【授業の到達目標及びテーマ】 英語での学問的な報告・発表の方法について基礎知識を得る。実習で英語での学問的な発表を体験し、英検の学会やシンポジウムで報告できるように育成する。 【授業の概要】 受講者は自分の研究について英語で発表を行う。聞いた先生やほかの受講者から質問や意見をうけ、英語の質疑応答を練習する。ネイティブスピーカーから批判やアドバイスを受け、学問的な英語や英検で発表の仕方のより理解を深める。	
	英語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 大学院レベルの研究論文を英語で書くために必要な実践的作成法を身につける。 【授業の概要】 受講者には自分の興味のあるトピックについての英文エッセイを実際に作成してもらう。作成されたエッセイを使って、単語の選択、文と文との繋がり、段落構成などの論文を書く際に特に注意する点を具体的に教える。また、論文を書き始める前の準備段階と書き終えた後の見直し作業の際に考慮すべき点についても講義する。	

	日本語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高める。 【授業の概要】 専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。 レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。	
	人文統計基礎演習	【授業の到達目標及びテーマ】 人間および社会に対する理解を深め研究・社会貢献を行うための統計学的素養を身につける。 【授業の概要】 学術論文やメディア報道などの事例を検討し、データ収集法・統計分析手法の考え方を学ぶ。特に研究における問いと仮説の立て方、測定の妥当性と信頼性、各種統計量の意味、因果推論、無作為抽出と無作為配分などをめぐる誤解を正すとともに、ビッグデータやベイズ統計など新しい時代の統計学の基礎を身につけることで、「統計でウソをつかない」態度を涵養する。	
	キャリア設計演習	【授業の到達目標及びテーマ】 現代の経済と職業生活に関する基礎的事項を講義と演習を通じて学び、修了後のキャリアを主体的かつ具体的に設計できる実践力を養う。 【授業の概要】 前半では、日本経済および世界経済の仕組みと現状、企業ビジネス全般、公務員職、労働法といったテーマで基礎的な知識を身につける。後半は、各分野のゲストを招いたセミナー形式の授業で個別の業種・職種についての理解を深めつつ、自己分析を経て実際に自らのキャリア構想を描くところまで進む。授業は東北大学キャリア支援センターとの連携のもとで実施する。	
学 術 実 践 活 動	学術発表実習Ⅰ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。	
	学術発表実習Ⅱ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。 なお、学術発表実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
	国際活動実習Ⅰ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したレポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。	
	国際活動実習Ⅱ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したレポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。 なお、国際活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2 単位付与する。	

	研究・教育実践活動実習Ⅱ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのペリフェイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2単位付与する。 なお、研究・教育実践活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
論文研究	修士論文研究	【授業の概要】 本授業は、受講生の修士論文研究の進捗を確認し、内容を改善することを目的とする。受講生は教員の指導のもとに、自らの修士論文研究を進行させながら、各教員に対して進捗状況を発表・報告する。各教員はそれぞれの研究テーマおよび専門的知識をもとにしたアドバイスを与えるとともに、受講生と精密な討論を行い、研究の問題点、改善すべき点、新たに追加すべき実験・調査などを洗い出す。それをもとに受講生はみずからの修士論文研究をさらに進捗させる。 各教員の研究テーマは以下のとおり。 (1 直江 清隆) 近現代哲学。科学技術倫理学。 (15 荻原 理) 古代哲学。現代分析倫理学。 (16 原 塑) 現代英米哲学・科学哲学・倫理学（特に神経科学）。 (17 城戸 淳) 近代哲学、カントを中心とするドイツ哲学。 (2 戸島 貴代志) 現代ドイツ・フランスの哲学・倫理学。生の哲学。実存哲学。 (18 村山 達也) 近現代フランス哲学・倫理学。 (3 長岡 龍作) 中国・日本仏教彫刻史。 (19 杉本 欣久) 日本近世絵画史。 (4 尾崎 彰宏) ルネサンス以降の西洋美術。美術理論。 (20 フォンガロ エンリコ) 日本哲学を中心としたインターカルチャー的美学・哲学・美術理論 (5 阿部 恒之) 生理心理学（ストレス）。感情心理学（化粧・災害）。知覚心理学（顔・香り）。 (6 坂井 信之) 応用心理学。食行動学（健康・学習・共食）。認知神経科学（味覚・嗅覚・おいしさ・心地よさ）。 (21 辻本 昌弘) 社会心理学。地域社会の協力行動。移民の社会と文化。生活史。 (22 荒井 崇史) 社会心理学。犯罪心理学。犯罪不安。犯罪情報の発信と犯罪予防。攻撃性と暴力。 (7 後藤 斉) ロマンズ語学。言語情報学。コーパス言語学。 (8 小泉 政利) 理論言語学。言語認知脳科学。 (23 木山 幸子) 実験語用論。神経言語学。 (9 長谷川 公一) 社会変動学および社会紛争論。環境社会学。市民社会論。公共社会学。 (10 永井 彰) 現代社会学理論（ハーバーマスを中心として）。農村地域社会の変動過程。地域福祉の社会学。 (11 小松 丈晃) 地域社会学。災害リスクの理論的研究。社会システム論。 (12 佐藤 嘉倫) 社会変動論。信頼の研究。社会階層論。ゲーム理論の応用。 (13 木村 邦博) 階層意識の計量分析。社会的意思決定の数理分析。社会調査法。 (14 浜田 宏) 数理社会学。不平等と相対的剥奪の研究。 (24 永吉 希久子) 社会意識研究。多文化状況での社会統合に関する計量研究。	

(用紙 日本工業規格A4縦型)

授 業 科 目 の 概 要			
(文学研究科日本学専攻 博士課程後期 3 年の課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	人文社会科学特別科目	【授業の到達目標及びテーマ】 本授業は後期課程の学生を対象として、人文社会科学の幅広い視野を提供するものである。研究者として自らの専門を深く掘り下げるために必要な広範な知識、そして高度専門職業人として要求される俯瞰的な視野を持つことを目的とする。 【授業の概要】 「人間を理解する」ことに関して、日本学専攻・広域文化学総合・総合人間学専攻の教員が、それぞれの専門の視点からオムニバス形式で講義を行う。たとえば東日本大震災を共通テーマに据え、日本学専攻からは日本文学に見る歴史上の大震災、広域文化学からは世界各地の多様な災害観、総合人間学からは、被災地支援に影響する心理・社会的要因などを講義し、人間を理解するためのアプローチの多様性とその特徴を学ぶ。 各専攻の教員が担当する。 (オムニバス方式／全15回) (5 佐倉由泰／5回) 古代文学と災害・『方丈記』と災害・『太平記』と災害・近世文学と災害・近代文学と災害 (18 木村敏明／5回) アジアの災害観・欧州の災害観・キリスト教と災害・イスラム教と災害・仏教と災害 (22 阿部恒之／5回) 被災者のマナー・共感と支援・協力意欲の地域差・CPTEDと災害・創発規範	オムニバス方式
スキル科目	研究倫理特論	【授業の到達目標及びテーマ】 研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。 1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。 2. 実験・調査参加者や、その他の関与者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。 3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。 【授業の概要】 科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方で行なうこともあります。そのため、研究に従事する人々（大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう研究や研究発表を行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説します。 (オムニバス方式／全15回) (28 原壱／4回) イントロダクション、引用の倫理、ピア・レビューと研究の質保証、研究の再現性 (20 戸島貴代志／2回) 人間と技術、科学と倫理 (23 坂井信之／2回) 人を対象とした医学系研究における倫理、心理学実験における倫理 (25 木村邦博／2回) 質問紙調査研究の実践と倫理、研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向 (29 辻本昌弘／2回) フィールドワークにおける倫理の基本原則、フィールドワークにおける倫理の実践的問題 (3 小林隆／1回) 聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 (22 阿部恒之／1回) 著作権・商標・特許等の問題について (24 小泉政利／1回) 研究不正の防止と対応	オムニバス方式
	西洋古典文化特論	【授業の到達目標及びテーマ】 ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古代の世界に馴染む（その知識は、実に様々な場面で役に立つはずである）。言語文化が中心で、思想、諸芸術、歴史の最重要事項を学ぶ。また、ギリシャ・ローマの文化が後代に与えた影響や、日本における西洋古典文化の受容にも若干触れる。 【授業の概要】 ギリシャ語・ラテン語の初歩の初歩、ギリシャ・ローマの（言語）文化（哲学・思想、文学・演劇等諸芸術、歴史）にまつわる基本的事項を学ぶ。受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特になし。講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行わない参加者には学期末レポートを提出してもらう。参加者の関心を尊重するよう工夫したい。	

	人文社会科学研究	【授業の到達目標及びテーマ】 悲嘆とその対応の一つとしてのグリーフケアについて基礎知識を得る。 【授業の概要】 誰にでも起こりうる普遍的な経験である喪失体験から、なぜ悲嘆が生じ、ケアが必要なのか、どのような苦悩があり、いつまで続き、どのようなケアが適切なのか、グリーフケアに関わる社会的課題と、ケアの実際を考察する。また、ビデオ教材により理解を深める。	
	英語発表技能演習	【授業の到達目標及びテーマ】 英語での学問的な報告・発表の方法について基礎知識を得る。実習で英語での学問的な発表を体験し、英検の学会やシンポジウムで報告できるように育成する。 【授業の概要】 受講者は自分の研究について英語で発表を行う。聞いた先生やほかの受講者から質問や意見をうけ、英語の質疑応答を練習する。ネイティブスピーカーから批判やアドバイスを受け、学問的な英語や英検で発表の仕方のより理解を深める。	
	英語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 大学院レベルの研究論文を英語で書くために必要な実践的作成法を身につける。 【授業の概要】 受講者には自分の興味のあるトピックについての英文エッセイを実際に作成してもらう。作成されたエッセイを使って、単語の選択、文と文との繋がり、段落構成などの論文を書く際に特に注意する点を具体的に教える。また、論文を書き始める前の準備段階と書き終えた後の見直し作業の際に考慮すべき点についても講義する。	
	日本語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高める。 【授業の概要】 専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。 レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。	
	人文統計基礎演習	【授業の到達目標及びテーマ】 人間および社会に対する理解を深め研究・社会貢献を行うための統計学的素養を身につける。 【授業の概要】 学術論文やメディア報道などの事例を検討し、データ収集法・統計分析手法の考え方を学ぶ。特に研究における問いと仮説の立て方、測定の妥当性と信頼性、各種統計量の意味、因果推論、無作為抽出と無作為配分などをめぐる誤解を正すとともに、ビッグデータやベイズ統計など新しい時代の統計学の基礎を身につけることで、「統計でウソをつかない」態度を涵養する。	
	キャリア設計演習	【授業の到達目標及びテーマ】 現代の経済と職業生活に関する基礎的事項を講義と演習を通じて学び、修了後のキャリアを主体的かつ具体的に設計できる実践力を養う。 【授業の概要】 前半では、日本経済および世界経済の仕組みと現状、企業ビジネス全般、公務員職、労働法といったテーマで基礎的な知識を身につける。後半は、各分野のゲストを招いたセミナー形式の授業で個別の業種・職種についての理解を深めつつ、自己分析を経て実際に自らのキャリア構想を描くところまで進む。授業は東北大学キャリア支援センターとの連携のもとで実施する。	
学 術 実 践 活 動	学術発表実習Ⅰ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。	
	学術発表実習Ⅱ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。 なお、学術発表実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	

	国際活動実習Ⅰ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したリポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。	
	国際活動実習Ⅱ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したリポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。 なお、国際活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2単位付与する。	
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2単位付与する。 なお、研究・教育実践活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
論文研究	博士論文研究	【授業の概要】 本授業は、受講生の博士論文研究の進捗を確認し、改善することを目的とする。受講生は教員の指導のもとに自らの博士論文研究を進行させながら、各教員に対して進捗状況を発表・報告する。各教員はそれぞれの研究テーマおよび専門的知識をもとにしたアドバイスを与えるとともに、受講生と精密な討論を行い、研究の問題点、改善すべき点、新たに追加すべき実験・調査などを洗い出す。それをもとに受講生は自らの博士論文研究をさらに進捗させる。 各教員の研究テーマは以下のとおり。 (1 高橋 章則) 文芸社会史。日本近世思想史。文化交流史。 (9 田中 重人) 社会調査法。現代日本人のライフコースの計量的研究。 (10 クレイグ クリストファー) 日本近代史。宮城県史。農業・農村史。 (11 片岡 龍) 近世儒学思想。朝鮮儒学と日本。東アジアの実学。 (2 齋藤 倫明) 現代語の語彙論（特に現代語の語構成論）。 (3 小林 隆) 日本語方言学。文献・方言総合的方法による日本語史。 (4 大木 一夫) 日本語文法史・日本語文法論。 (12 甲田 直美) 現代語の文法論。特に談話・テキスト論。 (13 小河原 義朗) 日本語教育方法論、音声言語コミュニケーション、言語習得、教師教育。 (5 佐倉 由泰) 中世文学。軍記物語。中世文化を支えた表現と知の系脈。 (14 横溝 博) 平安文学。物語と日記。古注釈の展開。 (6 柳原 敏昭) 日本中世史。国家周縁部の比較研究。史学史。 (7 安達 宏昭) 日本近現代史。日本・アジア関係史。昭和政治経済史。 (15 堀 裕) 日本古代史。国家・天皇・宗教の研究。 (16 籠橋 俊光) 日本近世史。藩領における地域社会史研究。 (8 阿子島 香) 比較文化的な先史考古学。 (17 鹿又 喜隆) 日本考古学。	

(用紙 日本工業規格A4縦型)

授 業 科 目 の 概 要			
(文学研究科広域文化学専攻 博士課程後期 3 年の課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	人文社会科学特別科目	【授業の到達目標及びテーマ】 本授業は後期課程の学生を対象として、人文社会科学の幅広い視野を提供するものである。研究者として自らの専門を深く掘り下げるために必要な広範な知識、そして高度専門職業人として要求される俯瞰的な視野を持つことを目的とする。 【授業の概要】 「人間を理解する」ことに関して、日本学専攻・広域文化学総合・総合人間学専攻の教員が、それぞれの専門の視点からオムニバス形式で講義を行う。たとえば東日本大震災を共通テーマに据え、日本学専攻からは日本文学に見る歴史上の大震災、広域文化学からは世界各地の多様な災害観、総合人間学からは、被災地支援に影響する心理・社会的要因などを講義し、人間を理解するためのアプローチの多様性とその特徴を学ぶ。 各専攻の教員が担当する。 (オムニバス方式／全15回) (5 佐倉由泰／5回) 古代文学と災害・『方丈記』と災害・『太平記』と災害・近世文学と災害・近代文学と災害 (18 木村敏明／5回) アジアの災害観・欧州の災害観・キリスト教と災害・イスラム教と災害・仏教と災害 (22 阿部恒之／5回) 被災者のマナー・共感と支援・協力意欲の地域差・CPTEDと災害・創発規範	オムニバス方式
スキル科目	研究倫理特論	【授業の到達目標及びテーマ】 研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。 1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。 2. 実験・調査参加者や、その他の関与者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。 3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。 【授業の概要】 科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方で行なうこともあります。そのため、研究に従事する人々（大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう研究や研究発表を行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説します。 (オムニバス方式／全15回) (39 原 塑／4回) イントロダクション、引用の倫理、ピア・レビューと研究の質保証、研究の再現性 (31 戸島貴代志／2回) 人間と技術、科学と倫理 (34 坂井信之／2回) 人を対象とした医学系研究における倫理、心理学実験における倫理 (36 木村邦博／2回) 質問紙調査研究の実践と倫理、研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向 (40 辻本昌弘／2回) フィールドワークにおける倫理の基本原則、フィールドワークにおける倫理の実践的問題 (29 小林隆／1回) 聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 (33 阿部恒之／1回) 著作権・商標・特許等の問題について (35 小泉政利／1回) 研究不正の防止と対応	オムニバス方式
	西洋古典文化特論	【授業の到達目標及びテーマ】 ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古代の世界に馴染む（その知識は、実に様々な場面で役に立つはずである）。言語文化が中心で、思想、諸芸術、歴史の最重要事項を学ぶ。また、ギリシャ・ローマの文化が後代に与えた影響や、日本における西洋古典文化の受容にも若干触れる。 【授業の概要】 ギリシャ語・ラテン語の初歩の初歩、ギリシャ・ローマの（言語）文化（哲学・思想、文学・演劇等諸芸術、歴史）にまつわる基本的事項を学ぶ。受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特にない。講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行わない参加者には学期末レポートを提出してもらう。参加者の関心を尊重するよう工夫したい。	

	人文社会科学研究	【授業の到達目標及びテーマ】 悲嘆とその対応の一つとしてのグリーフケアについて基礎知識を得る。 【授業の概要】 誰にでも起こりうる普遍的な経験である喪失体験から、なぜ悲嘆が生じ、ケアが必要なのか、どのような苦悩があり、いつまで続き、どのようなケアが適切なのか、グリーフケアに関わる社会的課題と、ケアの実際を考察する。また、ビデオ教材により理解を深める。	
	英語発表技能演習	【授業の到達目標及びテーマ】 英語での学問的な報告・発表の方法について基礎知識を得る。実習で英語での学問的な発表を体験し、英検の学会やシンポジウムで報告できるように育成する。 【授業の概要】 受講者は自分の研究について英語で発表を行う。聞いた先生やほかの受講者から質問や意見をうけ、英語の質疑応答を練習する。ネイティブスピーカーから批判やアドバイスを受け、学問的な英語や英検で発表の仕方のより理解を深める。	
	英語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 大学院レベルの研究論文を英語で書くために必要な実践的作成法を身につける。 【授業の概要】 受講者には自分の興味のあるトピックについての英文エッセイを実際に作成してもらう。作成されたエッセイを使って、単語の選択、文と文との繋がり、段落構成などの論文を書く際に特に注意する点を具体的に教える。また、論文を書き始める前の準備段階と書き終えた後の見直し作業の際に考慮すべき点についても講義する。	
	日本語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高める。 【授業の概要】 専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。 レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。	
	人文統計基礎演習	【授業の到達目標及びテーマ】 人間および社会に対する理解を深め研究・社会貢献を行うための統計学的素養を身につける。 【授業の概要】 学術論文やメディア報道などの事例を検討し、データ収集法・統計分析手法の考え方を学ぶ。特に研究における問いと仮説の立て方、測定の妥当性と信頼性、各種統計量の意味、因果推論、無作為抽出と無作為配分などをめぐる誤解を正すとともに、ビッグデータやベイズ統計など新しい時代の統計学の基礎を身につけることで、「統計でウソをつかない」態度を涵養する。	
	キャリア設計演習	【授業の到達目標及びテーマ】 現代の経済と職業生活に関する基礎的事項を講義と演習を通じて学び、修了後のキャリアを主体的かつ具体的に設計できる実践力を養う。 【授業の概要】 前半では、日本経済および世界経済の仕組みと現状、企業ビジネス全般、公務員職、労働法といったテーマで基礎的な知識を身につける。後半は、各分野のゲストを招いたセミナー形式の授業で個別の業種・職種についての理解を深めつつ、自己分析を経て実際に自らのキャリア構想を描くところまで進む。授業は東北大学キャリア支援センターとの連携のもとで実施する。	
学 術 実 践 活 動	学術発表実習Ⅰ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。	
	学術発表実習Ⅱ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。 なお、学術発表実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
	国際活動実習Ⅰ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したリポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。	

	国際活動実習Ⅱ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したレポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。 なお、国際活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2 単位付与する。	
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2 単位付与する。 なお、研究・教育実践活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
論文研究	博士論文研究	【授業の概要】 本授業は、受講生の博士論文研究の進捗を確認し、改善することを目的とする。受講生は教員の指導のもとに自らの博士論文研究を進行させながら、各教員に対して進捗状況を発表・報告する。各教員はそれぞれの研究テーマおよび専門的知識をもとにしたアドバイスを与えるとともに、受講生と精密な討論を行い、研究の問題点、改善すべき点、新たに追加すべき実験・調査などを洗い出す。それをもとに受講生は自らの博士論文研究をさらに進捗させる。 各教員の研究テーマは以下のとおり。 (1 沼崎 一郎) 東アジアの経済と社会（台湾・香港を中心として）。現代世界の文化と人権(日本を中心として)。公共人類学（異文化共生）、災害人類学、ジェンダー（主に男性性）、初期アメリカ人類学学説史。 (15 川口 幸大) 中国を中心とした東アジアの家族・親族・社会組織と祭祀・儀礼。中国および日本の食文化。 (2 木村 敏明) 宗教人類学。災害と宗教。民間信仰（年中行事・人生儀礼・祭礼）の変化。インドネシア研究。 (16 山田 仁史) 宗教民族学。神話学。台湾を中心としたオーストロネシア研究。 (17 谷山 洋三) 臨床死生学（スピリチュアルケア、宗教的ケア、グリーフケア）、仏教福祉学。 (3 桜井 宗信) インド・チベット密教の儀礼と思想。インド・チベット仏教流伝史。 (4 三浦 秀一) 中国近世思想。朱子学と陽明学。明代の老荘思想と出版。科举。 (18 齋藤 智寛) 中国中世の思想と宗教。禅思想史。唐代知識人の精神生活。 (19 土屋 育子) 中国文学。通俗文学研究。元明清文学研究。 (20 矢田 尚子) 中国古典文学。先秦兩漢文学研究。唐代女性服飾研究。 (21 馬 曉地) 中国文学。唐代朝謁制度と文学の関係。唐代戲謔文学。 (5 川合 安) 中国魏晋南北朝、隋唐史。 (22 大野 晃嗣) 明清官僚制度史。 (6 大河内 昌) イギリス18世紀思想史。イギリス・ロマン主義文学。 (23 大貫 隆史) 20世紀イギリス文化・文学。演劇理論。 (24 ティンク ジェイムズ) 初期近代イギリス文学。批評理論。 (7 金子 義明) 言語理論。英語統語論と意味論のインターフェイス。 (8 島 越郎) 生成文法理論に基づく英語分析。 (9 森本 浩一) ドイツ文学。文学の理論。物語論。言語哲学。 (10 嶋崎 啓) ドイツ語学。ドイツ語史。対照言語学。中世ドイツ文学。 (11 ナロック ハイコ) 言語学。言語変化。言語類型論。 (12 阿部 宏) フランス語学。仏英日対照言語学。ソシユール文献学。認知意味論。言語学史。記号学。 (13 今井 勉) フランス文学。ヴァレリー研究。フランス象徴詩。生成論。クレオール文化論。 (25 黒岩 卓) 中世・ルネサンス文学・文献学・演劇。フランス語史。 (26 メヴェル ヤン) ベケット。デュラス。小説。演劇。詩学。思想史。芸術史。精神分析。フランス文学における日本の表象。 (14 有光 秀行) 西洋中世史（ブリテン諸島を中心に）。 (27 浅岡 善治) 西洋近現代史（ロシア革命史）。	

授 業 科 目 の 概 要			
(文学研究科総合人間学専攻 博士課程後期 3 年の課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	人文社会科学特別科目	【授業の到達目標及びテーマ】 本授業は後期課程の学生を対象として、人文社会科学の幅広い視野を提供するものである。研究者として自らの専門を深く掘り下げるために必要な広範な知識、そして高度専門職業人として要求される俯瞰的な視野を持つことを目的とする。 【授業の概要】 「人間を理解する」ことに関して、日本学専攻・広域文化学総合・総合人間学専攻の教員が、それぞれの専門の視点からオムニバス形式で講義を行う。たとえば東日本大震災を共通テーマに据え、日本学専攻からは日本文学に見る歴史上の大震災、広域文化学からは世界各地の多様な災害観、総合人間学からは、被災地支援に影響する心理・社会的要因などを講義し、人間を理解するためのアプローチの多様性とその特徴を学ぶ。 各専攻の教員が担当する。 (オムニバス方式／全15回) (5 佐倉由泰／5回) 古代文学と災害・『方丈記』と災害・『太平記』と災害・近世文学と災害・近代文学と災害 (18 木村敏明／5回) アジアの災害観・欧州の災害観・キリスト教と災害・イスラム教と災害・仏教と災害 (22 阿部恒之／5回) 被災者のマナー・共感と支援・協力意欲の地域差・CPTEDと災害・創発規範	オムニバス方式
スキル科目	研究倫理特論	【授業の到達目標及びテーマ】 研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。 1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。 2. 実験・調査参加者や、その他の関与者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。 3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。 【授業の概要】 科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方で行なうこともあります。そのため、研究に従事する人々（大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう研究や研究発表を行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説します。 (オムニバス方式／全15回) (16 原 塑／4回) イントロダクション、引用の倫理、ピア・レビューと研究の質保証、研究の再現性 (2 戸島貴代志／2回) 人間と技術、科学と倫理 (6 坂井信之／2回) 人を対象とした医学系研究における倫理、心理学実験における倫理 (13 木村邦博／2回) 質問紙調査研究の実践と倫理、研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向 (21 辻本昌弘／2回) フィールドワークにおける倫理の基本原則、フィールドワークにおける倫理の実践的問題 (26 小林隆／1回) 聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 (5 阿部恒之／1回) 著作権・商標・特許等の問題について (8 小泉政利／1回) 研究不正の防止と対応	オムニバス方式
	西洋古典文化特論	【授業の到達目標及びテーマ】 ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古代の世界に馴染む（その知識は、実に様々な場面で役に立つはずである）。言語文化が中心で、思想、諸芸術、歴史の最重要事項を学ぶ。また、ギリシャ・ローマの文化が後代に与えた影響や、日本における西洋古典文化の受容にも若干触れる。 【授業の概要】 ギリシャ語・ラテン語の初歩の初歩、ギリシャ・ローマの（言語）文化（哲学・思想、文学・演劇等諸芸術、歴史）にまつわる基本的事項を学ぶ。受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特になし。講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行わない参加者には学期末レポートを提出してもらう。参加者の関心を尊重するよう工夫したい。	

	人文社会科学研究	【授業の到達目標及びテーマ】 悲嘆とその対応の一つとしてのグリーフケアについて基礎知識を得る。 【授業の概要】 誰にでも起こりうる普遍的な経験である喪失体験から、なぜ悲嘆が生じ、ケアが必要なのか、どのような苦悩があり、いつまで続き、どのようなケアが適切なのか、グリーフケアに関わる社会的課題と、ケアの実際を考察する。また、ビデオ教材により理解を深める。	
	英語発表技能演習	【授業の到達目標及びテーマ】 英語での学問的な報告・発表の方法について基礎知識を得る。実習で英語での学問的な発表を体験し、英検の学会やシンポジウムで報告できるように育成する。 【授業の概要】 受講者は自分の研究について英語で発表を行う。聞いた先生やほかの受講者から質問や意見をうけ、英語の質疑応答を練習する。ネイティブスピーカーから批判やアドバイスを受け、学問的な英語や英検で発表の仕方のより理解を深める。	
	英語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 大学院レベルの研究論文を英語で書くために必要な実践的作成法を身につける。 【授業の概要】 受講者には自分の興味のあるトピックについての英文エッセイを実際に作成してもらう。作成されたエッセイを使って、単語の選択、文と文との繋がり、段落構成などの論文を書く際に特に注意する点を具体的に教える。また、論文を書き始める前の準備段階と書き終えた後の見直し作業の際に考慮すべき点についても講義する。	
	日本語研究論文作成法	【授業の到達目標及びテーマ】 母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高める。 【授業の概要】 専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。 レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。	
	人文統計基礎演習	【授業の到達目標及びテーマ】 人間および社会に対する理解を深め研究・社会貢献を行うための統計学的素養を身につける。 【授業の概要】 学術論文やメディア報道などの事例を検討し、データ収集法・統計分析手法の考え方を学ぶ。特に研究における問いと仮説の立て方、測定の妥当性と信頼性、各種統計量の意味、因果推論、無作為抽出と無作為配分などをめぐる誤解を正すとともに、ビッグデータやベイズ統計など新しい時代の統計学の基礎を身につけることで、「統計でウソをつかない」態度を涵養する。	
	キャリア設計演習	【授業の到達目標及びテーマ】 現代の経済と職業生活に関する基礎的事項を講義と演習を通じて学び、修了後のキャリアを主体的かつ具体的に設計できる実践力を養う。 【授業の概要】 前半では、日本経済および世界経済の仕組みと現状、企業ビジネス全般、公務員職、労働法といったテーマで基礎的な知識を身につける。後半は、各分野のゲストを招いたセミナー形式の授業で個別の業種・職種についての理解を深めつつ、自己分析を経て実際に自らのキャリア構想を描くところまで進む。授業は東北大学キャリア支援センターとの連携のもとで実施する。	
学 術 実 践 活 動	学術発表実習Ⅰ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。	
	学術発表実習Ⅱ	【授業の概要】 学会等の学術発表による学術実践活動を対象とする。自らの研究を、まとめ、発表し、議論を深めることで、研究者、あるいは教養ある高度職業人としての力を養う。 指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これにかかわる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。 対象となる学会等は、小規模な研究会ではなく、他学の研究者も多数集まる広範囲の学会とするが、その判断は、本科目の趣旨に照らして指導教員等が行う。 なお、学術発表実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	

	国際活動実習Ⅰ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したリポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。	
	国際活動実習Ⅱ	【授業の概要】 国際学会での発表、1か月以上の留学等、外国語による資料作成やコミュニケーションが必要な、国際的学術実践活動を対象とする。 国際学会での発表については、指導教員等が90時間以上の発表資料や抄録等の準備、これに関わる指導、発表の練習、学会における発表等を認めた場合に2単位付与する。留学については、1か月以上海外に滞在し、その経験から学んだことを記したリポートを提出し、その内容を指導教員等が判断して2単位付与する。 なお、国際活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
	研究・教育実践活動実習Ⅰ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2単位付与する。	
	研究・教育実践活動実習Ⅱ	【授業の概要】 研究・教育関連実務による学術実践活動を対象とする。具体例は以下の通り。 古文書のリスト化・テキスト化。石器や土器の発掘作業・撮影・洗浄・整理・保管。写真データの整理・保管。歴史的資料の撮影。保管図書の整理。録音データのテープ起こし。デジタルデータのベリファイ・指定に従ったソート。学術大会の運営支援等。 研究者・教養ある高度職業人として必要となる実務を90時間以上経験したことを指導教員等が認めた場合に2単位付与する。 なお、研究・教育実践活動実習Ⅰの単位取得者を対象とする。これ以上の単位取得は、卒業要件としては認めない。	
論文研究	博士論文研究	【授業の概要】 本授業は、受講生の博士論文研究の進捗を確認し、改善することを目的とする。受講生は教員の指導のもとに自らの博士論文研究を進行させながら、各教員に対して進捗状況を発表・報告する。各教員はそれぞれの研究テーマおよび専門的知識をもとにしたアドバイスを与えるとともに、受講生と精密な討論を行い、研究の問題点、改善すべき点、新たに追加すべき実験・調査などを洗い出す。それをもとに受講生は自らの博士論文研究をさらに進捗させる。 各教員の研究テーマは以下のとおり。 (1 直江 清隆) 近現代哲学。科学技術倫理学。 (15 荻原 理) 古代哲学。現代分析倫理学。 (16 原 塑) 現代英米哲学・科学哲学・倫理学（特に神経科学）。 (17 城戸 淳) 近代哲学、カントを中心とするドイツ哲学。 (2 戸島 貴代志) 現代ドイツ・フランスの哲学・倫理学。生の哲学。実存哲学。 (18 村山 達也) 近現代フランス哲学・倫理学。 (3 長岡 龍作) 中国・日本仏教彫刻史。 (19 杉本 欣久) 日本近世絵画史。 (4 尾崎 彰宏) ルネサンス以降の西洋美術。美術理論。 (20 フォンガロ エンリコ) 日本哲学を中心としたインターカルチャー的美学・哲学・美術理論 (5 阿部 恒之) 生理心理学（ストレス）。感情心理学（化粧・災害）。知覚心理学（顔・香り）。 (6 坂井 信之) 応用心理学。食行動学（健康・学習・共食）。認知神経科学（味覚・嗅覚・おいしさ・心地よさ）。 (21 辻本 昌弘) 社会心理学。地域社会の協力行動。移民の社会と文化。生活史。 (22 荒井 崇史) 社会心理学。犯罪心理学。犯罪不安。犯罪情報の発信と犯罪予防。攻撃性と暴力。 (7 後藤 斉) ロマンス語学。言語情報学。コーパス言語学。 (8 小泉 政利) 理論言語学。言語認知脳科学。 (23 木山 幸子) 実験語用論。神経言語学。 (9 長谷川 公一) 社会変動学および社会紛争論。環境社会学。市民社会論。公共社会学。 (10 永井 彰) 現代社会学理論（ハーバーマスを中心として）。農村地域社会の変動過程。地域福祉の社会学。 (11 小松 丈晃) 地域社会学。災害リスクの理論的研究。社会システム論。 (12 佐藤 嘉倫) 社会変動論。信頼の研究。社会階層論。ゲーム理論の応用。 (13 木村 邦博) 階層意識の計量分析。社会的意思決定の数理分析。社会調査法。 (14 浜田 宏) 数理社会学。不平等と相対的剥奪の研究。 (24 永吉 希久子) 社会意識研究。多文化状況での社会統合に関する計量研究。	

別記様式第3号（その2の1）

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(文学研究科日本学専攻 博士課程前期 2 年の課程)												
調書 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
1	専	教授	タカハシ アキノリ 高橋 章則 ＜平成31年4月＞		博士 (社会学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 現代日本学芸分析特論Ⅰ 現代日本学研究特論Ⅰ 現代日本学総合演習Ⅰ 現代日本学総合演習Ⅱ 現代日本学芸分析研究演習Ⅰ 日本語研究論文作成法 修士論文研究	1前 1後 2 1前 1前 1前 1後 1前 1前 1・2通	0.3 2 2 2 0.5 0.5 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭61.4)	5日
2	専	教授	サイトウ ミチアキ 齋藤 倫明 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅱ 日本語構造論特論Ⅱ 日本語構造論研究演習Ⅰ 修士論文研究	1後 1後 1前 1・2通	2 2 2 8	1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	5日
	兼任	講師	サイトウ ミチアキ 齋藤 倫明 ＜平成32年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅱ 日本語構造論特論Ⅱ 日本語構造論研究演習Ⅰ 修士論文研究	1後 1後 1前 1・2通	2 2 2 8	1 1 1 1		
3	専	教授	コバヤシ タカシ 小林 隆 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅱ 日本語変異論特論Ⅱ 日本語学総合演習Ⅰ 日本語学総合演習Ⅱ 日本語学総合演習Ⅲ 日本語学総合演習Ⅳ 日本語変異論研究演習Ⅲ 研究倫理特論※ 修士論文研究	1後 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1前 1・2通	2 2 0.8 0.8 0.8 0.8 2 0.1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平6.4)	5日
4	専	教授	オオキ カズオ 大木 一夫 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本語変異論特論Ⅰ 日本語学総合演習Ⅰ 日本語学総合演習Ⅱ 日本語学総合演習Ⅲ 日本語学総合演習Ⅳ 日本語変異論研究演習Ⅰ 日本語変異論研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.3 2 2 0.6 0.6 0.6 0.6 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	5日
5	専	教授	サクラ ヨシヤス 佐倉 由泰 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本文芸形成論特論Ⅰ 日本文芸形成論特論Ⅱ 日本文学総合演習Ⅰ 日本文学総合演習Ⅱ 日本古典文学研究演習Ⅲ 日本古典文学研究演習Ⅳ 日本近代文学研究演習Ⅰ 日本近代文学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.1 2 2 2 1 1 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平14.10)	5日
6	専	教授	ヤナギハラ トシアキ 柳原 敏昭 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅱ 日本古代・中世史特論Ⅱ 日本史特論Ⅱ 史科学Ⅰ 日本古代・中世史研究演習Ⅲ 日本古代・中世史研究演習Ⅳ 修士論文研究	1後 1後 1後 1前 1前 1後 1・2通	2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平9.4)	5日
7	専	教授	アタゴチ ヒロアキ 安達 宏昭 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本近世・近代史特論Ⅱ 日本近世・近代史研究演習Ⅲ 日本近世・近代史研究演習Ⅳ 修士論文研究	1前 1後 1後 1前 1後 1・2通	0.1 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	5日
8	専	教授	アコジマ カオル 阿子島 香 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 考古学特論Ⅱ 考古学研究演習Ⅰ【隔年】 考古学研究演習Ⅲ【隔年】 考古学研究実習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1後 1・2前 1・2前 1後 1・2通	0.1 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭56.5)	5日
9	専	准教授	タナカ(センダ) シゲト 田中 (仙田) 重人 ＜平成31年4月＞		博士 (人間科学)		日本学総合科目Ⅱ 現代日本学社会分析特論Ⅰ 現代日本学総合演習Ⅰ 現代日本学総合演習Ⅱ 現代日本学社会分析研究演習Ⅰ 修士論文研究	1後 1後 1前 1後 1前 1・2通	2 2 0.5 0.5 2 8	1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平13.4)	5日
10	専	准教授	クレイグ クリストファー ロビン ジェイミー CRAIG CHRISTOPHER ROBIN JAMIE ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 現代日本学歴史分析特論Ⅰ 現代日本学総合演習Ⅰ 現代日本学総合演習Ⅱ 現代日本学歴史分析研究演習Ⅰ 英語発表技能演習 修士論文研究	1前 1後 1前 1前 1後 1後 1後 1・2通	0.1 2 2 0.5 0.5 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.10)	5日

11	専	准教授	カタカ リョウ 片岡 龍 ＜平成31年4月＞		修士（文学）※		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本思想史特論Ⅰ 日本思想史特論Ⅱ 日本比較思想史特論Ⅰ 日本思想史総合演習Ⅰ 日本思想史総合演習Ⅱ 日本思想史研究演習Ⅰ 日本思想史研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1後 1前 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.3 2 2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平16.10）	5日
12	専	准教授	コウタ（タカハシ） ナオミ 甲田（高橋）直美 ＜平成31年4月＞		博士（人間・環境学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本語構造論特論Ⅰ 日本語学総合演習Ⅰ 日本語学総合演習Ⅱ 日本語学総合演習Ⅲ 日本語学総合演習Ⅳ 日本語構造論研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1前 1後 1前 1後 1後 1・2通	0.1 2 2 0.6 0.6 0.6 0.6 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平18.4）	5日
13	専	准教授	オガワ ヨシロウ 小河原 義朗 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本語教育学特論Ⅰ 日本語教育学総合演習Ⅰ 日本語教育学総合演習Ⅱ 日本語教育方法論研究演習Ⅰ 日本語教育方法論研究演習Ⅱ 日本語教育方法論研究演習Ⅲ 日本語教育学研究演習Ⅰ 日本語教育学研究演習Ⅱ 日本語教育学研究実習Ⅰ 日本語教育学研究実習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1通 2通 1前 1前 1前 1後 1後 1前 1後 1後 1・2通	0.3 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平29.4）	5日
14	専	准教授	ヨシヅ ヒロシ 横溝 博 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本文芸形成論特論Ⅲ 日本文芸形成論特論Ⅳ 日本文学総合演習Ⅰ 日本文学総合演習Ⅱ 日本古典文学研究演習Ⅰ 日本古典文学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1前 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.1 2 2 2 1 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平22.4）	5日
15	専	准教授	ホリ ユウタ 堀 裕 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅱ 日本古代・中世史特論Ⅰ 日本古代・中世史研究演習Ⅰ 日本古代・中世史研究演習Ⅱ 修士論文研究	1後 1前 1前 1後 1・2通	2 2 2 2 8	1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平22.4）	5日
16	専	准教授	カネハシ トシミツ 籠橋 俊光 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本近世・近代史特論Ⅰ 史料学Ⅱ 日本近世・近代史研究演習Ⅰ 日本近世・近代史研究演習Ⅱ 日本史研究実習Ⅰ 日本史研究実習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.1 2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平26.4）	5日
17	専	准教授	カナマタ ヨシタカ 鹿又 喜隆 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 考古学特論Ⅰ 考古学研究演習Ⅱ【隔年】 考古学研究演習Ⅳ【隔年】 考古学研究実習Ⅰ 修士論文研究	1前 1後 1前 1・2後 1・2後 1前 1・2通	0.1 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平21.4）	5日
18	兼任	教授	ヌマザキ イチロウ 沼崎 一郎 ＜平成31年4月＞		P h . D . （アメリカ）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平3.4）	
19	兼任	教授	キムラ トシアキ 木村 敏明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 広域文化学総合科目Ⅱ※	1前 1後	0.8 0.8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平15.4）	
20	兼任	教授	サクライ ムネノブ 桜井 宗信 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平11.4）	
21	兼任	教授	ミヅ シュウイチ 三浦 秀一 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅱ※	1前 1後	0.1 0.5	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平3.4）	
22	兼任	教授	カワイ ヤスシ 川合 安 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅱ※	1前 1後	0.1 0.3	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平13.10）	
23	兼任	教授	オホコチ ショウ 大河内 昌 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平21.4）	
24	兼任	教授	シマ エツロウ 島 越郎 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平20.4）	
25	兼任	教授	モリモト コウイチ 森本 浩一 ＜平成31年4月＞		文学修士※		広域文化学総合科目Ⅰ※ 西洋文化学特論Ⅰ	1前 1前	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平8.4）	

26	兼任	教授	イマイ ツトム 今井 勉 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 広域文化学総合科目Ⅱ※ キャリア設計演習	1前 1後 1後	0.1 0.6 2	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平9.4）	
27	兼任	教授	アリミ ヒデユキ 有光 秀行 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平11.10）	
28	兼任	教授	トシマ キヨシ 戸島 貴代志 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平17.4）	
29	兼任	教授	ナガノ カヲリユウサキ 長岡 龍作 ＜平成31年4月＞		文学修士		総合人間学総合科目Ⅰ※ 総合人間学総合科目Ⅱ 学術発表実習Ⅰ 学術発表実習Ⅱ 国際活動実習Ⅰ 国際活動実習Ⅱ 研究・教育実践活動実習Ⅰ 研究・教育実践活動実習Ⅱ	1前 1後 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	0.4 0.5 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平10.4）	
30	兼任	教授	アベ ツネユキ 阿部 恒之 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 総合人間学総合科目Ⅱ 研究倫理特論※	1前 1後 1前	0.1 0.5 0.1	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平17.8）	
31	兼任	教授	サカイ ノブユキ 坂井 信之 ＜平成31年4月＞		博士（人間科学）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 研究倫理特論※	1前 1前	0.1 0.3	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平23.10）	
32	兼任	教授	コイズミ マサトシ 小泉 政利 ＜平成31年4月＞		P h . D . （アメリカ）		研究倫理特論※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平12.4）	
33	兼任	教授	ナガイ アキラ 永井 彰 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅱ	1後	0.5	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （昭63.4）	
34	兼任	教授	コマツ タケアキ 小松 丈晃 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅰ※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平27.4）	
35	兼任	教授	キムラ クニヒロ 木村 邦博 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 研究倫理特論※ 人文統計基礎演習	1前 1前 1後	0.3 0.3 2	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平7.4）	
36	兼任	教授	フジサワ アツシ 藤澤 敦 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		文化財科学特論Ⅰ 文化財科学特論Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	東北大学 学術資源研究公開センター 教授 （平3.4）	
37	兼任	准教授	ヤマダ ヒトシ 山田 仁史 ＜平成31年4月＞		D r . P h i l . （ドイツ）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平17.10）	
38	兼任	准教授	タニヤマ ヨウゾウ 谷山 洋三 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 人文社会科学的研究	1前 1前	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平24.4）	
39	兼任	准教授	サイトウ トモヒロ 齋藤 智寛 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅱ※ 東洋文化学特論Ⅱ※	1後 1後	0.6 0.3	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平20.4）	
40	兼任	准教授	ツチヤ イクコ 土屋 育子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅱ※	1前 1後	0.1 0.3	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平25.4）	
41	兼任	准教授	ヤタ ナオコ 矢田 尚子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		東洋文化学特論Ⅱ※	1後	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平30.4）	
42	兼任	准教授	オオノ コウジ 大野 晃嗣 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		東洋文化学特論Ⅱ※	1後	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平16.10）	
43	兼任	准教授	オキハラ サトシ 萩原 理 ＜平成31年4月＞		P h . D . （アメリカ）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 西洋古典文化特論	1前 1後	0.7 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平14.8）	
44	兼任	准教授	ハラ サカ 原 望 ＜平成31年4月＞		P h . D . （ドイツ）		総合人間学総合科目Ⅱ 研究倫理特論※	1後 1前	0.5 0.5	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平21.4）	
45	兼任	准教授	ツジモト マサヒロ 辻本 昌弘 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平16.4）	
46	兼任	准教授	キヤマ サチコ 木山 幸子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平29.4）	
47	兼任	准教授	フオンガロ エンリコ FONGARO ENRICO ＜平成31年4月＞		laureato in filosofia （イタリア）		現代日本学日本哲学特論Ⅰ 現代日本学総合演習Ⅰ 現代日本学総合演習Ⅱ	1前 1前 1後	2 0.5 0.5	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平24.4）	

48	兼担	准教授	サトウ ダイスケ 佐藤 大介 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本史特論Ⅰ	1前	2	1	東北大学 災害科学国際研究所 准教授 （平22.4）	
49	兼担	講師	カンノ トモリ 菅野 智則 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		考古学特論Ⅳ	1後	2	1	東北大学 埋蔵文化財調査室 特任准教授 （平17.4）	
50	兼担	講師	シマザキ カオリ 島崎 薫 ＜平成31年4月＞		Ph. D. （オーストラ リア）		日本語教育学特論Ⅱ 日本語教育学総合演習Ⅰ 日本語教育学総合演習Ⅱ	1後 1通 2通	2 1 1	1 1 1	東北大学 高度教養教育研究機構 講師 （平28.2）	
51	兼任	講師	スガノ リョウヘイ 須田 良平 ＜平成31年4月＞		修士（文学）		文化財科学研究演習Ⅰ【隔年】 文化財科学研究演習Ⅱ【隔年】 文化財科学研究演習Ⅲ【隔年】 文化財科学研究演習Ⅳ【隔年】 文化財科学研究実習Ⅰ【隔年】 文化財科学研究実習Ⅱ【隔年】	1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2前 1・2前	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	宮城県 多賀城跡調査研究所 所長 （平28.4）	
52	兼任	講師	フルカワ カズアキ 古川 一明 ＜平成31年4月＞		学士（文学）		文化財科学研究演習Ⅰ【隔年】 文化財科学研究演習Ⅱ【隔年】 文化財科学研究演習Ⅲ【隔年】 文化財科学研究演習Ⅳ【隔年】	1・2前 1・2後 1・2前 1・2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東北歴史博物館 学芸部 学芸部長 （平25.4）	
53	兼任	講師	ヨシノ タケシ 吉野 武 ＜平成31年4月＞		修士（文学）		文化財科学研究実習Ⅰ【隔年】 文化財科学研究実習Ⅱ【隔年】	1・2前 1・2前	1 1	1 1	宮城県 多賀城跡調査研究所 主任研究員 （平17.4）	
54	兼任	講師	タカハシ アキヒコ 高橋 明彦 ＜平成31年4月＞		修士（文学）※		現代日本学学芸分析特論Ⅱ	1後	2	1	金沢美術工芸大学 美術工芸学部 教授 （平7.4）	
55	兼任	講師	ウノダ ショウヤ 宇野田 尚哉 ＜平成31年4月＞		博士□文学）		日本文化思想史特論Ⅰ	1後	2	1	大阪大学 大学院文学研究科 教授 （平22.4）	
56	兼任	講師	コヤナギ トモカズ 小柳 智一 ＜平成31年4月＞		博士□文学）		日本語学特論Ⅰ	1前	2	1	聖心女子大学 文学部 教授 （平21.4）	
57	兼任	講師	キヌガワ タカオ 衣川 隆生 ＜平成31年4月＞		修士（学術）		日本語教育学特論Ⅲ	1後	2	1	名古屋大学 国際機構国際言語センター 教授 （平18.4）	
58	兼任	講師	ナラ タカシ 奈良 貴史 ＜平成31年4月＞		Ph. D. （フランス）		考古学特論Ⅲ	1前	2	1	新潟医療福祉大学 医療技術学部 教授 （平25.4）	
59	兼任	講師	マックス フィリップス Max Phillips ＜平成31年4月＞		MA（TESOL: Teaching English (to) Speakers (of) Other Langaues）		英語研究論文作成法	1前	2	1		

別記様式第3号（その2の1）

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(文学研究科広域文化学専攻 博士課程前期 2 年の課程)												
調書 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
1	専	教授	ヌマザキ イチロウ 沼崎 一郎 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		広域文化学総合科目Ⅰ※ 文化人類学研究演習Ⅲ 文化人類学研究実習Ⅰ 文化人類学研究実習Ⅱ 修士論文研究	1前 1前 1前 1後 1・2通	0.1 2 2 2 8	1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平3.4)	5日
2	専	教授	キムラ トシアキ 木村 敏明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 広域文化学総合科目Ⅱ※ 宗教学特論Ⅰ 宗教学死生学総合演習Ⅰ 宗教学死生学総合演習Ⅱ 宗教学死生学研究演習Ⅱ 宗教学研究実習Ⅰ 宗教学研究実習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1前 1後 1後 1前 1後 1・2通	0.8 0.8 2 0.8 0.8 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	5日
3	専	教授	サクライ ムネノブ 桜井 宗信 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ インド仏教史特論Ⅰ インド仏教史特論Ⅱ インド学仏教史特論Ⅰ【隔年】 インド仏教史研究演習Ⅰ インド仏教史研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1前 1後 1前 1前 1後 1・2通	0.1 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平11.4)	5日
4	専	教授	ミヅラ シュウイチ 三浦 秀一 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅱ※ 中国思想特論Ⅱ 中国思想史総合演習Ⅰ 中国思想史総合演習Ⅱ 中国思想文献研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1前 1後 1後 1前 1後 1後 1・2通	0.1 0.4 0.5 2 1 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平3.4)	5日
5	専	教授	カワイ ヤスシ 川合 安 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅱ※ 東洋古代中世史特論Ⅰ 東洋古代中世史特論Ⅱ 東洋古代中世史特論Ⅲ 東洋史学研究演習Ⅰ 東洋史学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1前 1後 1前 1後 1前 1前 1後 1・2通	0.1 0.4 0.3 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平13.10)	5日
6	専	教授	オホコウ ショウ 大河内 昌 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 英文学特論Ⅰ【隔年】 英文学特論Ⅱ【隔年】 英文学特論Ⅲ【隔年】 英文学特論Ⅳ【隔年】 修士論文研究	1前 1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2通	0.1 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平21.4)	5日
7	専	教授	カネコ ヨシアキ 金子 義明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		英語学特論Ⅱ【隔年】 英語学特論Ⅳ【隔年】 英語学総合演習Ⅰ【隔年】 英語学総合演習Ⅱ【隔年】 英語学総合演習Ⅲ【隔年】 英語学総合演習Ⅳ【隔年】 英語学研究演習Ⅰ【隔年】 英語学研究演習Ⅲ【隔年】 修士論文研究	1・2後 1・2後 1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2前 1・2前 1・2通	2 2 1 1 1 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平6.4)	5日
8	専	教授	シマ エツロウ 島 越郎 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 英語学基礎特論Ⅰ【隔年】 英語学基礎特論Ⅱ【隔年】 英語学総合演習Ⅰ【隔年】 英語学総合演習Ⅱ【隔年】 英語学総合演習Ⅲ【隔年】 英語学総合演習Ⅳ【隔年】 英語学研究演習Ⅱ【隔年】 英語学研究演習Ⅳ【隔年】 修士論文研究	1前 1・2前 1・2前 1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2後 1・2後 1・2通	0.1 2 2 1 1 1 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平20.4)	5日
9	専	教授	モリモト コウイチ 森本 浩一 ＜平成31年4月＞		文学修士※		広域文化学総合科目Ⅰ※ 西洋文化学特論Ⅰ 西洋文化学特論Ⅱ ドイツ文化学特論Ⅱ 修士論文研究	1前 1前 1後 1後 1・2通	0.1 2 2 2 8	1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平8.4)	5日
10	専	教授	シマザキ サトル 嶋崎 啓 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		ドイツ文学特論Ⅰ ドイツ文化学特論Ⅰ ドイツ文学研究演習Ⅰ ドイツ文学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1前 1前 1後 1・2通	2 2 2 2 8	1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)	5日
11	専	教授	ナロウク ハイコ NARROG HEIKO ＜平成31年4月＞		P h . D . (ドイツ)		ドイツ語学研究演習Ⅰ ドイツ語学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1・2通	2 2 8	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平16.4)	5日

12	専	教授	アヘ ヒロシ 阿部 宏 ＜平成31年4月＞		博士（情報科学）		フランス語学研究演習Ⅰ フランス語学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1・2通	2 2 8	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平1.4）	5日
13	専	教授	イマイ ツトム 今井 勉 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 広域文化学総合科目Ⅱ※ フランス文学特論Ⅰ フランス文学特論Ⅱ フランス文学特論Ⅲ フランス文学特論Ⅳ フランス文学研究演習Ⅰ フランス文学研究演習Ⅱ キャリア設計演習 修士論文研究	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1後 1・2通	0.1 0.6 2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平9.4）	5日
14	専	教授	アリミツ ヒデアキ 有光 秀行 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 西洋史特論Ⅰ 西洋史特論Ⅱ 西洋古代・中世史研究演習Ⅰ 西洋古代・中世史研究演習Ⅱ 西洋古代・中世史研究演習Ⅲ 西洋古代・中世史研究演習Ⅳ 修士論文研究	1前 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.1 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平11.10）	5日
15	専	准教授	カワカミチ(イチジ) ヨシヒロ 川口（一条）幸大 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		文化人類学特論Ⅳ【隔年】 文化人類学研究演習Ⅰ 文化人類学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1・2後 1前 1後 1・2通	2 2 2 8	1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平22.4）	5日
16	専	准教授	ヤマダ ヒトシ 山田 仁史 ＜平成31年4月＞		D r . P h i l . （ドイツ）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 宗教学特論Ⅱ 宗教学死生学総合演習Ⅰ 宗教学死生学総合演習Ⅱ 宗教学死生学研究演習Ⅰ 宗教学研究実習Ⅰ 宗教学研究実習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1後 1前 1前 1後 1・2通	0.1 2 0.6 0.6 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平17.10）	5日
17	専	准教授	タニヤマ ヨウゾウ 谷山 洋三 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 死生学特論Ⅰ 死生学特論Ⅱ 死生学特論Ⅲ 実践宗教学特論Ⅰ 実践宗教学特論Ⅱ 宗教学死生学総合演習Ⅰ 宗教学死生学総合演習Ⅱ 応用死生学研究実習Ⅰ 応用死生学研究実習Ⅱ 応用死生学研究実習Ⅲ 応用死生学研究実習Ⅳ 人文社会科学研究 修士論文研究	1前 1前 1後 1前 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1・2通	0.1 2 2 2 2 2 0.6 0.6 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平24.4）	5日
18	専	准教授	サイトウ トモヒロ 齋藤 智寛 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅱ※ 東洋文化学特論Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅱ※ 中国思想特論Ⅰ 中国思想史総合演習Ⅰ 中国思想史総合演習Ⅱ 中国思想文献研究演習Ⅰ 修士論文研究	1後 1前 1後 1前 1前 1後 1前 1・2通	0.6 0.3 0.3 2 1 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平20.4）	5日
19	専	准教授	ツチヤ イコ 土屋 育子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅱ※ 中国語学中国文学特論Ⅰ 中国語学中国文学特論Ⅱ 中国語学中国文学史総合演習Ⅰ 中国語学中国文学史総合演習Ⅱ 中国語学中国文学研究演習Ⅲ 中国語学中国文学研究演習Ⅳ 修士論文研究	1前 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.1 0.4 0.3 2 2 1 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平25.4）	5日
20	専	准教授	ヤタ ナオコ 矢田 尚子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		東洋文化学特論Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅱ※ 中国語学中国文学史総合演習Ⅰ 中国語学中国文学史総合演習Ⅱ 中国語学中国文学研究演習Ⅰ 中国語学中国文学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.2 0.3 1 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平30.4）	5日
21	専	准教授	マギョウチ 馬 暁地 ＜平成31年4月＞		修士（文学）※		修士論文研究	1・2通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平1.4）	5日
	兼任	講師	マギョウチ 馬 暁地 ＜平成32年4月＞		修士（文学）※		修士論文研究	1・2通	8	1		
22	専	准教授	オオノ コウジ 大野 晃嗣 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		東洋文化学特論Ⅰ※ 東洋文化学特論Ⅱ※ 東洋近世史特論Ⅰ 東洋近世史特論Ⅱ 東洋史学研究演習Ⅲ 東洋史学研究演習Ⅳ 修士論文研究	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.3 0.3 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平16.10）	5日
23	専	准教授	オオサキ タカシ 大貫 隆史 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		英語文化論研究演習Ⅰ【隔年】 英語文化論研究演習Ⅱ【隔年】 英語文化論研究演習Ⅲ【隔年】 英語文化論研究演習Ⅳ【隔年】 修士論文研究	1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2通	2 2 2 2 8	1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平30.4）	5日

24	専	准教授	テインク シェイムズ マイケル TINK JAMES MICHAEL ＜平成31年4月＞		P h . D . (イギリス)		英文学・英語学論文作成法特論Ⅰ【隔年】 英文学・英語学論文作成法特論Ⅱ【隔年】 英文学・英語学論文作成法特論Ⅲ【隔年】 英文学・英語学論文作成法特論Ⅳ【隔年】 英文学研究演習Ⅰ【隔年】 英文学研究演習Ⅱ【隔年】 英文学研究演習Ⅲ【隔年】 英文学研究演習Ⅳ【隔年】 修士論文研究	1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2通	2 2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日
25	専	准教授	クロイワ タク 黒岩 卓 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		フランス文学研究演習Ⅲ フランス文学研究演習Ⅳ 修士論文研究	1前 1後 1・2通	2 2 8	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日
26	専	准教授	メヴエル ヤン エリック MEVEL YANN ERIC ＜平成31年4月＞		Doctorat (フランス)		フランス文化学特論Ⅰ フランス語学研究演習Ⅲ フランス語学研究演習Ⅳ 修士論文研究	1前 1前 1後 1・2通	2 2 2 8	1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平15.4)	5日
27	専	准教授	アサカ センジ 浅岡 善治 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		西洋史特論Ⅳ 西洋近現代史研究演習Ⅰ 西洋近現代史研究演習Ⅱ 修士論文研究	1後 1前 1後 1・2通	2 2 2 8	1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平25.10)	5日
28	兼任	教授	タカハ アキラ 高橋 章則 ＜平成31年4月＞		博士 (社会学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本語研究論文作成法	1前 1後 1前	0.3 2 2	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭和61.4)	
29	兼任	教授	サイト ミチアキ 齋藤 倫明 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	
	兼任	講師	サイト ミチアキ 齋藤 倫明 ＜平成32年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1		
30	兼任	教授	コハヤシ タカシ 小林 隆 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅱ 研究倫理特論※	1後 1前	2 0.1	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平6.4)	
31	兼任	教授	オキ カズオ 大木 一夫 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.3 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	
32	兼任	教授	サクラ ヨシヤス 佐倉 由泰 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平14.10)	
33	兼任	教授	ヤナギハラ トシアキ 柳原 敏昭 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平9.4)	
34	兼任	教授	アタチ ヒロアキ 安達 宏昭 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	
35	兼任	教授	アコシマ カオル 阿子島 香 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭56.5)	
36	兼任	教授	トシマ キヨシ 戸島 貴代志 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		研究倫理特論※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)	
37	兼任	教授	ナガノ リュウサク 長岡 龍作 ＜平成31年4月＞		文学修士		総合人間学総合科目Ⅰ※ 総合人間学総合科目Ⅱ 学術発表実習Ⅰ 学術発表実習Ⅱ 国際活動実習Ⅰ 国際活動実習Ⅱ 研究・教育実践活動実習Ⅰ 研究・教育実践活動実習Ⅱ	1前 1後 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	0.4 0.5 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平10.4)	
38	兼任	教授	アベ ツネユキ 阿部 恒之 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		総合人間学総合科目Ⅰ※ 総合人間学総合科目Ⅱ 研究倫理特論※	1前 1後 1前	0.1 0.5 0.1	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.8)	
39	兼任	教授	サカイ ノブユキ 坂井 信之 ＜平成31年4月＞		博士 (人間科学)		総合人間学総合科目Ⅰ※ 研究倫理特論※	1前 1前	0.1 0.3	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平23.10)	
40	兼任	教授	コイズミ マサトシ 小泉 政利 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		研究倫理特論※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	
41	兼任	教授	ナカイ アキラ 永井 彰 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		総合人間学総合科目Ⅱ	1後	0.5	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭63.4)	
42	兼任	教授	コマツ タケアキ 小松 丈晃 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		総合人間学総合科目Ⅰ※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平27.4)	
43	兼任	教授	キムラ ケニヒロ 木村 邦博 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		総合人間学総合科目Ⅰ※ 研究倫理特論※ 人文統計基礎演習	1前 1前 1後	0.3 0.3 2	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平7.4)	

44	兼任	教授	オカ ヒロキ 岡 洋樹 ＜平成31年4月＞		博士□文学)		東洋近世史特論Ⅲ	1前	2	1	東北大学 東北アジア研究センター 教授 (平8. 4)	
45	兼任	教授	テラヤマ キヨウスケ 寺山 恭輔 ＜平成31年4月＞		博士□文学)		比較文化史学特論Ⅰ 比較文化史学研究演習Ⅰ 比較文化史学研究演習Ⅱ	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	東北大学 東北アジア研究センター 教授 (平8. 12)	
46	兼任	准教授	タカ(センタ) シゲト 田中(仙田) 重人 ＜平成31年4月＞		博士(人間科学)		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平13. 4)	
47	兼任	准教授	クレイク クリストファー ロビン シェイミー CRAIG CHRISTOPHER ROBIN JAMIE ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 英語発表技能演習	1前 1後 1後	0. 1 2 2	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平27. 10)	
48	兼任	准教授	カタカ リュウ 片岡 龍 ＜平成31年4月＞		修士(文学)※		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0. 3 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平16. 4)	
49	兼任	准教授	コウタ(タカハシ) ナオミ 甲田(高橋) 直美 ＜平成31年4月＞		博士(人間・環境学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0. 1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平18. 4)	
50	兼任	准教授	オカワラ ヨシロウ 小河原 義朗 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0. 3 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平29. 4)	
51	兼任	准教授	ヨコミヅ ヒロシ 横溝 博 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0. 1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22. 4)	
52	兼任	准教授	オキ ユウカ 堀 裕 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22. 4)	
53	兼任	准教授	カコハシ トシミツ 籠橋 俊光 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0. 1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平26. 4)	
54	兼任	准教授	カノマタ ヨシタカ 鹿又 喜隆 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0. 1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平21. 4)	
55	兼任	准教授	オキハラ サトシ 荻原 理 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		総合人間学総合科目Ⅰ※ 西洋古典文化特論	1前 1後	0. 7 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平14. 8)	
56	兼任	准教授	ハラ サカ 原 壱 ＜平成31年4月＞		P h . D . (ドイツ)		総合人間学総合科目Ⅱ 研究倫理特論※	1後 1前	0. 5 0. 5	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平21. 4)	
57	兼任	准教授	ウシモト マサヒロ 辻本 昌弘 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		研究倫理特論※	1前	0. 3	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平16. 4)	
58	兼任	准教授	キヤマ サチコ 木山 幸子 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		総合人間学総合科目Ⅰ※	1前	0. 1	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平29. 4)	
59	兼任	准教授	サトウ ユキノ 佐藤 雪野 ＜平成31年4月＞		修士 (学術)※		ドイツ文学特論Ⅱ	1後	2	1	東北大学 大学院国際文化研究科 准教授 (平11. 4)	
60	兼任	助教	ボレー ベンメルン セバスチャン BORET PENMELLEN SEBASTIEN ＜平成31年4月＞		Ph. D. (イギリス)		文化人類学特論Ⅲ【隔年】	1・2前	2	1	東北大学 災害科学国際研究所 助教 (平26. 8)	
61	兼任	講師	イトウ アツナリ 伊藤 敦規 ＜平成31年4月＞		博士 (社会人類学)		文化人類学特論Ⅰ【隔年】	1・2前	2	1	国立民族学博物館 准教授 (平29. 4)	
62	兼任	講師	マツマエ モユル 松前 もゆる ＜平成31年4月＞		博士□学術)		文化人類学特論Ⅱ【隔年】	1・2後	2	1	盛岡大学 文学部 教授 (平22. 4)	
63	兼任	講師	ミキ ヒスズル 三木 英 ＜平成31年4月＞		博士(人間科学)		宗教学特論Ⅲ	1後	2	1	大阪国際大学 グローバルビジネス学部 教授 (平12. 4)	
64	兼任	講師	ニシムラ ナオコ 西村 直子 ＜平成31年4月＞		博士□文学)		インド学特論Ⅰ インド学研究演習Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1		
65	兼任	講師	オゾノ ジュンイチ 尾園 純一 ＜平成31年4月＞		博士□文学)		インド学特論Ⅱ【隔年】 インド学研究演習Ⅰ	1後 1前	2 2	1 1		
66	兼任	講師	カワイ コウゾウウ 川合 康三 ＜平成31年4月＞		博士□文学)		中国語学中国文学特論Ⅲ	1前	2	1	國學院大学 文学部 教授 (平27. 10)	

67	兼任	講師	シヨウジ ^ン ク ^チ サトシ 小路 口 聡 ＜平成31年4月＞		博士□文学)		中国思想特論Ⅲ	1前	2	1	東洋大学 文学部 教授 (平16. 4)	
68	兼任	講師	ヤマタ ^ニ ユウゾ ^ウ 山田 雄三 ＜平成31年4月＞		博士□文学)		英語文化論特論Ⅰ【隔年】 英語文化論特論Ⅱ【隔年】 英語学特論Ⅰ【隔年】 英語学特論Ⅲ【隔年】	1・2前 1・2前 1・2前 1・2前	2 2 2 2	1 1 1 1	大阪大学 文学研究科 准教授 (平12. 4)	
69	兼任	講師	ト ^ニ ハシ ヨシヒト 土橋 善仁 ＜平成31年4月＞		Ph. D. (アメリカ)		英語学特論Ⅰ【隔年】 英語学特論Ⅲ【隔年】	1・2前 1・2前	2 2	1 1	新潟大学 人文学部 准教授 (平21. 10)	
70	兼任	講師	ヒロマツ イサオ 廣松 勲 ＜平成31年4月＞		博士□文学)		フランス文化学特論Ⅱ	1後	2	1	法政大学 国際文化学部 専任講師 (平26. 4)	
71	兼任	講師	ヤマザ ^キ アキラ 山崎 彰 ＜平成31年4月＞		博士□文学)		西洋史特論Ⅲ	1後	2	1	山形大学 人文社会科学部 教授 (平2. 4)	
72	兼任	講師	マックス フィリップス Max Phillips ＜平成31年4月＞		MA (TESOL: Teaching English (to) Speakers (of) Other Langaues)		英語研究論文作成法	1前	2	1		

別記様式第3号（その2の1）

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(文学研究科総合人間学専攻 博士課程前期 2 年の課程)												
調書 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
1	専	教授	ナエ キヨカ 直江 清隆 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		生命環境倫理学特論Ⅰ 哲学総合演習Ⅰ 哲学総合演習Ⅱ 現代哲学研究演習Ⅰ 現代哲学研究演習Ⅱ 生命環境倫理学研究演習Ⅰ 修士論文研究	1前 1前 1後 1前 1後 1後 1・2通	2 0.5 0.5 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.10)	5日
2	専	教授	トシマ キヨシ 戸島 貴代志 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		倫理学特論Ⅱ 倫理学総合演習Ⅰ 倫理学総合演習Ⅱ 倫理学研究演習Ⅰ 倫理学研究演習Ⅱ 研究倫理特論※ 修士論文研究	1後 1前 1後 1前 1後 1前 1・2通	2 1 1 2 2 0.3 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)	5日
3	専	教授	ナガオカ リュウサク 長岡 龍作 ＜平成31年4月＞		文学修士		総合人間学総合科目Ⅰ※ 総合人間学総合科目Ⅱ 東洋・日本美術史特論Ⅰ 東洋・日本美術史研究演習Ⅰ 学術発表実習Ⅰ 学術発表実習Ⅱ 国際活動実習Ⅰ 国際活動実習Ⅱ 研究・教育実践活動実習Ⅰ 研究・教育実践活動実習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1前 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	0.4 0.5 2 2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平10.4)	5日
4	専	教授	オサキ アキヒロ 尾崎 彰宏 ＜平成31年4月＞		修士（文学）		芸術学特論Ⅰ 美学・西洋美術史研究演習Ⅰ 美学・西洋美術史研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1前 1後 1・2通	2 2 2 8	1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
5	専	教授	アベ ツネキ 阿部 恒之 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 総合人間学総合科目Ⅱ 実験心理学特論Ⅰ 実験心理学特論Ⅱ 心理学特論Ⅰ 心理学総合演習Ⅰ 心理学総合演習Ⅱ 実験心理学研究演習Ⅱ 心理学研究実習Ⅰ※ 心理学研究実習Ⅱ※ 研究倫理特論※ 修士論文研究	1前 1後 1前 1前 1後 1前 1後 1後 1後 1前 1後 1前 1・2通	0.1 0.5 2 2 2 0.5 0.5 2 0.6 0.6 0.1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.8)	5日
6	専	教授	サイイ ノブキ 坂井 信之 ＜平成31年4月＞		博士（人間科学）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 実験心理学特論Ⅲ 心理学総合演習Ⅰ 心理学総合演習Ⅱ 実験心理学研究演習Ⅲ 心理学研究実習Ⅰ※ 心理学研究実習Ⅱ※ 研究倫理特論※ 修士論文研究	1前 1後 1前 1後 1前 1前 1後 1前 1・2通	0.1 2 0.5 0.5 2 0.5 0.5 0.3 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平23.10)	5日
7	専	教授	ゴトウ ヒトシ 後藤 斉 ＜平成31年4月＞		修士（文学）※		言語学特論Ⅰ 言語学特論Ⅲ 言語学総合演習Ⅰ 言語学総合演習Ⅱ 言語学研究演習Ⅰ 修士論文研究	1前 1前 1前 1後 1後 1・2通	2 2 0.8 0.8 2 8	1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平3.4)	5日
8	専	教授	コイズミ マサトシ 小泉 政利 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		言語学特論Ⅱ 言語学総合演習Ⅰ 言語学総合演習Ⅱ 言語学研究演習Ⅱ 研究倫理特論※ 修士論文研究	1後 1前 1後 1前 1前 1・2通	2 0.6 0.6 2 0.1 8	1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
9	専	教授	ハセガワ コウイチ 長谷川 公一 ＜平成31年4月＞		博士（社会学）		社会変動学特論Ⅰ 社会変動学研究演習Ⅰ 修士論文研究	1前 1前 1・2通	2 2 8	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科	5日
	兼任	講師	ハセガワ コウイチ 長谷川 公一 ＜平成32年4月＞		博士（社会学）		社会変動学特論Ⅰ 社会変動学研究演習Ⅰ 修士論文研究	1前 1前 1・2通	2 2 8	1 1 1	教授 (昭59.10)	
10	専	教授	サカイ アキラ 永井 彰 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅱ 理論社会学特論Ⅰ 社会学研究演習Ⅰ 社会変動学研究演習Ⅱ 理論社会学研究演習Ⅱ【隔年】 理論社会学研究演習Ⅳ【隔年】 社会学研究実習Ⅰ 社会学研究実習Ⅱ 修士論文研究	1後 1後 1前 1後 1・2後 1・2後 1前 1後 1・2通	0.5 2 2 2 2 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭63.4)	5日

11	専	教授	コマツ タケアキ 小松 丈晃 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 理論社会学特論Ⅱ 社会変動学特論Ⅱ 理論社会学研究演習Ⅰ【隔年】 理論社会学研究演習Ⅲ【隔年】 社会学研究実習Ⅰ 社会学研究実習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1前 1・2前 1・2前 1前 1後 1・2通	0.3 2 2 2 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平27.4）	5日
12	専	教授	サトリ ヨシタ 佐藤 嘉倫 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		数理行動科学研究演習Ⅰ 数理行動科学研究演習Ⅱ 計算人文社会学研究演習Ⅰ 修士論文研究	1前 1後 1前 1・2通	2 2 2 8	1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平4.4）	5日
13	専	教授	キムラ ケニヒロ 木村 邦博 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 計算人文社会学特論Ⅰ 計量行動科学研究演習Ⅰ 計量行動科学研究演習Ⅱ 研究倫理特論※ 人文統計基礎演習 修士論文研究	1前 1前 1前 1後 1前 1後 1・2通	0.3 2 2 2 0.3 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平7.4）	5日
14	専	教授	ハマダ ヒロシ 浜田 宏 ＜平成31年4月＞		博士（社会学）		数理行動科学研究演習Ⅲ 数理行動科学研究演習Ⅳ 計算人文社会学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1後 1後 1・2通	2 2 2 8	1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平20.4）	5日
15	専	准教授	オキハラ サトシ 荻原 理 ＜平成31年4月＞		P h . D . （アメリカ）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 哲学総合演習Ⅰ 哲学総合演習Ⅱ 古代中世哲学研究演習Ⅰ 古代中世哲学研究演習Ⅱ 西洋古典文化特論 修士論文研究	1前 1前 1後 1前 1後 1後 1・2通	0.7 0.5 0.5 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平14.8）	5日
16	専	准教授	ハラ サカ 原 壱 ＜平成31年4月＞		P h . D . （ドイツ）		総合人間学総合科目Ⅱ 哲学総合演習Ⅰ 哲学総合演習Ⅱ 哲学研究演習Ⅱ 科学哲学研究演習Ⅰ 科学哲学研究演習Ⅱ 研究倫理特論※ 修士論文研究	1後 1前 1後 1後 1前 1後 1前 1・2通	0.5 0.5 0.5 2 2 2 0.5 8	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平21.4）	5日
17	専	准教授	キト アツシ 城戸 淳 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		哲学特論Ⅲ 哲学総合演習Ⅰ 哲学総合演習Ⅱ 近代哲学研究演習Ⅰ 近代哲学研究演習Ⅱ 修士論文研究	1前 1前 1後 1前 1後 1・2通	2 0.5 0.5 2 2 8	1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平27.10）	5日
18	専	准教授	ムラヤマ タツヤ 村山 達也 ＜平成31年4月＞		博士（哲学）		倫理学特論Ⅰ 倫理学総合演習Ⅰ 倫理学総合演習Ⅱ 倫理学研究演習Ⅲ 倫理学研究演習Ⅳ 修士論文研究	1前 1前 1後 1前 1後 1・2通	2 1 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平22.9）	5日
19	専	准教授	スキモト ヨシヒサ 杉本 欣久 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		東洋・日本美術史特論Ⅱ 東洋・日本美術史研究演習Ⅱ 修士論文研究	1後 1後 1・2通	2 2 8	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平30.4）	5日
20	専	准教授	フォンガロ エンリコ FONGARO ENRICO ＜平成31年4月＞		laureato in filosofia （イタリア）		美学特論Ⅰ 美学研究演習Ⅰ 修士論文研究	1後 1前 1・2通	2 2 8	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平24.4）	5日
21	専	准教授	ツジモト マサヒロ 辻本 昌弘 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		社会心理学特論Ⅱ 心理学総合演習Ⅰ 心理学総合演習Ⅱ 社会心理学研究演習Ⅱ 心理学研究実習Ⅰ※ 心理学研究実習Ⅱ※ 研究倫理特論※ 修士論文研究	1後 1前 1後 1前 1前 1後 1前 1・2通	2 0.5 0.5 2 0.5 0.5 0.3 8	1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平16.4）	5日
22	専	准教授	アライ タカシ 荒井 崇史 ＜平成31年4月＞		博士（心理学）		社会心理学特論Ⅰ 心理学総合演習Ⅰ 心理学総合演習Ⅱ 社会心理学研究演習Ⅰ 心理学研究実習Ⅰ※ 心理学研究実習Ⅱ※ 修士論文研究	1前 1前 1後 1後 1前 1後 1・2通	2 0.5 0.5 2 0.4 0.4 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平30.4）	5日
23	専	准教授	キヤマ サチコ 木山 幸子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		総合人間学総合科目Ⅰ※ 言語学特論Ⅳ 学習・言語心理学特論Ⅰ 言語学総合演習Ⅰ 言語学総合演習Ⅱ 言語学研究演習Ⅲ 修士論文研究	1前 1後 1前 1前 1後 1後 1・2通	0.1 2 2 0.6 0.6 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平29.4）	5日
24	専	准教授	ナガヨシ(材ノ) キコ 永吉（大野）希久子 ＜平成31年4月＞		博士（人間科学）		社会行動科学特論Ⅰ 社会行動科学特論Ⅱ 計量行動科学研究演習Ⅲ 計量行動科学研究演習Ⅳ 修士論文研究	1前 1後 1前 1後 1・2通	2 2 2 2 8	1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平23.4）	5日
25	兼任	教授	スマヅキ イロウ 沼崎 一郎 ＜平成31年4月＞		P h . D . （アメリカ）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平3.4）	
26	兼任	教授	キムラ トシアキ 木村 敏明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 広域文化学総合科目Ⅱ※	1前 1後	0.8 0.8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平15.4）	

27	兼任	教授	サクライ ムネノブ 桜井 宗信 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平11.4）	
28	兼任	教授	ミヅラ シュウイチ 三浦 秀一 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平3.4）	
29	兼任	教授	カワイ ヤスシ 川合 安 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平13.10）	
30	兼任	教授	オオコウチ ショウ 大河内 昌 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平21.4）	
31	兼任	教授	シマ エツロウ 島 越郎 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平20.4）	
32	兼任	教授	モリモト コウイチ 森本 浩一 ＜平成31年4月＞		文学修士※		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平8.4）	
33	兼任	教授	イマイ ユトム 今井 勉 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 広域文化学総合科目Ⅱ※ キャリア設計演習	1前 1後 1後	0.1 0.6 2	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平9.4）	
34	兼任	教授	アリミツ ヒデユキ 有光 秀行 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平11.10）	
35	兼任	教授	モリ イチロウ 森 一郎 ＜平成31年4月＞		博士□文学）		哲学研究演習Ⅰ	1前	2	1	東北大学 情報科学研究科 教授 （平26.4）	
36	兼任	教授	トクガワ ナオヒト 徳川 直人 ＜平成31年4月＞		博士□文学）		社会学特論Ⅰ	1前	2	1	東北大学 情報科学研究科 教授 （平10.6）	
37	兼任	教授	クラモト ナオキ 倉元 直樹 ＜平成31年4月＞		博士□教育学）		実験心理学特論Ⅳ 実験心理学研究演習Ⅰ 実験心理学研究演習Ⅳ	1前 1後 1後	2 2 2	1 1 1	東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授 （平11.4）	
38	兼任	教授	タカハシ アキラ 高橋 章則 ＜平成31年4月＞		博士（社会学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 日本語研究論文作成法	1前 1後 1前	0.3 2 2	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （昭61.4）	
39	兼任	教授	サイトウ ミチアキ 齋藤 倫明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平4.4）	
	兼任	講師	サイトウ ミチアキ 齋藤 倫明 ＜平成32年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1		
40	兼任	教授	コハヤシ タカシ 小林 隆 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅱ 研究倫理特論※	1後 1前	2 0.1	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平6.4）	
41	兼任	教授	オホキ カズオ 大木 一夫 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.3 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平15.4）	
42	兼任	教授	サクラ ヨシヤス 佐倉 由泰 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平14.4）	
43	兼任	教授	ヤナギハラ トシアキ 柳原 敏昭 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平9.4）	
44	兼任	教授	アタチ ヒロアキ 安達 宏昭 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （平15.4）	
45	兼任	教授	アコシマ カオル 阿子島 香 ＜平成31年4月＞		P h . D . （アメリカ）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 （昭56.5）	
46	兼任	准教授	タナカ（センタ） シゲト 田中（仙田） 重人 ＜平成31年4月＞		博士（人間科学）		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平13.4）	
47	兼任	准教授	クレイク* クリストファー ロビン シェイミー CRAIG CHRISTOPHER ROBIN JAMIE ＜平成31年4月＞		P h . D . （アメリカ）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ 英語発表技能演習	1前 1後 1後	0.1 2 2	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平27.10）	
48	兼任	准教授	カタタカ リュウ 片岡 龍 ＜平成31年4月＞		修士（文学）※		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.3 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平16.4）	

49	兼担	准教授	コウタ [＊] （カハシ） ナミ 甲田（高橋）直美 ＜平成31年4月＞		博士（人間・環境学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平18.4）	
50	兼担	准教授	カ [＊] ワラ ヨシロウ 小河原 義朗 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.3 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平29.4）	
51	兼担	准教授	ヨコミ [＊] ヒロシ 横溝 博 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平22.4）	
52	兼担	准教授	ホリ ユウカ 堀 裕 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅱ	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平22.4）	
53	兼担	准教授	カゴ [＊] ハシ トシミツ 籠橋 俊光 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平26.4）	
54	兼担	准教授	カノマタ ヨシタカ 鹿又 喜隆 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		日本学総合科目Ⅰ※ 日本学総合科目Ⅱ	1前 1後	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平21.4）	
55	兼担	准教授	ヤマダ [＊] ヒトシ 山田 仁史 ＜平成31年4月＞		D r . P h i l . （ドイツ）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平17.10）	
56	兼担	准教授	タニヤマ ヨウゾウ 谷山 洋三 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※ 人文社会科学研究	1前 1前	0.1 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平24.4）	
57	兼担	准教授	サイトウ トモヒロ 齋藤 智寛 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅱ※	1後	0.6	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平20.4）	
58	兼担	准教授	ツチヤ イクオ 土屋 育子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		広域文化学総合科目Ⅰ※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 （平25.4）	
59	兼任	講師	イトウ ハルキ 伊藤 春樹 ＜平成31年4月＞		文学修士		哲学特論Ⅰ	1前	2	1	東北学院大学 名誉教授 （平29.4）	
60	兼任	講師	サイトウ ナオキ 齋藤 直樹 ＜平成31年4月＞		博士□文学		哲学特論Ⅱ	1後	2	1	盛岡大学 文学部 教授 （平21.4）	
61	兼任	講師	カシワバ [＊] タツヤ 柏端 達也 ＜平成31年4月＞		博士（人間科学）		哲学特論Ⅳ	1後	2	1	慶應義塾大学 文学部 教授 （平23.9）	
62	兼任	講師	ウオス [＊] ミ カシ 魚住 孝至 ＜平成31年4月＞		博士□文学		倫理学特論Ⅲ	1前	2	1	放送大学 教養学部 教授 （平26.4）	
63	兼任	講師	イズ [＊] ミ タケオ 泉 武夫 ＜平成31年4月＞		博士□文学		東洋・日本美術史特論Ⅲ	1後	2	1	東北大学 名誉教授 （平29.4）	
64	兼任	講師	キョウタニ ヨシノリ 京谷 啓徳 ＜平成31年4月＞		博士□文学		美学・西洋美術史特論Ⅰ 美学・西洋美術史特論Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	九州大学 大学院人文科学研究院 准教授 （平12.5）	
65	兼任	講師	シズ [＊] シンサク 清水 晋作 ＜平成31年4月＞		博士□文学		社会学特論Ⅱ	1 前	2	1	盛岡大学 文学部 准教授 （平22.6）	
66	兼任	講師	スカ [＊] ワラ サエ 菅原 真枝 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		社会学特論Ⅲ	1 後	2	1	東北学院大学 教養学部 准教授 （平17.4）	
67	兼任	講師	マックス フィリップス Max Phillips ＜平成31年4月＞		MA（TESOL：Teaching English (to) Speakers (of) Other Langaues）		英語研究論文作成法	1前	2	1		

別記様式第3号（その2の1）

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(文学研究科日本文学専攻 博士課程後期 3 年の課程)												
調書 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
1	専	教授	タハシ アキラ 高橋 章則 ＜平成31年4月＞		博士（社会学）		日本語研究論文作成法 博士論文研究	1前 1・2・3通	2 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭61.4)	5日
2	専	教授	サイトリ ミチアキ 齋藤 倫明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	5日
	兼任	講師	サイトリ ミチアキ 齋藤 倫明 ＜平成32年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1		
3	専	教授	コハヤシ タカシ 小林 隆 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※ 博士論文研究	1前 1・2・3通	0.1 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平6.4)	5日
4	専	教授	オオキ カズオ 大木 一夫 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	5日
5	専	教授	サクラ ヨシヤス 佐倉 由泰 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学特別科目※ 博士論文研究	1前 1・2・3通	0.6 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平14.10)	5日
6	専	教授	ヤナギハラ トシアキ 柳原 敏昭 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平9.4)	5日
7	専	教授	アタチ ヒロアキ 安達 宏昭 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	5日
8	専	教授	アコシマ カオル 阿子島 香 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭56.5)	5日
	兼任	講師	アコシマ カオル 阿子島 香 ＜平成33年4月＞		P h . D . (アメリカ)		博士論文研究	1・2・3通	8	1		
9	専	准教授	タカ(センダ) シゲト 田中（仙田）重人 ＜平成31年4月＞		博士（人間科学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平13.4)	5日
10	専	准教授	クレイク クリストファー ロビン ジェイミー CRAIG CHRISTOPHER ROBIN JAMIE ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		英語発表技能演習 博士論文研究	1後 1・2・3通	2 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.10)	5日
11	専	准教授	カタカ リョウ 片岡 龍 ＜平成31年4月＞		修士（文学）※		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平16.10)	5日
12	専	准教授	コウタ(タカハシ) ナオミ 甲田（高橋）直美 ＜平成31年4月＞		博士（人間・環境学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平18.4)	5日
13	専	准教授	オガワ ヨシロウ 小河原 義朗 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平29.4)	5日
14	専	准教授	ヨコミヅ ヒロシ 横溝 博 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日
15	専	准教授	ホリ ユウタ 堀 裕 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日
16	専	准教授	カゴハシ トシミツ 籠橋 俊光 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平26.4)	5日
17	専	准教授	カノマタ ヨシタカ 鹿又 喜隆 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平21.4)	5日
18	兼担	教授	キムラ トシアキ 木村 敏明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学特別科目※	1前	0.6	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	
19	兼担	教授	イマイ ツトム 今井 勉 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		キャリア設計演習	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平9.4)	
20	兼担	教授	トシマ キヨシ 戸島 貴代志 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)	
21	兼担	教授	ナガノ リョウサク 長岡 龍作 ＜平成31年4月＞		文学修士		学術発表実習Ⅰ 学術発表実習Ⅱ 国際活動実習Ⅰ 国際活動実習Ⅱ 研究・教育実践活動実習Ⅰ 研究・教育実践活動実習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平10.4)	

22	兼担	教授	アベ ツネキ 阿部 恒之 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学特別科目※ 研究倫理特論※	1前 1前	0.8 0.1	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.8)	
23	兼担	教授	カイ ノブキ 坂井 信之 ＜平成31年4月＞		博士（人間科学）		研究倫理特論※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平23.10)	
24	兼担	教授	コイズミ マサトシ 小泉 政利 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		研究倫理特論※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	
25	兼担	教授	キムラ くにヒロ 木村 邦博 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※ 人文統計基礎演習	1前 1後	0.3 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平7.4)	
26	兼担	准教授	タニヤマ ヨウゾウ 谷山 洋三 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学研究	1前	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)	
27	兼担	准教授	タケハラ サトシ 荻原 理 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		西洋古典文化特論	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平14.8)	
28	兼担	准教授	ハラ サカ 原 塑 ＜平成31年4月＞		P h . D . (ドイツ)		研究倫理特論※	1前	0.5	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平21.4)	
29	兼担	准教授	ツジモト マサヒロ 辻本 昌弘 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平16.4)	
30	兼任	講師	マックス フィリップス Max Phillips ＜平成31年4月＞		MA (TESOL: Teaching English (to) Speakers (of) Other Langauges)		英語研究論文作成法	1前	2	1		

別記様式第3号（その2の1）

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(文学研究科広域文化学専攻 博士課程後期 3 年の課程)												
調書 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
1	専	教授	スサヰキ イチロウ 沼崎 一郎 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平3. 4)	5日
2	専	教授	キムラ トシキ 木村 敏明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学特別科目※ 博士論文研究	1前 1・2・3通	0.6 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15. 4)	5日
3	専	教授	サクライ ミネノブ 桜井 宗信 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平11. 4)	5日
4	専	教授	ミウラ シュウイチ 三浦 秀一 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平3. 4)	5日
5	専	教授	カワイ ヤスシ 川合 安 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平13. 10)	5日
6	専	教授	オホコウチ ショウ 大河内 昌 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平21. 4)	5日
7	専	教授	カネコ ヨシアキ 金子 義明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平6. 4)	5日
8	専	教授	シマ エツロウ 島 越郎 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平20. 4)	5日
9	専	教授	モリモト コウイチ 森本 浩一 ＜平成31年4月＞		文学修士※		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平8. 4)	5日
10	専	教授	シマザキ サトル 嶋崎 啓 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17. 4)	5日
11	専	教授	ナロツク ハイコ NARROG HEIKO ＜平成31年4月＞		P h . D . (ドイツ)		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平16. 4)	5日
12	専	教授	アベ ヒロシ 阿部 宏 ＜平成31年4月＞		博士（情報科学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平1. 4)	5日
13	専	教授	イマイ ツトム 今井 勉 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		キャリア設計演習 博士論文研究	1後 1・2・3通	2 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平9. 4)	5日
14	専	教授	アリミツ ヒデユキ 有光 秀行 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平11. 10)	5日
15	専	准教授	カワグチ(イフショウ) ユキヒロ 川口（一条）幸大 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22. 4)	5日
16	専	准教授	ヤマダ ヒトシ 山田 仁史 ＜平成31年4月＞		D r . P h i l . (ドイツ)		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平17. 10)	5日
17	専	准教授	タニヤマ ヨウザウ 谷山 洋三 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学研究 博士論文研究	1前 1・2・3通	2 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平24. 4)	5日
18	専	准教授	サイトリ トモヒロ 齋藤 智寛 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平20. 4)	5日
19	専	准教授	ツチヤ イコ 土屋 育子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平25. 4)	5日
20	専	准教授	ヤタ ナオコ 矢田 尚子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平30. 4)	5日
21	専	准教授	マキヨチ 馬 暁地 ＜平成31年4月＞		修士（文学）※		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平1. 4)	5日
	兼任	講師	マキヨチ 馬 暁地 ＜平成32年4月＞		修士（文学）※		博士論文研究	1・2・3通	8	1		
22	専	准教授	オノ コウジ 大野 晃嗣 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平16. 10)	5日
23	専	准教授	オオサキ タカシ 大貫 隆史 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平30. 4)	5日

24	専	准教授	テインク ジェームズ マイケル TINK JAMES MICHAEL ＜平成31年4月＞		P h . D . (イギリス)		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日
25	専	准教授	クロウ タカ 黒岩 卓 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日
26	専	准教授	メヴ エル ヤン エリック MEVEL YANN ERIC ＜平成31年4月＞		Doctorat (フランス)		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平15.4)	5日
27	専	准教授	アサカ センジ 浅岡 善治 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平25.10)	5日
28	兼任	教授	カハシ アキラ 高橋 章則 ＜平成31年4月＞		博士 (社会学)		日本語研究論文作成法	1前	2	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭61.4)	
29	兼任	教授	コハヤシ タカシ 小林 隆 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		研究倫理特論※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平6.4)	
30	兼任	教授	サカラ ヨシヤス 佐倉 由泰 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		人文社会科学特別科目※	1前	0.6	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平14.10)	
31	兼任	教授	トシマ キヨシ 戸島 貴代志 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		研究倫理特論※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)	
32	兼任	教授	カガキ リョウサク 長岡 龍作 ＜平成31年4月＞		文学修士		学術発表実習Ⅰ 学術発表実習Ⅱ 国際活動実習Ⅰ 国際活動実習Ⅱ 研究・教育実践活動実習Ⅰ 研究・教育実践活動実習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平10.4)	
33	兼任	教授	アベ ツネキ 阿部 恒之 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		人文社会科学特別科目※ 研究倫理特論※	1前 1前	0.8 0.1	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.8)	
34	兼任	教授	サイノブキ 坂井 信之 ＜平成31年4月＞		博士 (人間科学)		研究倫理特論※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平23.10)	
35	兼任	教授	コイズミ マサトシ 小泉 政利 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		研究倫理特論※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	
36	兼任	教授	キムラ クニヒロ 木村 邦博 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		研究倫理特論※ 人文統計基礎演習	1前 1後	0.3 2	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平7.4)	
37	兼任	准教授	クレイク クリストファー ロビン ジェイミー CRAIG CHRISTOPHER ROBIN JAMIE ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		英語発表技能演習	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.10)	
38	兼任	准教授	オキハラ サトシ 荻原 理 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		西洋古典文化特論	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平14.8)	
39	兼任	准教授	ハラ サカ 原 颯 ＜平成31年4月＞		P h . D . (ドイツ)		研究倫理特論※	1前	0.5	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平21.4)	
40	兼任	准教授	ツジモト マサヒロ 辻本 昌弘 ＜平成31年4月＞		博士 (文学)		研究倫理特論※	1前	0.3	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平16.4)	
41	兼任	講師	マックス フィリップス Max Phillips ＜平成31年4月＞		MA (TESOL : Teaching English (to) Speakers (of) Other Langauges)		英語研究論文作成法	1前	2	1		

別記様式第3号（その2の1）

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(文学研究科総合人間学専攻 博士課程後期 3 年の課程)												
調書 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
1	専	教授	ナエ キヨカ 直江 清隆 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.10)	5日
2	専	教授	トシマ キヨシ 戸島 貴代志 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※ 博士論文研究	1前 1・2・3通	0.3 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)	5日
3	専	教授	カガリ リョウサ 長岡 龍作 ＜平成31年4月＞		文学修士		学術発表実習Ⅰ 学術発表実習Ⅱ 国際活動実習Ⅰ 国際活動実習Ⅱ 研究・教育実践活動実習Ⅰ 研究・教育実践活動実習Ⅱ 博士論文研究	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2・3通	2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平10.4)	5日
4	専	教授	オサキ アキヒロ 尾崎 彰宏 ＜平成31年4月＞		修士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
	兼任	講師	オサキ アキヒロ 尾崎 彰宏 ＜平成33年4月＞		修士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1		
5	専	教授	アベ ツネキ 阿部 恒之 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学特別科目※ 研究倫理特論※ 博士論文研究	1前 1前 1・2・3通	0.8 0.1 8	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平17.8)	5日
6	専	教授	サカイ ノブキ 坂井 信之 ＜平成31年4月＞		博士（人間科学）		研究倫理特論※ 博士論文研究	1前 1・2・3通	0.3 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平23.10)	5日
7	専	教授	ゴトウ ヒトシ 後藤 斉 ＜平成31年4月＞		修士（文学）※		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平3.4)	5日
	兼任	講師	ゴトウ ヒトシ 後藤 斉 ＜平成33年4月＞		修士（文学）※		博士論文研究	1・2・3通	8	1		
8	専	教授	コイケ ミマサト 小泉 政利 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		研究倫理特論※ 博士論文研究	1前 1・2・3通	0.1 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
9	専	教授	ハチノワ コウイチ 長谷川 公一 ＜平成31年4月＞		博士（社会学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭59.10)	5日
	兼任	講師	ハチノワ コウイチ 長谷川 公一 ＜平成32年4月＞		博士（社会学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1		
10	専	教授	カガイ アキラ 永井 彰 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭63.4)	5日
11	専	教授	コマツ タクアキ 小松 丈晃 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平27.4)	5日
12	専	教授	サウロ ヨシチ 佐藤 嘉倫 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	5日
13	専	教授	キムラ クニヒロ 木村 邦博 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※ 人文統計基礎演習 博士論文研究	1前 1後 1・2・3通	0.3 2 8	1 1 1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平7.4)	5日
14	専	教授	ハマタ ヒロシ 浜田 宏 ＜平成31年4月＞		博士（社会学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平20.4)	5日
15	専	准教授	サキハラ サトシ 荻原 理 ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		西洋古典文化特論 博士論文研究	1後 1・2・3通	2 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平14.8)	5日
16	専	准教授	ハラ サカ 原 塑 ＜平成31年4月＞		P h . D . (ドイツ)		研究倫理特論※ 博士論文研究	1前 1・2・3通	0.5 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平21.4)	5日
17	専	准教授	キト アツシ 城戸 淳 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.10)	5日
18	専	准教授	ムラヤマ タツヤ 村山 達也 ＜平成31年4月＞		博士（哲学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.9)	5日
19	専	准教授	スギモト ヨシヒサ 杉本 欣久 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平30.4)	5日
20	専	准教授	フオンガロ エンリコ FONGARO ENRICO ＜平成31年4月＞		laureato in filosofia (イタリア)		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)	5日

21	専	准教授	ツジモト マサヒロ 辻本 昌弘 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※ 博士論文研究	1前 1・2・3通	0.3 8	1 1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平16.4)	5日
22	専	准教授	アライ タカシ 荒井 崇史 ＜平成31年4月＞		博士（心理学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平30.4)	5日
23	専	准教授	キヤマ サチコ 木山 幸子 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平29.4)	5日
24	専	准教授	ナカノ(中ノ) キコ 永吉（大野）希久子 ＜平成31年4月＞		博士（人間科学）		博士論文研究	1・2・3通	8	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)	5日
25	兼任	教授	タカハシ アキリ 高橋 章則 ＜平成31年4月＞		博士（社会学）		日本語研究論文作成法	1前	2	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (昭61.4)	
26	兼任	教授	コハヤシ タカシ 小林 隆 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		研究倫理特論※	1前	0.1	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平6.4)	
27	兼任	教授	サカヲ ヨシヤス 佐倉 由泰 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学特別科目※	1前	0.6	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平14.10)	
28	兼任	教授	キムラ トシアキ 木村 敏明 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学特別科目※	1前	0.6	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	
29	兼任	教授	イマイ ツトム 今井 勉 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		キャリア設計演習	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 教授 (平9.4)	
30	兼任	准教授	クレイク クリストファー ロビン ジェイミー CRAIG CHRISTOPHER ROBIN JAMIE ＜平成31年4月＞		P h . D . (アメリカ)		英語発表技能演習	1後	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.10)	
31	兼任	准教授	タニヤマ ヨウゾウウ 谷山 洋三 ＜平成31年4月＞		博士（文学）		人文社会科学研究	1前	2	1	東北大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)	
32	兼任	講師	マックス フィリップス Max Phillips ＜平成31年4月＞		MA (TESOL: Teaching English (to) Speakers (of) Other Langaues)		英語研究論文作成法	1前	2	1		

東北大学 設置申請に係わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	変更の事由
東北大学				東北大学				
文学部				文学部				
人文社会学科	210	—	840	人文社会学科	210	—	840	
教育学部				教育学部				
教育科学科	70	—	280	教育科学科	70	—	280	
法学部				法学部				
法学科	160	—	640	法学科	160	—	640	
経済学部				経済学部				
経済学科	130	3年次 10	540	経済学科	130	3年次 10	540	
経営学科	130	3年次 10	540	経営学科	130	3年次 10	540	
理学部				理学部				
数学科	45	—	180	数学科	45	—	180	
物理学科	78	—	312	物理学科	78	—	312	
宇宙地球物理学科	41	—	164	宇宙地球物理学科	41	—	164	
化学科	70	—	280	化学科	70	—	280	
地圏環境科学科	30	—	120	地圏環境科学科	30	—	120	
地球惑星物質科学科	20	—	80	地球惑星物質科学科	20	—	80	
生物学科	40	—	160	生物学科	40	—	160	
医学部				医学部				
医学科(6年制)	135	—	660	医学科(6年制)	135	—	660	
保健学科	144	—	576	保健学科	144	—	576	
歯学部				歯学部				
歯学科(6年制)	53	—	318	歯学科(6年制)	53	—	318	
薬学部				薬学部				
創薬科学科	60	—	240	創薬科学科	60	—	240	
薬学科(6年制)	20	—	120	薬学科(6年制)	20	—	120	
工学部				工学部				
機械知能・航空工学科	234	—	936	機械知能・航空工学科	234	—	936	
電気情報理工学科	243	—	972	電気情報理工学科	243	—	972	
化学・バイオ工学科	113	—	452	化学・バイオ工学科	113	—	452	
材料科学総合学科	113	—	452	材料科学総合学科	113	—	452	
建築・社会環境工学科	107	—	428	建築・社会環境工学科	107	—	428	
農学部				農学部				
生物生産科学科	90	—	360	生物生産科学科	90	—	360	
応用生物化学科	60	—	240	応用生物化学科	60	—	240	
計	2,396	3年次 20	9,890	計	2,396	3年次 20	9,890	
東北大学大学院				東北大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
				日本文学専攻(M)	29	—	58	研究科の専攻の設置(事前伺い)
				日本文学専攻(D)	14	—	42	研究科の専攻の設置(事前伺い)
				広域文化学専攻(M)	29	—	58	研究科の専攻の設置(事前伺い)
				広域文化学専攻(D)	12	—	36	研究科の専攻の設置(事前伺い)
				総合人間学専攻(M)	31	—	62	研究科の専攻の設置(事前伺い)
				総合人間学専攻(D)	12	—	36	研究科の専攻の設置(事前伺い)
				文化科学専攻(M)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
				文化科学専攻(D)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
				言語科学専攻(M)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
				言語科学専攻(D)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
				歴史科学専攻(M)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
				歴史科学専攻(D)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
				人間科学専攻(M)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
				人間科学専攻(D)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
教育学研究科				教育学研究科				
総合教育科学専攻(M)	45	—	90	総合教育科学専攻(M)	45	—	90	
総合教育科学専攻(D)	15	—	45	総合教育科学専攻(D)	15	—	45	
法学研究科				法学研究科				
法政理論研究専攻(M)	10	—	20	法政理論研究専攻(M)	10	—	20	
法政理論研究専攻(D)	12	—	36	法政理論研究専攻(D)	12	—	36	
総合法制専攻(3年制P)	50	—	150	総合法制専攻(3年制P)	50	—	150	
公共法政策専攻(P)	30	—	60	公共法政策専攻(P)	30	—	60	

経済学研究科				経済学研究科			
経済経営学専攻(M)	50	—	100	経済経営学専攻(M)	50	—	100
経済経営学専攻(D)	20	—	60	経済経営学専攻(D)	20	—	60
会計専門職専攻(P)	40	—	80	会計専門職専攻(P)	40	—	80
理学研究科				理学研究科			
数学専攻(M)	38	—	76	数学専攻(M)	38	—	76
数学専攻(D)	18	—	54	数学専攻(D)	18	—	54
物理学専攻(M)	91	—	182	物理学専攻(M)	91	—	182
物理学専攻(D)	46	—	138	物理学専攻(D)	46	—	138
天文学専攻(M)	9	—	18	天文学専攻(M)	9	—	18
天文学専攻(D)	4	—	12	天文学専攻(D)	4	—	12
地球物理学専攻(M)	26	—	52	地球物理学専攻(M)	26	—	52
地球物理学専攻(D)	13	—	39	地球物理学専攻(D)	13	—	39
化学専攻(M)	66	—	132	化学専攻(M)	66	—	132
化学専攻(D)	33	—	99	化学専攻(D)	33	—	99
地学専攻(M)	32	—	64	地学専攻(M)	32	—	64
地学専攻(D)	16	—	48	地学専攻(D)	16	—	48
医学系研究科				医学系研究科			
医科学専攻(M)	30	—	60	医科学専攻(M)	30	—	60
医科学専攻(4年制D)	130	—	520	医科学専攻(4年制D)	130	—	520
障害科学専攻(M)	20	—	40	障害科学専攻(M)	20	—	40
障害科学専攻(D)	9	—	27	障害科学専攻(D)	9	—	27
保健学専攻(M)	32	—	64	保健学専攻(M)	32	—	64
保健学専攻(D)	12	—	36	保健学専攻(D)	12	—	36
公衆衛生学専攻(M)	10	—	20	公衆衛生学専攻(M)	10	—	20
歯学研究科				歯学研究科			
歯科学専攻(M)	6	—	12	歯科学専攻(M)	6	—	12
歯科学専攻(4年制D)	42	—	168	歯科学専攻(4年制D)	42	—	168
薬学研究科				薬学研究科			
分子薬科学専攻(M)	22	—	44	分子薬科学専攻(M)	22	—	44
分子薬科学専攻(D)	8	—	24	分子薬科学専攻(D)	8	—	24
生命薬科学専攻(M)	32	—	64	生命薬科学専攻(M)	32	—	64
生命薬科学専攻(D)	10	—	30	生命薬科学専攻(D)	10	—	30
医療薬学専攻(4年制D)	4	—	16	医療薬学専攻(4年制D)	4	—	16
工学研究科				工学研究科			
機械機能創成専攻(M)	42	—	84	機械機能創成専攻(M)	42	—	84
機械機能創成専攻(D)	10	—	30	機械機能創成専攻(D)	10	—	30
ファインメカニクス専攻(M)	45	—	90	ファインメカニクス専攻(M)	45	—	90
ファインメカニクス専攻(D)	11	—	33	ファインメカニクス専攻(D)	11	—	33
ロボティクス専攻(M)	42	—	84	ロボティクス専攻(M)	42	—	84
ロボティクス専攻(D)	11	—	33	ロボティクス専攻(D)	11	—	33
航空宇宙工学専攻(M)	42	—	84	航空宇宙工学専攻(M)	42	—	84
航空宇宙工学専攻(D)	11	—	33	航空宇宙工学専攻(D)	11	—	33
量子エネルギー工学専攻(M)	38	—	76	量子エネルギー工学専攻(M)	38	—	76
量子エネルギー工学専攻(D)	11	—	33	量子エネルギー工学専攻(D)	11	—	33
電気エネルギーシステム専攻(M)	32	—	64	電気エネルギーシステム専攻(M)	32	—	64
電気エネルギーシステム専攻(D)	8	—	24	電気エネルギーシステム専攻(D)	8	—	24
通信工学専攻(M)	31	—	62	通信工学専攻(M)	31	—	62
通信工学専攻(D)	8	—	24	通信工学専攻(D)	8	—	24
電子工学専攻(M)	51	—	102	電子工学専攻(M)	51	—	102
電子工学専攻(D)	15	—	45	電子工学専攻(D)	15	—	45
応用物理学専攻(M)	32	—	64	応用物理学専攻(M)	32	—	64
応用物理学専攻(D)	11	—	33	応用物理学専攻(D)	11	—	33
応用化学専攻(M)	26	—	52	応用化学専攻(M)	26	—	52
応用化学専攻(D)	8	—	24	応用化学専攻(D)	8	—	24
化学工学専攻(M)	34	—	68	化学工学専攻(M)	34	—	68
化学工学専攻(D)	7	—	21	化学工学専攻(D)	7	—	21
バイオ工学専攻(M)	19	—	38	バイオ工学専攻(M)	19	—	38
バイオ工学専攻(D)	5	—	15	バイオ工学専攻(D)	5	—	15
金属フロンティア工学専攻(M)	26	—	52	金属フロンティア工学専攻(M)	26	—	52
金属フロンティア工学専攻(D)	7	—	21	金属フロンティア工学専攻(D)	7	—	21
知能デバイス材料学専攻(M)	37	—	74	知能デバイス材料学専攻(M)	37	—	74

知能デバイス材料学専攻(D)	10	—	30	知能デバイス材料学専攻(D)	10	—	30
材料システム工学専攻(M)	30	—	60	材料システム工学専攻(M)	30	—	60
材料システム工学専攻(D)	8	—	24	材料システム工学専攻(D)	8	—	24
土木工学専攻(M)	43	—	86	土木工学専攻(M)	43	—	86
土木工学専攻(D)	12	—	36	土木工学専攻(D)	12	—	36
都市・建築学専攻(M)	45	—	90	都市・建築学専攻(M)	45	—	90
都市・建築学専攻(D)	8	—	24	都市・建築学専攻(D)	8	—	24
技術社会システム専攻(M)	21	—	42	技術社会システム専攻(M)	21	—	42
技術社会システム専攻(D)	13	—	39	技術社会システム専攻(D)	13	—	39
農学研究科				農学研究科			
資源生物科学専攻(M)	36	—	72	資源生物科学専攻(M)	36	—	72
資源生物科学専攻(D)	13	—	39	資源生物科学専攻(D)	13	—	39
応用生命科学専攻(M)	35	—	70	応用生命科学専攻(M)	35	—	70
応用生命科学専攻(D)	13	—	39	応用生命科学専攻(D)	13	—	39
生物産業創成科学専攻(M)	38	—	76	生物産業創成科学専攻(M)	38	—	76
生物産業創成科学専攻(D)	11	—	33	生物産業創成科学専攻(D)	11	—	33
国際文化研究科				国際文化研究科			
国際文化研究専攻(M)	35	—	70	国際文化研究専攻(M)	35	—	70
国際文化研究専攻(D)	16	—	32	国際文化研究専攻(D)	16	—	32
情報科学研究科				情報科学研究科			
情報基礎科学専攻(M)	38	—	76	情報基礎科学専攻(M)	38	—	76
情報基礎科学専攻(D)	11	—	33	情報基礎科学専攻(D)	11	—	33
システム情報科学専攻(M)	37	—	74	システム情報科学専攻(M)	37	—	74
システム情報科学専攻(D)	11	—	33	システム情報科学専攻(D)	11	—	33
人間社会情報科学専攻(M)	30	—	60	人間社会情報科学専攻(M)	30	—	60
人間社会情報科学専攻(D)	10	—	30	人間社会情報科学専攻(D)	10	—	30
応用情報科学専攻(M)	35	—	70	応用情報科学専攻(M)	35	—	70
応用情報科学専攻(D)	10	—	30	応用情報科学専攻(D)	10	—	30
生命科学研究科				生命科学研究科			
脳生命統御科学専攻(M)	36	—	72	脳生命統御科学専攻(M)	36	—	72
脳生命統御科学専攻(D)	10	—	30	脳生命統御科学専攻(D)	10	—	30
生態発生適応科学専攻(M)	35	—	70	生態発生適応科学専攻(M)	35	—	70
生態発生適応科学専攻(D)	10	—	30	生態発生適応科学専攻(D)	10	—	30
分子化学生物学専攻(M)	35	—	70	分子化学生物学専攻(M)	35	—	70
分子化学生物学専攻(D)	10	—	30	分子化学生物学専攻(D)	10	—	30
環境科学研究科				環境科学研究科			
先進社会環境学専攻(M)	40	—	80	先進社会環境学専攻(M)	40	—	80
先進社会環境学専攻(D)	13	—	26	先進社会環境学専攻(D)	13	—	26
先端環境創成学専攻(M)	60	—	120	先端環境創成学専攻(M)	60	—	120
先端環境創成学専攻(D)	20	—	40	先端環境創成学専攻(D)	20	—	40
医工学研究科				医工学研究科			
医工学専攻(M)	39	—	78	医工学専攻(M)	39	—	78
医工学専攻(D)	12	—	36	医工学専攻(D)	12	—	36
計	2,674	—	6,306	計	2,667	—	6,285